2020年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

目　次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2020 年度授業改善のための
　学生アンケートについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
授業・レッスンアンケート用紙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
参考資料 ～ 全体集計結果表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院　全体集計結果

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆

ピアノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
声楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
音楽療法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
教職に関する専門科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
音楽療法に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
文化教養科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
外国人留学生に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241

◆ 短大 ◆

ピアノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251
声楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 271
管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 287
音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 297
基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 325

◆ 大学院 ◆

ピアノ領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 341
管弦打領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 349
声楽領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 355
作曲領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 369
共通科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 375

はじめに

多様な背景を持っている学生に対する大学教育に対して、学士課程教育の一層の充実が年々求められています。各大学では、これらの状況に対して教育の改善、充実をはかるため全学的な FD 活動が活発に遂行されています。本学に於いても研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、着々と FD 活動の実質化を行ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成 17 年度の施行以来、教育内容、方法の改善に重要な役割を果しています。教員一人一人が自主的な自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指すための重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用方法等の実現化に議論を深めたいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改善、改革のため不断の対応を継続的に推進したいと思います。

令和 3 年 3 月

東邦音楽大学・短期大学
FD 委員会

山崎　明美(委員長)
片岡　啓子
高橋　幸雄
遠山　菜穂美
大場　文惠
宮野　陽子
中島　裕紀
國谷　尊之
荻久保　和明
木下　容子
粕谷　麻里乃
江沢　博昭
山岡　香苗

2020 年度　授業改善のための学生アンケートについて

Ⅰ　実施目的

学生による「授業改善のためのアンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

Ⅱ　実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

Ⅲ　実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

Ⅳ　調査内容

別紙のとおり

Ⅴ　実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

Ⅵ　集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

Ⅶ　教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、平成 31 年度 3 月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

Ⅷ　結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目系用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日
担当教員名	時限

記入上の注意

1.記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2.訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3.用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例 ●　悪い例 ✓ ― ✗ ◉ ○（うすい）

		5 強くそう思う	4 ある程度そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない
I 授業への取り組みについて	a. この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	c. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	d. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満
II 授業内容・授業方法について	a. この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の難易度はどうでしたか。	⑤ 難しい	④ やや難しい	③ 適切	② やや易しい	① 易しい
	c. 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	⑤	④	③	②	①
	e. 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	⑤	④	③	②	①
	f. 授業内外における質問や相談の対応は適切だった。	⑤	④	③	②	①
	g. 授業回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
	h. この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
III 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	⑤	④	③	②	①
	c. この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	⑤ 新しい知識・技能が身についた	④ 新しいものの見方が身についた	③ 関連分野をさらに学びたくなった	② 問題発見・問題解決能力がついた	① コミュニケーション能力が向上した
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

この授業で良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15308C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

実技（個人レッスン）用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1．記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2．訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3．用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例　悪い例　うすい

		強くそう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
I レッスンへの取り組みについて	a. このレッスンの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	c. １回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	⑤ ５時間以上	④ ４時間	③ ３時間	② ２時間	① １時間未満
II レッスン内容・指導方法について	a. このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
	c. 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	⑤	④	③	②	①
	d. レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	⑤	④	③	②	①
	e. このレッスンの回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
III 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
	c. このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15309C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・レッスン（共通）用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日（授業のみ記入）
担当教員名	時限（授業のみ記入）

記入上の注意

1．記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2．訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3．用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例　悪い例　うすい

		5 強くそう思う	4 ある程度そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない
Ⅰ 授業・レッスンへの取り組みについて	a. この授業・レッスンへの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	c. １回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	⑤ ５時間以上	④ ４時間	③ ３時間	② ２時間	① １時間未満
Ⅱ 授業・レッスンの内容・指導方法について	a. シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	⑤	④	③	②	①
	b. 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	⑤	④	③	②	①
	c. 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
	e. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	⑤	④	③	②	①
Ⅲ 授業・レッスンの成果について	a. この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
	c. この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

Ⅳ 自由記述欄

この授業・レッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15310C 90 kg

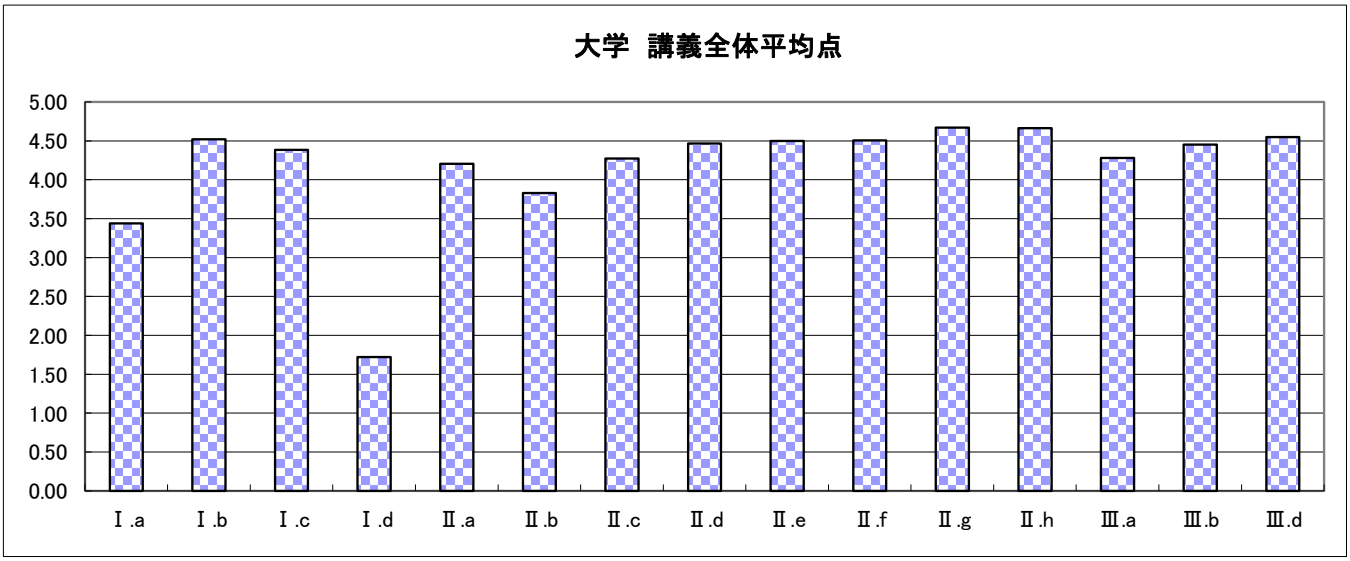
全 体 集 計 結 果 表

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	大学
科目数	157

履修者数	1,814
回答者数	1,440

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	414	331	374	113	208	1,440	0
				28.8	23.0	26.0	7.8	14.4		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.52	935	363	101	34	6	1,439	1
				65.0	25.2	7.0	2.4	0.4		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	786	470	134	34	11	1,435	5
				54.8	32.8	9.3	2.4	0.8		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.72	90	53	134	248	914	1,439	1
				6.3	3.7	9.3	17.2	63.5		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	707	360	326	22	14	1,429	11
				49.5	25.2	22.8	1.5	1.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	191	342	823	39	38	1,433	7
				13.3	23.9	57.4	2.7	2.7		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	774	366	231	38	25	1,434	6
				54.0	25.5	16.1	2.6	1.7		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	932	319	130	35	21	1,437	3
				64.9	22.2	9.0	2.4	1.5		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	966	289	135	24	23	1,437	3
				67.2	20.1	9.4	1.7	1.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.51	959	283	166	16	11	1,435	5
				66.8	19.7	11.6	1.1	0.8		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	1,111	216	79	23	8	1,437	3
				77.3	15.0	5.5	1.6	0.6		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.66	1,077	258	82	8	10	1,435	5
				75.1	18.0	5.7	0.6	0.7		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.28	684	502	222	19	7	1,434	6
				47.7	35.0	15.5	1.3	0.5		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	901	355	131	27	22	1,436	4
				62.7	24.7	9.1	1.9	1.5		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	1,030	576	488	267	249	1,372	68
				75.1	42.0	35.6	19.5	18.1		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.55	805	244	75	13	23	1,160	280
				69.4	21.0	6.5	1.1	2.0		

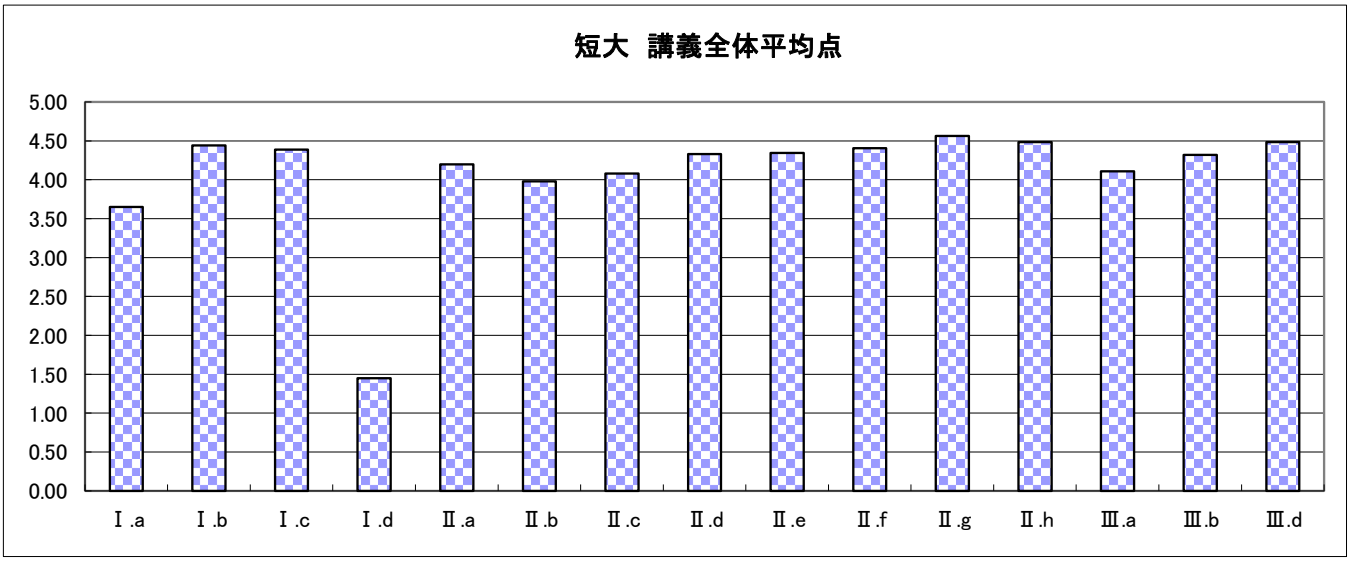


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	短大
科目数	40

履修者数	389
回答者数	319

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.65	83	106	85	25	20	319	0
				26.0	33.2	26.6	7.8	6.3		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	196	79	35	7	2	319	0
				61.4	24.8	11.0	2.2	0.6		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.39	161	123	33	2	0	319	0
				50.5	38.6	10.3	0.6	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.45	7	10	18	49	235	319	0
				2.2	3.1	5.6	15.4	73.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	143	97	76	2	0	318	1
				45.0	30.5	23.9	0.6	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.98	34	78	194	8	4	318	1
				10.7	24.5	61.0	2.5	1.3		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	139	78	84	12	2	315	4
				44.1	24.8	26.7	3.8	0.6		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	171	94	44	8	2	319	0
				53.6	29.5	13.8	2.5	0.6		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.34	167	104	38	7	2	318	1
				52.5	32.7	11.9	2.2	0.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.41	173	106	36	1	2	318	1
				54.4	33.3	11.3	0.3	0.6		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	223	64	21	7	3	318	1
				70.1	20.1	6.6	2.2	0.9		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.48	192	95	25	5	1	318	1
				60.4	29.9	7.9	1.6	0.3		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.11	118	120	75	3	1	317	2
				37.2	37.9	23.7	0.9	0.3		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.32	170	90	46	4	5	315	4
				54.0	28.6	14.6	1.3	1.6		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	223	133	115	71	55	312	7
				71.5	42.6	36.9	22.8	17.6		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.49	148	79	14	4	2	247	72
				59.9	32.0	5.7	1.6	0.8		

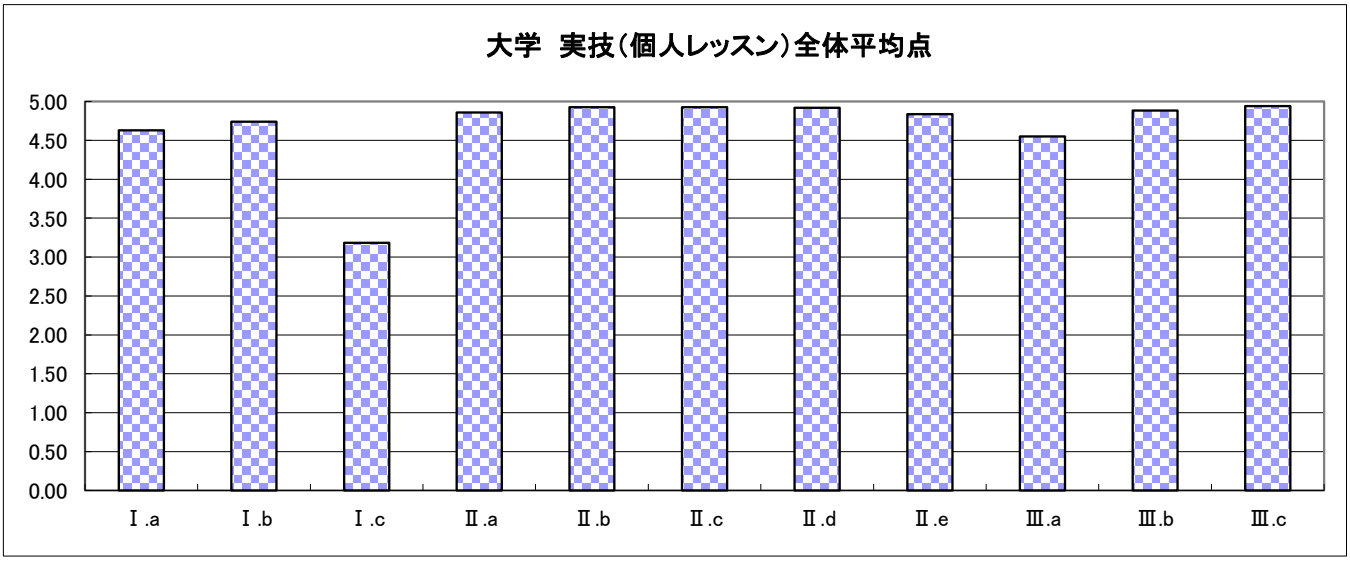


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	大学
科目数	54

履修者数	281
回答者数	249

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.63	183	43	17	5	0	248	1
				73.8	17.3	6.9	2.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.74	190	55	2	2	0	249	0
				76.3	22.1	0.8	0.8	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.18	72	31	45	73	28	249	0
				28.9	12.4	18.1	29.3	11.2		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	220	24	4	1	0	249	0
				88.4	9.6	1.6	0.4	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	233	14	2	0	0	249	0
				93.6	5.6	0.8	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	234	12	3	0	0	249	0
				94.0	4.8	1.2	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.92	231	16	2	0	0	249	0
				92.8	6.4	0.8	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.84	219	21	8	0	1	249	0
				88.0	8.4	3.2	0.0	0.4		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.55	152	84	11	2	0	249	0
				61.0	33.7	4.4	0.8	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	225	21	1	2	0	249	0
				90.4	8.4	0.4	0.8	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94	236	11	2	0	0	249	0
				94.8	4.4	0.8	0.0	0.0		

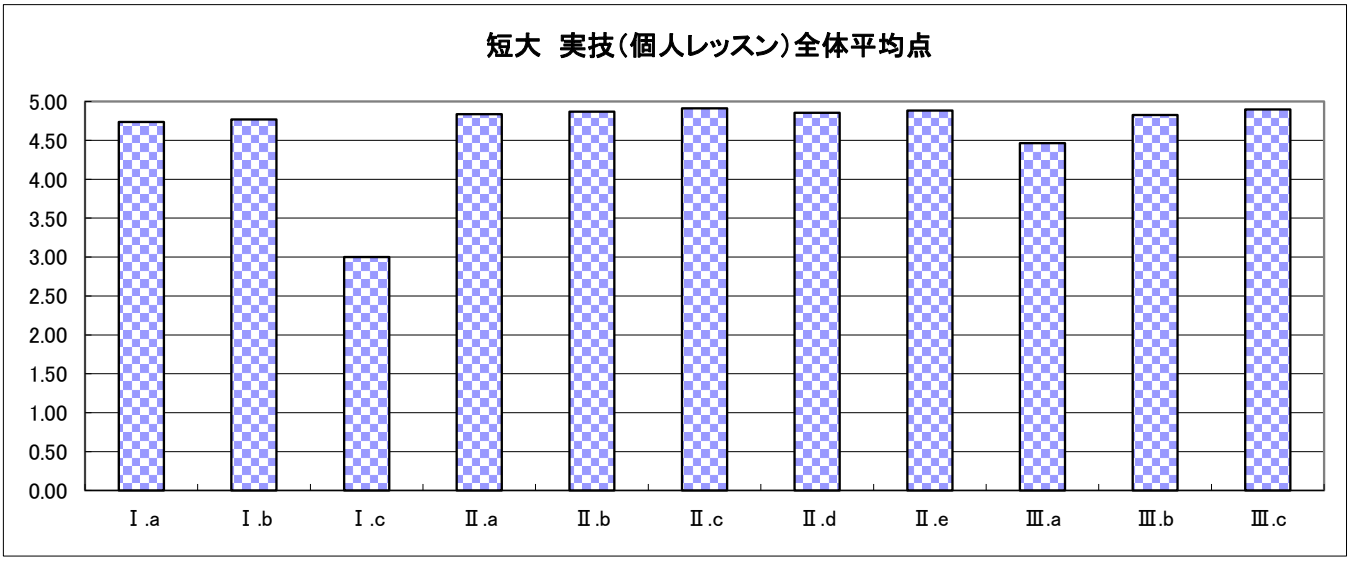


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	短大
科目数	38

履修者数	73
回答者数	69

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.74	56	8	2	2	0	68	1
				82.4	11.8	2.9	2.9	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.77	54	14	1	0	0	69	0
				78.3	20.3	1.4	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	16	7	15	23	8	69	0
				23.2	10.1	21.7	33.3	11.6		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.84	59	7	2	0	0	68	1
				86.8	10.3	2.9	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.87	62	5	2	0	0	69	0
				89.9	7.2	2.9	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.91	65	2	2	0	0	69	0
				94.2	2.9	2.9	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	62	4	3	0	0	69	0
				89.9	5.8	4.3	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	62	6	1	0	0	69	0
				89.9	8.7	1.4	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.46	38	25	6	0	0	69	0
				55.1	36.2	8.7	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	57	12	0	0	0	69	0
				82.6	17.4	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	63	5	1	0	0	69	0
				91.3	7.2	1.4	0.0	0.0		

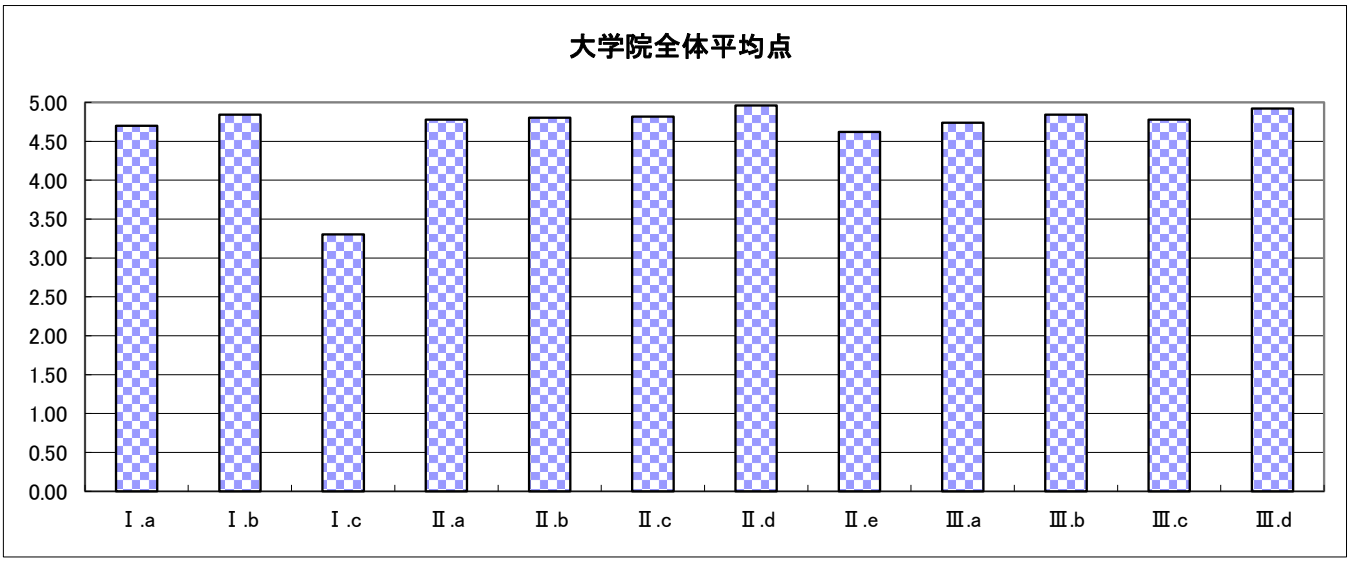


授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

区分	大学院
科目数	26

履修者数	102
回答者数	76

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.70	57	15	4	0	0	76	0
				75.0	19.7	5.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.84	64	12	0	0	0	76	0
				84.2	15.8	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.30	30	9	10	8	19	76	0
				39.5	11.8	13.2	10.5	25.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.78	60	15	1	0	0	76	0
				78.9	19.7	1.3	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.80	61	15	0	0	0	76	0
				80.3	19.7	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.82	62	14	0	0	0	76	0
				81.6	18.4	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.96	73	3	0	0	0	76	0
				96.1	3.9	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.62	28	12	2	0	0	42	34
				66.7	28.6	4.8	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.74	60	13	2	1	0	76	0
				78.9	17.1	2.6	1.3	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.84	66	8	2	0	0	76	0
				86.8	10.5	2.6	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.78	61	13	2	0	0	76	0
				80.3	17.1	2.6	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	70	6	0	0	0	76	0
				92.1	7.9	0.0	0.0	0.0		



東 邦 音 楽 大 学

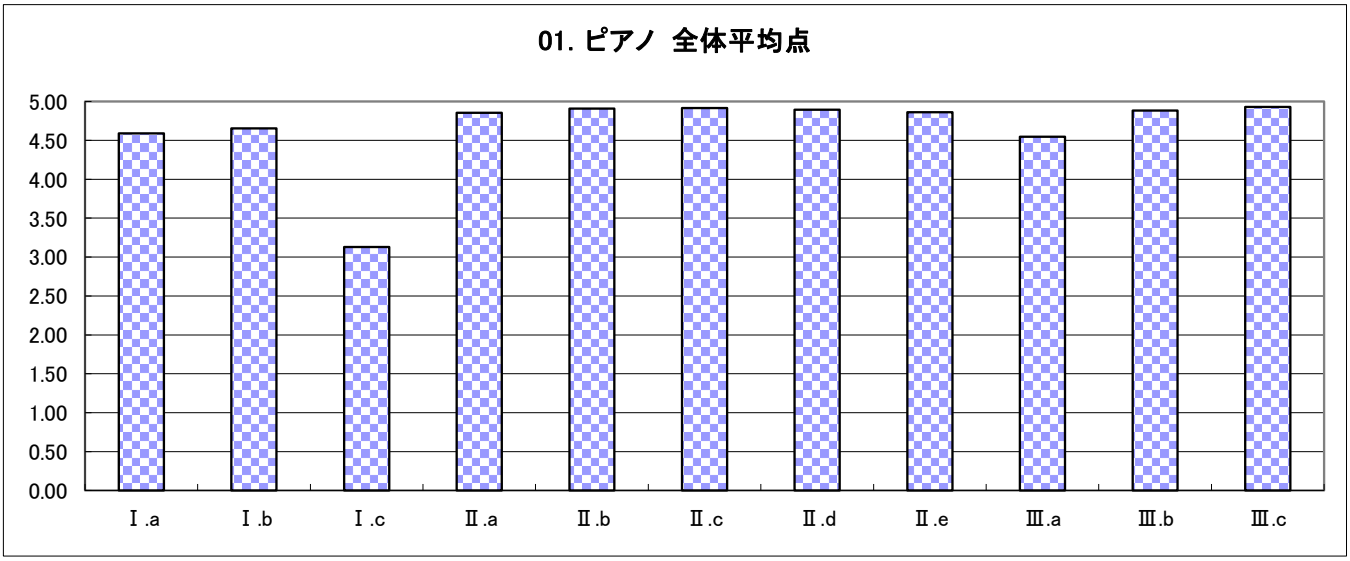
ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	19

履修者数	137
回答者数	130

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.59	92	23	12	2	0	129	1
				71.3	17.8	9.3	1.6	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65	89	38	2	1	0	130	0
				68.5	29.2	1.5	0.8	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.13	34	17	25	40	14	130	0
				26.2	13.1	19.2	30.8	10.8		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.85	115	12	2	1	0	130	0
				88.5	9.2	1.5	0.8	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	119	10	1	0	0	130	0
				91.5	7.7	0.8	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	120	9	1	0	0	130	0
				92.3	6.9	0.8	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	118	10	2	0	0	130	0
				90.8	7.7	1.5	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	116	12	1	0	1	130	0
				89.2	9.2	0.8	0.0	0.8		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.55	78	46	5	1	0	130	0
				60.0	35.4	3.8	0.8	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	117	12	0	1	0	130	0
				90.0	9.2	0.0	0.8	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	122	7	1	0	0	130	0
				93.8	5.4	0.8	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

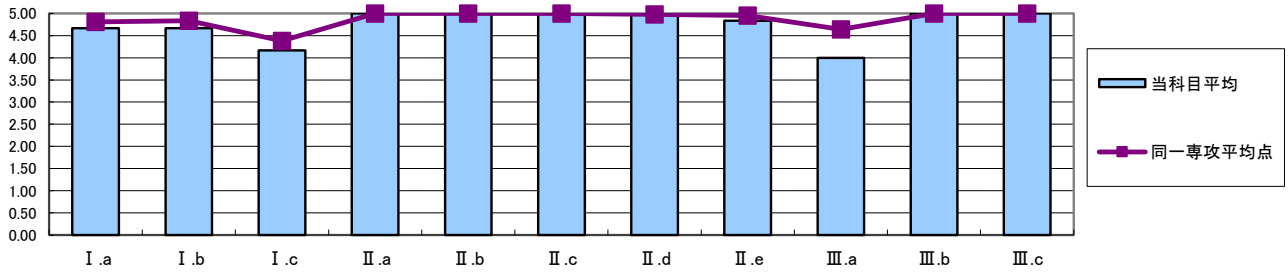
科目名	ピアノ
教員名	大場　文惠

職名	02. 教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.17	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者6名全員より回答がありました。内訳は、1年生1名、2年生1名、3年生1名、4年生3名です。その内、2年生と4年生の1名は教職実践ピアノです。　　設問Ⅰのピアノへの取り組み方は全員が「強くそう思う」「ある程度そう思う」の回答になっていますが、取り組み方はさまざまで、それは練習時間に現れています。教職実践コースの4年生は、新型コロナウィルスの影響で中学校･小学校の教育実習が秋になり、またこのアンケートが作品ノート作成中の期間だったこともあり、練習時間の確保にとても苦労していました。しかしピアノへの熱意を失うことなく頑張り通すことができました。　設問Ⅱのレッスンの内容については、全員が高く評価しています。　設問Ⅲaの「開講時に示された到達目標を充分に達成できた」に対して「強くそう思う」が1名、「ある程度そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が1名でした。「どちらとも言えない」との回答は残念ですが、1回１回のレッスンを大切に考えて地道に努力を重ねて欲しいと思います。自由記述欄には、「レッスンは丁寧でとても分かりやすく、毎回新しい発見があります。毎週レッスンが楽しみです」「今まで指導してもらうことのなかった手首の使い方など、細かい部分まで教えてもらうことができ、充実しています」「毎回のレッスンで自分の課題点を明確にすることが出来て、練習にも取り組めました。大切なことを沢山学ぶことが出来ました」「私がピアノを含む様々なことで悩み迷っていた時に先生が相談に乗ってくださり、その後とても気が楽になり、改めてきちんとピアノに向かおうという気にさせて頂きました。普段のレッスンも私に合った弾き方、弾きやすい奏法を教えてくださり、前よりずっと腕を痛めることも減り、大分楽に弾けるようになりました」とありました。

●　問題点

特に意識のズレを感じることは無いが、たまにピアノに集中出来なくなる学生がいる

●　改善の方策

そのような時は無理に弾かせるのではなく、会話の時間を多くとり、話を通して気持ちを変えられるよう努めたい

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

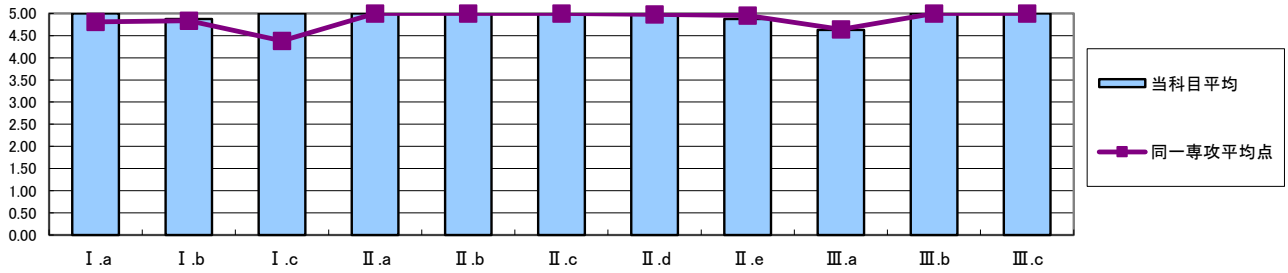
科目名	ピアノ
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.63	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度は、大学のピアノ専門レッスンを8名担当した。学年別の内訳は1年次生1名、2年次生4名、3年次生2名、4年次生1名である。うち1名はKonzertfach演奏専攻、2名は教職実践専攻である。レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるように考えている。演奏専攻の学生には、2回の演奏専攻演奏会、2回のウィーン特別研修の準備を、ウィーンアカデミーのカリキュラムとの連携に留意しながら進めたが、コロナ禍により渡航が出来なかったことは残念である。なるべく前年度のウィーン研修で得た課題を継続することを念頭に置いた。

●　問題点

全ての項目で高い評価を得られた。学生たちがレッスンに意欲的に取組み、大きな進歩を見せてくれたと実感している。

●　改善の方策

引き続き全ての学生が到達目標を達成できるよう、学生ひとりひとりの状況の把握と、それを踏まえた適切な指導計画の策定・実行、学修に対する適切な支援を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

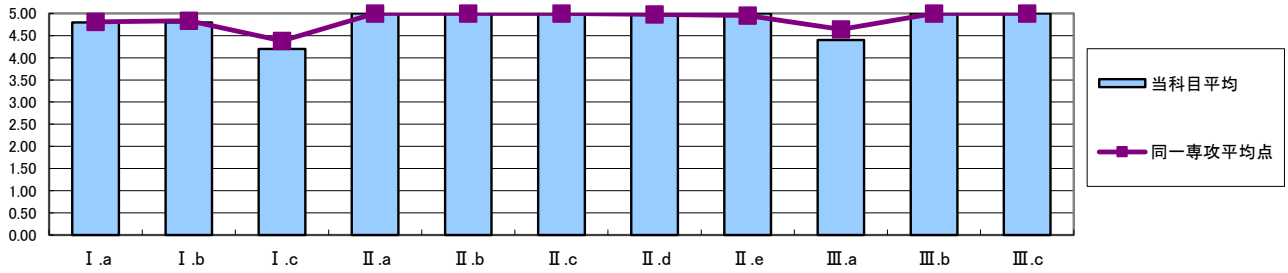
科目名	ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学ピアノ専攻実技では、6人の履修があり、内５名から回答があった。学生たちは、入学前の様々な音楽経験の上に、個々の力を伸ばすための努力をしており、成果が上がったと考える。学生の個人評価および、レッスンに対する教員への評価ともに、「強くそう思う」もしくは「ある程度そう思う」に集約されていた点がそれを表している。

●　問題点

集計結果状では特に問題点は見られないが、さらに練習時間が増えることを望む。

●　改善の方策

今後とも、個人レッスンを通して、学生一人一人にふさわしい教授法を追究していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

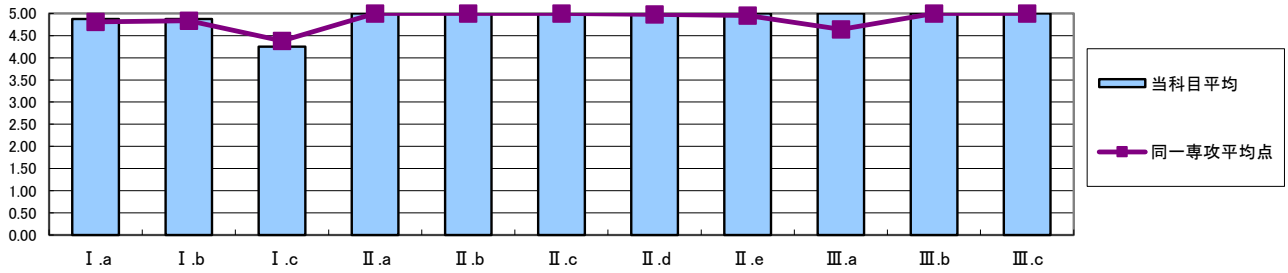
科目名	ピアノ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度において9名の専攻学生を担当した。内訳は1年次生2名、2年次生、3年次生共に1名ずつ、4年次生5名である。この1年、予想もしないコロナ禍に教員、学生共に翻弄された印象である。全くの初体験であるオンラインのレッスン、それから次々と変更になるスケジュール。特にトライアル・コンサート開催中止に伴うオーディションの中止、ソロ定期研究発表会の中止、延期、ウィーン研修の中止等、学生たちにとっては大きな失望が重なる事態が多々起きた。学生たちが失望を引きずることがない様、モチベーションが保てる様、話し合いを重ねていく中で、「目標」というものの重要性を改めて認識した次第である。学園の方針により6月から対面レッスンが再開されたが、これは本当に有り難かった。多くの音大がオンラインレッスンを継続せざるを得ない中での英断に感謝の一言しかない。アンケートの集計結果はある程度納得のいくものであった。設問Ⅰcが示す様に、学生たちはほとんどがよく練習を行なっていると思う。この状況下、学生たちは忍耐強く学びの姿勢を崩さなかった。頼もしい限りである。

●　問題点

特に認められない。

●　改善の方策

現状を維持できる様、より学生に細やかな配慮を持って臨む所存です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

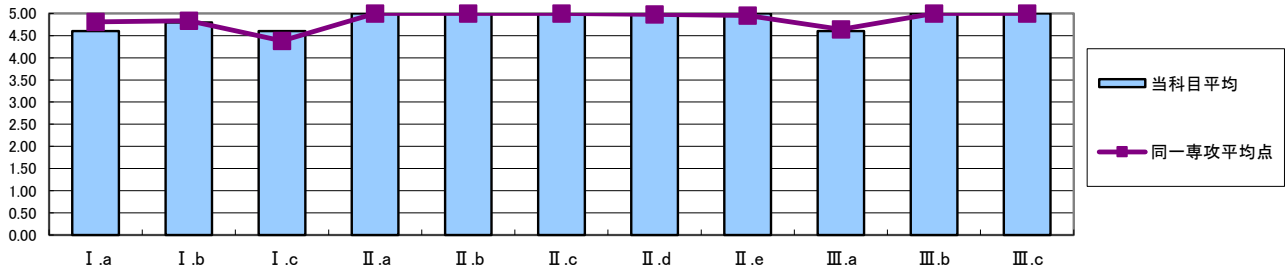
科目名	ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.60	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者の現状は概ね良好である。出席率は非常に良く、熱心に練習を重ねている様子が見て取れる。レッスンの進め方等に対する受け止めも良好で、それぞれが成長し、目標への達成感を得ていることが分かる。

●　問題点

練習時間の確保や、体力の維持に苦慮する学生もいた。

●　改善の方策

一人一人の背景や状況を踏まえながら、丁寧な指導かつ適度な距離感を持って対応して行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

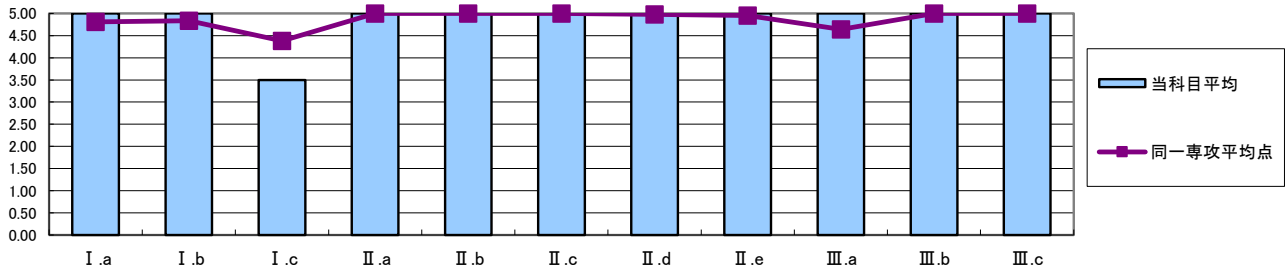
科目名	ピアノ
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、大学ピアノ科2名を担当しました。コロナ禍でのレッスン感染症対策を徹底し不安の中でのレッスンでしたが大変意欲的に音楽と向き合い成長した一年に感じました。

●　問題点

どの様に生徒自身が自分を向き合い集中した練習時間に費やしてもらえるのか僕なりに模索していました。また正確に譜読みすることの大切さ、自分で運指を書き込む作業もしてもらいました。

●　改善の方策

レッスン後の練習を徹底して行うことにより上達のスピードも早く感じられた。本人の自信にも繋がり譜読みも自然と早くなった気がします。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

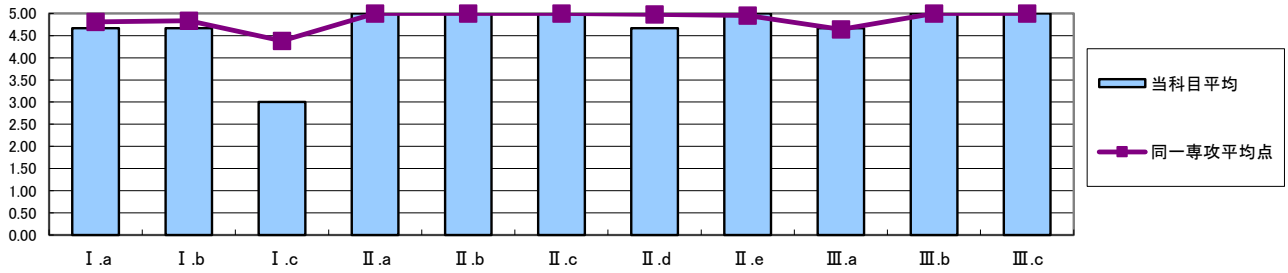
科目名	ピアノ
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養2年1名、副科１年3名、２年3名　 アドバンス1名大学は、専門が2年1名、4年2名 副科は２年6名　 3年2名　 4年2名短大の2年音楽教養の学生は、卒業が危ぶまれていたが、後期は卒業旅行など活躍する機会を得て、本人なりに有意義な学生生活が送られていたように見える。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く、大変熱心に勉強した。副科生は、能力の差はあるがそれぞれが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生3名は、出席も良好で、非常に意欲的に取り組んだ。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

大概の学生は、真摯に取り組んでいるが、昨年からの状況下で学業に及ぼす影響がみられる。

●　改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、支援していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

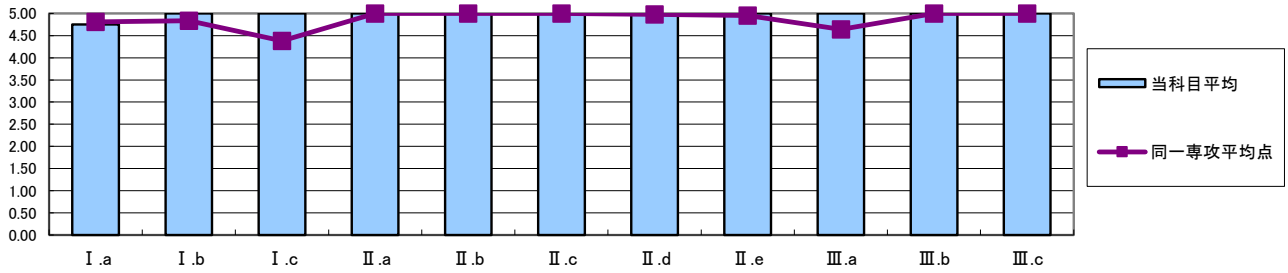
科目名	ピアノ
教員名	泉　玲子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

授業形態は個人レッスンである。2020年度の受講者は4名、内訳は、Ⅰ2名、Ⅱ2名で、全員から回答を得た。水曜日の午後にレッスンを行った。基本的に4人とも充分に準備をしたうえでレッスンに臨んでおり、受講時の態度も大変良好で、レッスンでの注意に対しても素直で向上が認められたと思う。また学生の回答からも、それなりの手ごたえを感じることができた。

●　問題点

Ⅰのaで４．の回答が1名なされているということは、レッスンに対して積極的に向かうようなモチベーションを充分に与えきれなかったと思う。

●　改善の方策

年度初めに学生とより具体的な1年間の課題を計画し、その実践状況を年度の途中で何度かチェックし、学生の意識を確認しながら最善のアドヴァイスができるように心がけたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

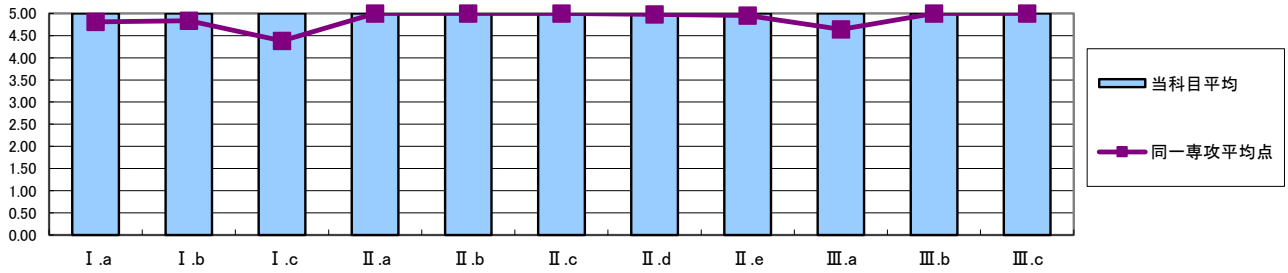
科目名	ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.81
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.83
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻生一名から回答を得た。本年は新型コロナウイルスのもたらしたコロナ禍により、学園にも学生にも非常に負担の多い前例の無い一年であった。全国的に見ると年間通してオンライン化した大学・短大も多かった中、対面レッスンを優先し、何より学生のモチベーションを第一に考えた学習環境を整えていただいた学園のスタッフの方々、教員の先生方には頭が下がる思いである。やむを得ない変更が多い年となり、例年出来ていたことの相違など在学中の学生には強いストレスや葛藤もあったことと思うが、非常に協力的に努力しながら学びを続けてくれていた。該当の学生は三年生であり、より実践的な学内演奏会や高いレベルの求められる実技試験などに対して、学生なりに堅実な努力を重ねていた。本年は技術の習得・向上を目指し、コロナ禍による不安に左右されないよう細やかなコミュニケーションを心掛けながら、本人の専攻に対する意識を高めることを第一とした。

●　問題点

アンケートの回答は全て５であり、数値的には問題は無いが、本年は実技試験などの演奏や結果が学生本人のモチベーションにどう影響しているか、不安の残すところとなった。同時に学生の専門に対する意識を高める必要性があり、講師としても責任を感じる。四年次を控え、講師の指導も更に改善し学生に対し、より高い技術と専門性を提示できるようにしたい。

●　改善の方策

来年度の四年次には本人による選曲を任せたい。テキストや書籍などの紹介を含め、演奏の音色の工夫などの具体的なアドバイスをしていく必要がある。また、自発的な学びを導き、作曲家のバックボーンや音楽史に基づいた歴史的背景を知り、演奏には学習に対する深い理解を促すことを重点に指導することを第一としたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

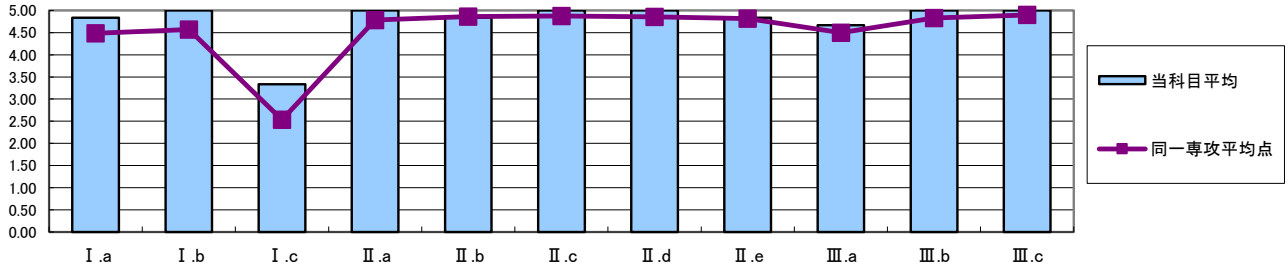
科目名	副科ピアノ
教員名	大場　文惠

職名	02. 教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.33	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

担当した学生6名全員より回答がありました。内訳は1年生1名、2年生2名、3年生2名、4年生1名で、専門は声楽3名、サキソフォン1名、打楽器1名、ヴァイオリン1名でした。6名ともたいへん熱心な学生で欠席もほとんど無く、その取り組み方には感心することが多くありました。専門が忙しくて練習時間が取れなかった場合もレッスンの時間には来て、その理由を誠実に伝えてくれたので安心でした。　設問Ⅰcの練習時間については、5時間以上が2名、4時間が1名、2時間が3名という回答でした。2時間の学生には、もう少し増やして欲しいところですが、これは仕方のないことかもしれません。設問Ⅱのレッスン内容については、評価しています。また設問Ⅲについては満足度が高く嬉しく思います。自由記述欄には「自分の力量に合った曲を提案してくださり、頑張ることができた」「しっかり基礎を1から教えて頂き、その上で表現や曲の解釈まで熱心に教えてくださり、毎回のレッスンがとても楽しみでした。大場先生に教えて頂きピアノへの思いが更に強くなり、充実した時間でした」「Zoomでのレッスンでも適切に指導してくださり、とても勉強になりました」とありました。

●　問題点

学生との間に意識のズレはなかった。練習の確保が難しい学生の学びをどうすればよいか。

●　改善の方策

演奏時間が短めで満足度の高い曲を選曲するよう心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

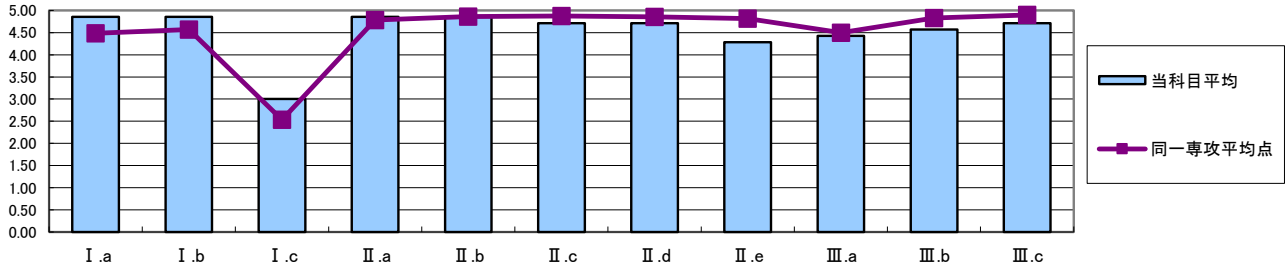
科目名	副科ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.86	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.71	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.71	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.29	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.57	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、８名の履修者がおり、内７名から回答を得た。副科ピアノは、とかく学生のモチベーションを保つことが難しい科目であるが、学生たちは、個々の力に応じて努力を重ね、ピアノという面から音楽へのアプローチをし、成果を上げたと考えられる。今年度は、新型コロナウイルス の感染拡大により、副科ピアノの実技試験は、なかったが、レッスンには皆しっかりと臨んでいた。集計結果でも、ほとんどの項目において、「強くそう思う」もしくは、「ある程度そう思う」というポジティブな結果となっている。自由記述にも、「とても熱意がある指導で、先生自体もテクニックがあり、レッスンが楽しいです。」「毎回、新しい音楽を発見できて楽しいです。」と書かれていた点は、喜ばしいことと捉えている。

●　問題点

集計結果から１名、「レッスンの回数や時間が守られていた」という項目に「全くそう思わない」をマークした学生がいるが、レッスン回数と時間は、前期の緊急事態宣言で開始が遅れたものの、その後の工夫で、規定を満たしており、前期、後期ともに問題はなく、これは、学生が前期に緊急事態宣言等で開始時期が遅れたことや8月に大学が閉鎖されたことへの不満を表したかったのであろうと推察する。

●　改善の方策

集計から取り立てた問題はないと読み取れるが、今後とも学生が副科ピアノを積極的に履修できるように指導に当たりたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

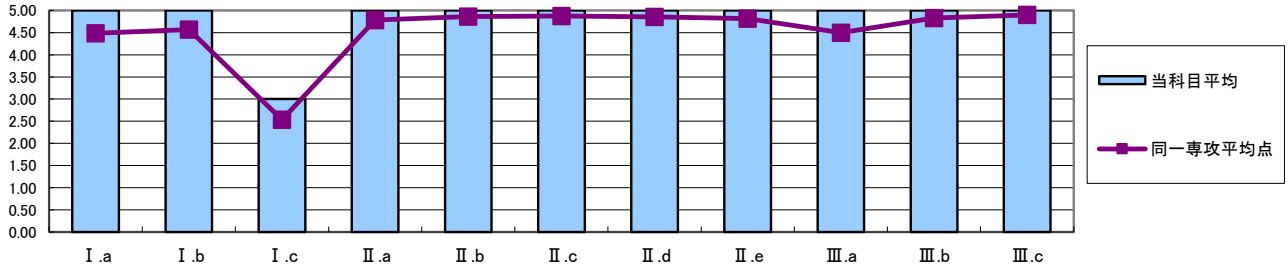
科目名	副科ピアノ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、当初は4名の副科ピアノ履修生を担当していたが、内1名はイギリスに留学、他2名（中国からの留学生）は帰国の為、前期をもって休学した。結果、1名の副科ピアノ履修生（2年次生）を担当した。予期せぬコロナ禍により落ち着かない1年であったが、担当学生は学びの姿勢を崩すことなく、着々と課題に取り組んでいた。担当学生は教職実践専攻である為、ピアノの履修においてかなり高い目的意識を持っている。教員採用試験時に試験官の前でピアノを弾くことを想定しているからである。その様な心構えを持っている学生にとって、やはりコロナの影響により前期・後期共に副科ピアノの試験が見送られたことは、大変残念なことであっただろうと思う。せめて後期だけでも試験は実施されるべきだったのではないだろうか。アンケートの集計結果であるが、概ね納得のいくものであった。しっかりとした意志を持って履修している学生の自覚が読み取れる。設問Ⅰcの練習時間に関しては、おそらく学生自身はもう少し時間をかけたいと感じているのかもしれないが、レッスン時においてはほとんど問題はない。

●　問題点

特に認められない。

●　改善の方策

この状態を維持できる様、さらに細やかに学生に沿っていきたいと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

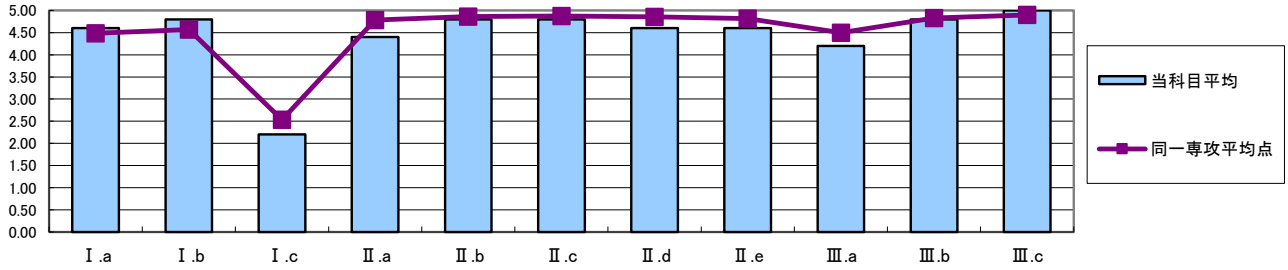
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.20	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.40	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.60	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.60	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者の現状は概ね良好である。出席率は良い。レッスンの進め方等に対する受け止めにはややばらつきが見られるが、それぞれが熱意を持って取り組み、一定の達成感を得ていることが分かる。

●　問題点

練習時間の確保に苦慮する学生が多かった。

●　改善の方策

履修者それぞれが自身の成長を実感できるような、個に合わせたレッスン展開を心掛けていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

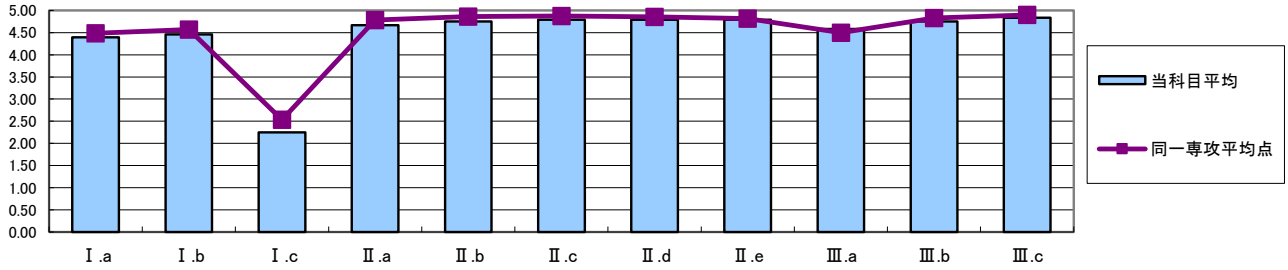
科目名	副科ピアノ
教員名	中島　剛

職名	06. 専任講師

履修者数	24
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.39	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.25	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.79	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.79	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.79	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.58	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、大学副科ピアノ24名を担当しました。かなり副科ピアノの人数配分が他の先生と比べ多いのが気になりました。そして2020年度はコロナ禍で顔合わせが出来なかった中、始まったオンラインではお互いに不安の中でのスタートでした。

●　問題点

副科ということもありグラフの1.cが低いのが顕著でした。基本生徒の好きな曲を選曲するのですが、24名それぞれの特色を活かし人と被らない曲を決めるのも大変な作業でした。またコロナ禍で副科ピアノの試験が2回も無くなってしまったことにより生徒自身のモチベーションが下がってしまったのも残念でした。

●　改善の方策

後期試験前に一度だけおさらい会が出来、生徒自身が練習したことの成果に繋がったことが結果として大変意義あるものに感じました。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

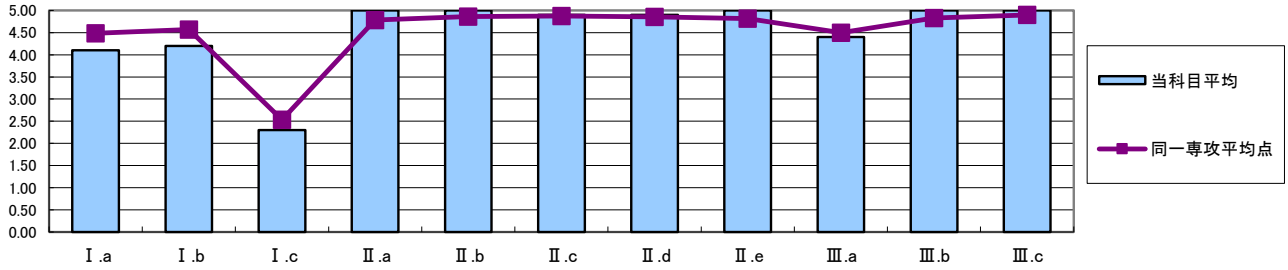
科目名	副科ピアノ
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	10
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.10	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.30	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.90	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.90	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養2年1名、副科１年3名、２年3名　 アドバンス1名大学は、専門が2年1名、4年2名 副科は２年6名　 3年2名　 4年2名短大の2年音楽教養の学生は、卒業が危ぶまれていたが、後期は卒業旅行など活躍する機会を得て、本人なりに有意義な学生生活が送られていたように見える。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く、大変熱心に勉強した。副科生は、能力の差はあるがそれぞれが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生3名は、出席も良好で、非常に意欲的に取り組んだ。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

大概の学生は、真摯に取り組んでいるが、昨年からの状況下で学業に及ぼす影響がみられる。

●　改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、支援していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

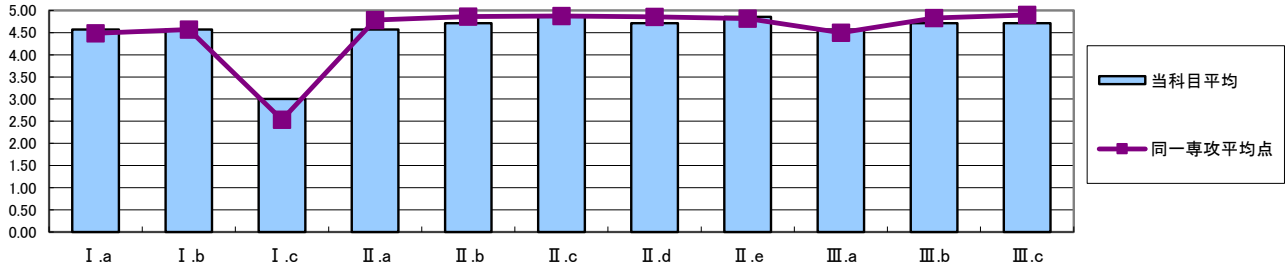
科目名	副科ピアノ
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.57	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.57	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.71	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.71	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者は8名、１名以外は出席は良好で、進度はまちまちだが積極的にレッスンに挑んでいたと思う。留学生が２名いて、言葉の問題があった中１名は積極的に頑張っていた。７名については問題はなかったと思うが、１名は度々のレッスン時間の変更や練習をして来ない、楽譜を忘れるなどきちんとレッスンに向き合っていなかったと思う。

●　問題点

ズレは特にない。

●　改善の方策

また同じような問題点が起きた場合は、言葉の問題を乗り越えしっかりと指導していきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

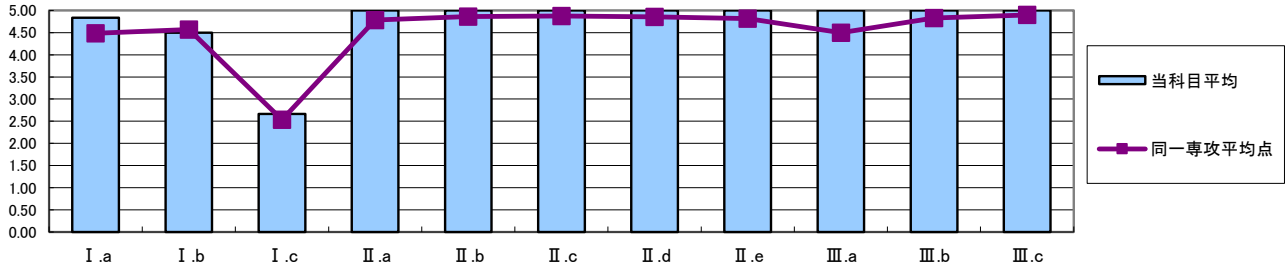
科目名	副科ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.67	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科生六名全員から回答を得た。本年は新型コロナウイルスのもたらしたコロナ禍により、学園にも学生にも非常に負担の多い前例の無い一年であった。全国的に見ると年間通してオンライン化した大学・短大も多かった中、対面レッスンを優先し、何より学生のモチベーションを第一に考えた学習環境を整えていただいた学園のスタッフの方々、教員の先生方には頭が下がる思いである。やむを得ない変更が多い年となり、例年出来ていたことの相違など在学中の学生には強いストレスや葛藤もあったことと思うが、皆非常に協力的に努力しながら学びを続けてくれていた。本年は技術の習得・向上と平行して出来るだけ学生の不安を汲み、様々な気持ちの変化などを聞くなどコミュニケーションを取ることを第一とした。環境や学び方の変化で、どれ程の我慢や忍耐があったのか推し量ることしかできないが、学生達はレッスンで不安を吐露しながらも専攻・副科実技共に前向きに取り組んでいた。 設問Ⅰbは、5と4の回答となり限られた練習環境の中、良くやってくれたと思う。設問Ⅰcは、2と1の回答が見られた。設問ⅡとⅢに関しては全て５の回答となった。

●　問題点

設問Ⅰcに関して、2と1の回答を丁寧に拾い上げていきたい。時間を増やすことと質を上げることを同意義にしていく必要がある。

●　改善の方策

効果的な練習方法を多角的に提案していく。副科の実技試験までのスケジュールを鑑み、早い内から長期的な計画を学生と組んでいくことで、練習時間の確保に繋げたい。学生からの自由記述からは「丁寧なレッスンを展開していただいた」とあり、来年度もこの方向性を継続していく価値はあるとみている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

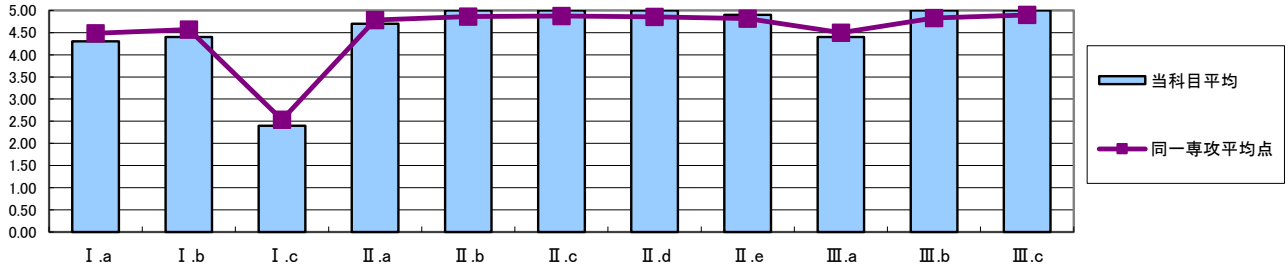
科目名	副科ピアノ
教員名	永岡　京子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.30	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.40	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.70	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受講生も、例年と同じく学習目標の到達に努力を重ね、各個人ごとの課題に取り組んだ結果が良好であった。オンライン授業と対面の両方でレッスンを行い、学生の環境または状況などでオンラインが不可能な学生もいたが、結果としてどちらにも有利不利に大差はなかった。オンラインで早めにレッスンを始められた学生には、セメスターの後の方のタイミングでの余裕があったように見受けられた。しかし、全員がとても良い課題との取り組みを見せたのに対し、試験がなかったので、担当教員の評価のみとなってしまったことは、残念であった。

●　問題点

学生の取り組みの自己評価は、教員側から見るより低いが、昨年度も十分の取り組みを見せていたので、自己評価程には低くなかった。副科実技であるので、専門科目と比較して評価しているのではないかと察する事ができる。

●　改善の方策

副科実技であるという点に留意し、個々の学生にとって最良の学習進度と目標を立て、それについてレッスン中に十分に伝達し、意欲を保てるような計画を話し合いながら進めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

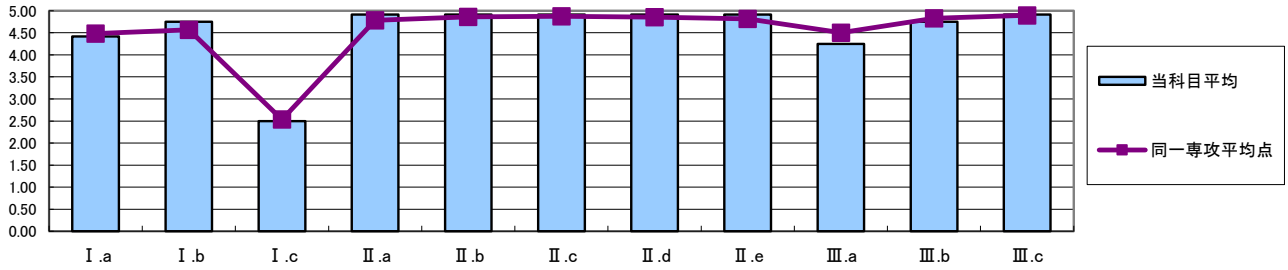
科目名	副科ピアノ
教員名	藤原　新治

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.42	4.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.92	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	4.88
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.92	4.85
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.92	4.82
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



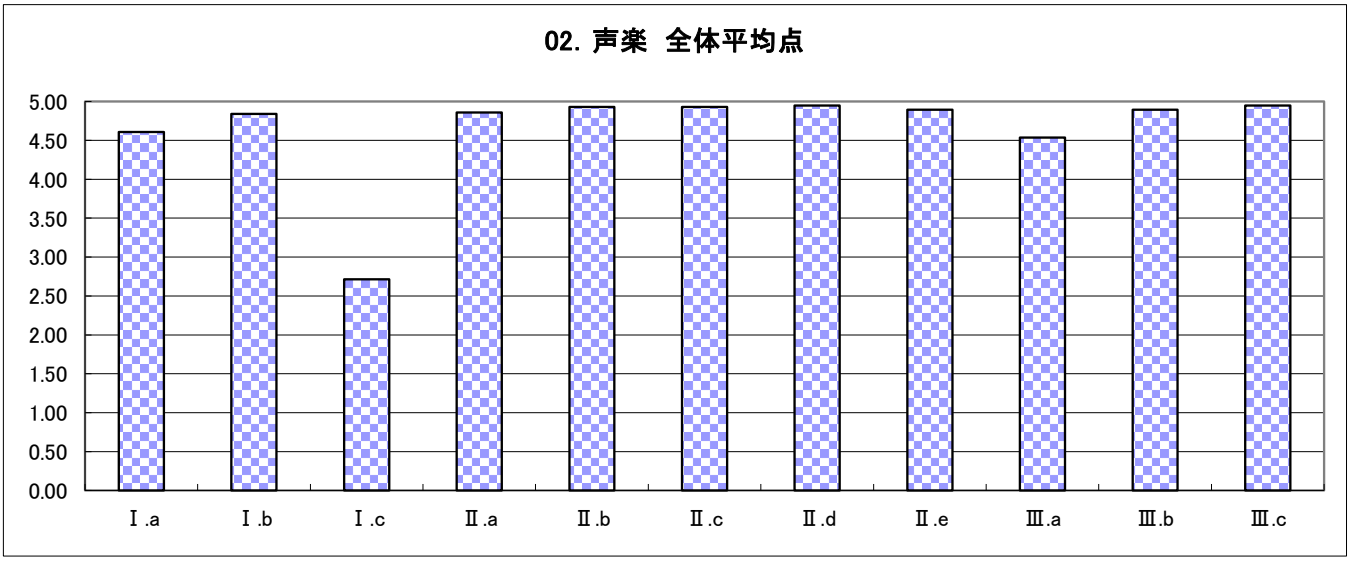
声　楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	12

履修者数	79
回答者数	56

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.61	41	10	3	2	0	56	0
				73.2	17.9	5.4	3.6	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.84	47	9	0	0	0	56	0
				83.9	16.1	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.71	9	6	13	16	12	56	0
				16.1	10.7	23.2	28.6	21.4		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	50	4	2	0	0	56	0
				89.3	7.1	3.6	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	53	2	1	0	0	56	0
				94.6	3.6	1.8	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	53	2	1	0	0	56	0
				94.6	3.6	1.8	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.95	53	3	0	0	0	56	0
				94.6	5.4	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.89	51	4	1	0	0	56	0
				91.1	7.1	1.8	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.54	33	20	3	0	0	56	0
				58.9	35.7	5.4	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.89	51	4	1	0	0	56	0
				91.1	7.1	1.8	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	54	1	1	0	0	56	0
				96.4	1.8	1.8	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

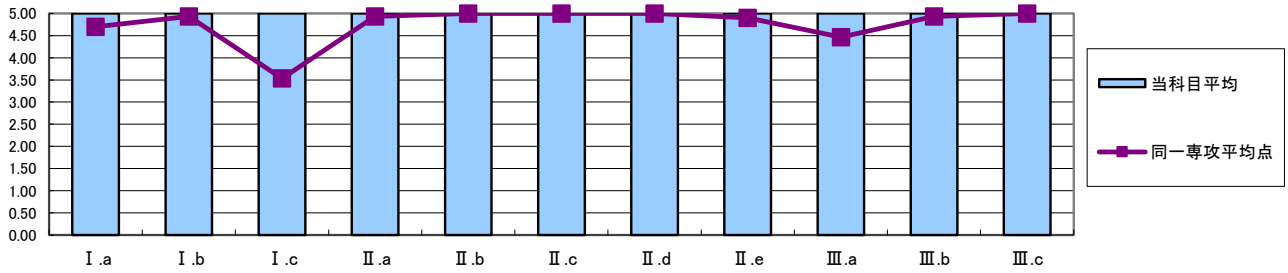
科目名	声楽
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

学生は大変真面目で真摯に勉学に取り組んでいて、教員である私とのコミュニケーションも非常に良好だった。また実際のレッスンでも充分に予習をしてからレッスンに来ていることがわかったが、統計的にもレッスンのための予習の練習も平均値を大いに上回っていた事が明らかとなった。

●　問題点

教員と学生との間に意識のズレは、私の所感としても、アンケートの回答からも殆どなかったと思われる。

●　改善の方策

学生それぞれの潜在能力を引き出して、意欲や熱意をかきたて、それぞれに進歩させる教育者としての姿勢を続けていきたいと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

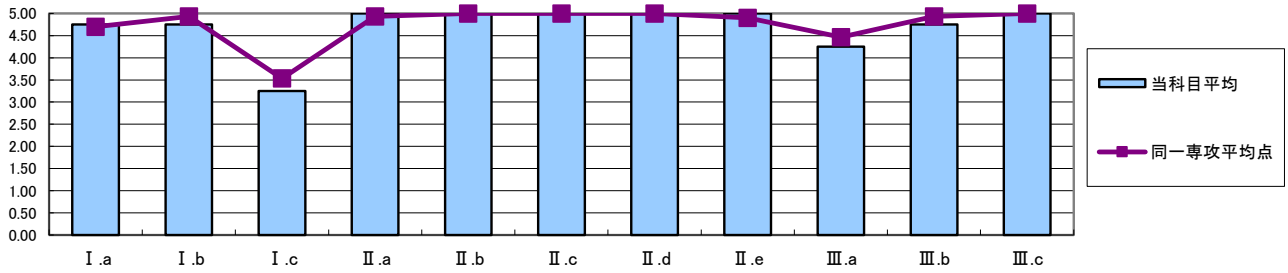
科目名	声楽
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.25	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学において専攻声楽の学生6人を担当している。アンケートは、アンケート実施時期に欠席であった者、2名を除く4人から提出された。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されるという形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、１．声楽技術の習得…呼吸法、レガート唱法の習得、滑らかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。２．更にそれらを向上させること。３．言葉への十分な取り組みを行うこと。…語学としての基礎知識を習得することは勿論、正確で美しい発音、内容を正しく把握する、想像力を持って表現するなどである。４．曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、ほかの作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人のことなどである。また、オペラ、歌曲、宗教曲などのそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を4年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし、充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差しさわりのない時間を確保する。1年生2名、2年生2名、3年生2名を担当している。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が学びの到達度をどのように実感したかについての3項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ―e「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」3.25であり、そのほかの項目については4点台から5点であった。

●　問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者4名のアンケートであることを考慮に入れつつ問題点を抽出してみると、Ⅰ―e「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」3.25においてとなった点であろうか。

●　改善の方策

この設問においては練習時間5時間以上が5となる。本アンケートにおいては4時間としたものが2名、3時間としたものが1名、2時間としたものが1名であり平均点は3.25となった。声楽の練習においては、1日平均1時間程度の練習が望まれる。しかしながら自宅に練習環境がない者もおり、練習時間が確保できない状況も考えなければならない。今後練習に関する促しも改めて行っていきたい。自由記述において「もっと勉強したい。先生が大好きです！」と言う者もあり、練習時間が確保できるように心配りが必要かと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

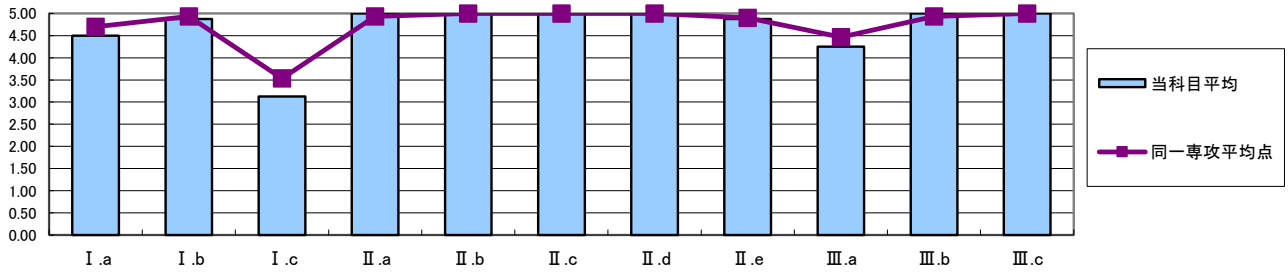
科目名	声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.13	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.88	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、1年生3名、2年生2名、3年生2名、4年生3名の計10名を担当しましたが、1年生の1名と3年生の1名の計2名は中国からの留学生の為、新型コロナウイルスの影響で休学となりました。アンケートには、この他の8名全員が回答しています。オンラインレッスンから始めた今年度は、コロナ禍の不安がある中、それぞれが今出来る最大限の努力をしながら学んでいたように思います。これらを踏まえアンケート結果をを分析しますと、大きな問題点はないかと思います。特にⅡa～dの設問への回答が5.00であることからも、今年度のシラバスに提示されている科目の目的と内容は概ね達成出来たと考察します。

●　問題点

Ⅰcの設問への回答が他より低く、それぞれの学生ともう少し深く話す必要を感じます。

●　改善の方策

声楽の場合、練習量にも増して勉強量が多く必要です。この辺りを深く解説しながら来年度の改善に努めます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

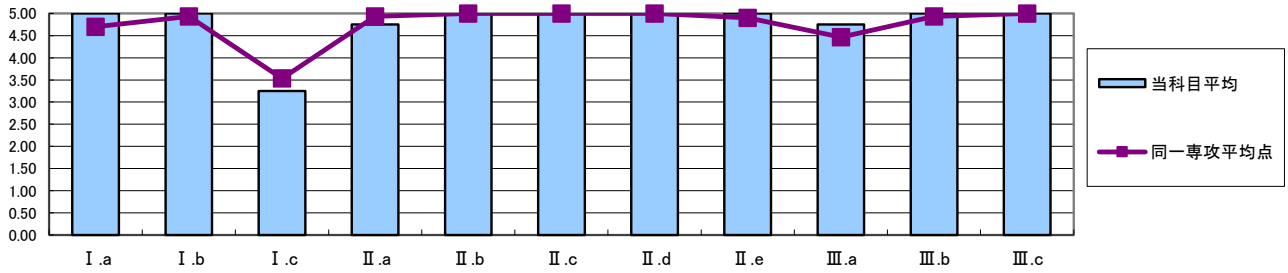
科目名	声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.25	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の同科目シラバスに基づいた目標設定を各学生と共有し、各自の課題曲で専攻の学修に取り組めるように具体化した内容で年間計画に従い開講。感染症対応のよる「遠隔授業」と「対面レッスン」両方の授業形態で、通年30回の授業を開講致しました。自修力の個人差があるため①目標達成のイメージを具体化できるように、響きの創造への発展性を持たせたレッスンを実施。歌唱表現の意欲と実技習得の理解に大きな差があるため②表現技術の習得と理論的な理解を紐づけてレッスンを実施致しました。設問Ⅰについては、感染症禍で声を出しての練習が困難な環境があったにも関わらず十分な成果が見られます。設問Ⅱについては、自由記述への書き込みと合わせて本年度自修力育成の指導効果が具体化できた数値が見られます。設問Ⅲについては、授業目標の具体的な展開に結び付いた成果がみられます。本集計結果には、専攻力に求められる声、響きの実際のイメージに繋がるレッスンの成果が反映されており、学生の自修力の基軸形成を実現できる開講内容であったことが分析され、本年度の授業実践が個々の能力と発達段階に無理なく進められたものであったことを再確認しております。感染症禍でも十分な学びの成果があったことをご報告いたします。

●　問題点

本年度は練習環境の個人差が大きな問題で、特に対面レッスン時に精神面の個人差（強弱、長短）として顕著に現れていたと思います。完璧主義な学生ほど抱える悩みが深く、それは声楽専攻技術のみならず舞台表現意欲を支えるものであるだけに、特にきめ細かく配慮した対応を長期的に継続する必要が感じられます。

●　改善の方策

集計結果数値からは見えない学生の学びへの意欲にどう応えるか、この課題にとりくむ当クラス専攻実技レッスン授業の実践計画は3年目となりました。個人の声、発達段階、理解力、特性を生かした4年間を総合的にみた学修計画の設定と実践には、自修力の育成と学修サポートの具体化がより重要で効果的であると感じられます。次年度にむけて、声楽的な声・響きの育成の継続と共に、音楽様式の骨格を踏まえた演奏（声楽表現）に向け具体的な課題曲を設定し技術的な問題もクリアしてゆくことと致します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

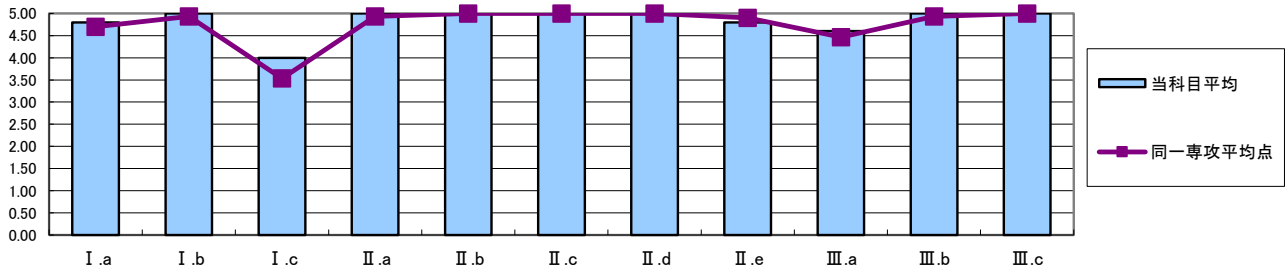
科目名	声楽
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

7名の履修者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。履修学生は積極的にレッスンに臨んでおり、外国言語及び楽曲分析を的確に実施しており、技術の向上がみられました。今回は7名中5名がアンケートに回答しておりますが、設問Ⅰaにおいては5の回答率が80%、Ⅰbにおいては5の回答率が100%と数字からも履修者の意欲が感じられました。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題はないと思われます。

●　改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とし、履修者の更なる技術の向上を目的とし、準備にあたる所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

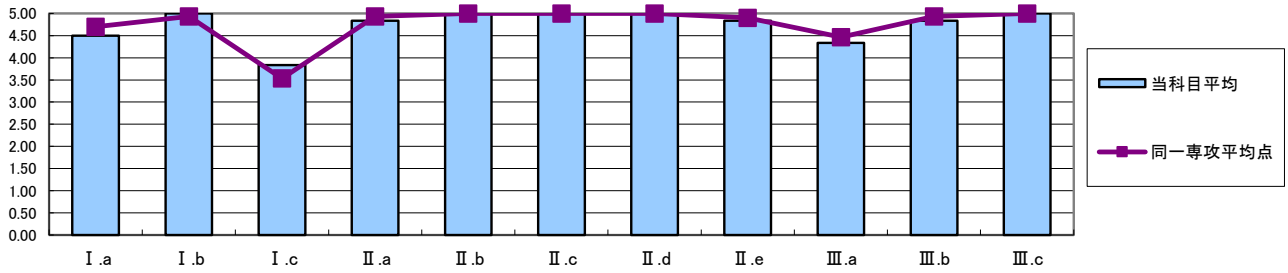
科目名	声楽
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.83	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度の大学生は4年生2人、3年生1人、2年生1人、1年生2人の計6人です。レッスンは川越校舎で木曜日に行いました。レッスンは発声練習から始め、練習曲、声楽曲へと続けて行きます。学生は皆真面目で次のレッスンまでに課題を勉強して来ますが、真面目で有っても個々の勉強量の違いに寄り、また個人の資質にも寄り、レッスンでは音が取れていなかったり、言葉が付けられなかったりと差が有ります。それによりレッスンの回数が重なるとに曲の出来上がりと、学習して来た曲数にも差が出来ます。皆が同じ力を持っている訳ではないので、特にしっかり練習が出来ていない学生には学習すべき点を重ねて伝え、本人に負担の無い範囲で学習に寄り添ってレッスンを進めて行きます。

●　問題点

音楽に対する基本のソルフェージュ力や楽典を身に付けていない訳では無いのですが、楽譜の読み起こしに時間が掛かり、楽譜を音に表して歌として表現する事が難しいです。

●　改善の方策

個々に持っている資質を音楽と言う括りで総括してしまう事は難しいです。学生の個性を尊重してレッスンを重ねて行く中で、段々と歌える様になれば本人にも自信が付いて前向きになれます。自分が好きで勉強したり演奏する事が出来る様に繋げて行ければ良いと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

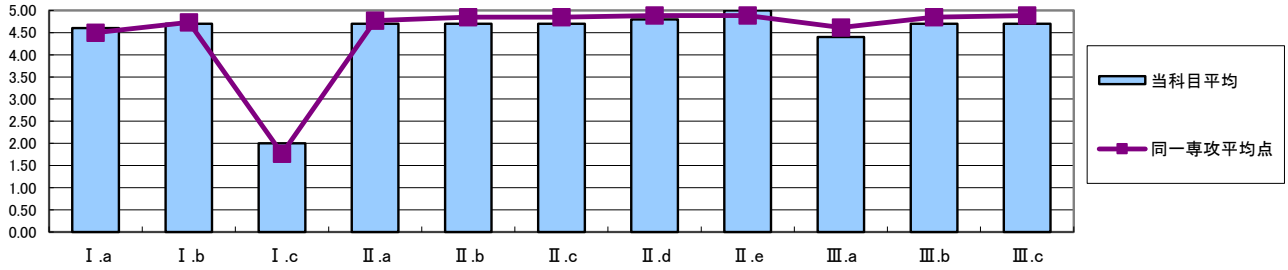
科目名	副科声楽
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.77
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.70	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.85
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.70	4.85
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.62
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.70	4.85
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科声楽のレッスンでは、短い時間でも如何に歌曲の内容や作品の魅力を伝える事を主眼に置いて取り組んできたので、自由記述の感想から、私の指導姿勢が充分に伝わっていることが明らかとなった。

●　問題点

残念ながら、レッスンの前の予習や練習が充分になされていないのが、統計的に明らかとなった。中には、ソルフェージュ感覚が秀でている学生の数人には、何も予習していなくても初見で楽譜を読んで歌える者もいて、学生それぞれの対応が難しい面もある。

●　改善の方策

たとえ副科声楽であっても勉学の意欲や熱意を促すよう、レッスンの最後に本人に負担にならない程度の宿題や課題を出す必要性を痛感した。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

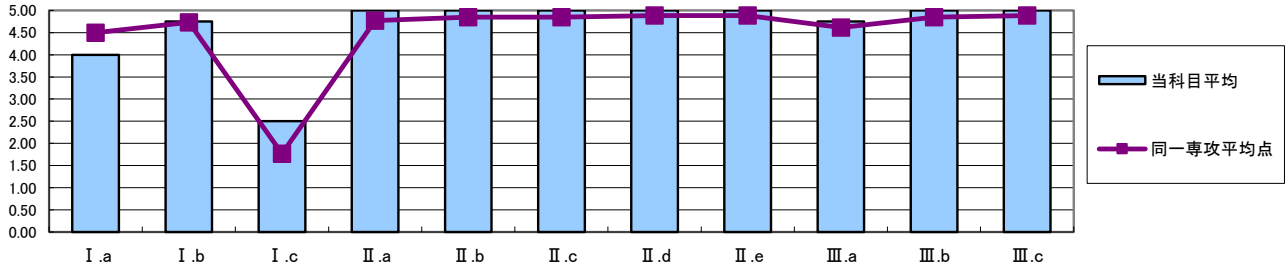
科目名	副科声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	1.77
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.62
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.85
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、副科声楽1年目の学生3名と2年目の学生1名の計4名を担当し、アンケートには4名全員が回答しています。この4名は意識・能力共にとても高い副科生達で、大変有意義なレッスンを行うことが出来ました。アンケート結果に加え、自由記述欄からも学生達の充実した学修成果を感じ取ることが出来ます。今年度のシラバスに提示されている科目の目的と内容は概ね達成出来たと考察します。

●　問題点

Ⅰcの設問の平均点が低く、どうしても主専攻に比べ練習時間を確保することが難しいようです。

●　改善の方策

それぞれの学生と度々話してきましたが、来年度はより具体的な練習法と時間の作り方を指導します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

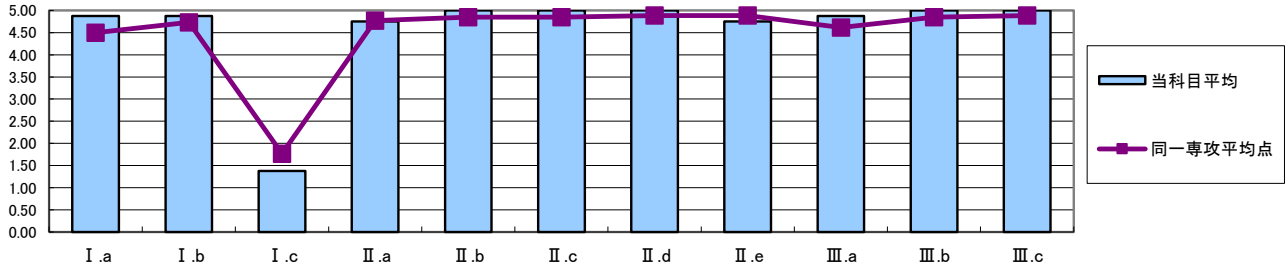
科目名	副科声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	19
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.38	1.77
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.88	4.62
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.85
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

年度の同科目シラバスに基づいた目標を各学生と共有し、各課題曲で声楽実技の学修に取り組めるように具体化した内容で年間計画に従い開講。感染症対応のよる「遠隔授業」と「対面レッスン」両方の授業形態で、通年30回の授業を開講致しました。自修力と経験値に個人差があるため①目標達成のイメージを具体化する、響きの創造への発　展性を持たせたレッスンを実施。歌唱意欲と実技の理解に大きな認識差があるため②声楽の習得と理論的な裏付けを紐づけてレッスンを実施致しました。設問Ⅰについては、感染症禍で声を出しての練習が困難な環境があったにも関わらず十分な成果が見られます。設問Ⅱについては、自由記述への書き込みと合わせて本年度は自修力の育成の指導効果が具体化できた数値が見られます。設問Ⅲについては、授業目標の具体的な展開に結び付いた成果がみられます。本集計結果には、声楽という声、響きの実際のイメージに繋がるレッスンの成果が反映されており、学生の自修力の基軸形成段階にあるものの効果的な開講内容であったことが分析され、本年度の授業実践は個々の能力と発達段階に無理なく導入されたものであったと伺えます。感染症禍ではありましたが見えない学びの土台作りの成果がみられることをご報告いたします。

●　問題点

年度は練習環境の個人差が大きく、特に対面レッスン時に精神面の個人差（強弱、長短）として顕著に現れていたと思います。声楽実技への認識、音楽大学での学びの最終目的の共有、各自の専門専攻実技から実技共通の着眼点をもてるように、特にきめ細かく配慮した対応の必要性が感じられます。

●　改善の方策

計結果数値からは見えない学生の学びへの意欲にどう応えるか、この課題にとりくむ当クラス副科実技レッスンでは、遠隔でのクラス授業を年間10回開講して、声楽の基礎的な素養の拡充育成を実践致しました。本アンケート結果にはその成果が具体的に反映されており、次年度も遠隔授業の利点を最大に生かしシラバスに準じた声楽オンラインシラバスに基づき、声楽的な声・響きの育成を重点的に継続することといたします。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

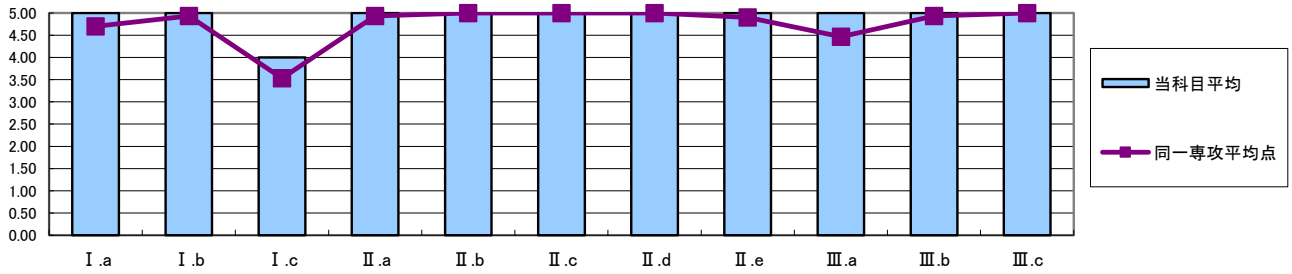
科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



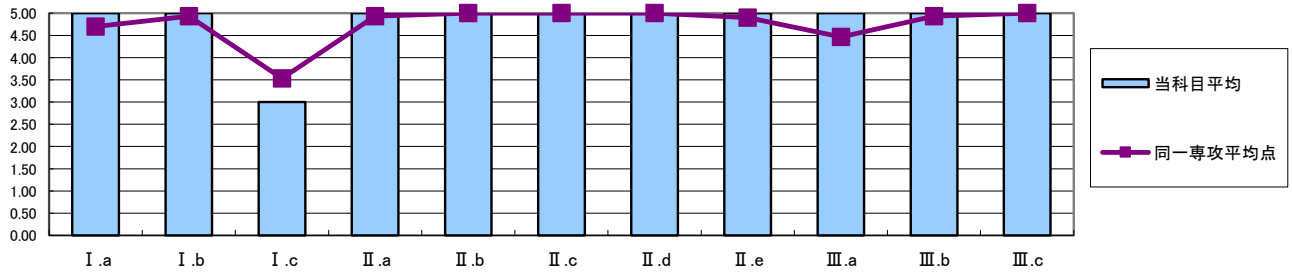
科目名	声楽
教員名	勝部　太

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.93
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.53
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

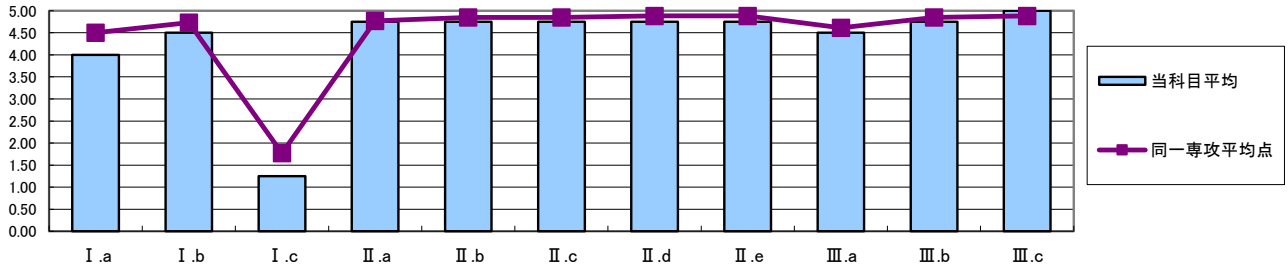
科目名	副科声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.25	1.77
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.85
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.85
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.62
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.85
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



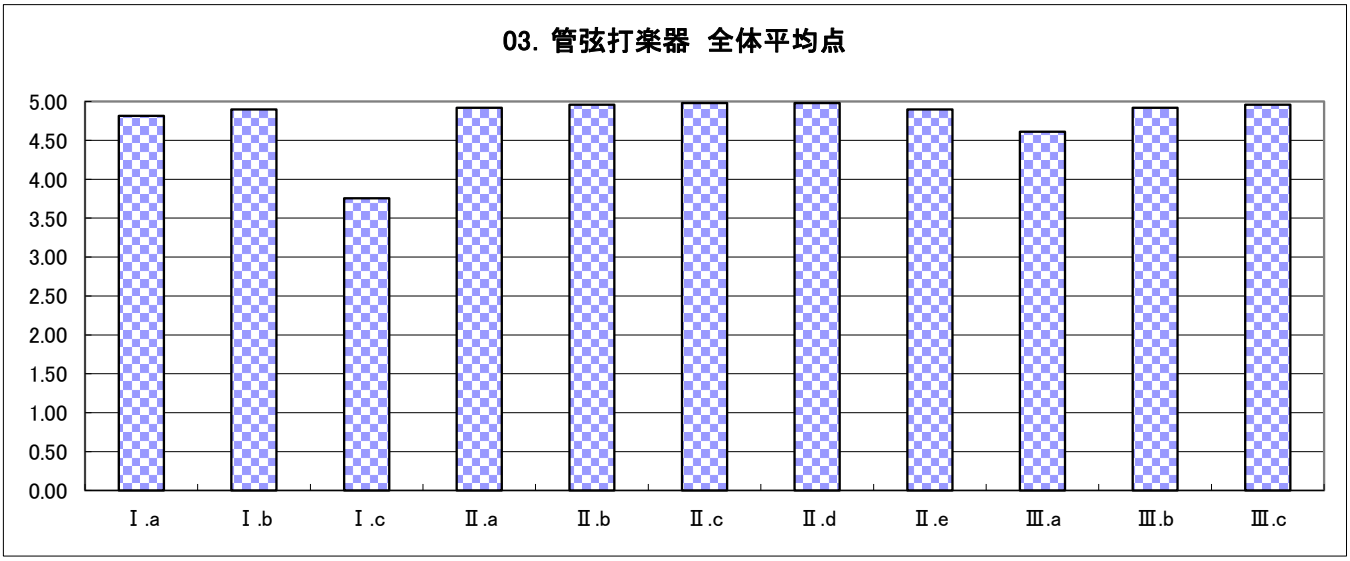
管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	20

履修者数	51
回答者数	49

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.82	41	7	1	0	0	49	0
				83.7	14.3	2.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.90	44	5	0	0	0	49	0
				89.8	10.2	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.76	24	5	6	12	2	49	0
				49.0	10.2	12.2	24.5	4.1		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.92	45	4	0	0	0	49	0
				91.8	8.2	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.96	47	2	0	0	0	49	0
				95.9	4.1	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.98	48	1	0	0	0	49	0
				98.0	2.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.98	48	1	0	0	0	49	0
				98.0	2.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	45	3	1	0	0	49	0
				91.8	6.1	2.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.61	33	13	3	0	0	49	0
				67.3	26.5	6.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.92	45	4	0	0	0	49	0
				91.8	8.2	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.96	47	2	0	0	0	49	0
				95.9	4.1	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

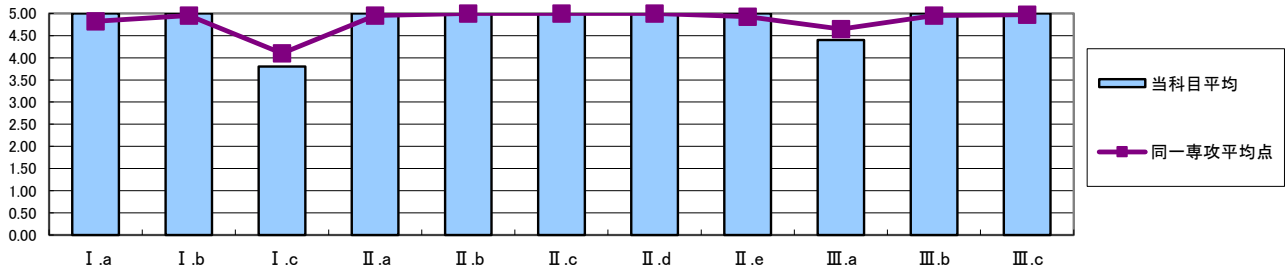
科目名	管弦打
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.80	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

学生の皆さんが大変良い評価点を付けているので、分析がし辛くなっています。今回気になった事は、Ⅰcの「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。」という質問に対して、「2時間」「3時間」という回答があったことです。1日2時間ではなく週に2時間、というと、音大生の専門楽器の練習時間としては少なすぎます。もし1日2時間、というつもりで回答しているなら、質問の文言を変える方がいいでしょう。

●　問題点

練習時間に関しては、色々な目的で入学してくる学生がいるので、必ずしも「毎日必ず練習！」という事が常識にはならない人もいるのかもしれません。またⅢaに関しては、毎回のレッスンの指摘が、その曲をいかに上手に弾くか、という目先の取り組みだけに終わっている、と感じられるのかもしれません。

●　改善の方策

毎日練習することが習慣になっていない学生には、毎日短い時間でも必ず練習をすること、コツコツと積み上げていくことが、大きな成果に繋がることを伝えていきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

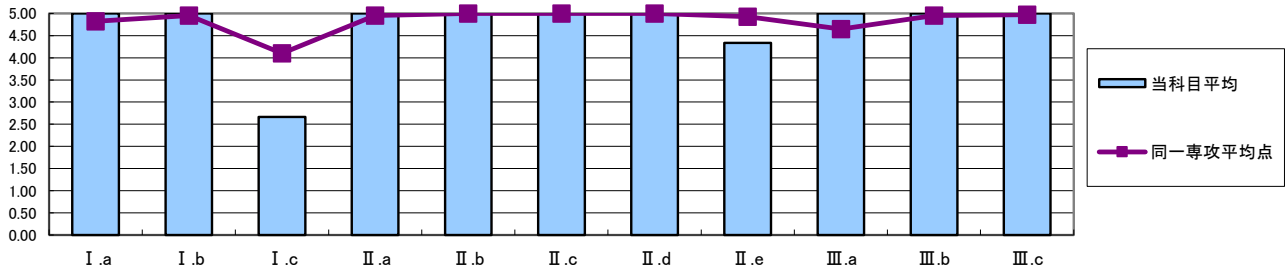
科目名	管弦打
教員名	吉川　武典

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.67	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

基礎トレーニングからエチュード、曲まで網羅したレッスンを展開しています。新入生にももれなく、最も大切な三つの柱「音」「音程」「リズム」の精度を上げることに対する意識を徹底し、更にそれぞれのシンプルかつ効果的トレーニングを示しながら、各々の進み具合を見ている段階。全員が集中力を持って順調に取り組んでいる印象です。

●　問題点

特に感じていません。

●　改善の方策

以降個人個人のペースや癖が露呈してきた際、細やかに対応します。全ての学生が同じ動きをするとは考えず、個別に観察からの投げかけをしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

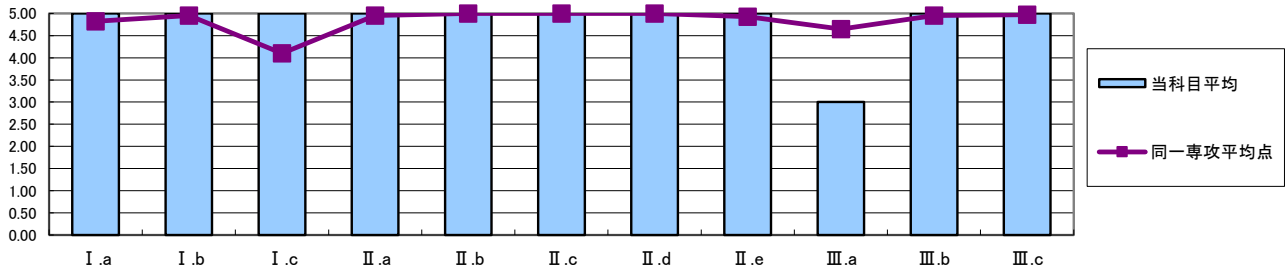
科目名	管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の専攻フルートの履修生は3名で、4年次2名、1年次1名であった。各々、1年次から、もしくは入学前から指導している学生で、それ相応の信頼関係が築かれた上でのレッスンとなった。レッスンは週一回約1時間でコンスタントに行えたと思っている。各学生が向上心を持ち、どうしたら上手になれるかと言う問題意識を持ってレッスンに臨んでくれた事もあり、ある程度は良いレッスンが出来たのではないかと思う。アンケートにもそれが表れた様に感じている。時には叱る事もあるけれども、それが学生の上達として次につながるものになってくれたのは、これまでのコミュニケーションの成果と良い学生に恵まれたおかげであると思う。指導が受け入れられ実を結ぶのは、そこに技術的に納得がいく力量と、説明に信頼があって初めて成り立つものであるから、たゆまぬ努力を続けていきたい。

●　問題点

日々のレッスンには問題を感じないが、自ら考え、失敗していく中で、教わるのではなく学ぶ力を各学生が付けていく事が、今後のステップアップには必要不可欠になってくると思われる。

●　改善の方策

自ら考え、失敗しながら学ぶ時間を与える為に、教え急がず見守りながら待ってやる忍耐力が必要になってくると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

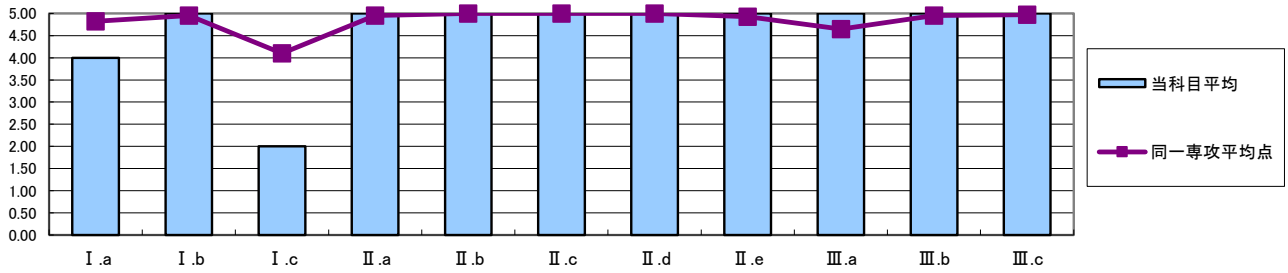
科目名	管弦打
教員名	加古　勉

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、この授業ではトランペット専攻生１名の個人レッスンを行った。楽曲のレッスンを行うこと以外に、常に奏法のレベル・アップ対応を行っている。 つまり、レッスンの中心は、基礎奏法・応用奏法の修得と音楽表現である。これは以前からも、そして今後も変わることは無い。また、学生個々のレベルに合わせたレッスンをしていることも当然である。私が重きを置いているのは学生の絶対的レベルよりも、どれだけのレベル・アップがみられたかということ。つまり伸び幅である。その観点から考察すると、この学生は大変順調であった。基礎奏法の主な内容は「ロングトーン」「フロー・スタディー」「インターヴァル」「スケール」「フレキシビリティー」「ブレス・コントロール」「姿勢」「フィンガリング」「タング・コントロール」「スロート・コントロール」「アパチュア・コントロール」「シラブル・コントロール」「ベンディング・コントロール」「サポート・コントロール」「イメージやアナロジーの活用法」など。また、基礎奏法・応用奏法修得のために使用している教材は「アーバン教則本」「シグマンド・ヘリング」「ロバート・ゲッチェル」「ハーバード・クラーク」「ルイ・デイヴィッドソン」「マックス・シュロスバーグ」「ジェイムズ・スタンプ」「テオ・シャルリエ」「カーマイン・カルーソー」「ウォルター・スミス」「チャールズ・コリンズ」「ウィリアム・バッキャーノ」など。レッスン生のレベル状況により、これらの教材の諸部分をピックアップして使用している。

●　問題点

本学ではアンサンブル教育（オーケストラ・吹奏楽・室内楽等）にもウェイトを置いている為、それらの事前譜読みやリハーサルに多くの時間を要している。その為、レッスンで扱う内容（エチュード・楽曲等）に対する準備が時期によっては、やや不十分になりがちのようである。

●　改善の方策

１日の大半を個人レッスンの為の準備練習に使うことは出来ない。各種授業、並びに、その予習・復習・課題等にも時間を費やさなければならない。オーケストラ・吹奏楽・室内楽等のアンサンブル授業の為の個人レベルでの譜読みも必要である。それ故に、限られた時間の中で如何に無駄の無い合理的な練習方法を組み立てるのか。また、ただ単にがむしゃらに練習するのではなく、think　and　play　の習慣を持てるのかを改善のためのポイントにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

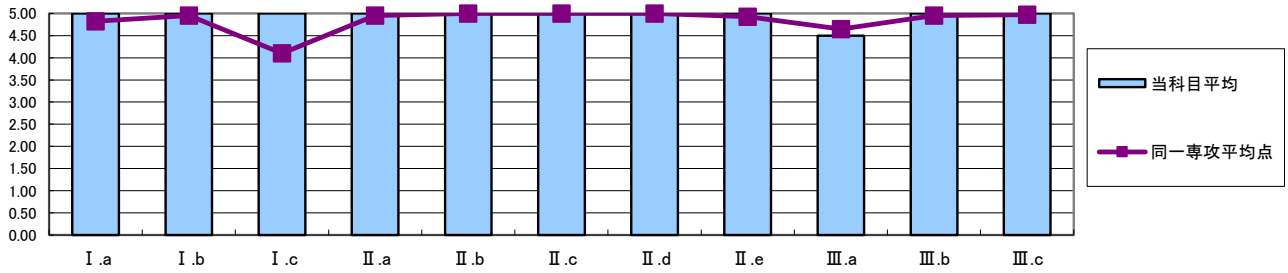
科目名	管弦打
教員名	加藤　里志

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

それぞれの課題を明確化し、目的に沿ってレッスンを行えている。また時間等も変更なく、且つ学生も目立った問題はなく、前向きに具体的目標を持って取り組めている。

●　問題点

集計結果によって、学生との間に意識のずれがない事を確認できる。目標達成について、ポイントの低い項目は、学生の意識が高いことに起因するもので、教員との意識のズレによるものではないと考える。今後さらに達成感を感じられるよう、日頃からの取り組みを細かくサポートしてゆく。

●　改善の方策

具体的な練習方法の設定。長期的課題と短期的な課題に分けて説明する事で、小さな事でも課題達成感を感じられるよう声がけをする。またそのような課題も含めて、取り組みの計画を立てる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

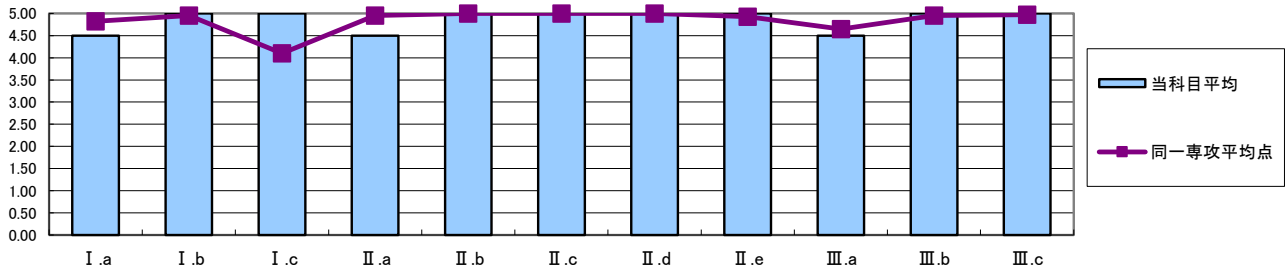
科目名	管弦打
教員名	齋藤　充

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学入学までに、必ずしも十分な音楽の基礎的知識を持っていない学生もいるのが現状で、それらの学生に合わせた教材選び、レッスンの進め方を工夫して、様々な対処をしながらレッスンを進めている。レッスンは基本的には固定の曜日と時間に行っているが、演奏活動の傍らでの非常勤講師をしている現状もあり補講をすることも多いが、補講の際には学生と予定調整をした上で設定しているため問題はない。

●　問題点

大学４年間で必要な知識と情報を教えようとすると、どうしてもある程度ペースの速いレッスン進行になるため、一部の学生にとっては少しだけ大変に思えたのかもしれない。そのため、一人の学生が「レッスンの進め方」と「到達目標」に関して４の評価をしていた。

●　改善の方策

レッスンで教える内容の重要性を知ってもらい、レッスンに向けた準備を意欲的に行ってもらえるように、課題設定と課題の量を考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

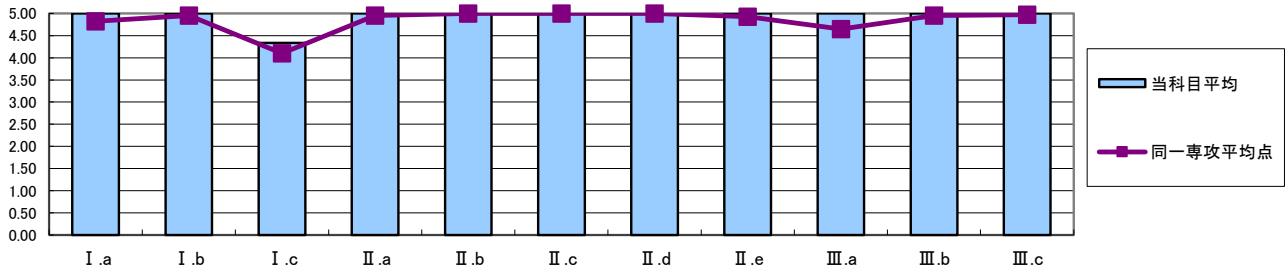
科目名	管弦打
教員名	須永　真純

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.33	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

主専攻、副科ともに、練習の度合いが低くなることがみうけられる。

● **問題点**

練習時間の妥当性

● **改善の方策**

より練習に励めるよう興味関心や必要性を説きながら指導

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

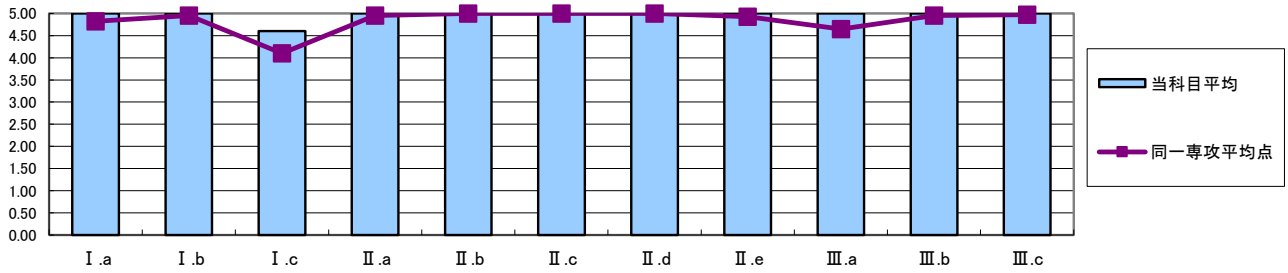
科目名	管弦打
教員名	渡辺　由美子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.60	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

　レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイディアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを習得する。　イメージを具体化するためにさまざまなテクニックや表現力を修得する。　レッスン、課題、門下発表会、実技試験などを通して音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、個々の学生の希望や学修の進度を踏まえつつ可能性を最大限に伸長する教育の実践を心掛けた指導を行う。　学生は、大学での学びの目的や意義をしっかりと理解し学校内での勉強会、楽器の技術向上は勿論、外部での演奏会やオーケストラ鑑賞、中高生の指導などにも積極的に取り組んでいた。　アンケートで改めて振り返るとレッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を、図書館を利用するなど広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

●　問題点

・レッスンシラバスの活用・予習、復習・レッスンは目標に沿って行われていたか。

●　改善の方策

・第一回目のレッスン時に年間予定を確認。・予習や復習の内容をレッスン時に明確に伝え、より具体化する。・必要に応じて変更をする中でも内容を網羅できるよう、今年度の内容を元に今後再構築したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

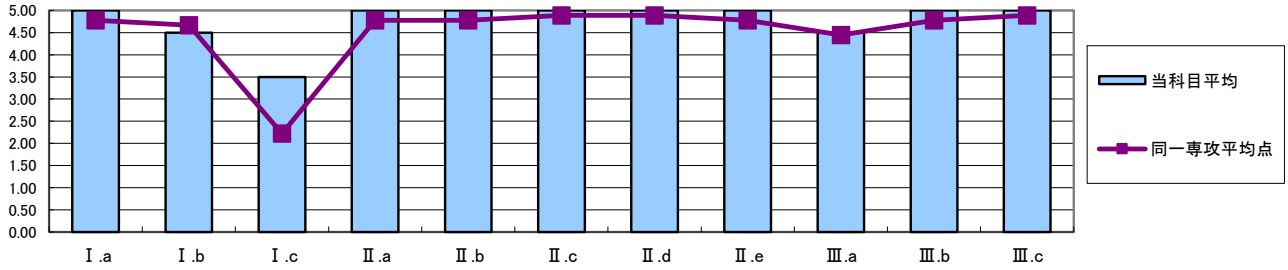
科目名	副科管弦打
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科ヴァイオリン2名を担当していました。一人は附属高校からヴァイオリンを始めて、ヴァイオリン歴5年目の学生です。大変熱心、かつ練習もきっちりしてくるので、ポジション移動やヴィブラートも身に付いてきて、ヘンデルのソナタを2週間ほどで譜読み出来るまでに上達しています。弦楽器ならではの音程の取り方もわかってきているようです。今後は、表現力を増やしていきたいと思います。卒業後は、アマチュアオーケストラを楽しむことも出来るでしょう。もう一人は留学生です。日本語も段々通じるようになり、まあり練習はしてきませんが、本人はそれなりに楽しんでいました。

●　問題点

今年の2人は特に大きな問題は感じませんでした。留学生は言葉の壁をやはり感じます。少しアンサンブルの経験が出来ると、また少し目標や楽しみが変わってくると思いますが、その機会は今のところありません。

●　改善の方策

簡単な二重奏を取り入れながら、レッスンを進めていこうと思います。留学生は簡単ななるべく単語を使って指導をしていますが、必ず正確に理解が出来ているかを確認しながら、レッスンを進めていこうと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

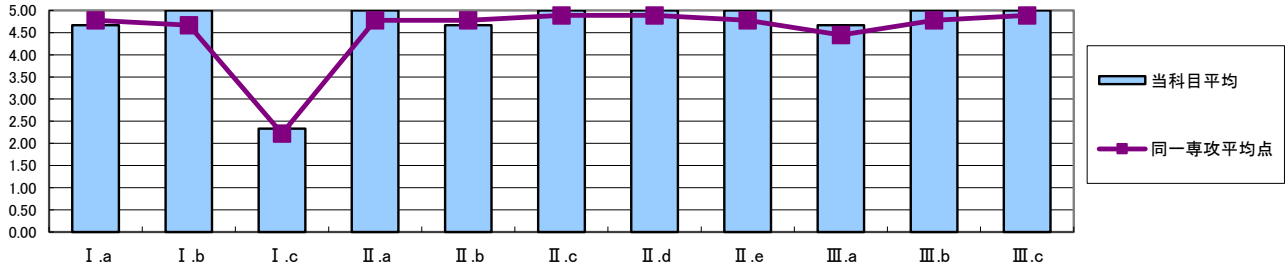
科目名	副科管弦打
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	*a*	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	2.22
Ⅱ	*a*	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.78
Ⅲ	*a*	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。来年度フルートの室内楽を希望する学生も出た。音楽療法専攻学生は将来現場でフルートを使用することが想定されるので、演奏技術を身につけさせることは重要と考える。今年度は経験者が多くレベルの高いレッスンであった。後期初頭は新型コロナウィルスのウィルスの影響で、オンラインレッスンを余儀なくされた。学生側のWi-Fi環境により接続状況が悪く、指導に苦労した。

●　問題点

今年度は学生の準備不足もなく概ね良好であった。オンラインレッスンの際は機材やWi-Fi環境の整備が重要である。

●　改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

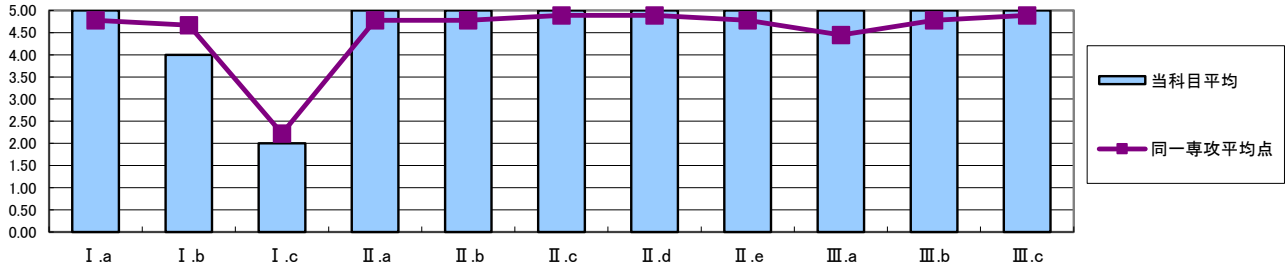
科目名	副科管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の副科フルートの履修生は1名で、2年次1名であった。今年度からの学生であったが、他の授業でも受持つ学生でありそれなりのコミュニケーションが取れていたかと思う。レッスンは週一回20分強で行った。レッスン自体は良い状態で行えたと思っている。初心の為レッスンの時に一緒に練習すると言う形になるが、理解度を上げていく都合上必要な事と思う。努力･成果と意欲は双方向的な関係で上手く回れば相乗効果が生まれるが、時に悪循環も生じる。その点、学生は良く頑張ってくれたと思う。先ずはレッスン自体が楽しいものであり、次のステップとして自身で問題を解決する方法を考えると言う基本の形を副科にも定着させなくてはならない。

●　問題点

特には感じないが、自身で正しい方向をみつけられる様に、基礎的な事をしっかりと身につける必要がある。

●　改善の方策

レッスン内で、正しい事と間違いを曖昧にせず理解するまで説明と実施を徹底する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

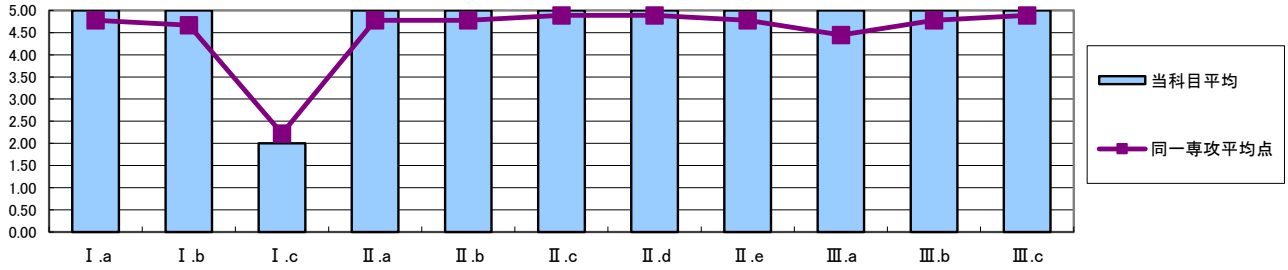
科目名	副科管弦打
教員名	加古　勉

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.78
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、この授業では１名の個人レッスン(トランペット)を行った。この学生には2019年からレッスンを開始しており、当時は全くの初心者であったため、様々なことを１から教える必要があった。それ故、2020年度のレッスンは2019年度からの継続的内容であった。楽器についての基礎知識としては「歴史」「種類」「特性」「各部の名称」「材質」「メンテナンス」などを更に掘り下げた。基礎奏法に関する具体的内容としては「姿勢」「構え方」「ヴァルブの押さえ方(フィンガリング)」「ブレス・コントロール(呼吸法)」「ブレス・サポート(息の支え)」「唇の形(アンブシュア)」「マウスピースのあて方」「ロングトーン」「リップスラー」「タンギング」「スロート・コントロール」「フロー・スタディー」「シラブル・コントロール」「イメージやアナロジーの活用法」などの精度アップを目指した。私が重きを置いているのは学生の絶対的レベルよりも、どれだけのレベル・アップがみられたかということ。つまり伸び幅である。その観点から考察すると、この学生は大変真面目に、そして意欲的に取り組んだため、とても良い結果が得られた。また、基礎奏法の修得のために使用した教材は「トランペットの吹き方(加古勉著)」。この学生は教職実践専攻のため副科実技の履修可能期間は２年間である。故に2021年度は履修出来ない為、今後のセルフ・スタディーの為に役立つ教材や楽曲を紹介した。

●　問題点

専攻(教職実践)の勉学に多く時間を必要としているので、レッスンで扱う内容（基礎練習・エチュード等）に対する準備が時期によっては、やや不十分になりがちのようであった。

●　改善の方策

限られた時間の中で如何に無駄の無い合理的な練習方法を組み立てるのか。また、ただ単にがむしゃらに練習するのではなく、think　and　play　の習慣を持てるのかを改善のためのポイントにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

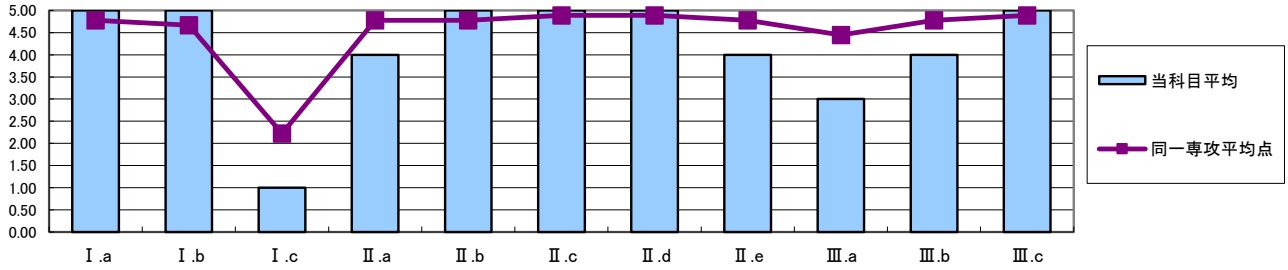
科目名	副科管弦打
教員名	須永　真純

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.78
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

主専攻、副科ともに、練習の度合いが低くなることがみうけられる。

● **問題点**

練習時間の妥当性

● **改善の方策**

より練習に励めるよう興味関心や必要性を説きながら指導

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

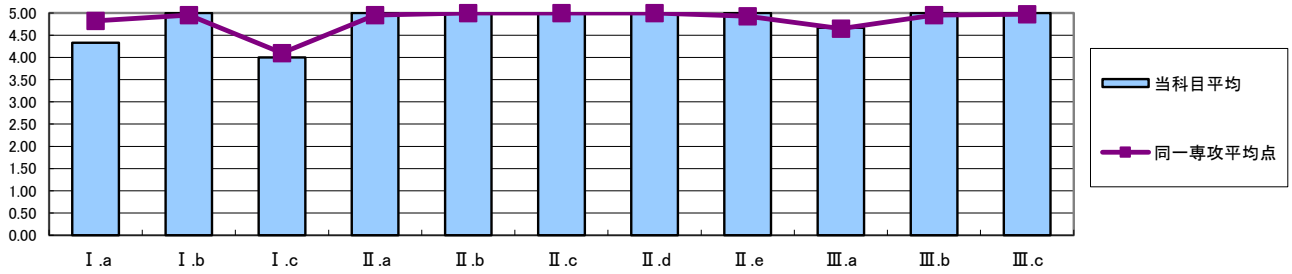
科目名	管弦打
教員名	笠原　日向

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



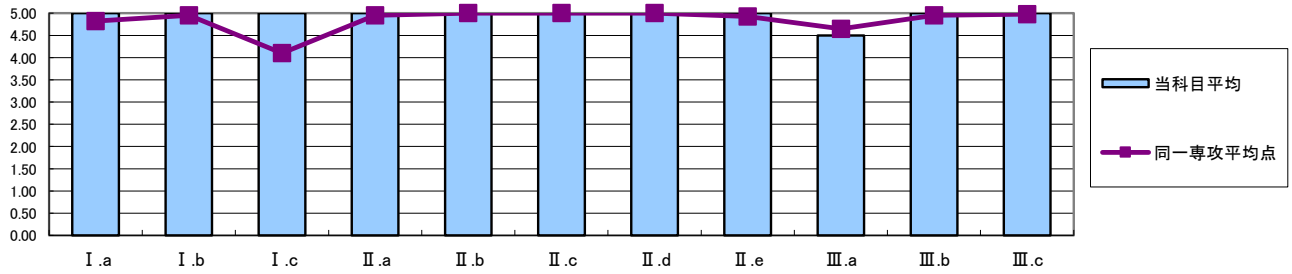
科目名	管弦打
教員名	西久保　友広

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

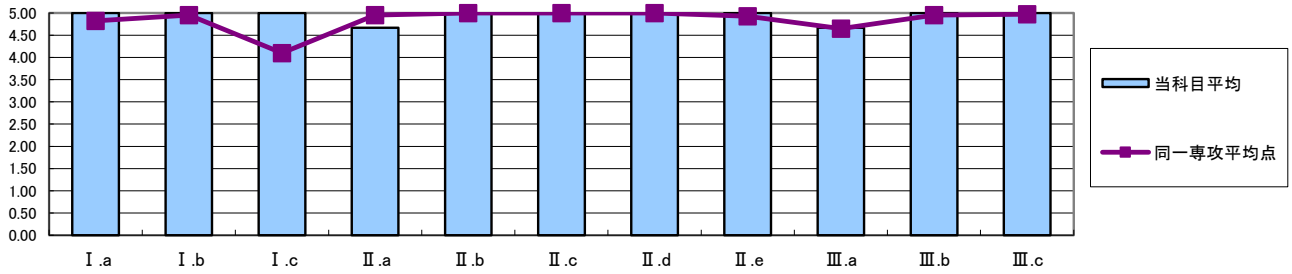
科目名	管弦打
教員名	久一　忠之

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



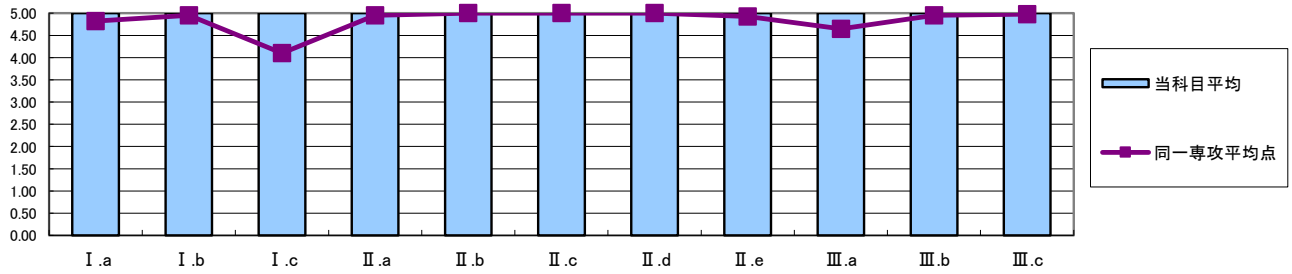
科目名	管弦打
教員名	平野　公崇

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

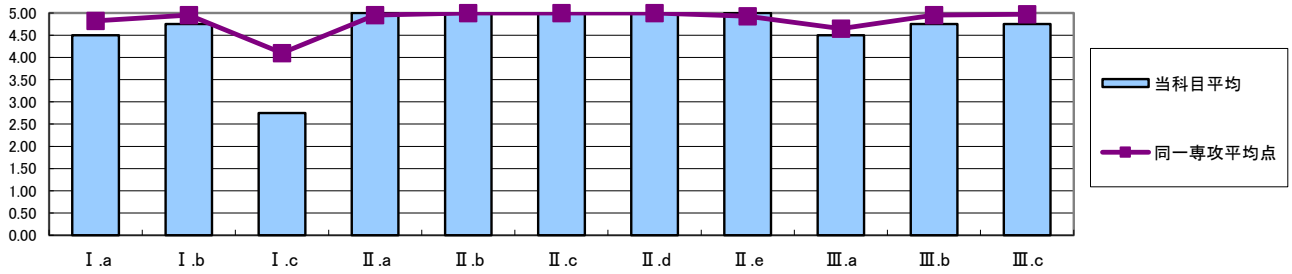
科目名	管弦打
教員名	藤井　完

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.75	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



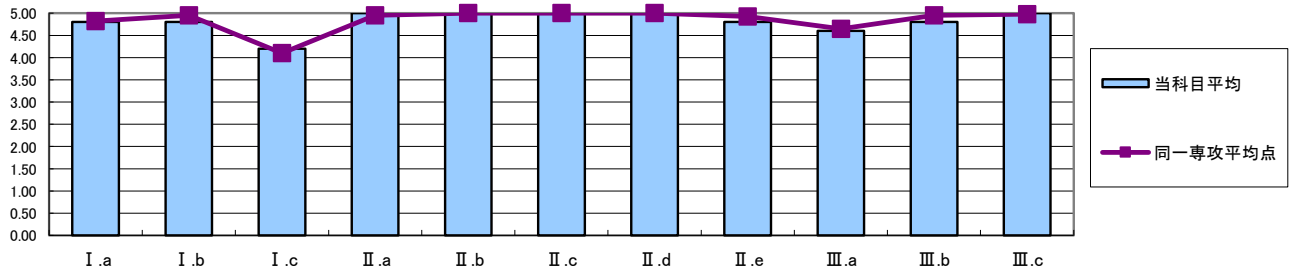
科目名	管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.95
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	4.10
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.93
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.65
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.98

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

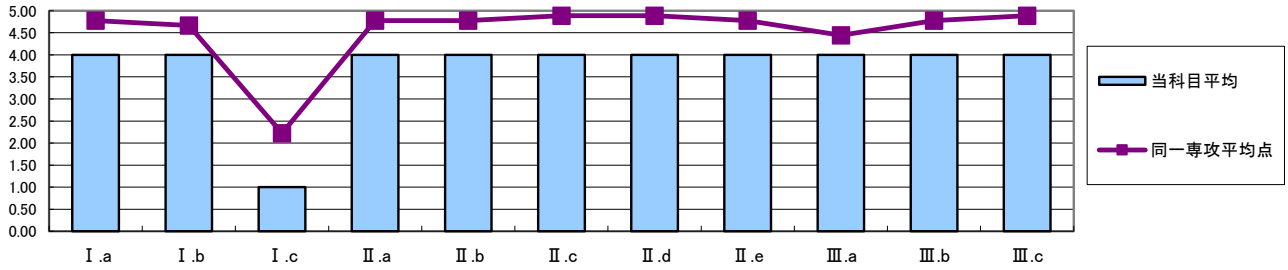
科目名	副科管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	*a*	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.78
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.22
Ⅱ	*a*	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.78
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.00	4.89
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.89
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.78
Ⅲ	*a*	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.44
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.78
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



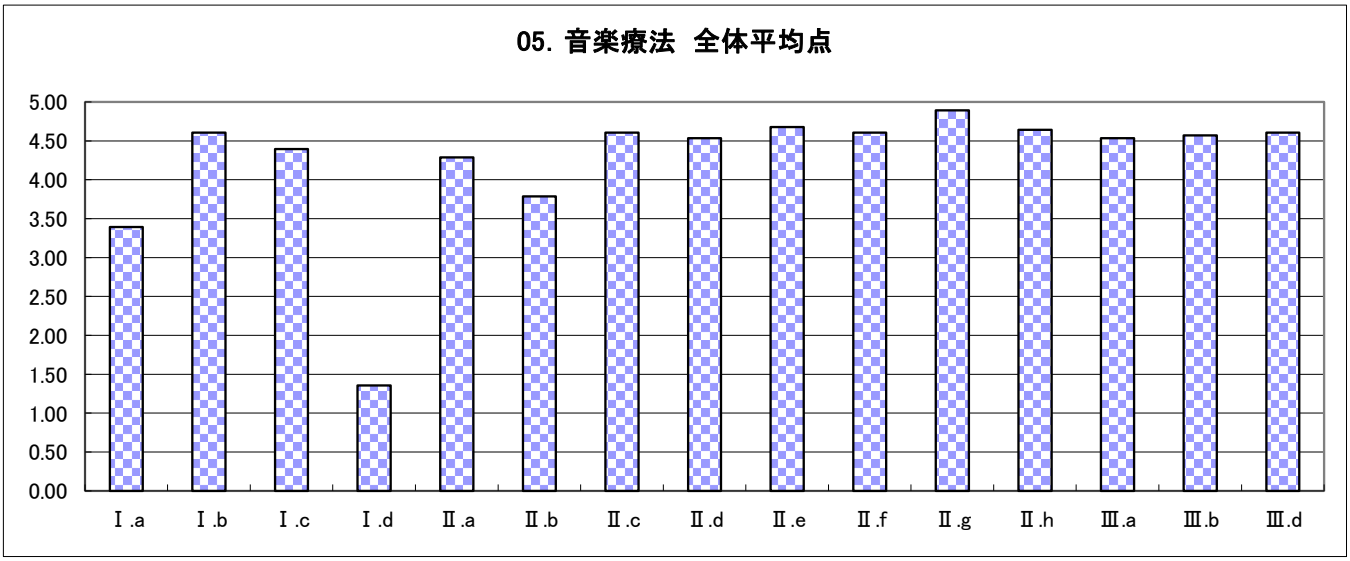
音 楽 療 法

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	05. 音楽療法
科目数	1

履修者数	32
回答者数	28

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.39	8	5	10	0	5	28	0
				28.6	17.9	35.7	0.0	17.9		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.61	19	7	2	0	0	28	0
				67.9	25.0	7.1	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.39	18	4	5	1	0	28	0
				64.3	14.3	17.9	3.6	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1	0	1	4	22	28	0
				3.6	0.0	3.6	14.3	78.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	15	6	7	0	0	28	0
				53.6	21.4	25.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.79	4	8	15	1	0	28	0
				14.3	28.6	53.6	3.6	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.61	20	5	3	0	0	28	0
				71.4	17.9	10.7	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.54	19	7	0	2	0	28	0
				67.9	25.0	0.0	7.1	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.68	20	7	1	0	0	28	0
				71.4	25.0	3.6	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.61	19	7	2	0	0	28	0
				67.9	25.0	7.1	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	25	3	0	0	0	28	0
				89.3	10.7	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	19	8	1	0	0	28	0
				67.9	28.6	3.6	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.54	16	11	1	0	0	28	0
				57.1	39.3	3.6	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	19	6	3	0	0	28	0
				67.9	21.4	10.7	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	19	14	14	3	1	26	2
				73.1	53.8	53.8	11.5	3.8		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.61	19	7	2	0	0	28	0
				67.9	25.0	7.1	0.0	0.0		

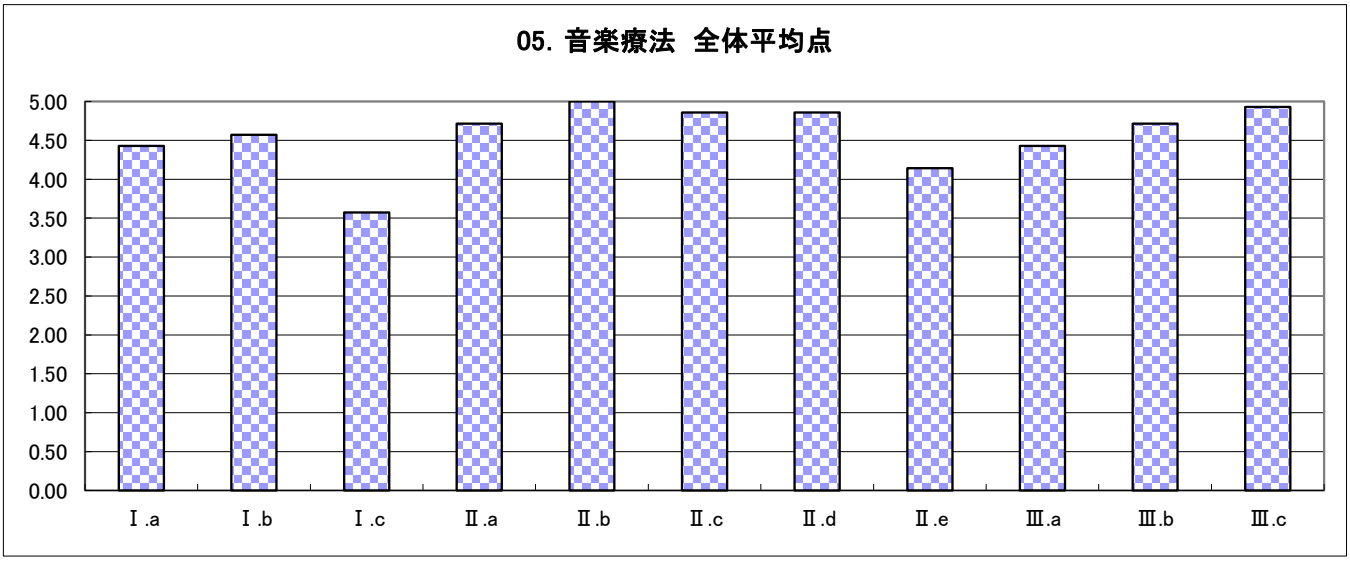


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	05. 音楽療法
科目数	3

履修者数	14
回答者数	14

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.43	9	3	1	1	0	14	0
				64.3	21.4	7.1	7.1	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	10	3	0	1	0	14	0
				71.4	21.4	0.0	7.1	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.57	5	3	1	5	0	14	0
				35.7	21.4	7.1	35.7	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.71	10	4	0	0	0	14	0
				71.4	28.6	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	14	0	0	0	0	14	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	13	0	1	0	0	14	0
				92.9	0.0	7.1	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	12	2	0	0	0	14	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.14	7	2	5	0	0	14	0
				50.0	14.3	35.7	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	8	5	0	1	0	14	0
				57.1	35.7	0.0	7.1	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.71	12	1	0	1	0	14	0
				85.7	7.1	0.0	7.1	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	13	1	0	0	0	14	0
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

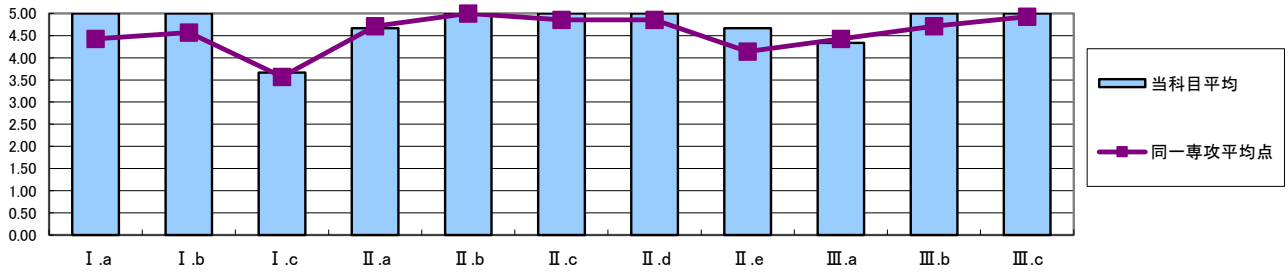
科目名	音楽療法6〔実習を含む〕
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.43
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	3.57
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.71
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.14
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.71
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の理論・技術を、音楽療法実習にどう生かすかについて学ぶ。また、学内実習発表に向けて、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・客観的で説得力のある記述などの手法を身につける。＜内容＞音楽療法実践での対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの実践の基礎技術を、授業と実習の双方から体得する。また、学内実習発表の研究の指導を受け、研究の基礎技術も身につけていく。＜授業形態＞実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。＜受講者数＞３名。＜開講曜日・時限＞火曜日２限。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ａ、ｂより、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。Ⅰ－ｃ「１回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、平均よりやや高く、学生が熱心に授業や実習のために練習したり勉強したりしたことが推察できた。②Ⅱについては、どの項目も数値が高く、平均と同値程度であった。このことより学生は、概ねこの授業や実習の指導に対して満足していることと思われる。　Ⅲについても同様で、どの項目も数値が高く、平均と大きな差はなかった。この結果から学生は、この授業や実習の目標を達成したと感じていて、なおかつ授業や実習から新しい知識や技術を獲得し、有意義に感じていることが明らかになった。③自由記述では、「ピアノの伴奏の工夫を個々に教えてくれて実習に活かすことができて良かった」との声があった。また、実習については、コロナの影響でほとんどの実習が遠隔（オンライン・オンデマンド）実習になってしまったが、「様々な工夫により実践することができて良かっ

●　問題点

アンケート結果より、2020年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。

●　改善の方策

2020年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたこと、また３名とも非常に意欲的に授業・実習に出席していた。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

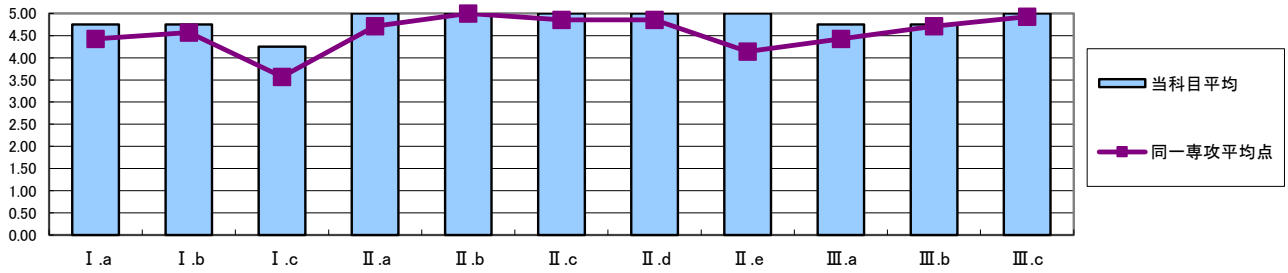
科目名	音楽療法8〔実習を含む〕b
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.43
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	3.57
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.71
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.14
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	4.71
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞卒業論文発表に向けて、論文を執筆する論理的思考力や客観的で説得力のある文章力・文章構成力を身につける。実習では、前年度までに体験して学んだ臨床知識・技術をさらに高める。また、それらを社会生活に活かす展望を得る。＜内容＞卒業論文の各自の研究テーマを確立し、集団ディスカッションや個別指導を通して卒業論文を執筆する。実習では、対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの臨床技術を、実習と授業の双方から体得して高めていく。＜授業形態＞実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。＜受講者数＞４名。＜開講曜日・時限＞月曜日４限。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ａ・ｂの結果より、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。また、Ⅰ－ｃ「１回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、平均より顕著に高く、学生が非常に熱心に授業や実習のために練習したり勉強したりしたことが推察された。②Ⅱ－ａ～ｅの全てにおいての４名の回答から、授業や実習の指導に対して非常に満足していると思われた。③Ⅲ－ａ～ｃの回答からも、授業や実習を受けて「新しい知識や技術を獲得し視野が広がった」、「意義のあるものであった」と捉えていることが分かった。これは、コロナの影響でほとんどの実習が遠隔（オンライン・オンデマンド）実習になってしまったが、教員と学生がお互いに想像・創造性をもって初めての形態での実習に一致団結して臨んだこと、そしてそれが実を結んだことが影響していると思われる。

●　問題点

アンケート結果より、2020年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思われる。

●　改善の方策

2020年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたこと、また４名とも非常に意欲的に授業・実習に出席していた。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

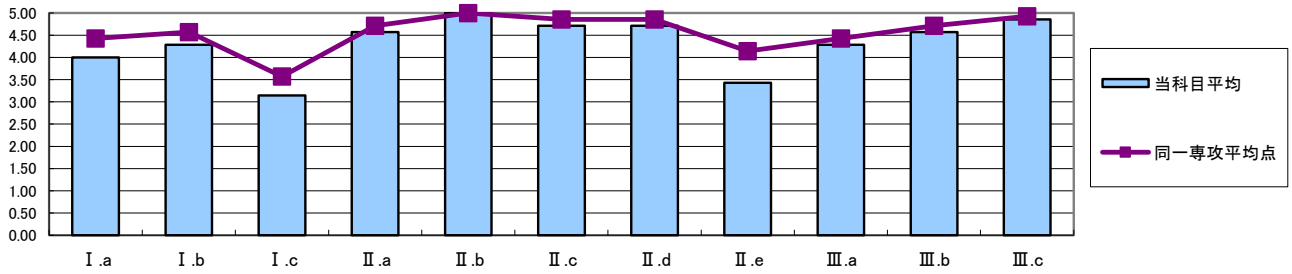
科目名	音楽療法4
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.43
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.57
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.14	3.57
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.57	4.71
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.71	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.71	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.43	4.14
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.57	4.71
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.93

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



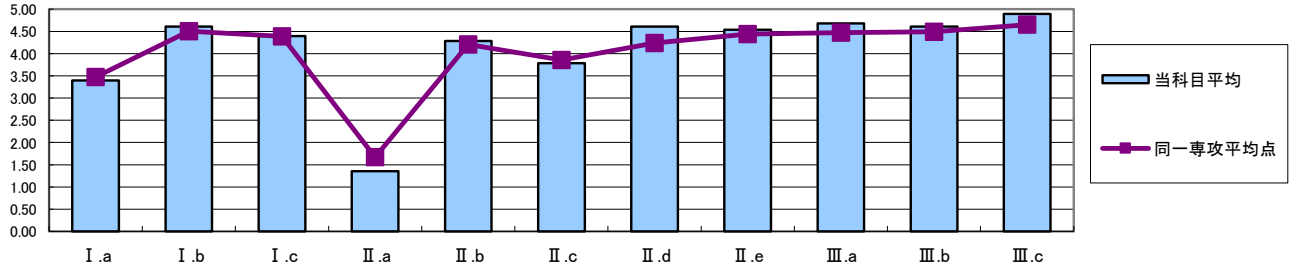
科目名	特別支援を必要とする生徒の理解
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	32
回答者数	28

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.39	3.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.61	4.51
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.39	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	1.36	1.67
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.20
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	3.79	3.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.61	4.24
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.54	4.44
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.68	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.61	4.49
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.65

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



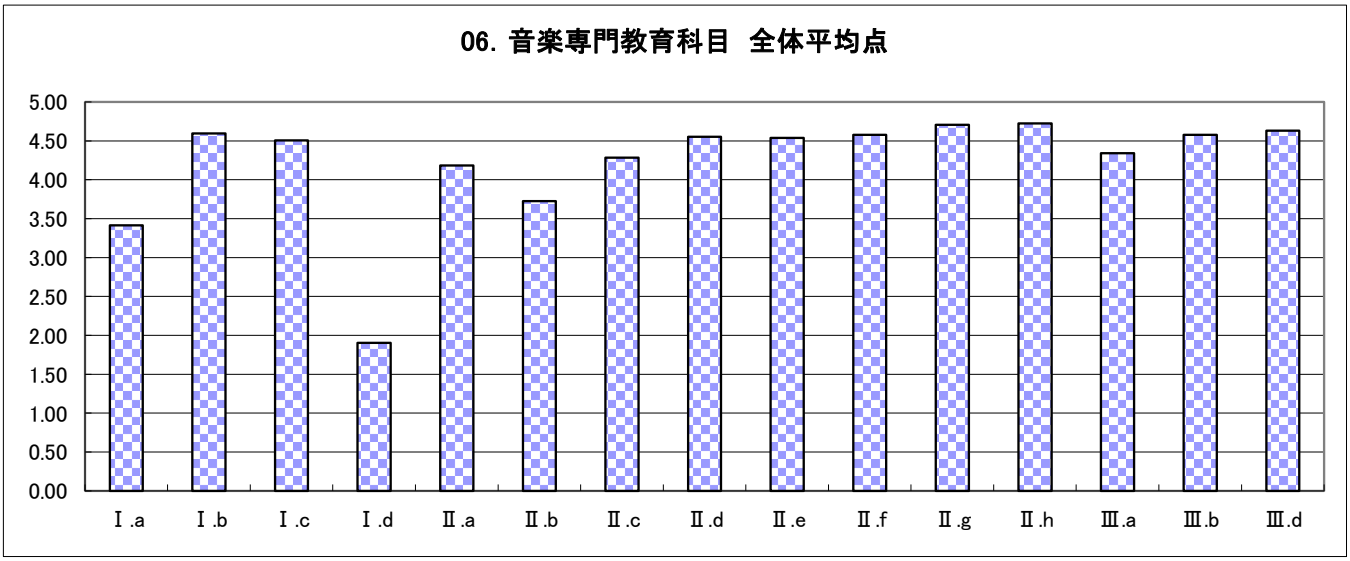
音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	06. 音楽専門教育科目
科目数	93

履修者数	900
回答者数	722

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.41	209	157	188	59	109	722	0
				28.9	21.7	26.0	8.2	15.1		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	504	158	48	10	2	722	0
				69.8	21.9	6.6	1.4	0.3		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.51	437	224	48	9	2	720	2
				60.7	31.1	6.7	1.3	0.3		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.90	61	36	74	153	398	722	0
				8.4	5.0	10.2	21.2	55.1		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.18	356	167	172	11	10	716	6
				49.7	23.3	24.0	1.5	1.4		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.73	109	192	385	18	15	719	3
				15.2	26.7	53.5	2.5	2.1		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.28	397	179	108	20	15	719	3
				55.2	24.9	15.0	2.8	2.1		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	502	144	54	12	9	721	1
				69.6	20.0	7.5	1.7	1.2		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.54	507	126	67	8	12	720	2
				70.4	17.5	9.3	1.1	1.7		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	511	131	63	9	5	719	3
				71.1	18.2	8.8	1.3	0.7		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	580	91	30	15	4	720	2
				80.6	12.6	4.2	2.1	0.6		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	568	116	26	3	5	718	4
				79.1	16.2	3.6	0.4	0.7		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.34	370	235	105	7	2	719	3
				51.5	32.7	14.6	1.0	0.3		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.58	504	149	50	8	8	719	3
				70.1	20.7	7.0	1.1	1.1		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	555	307	280	161	94	696	26
				79.7	44.1	40.2	23.1	13.5		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	418	98	31	2	10	559	163
				74.8	17.5	5.5	0.4	1.8		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

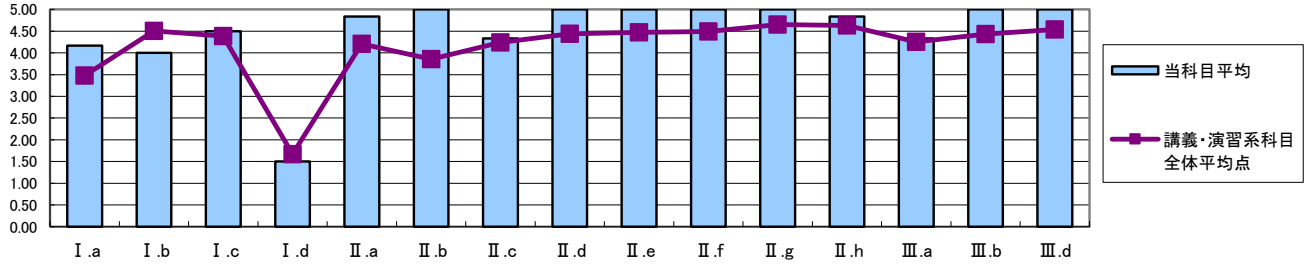
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.17	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 33.33 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 16.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

昨年開講された新しい授業で、今年は2年目ということである。履修者７名内６名から回答を得られた。毎回私のオリジナルテキストを使って進める授業である。集計を見ると、学科目としては、授業に対する評価が非常に高く、回答者全員が「強く思う」の項目が多くあることは、喜ばしいことである。また、自由記述には、「毎回、わかりやすく、楽しい授業でした。」「ピアノ作品沢山聞いて、クラシックの曲が身についた。」「今までクラシックをしっかり学んでこなかったので、不安だったのですが、先生が優しく楽しく授業してくださるので、とても楽しいです。」とポジティブな言葉が並んだ。

●　問題点

集計上特に問題はない。「開講時に成績評価の基準が明確に示されていた」の項目で少し評価がばらけているのは、開講時にシラバスを印刷して手渡し、説明しているので、多分記憶が薄れてしまっただけのことと推察される。

●　改善の方策

昨年度、全く0ベースからオリジナルテキストを作成することから始まった授業であるが、学生への伝わり方も向上しており、受講人数も増えてきている。今後ともテキストの見直しは毎年行いながら、工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

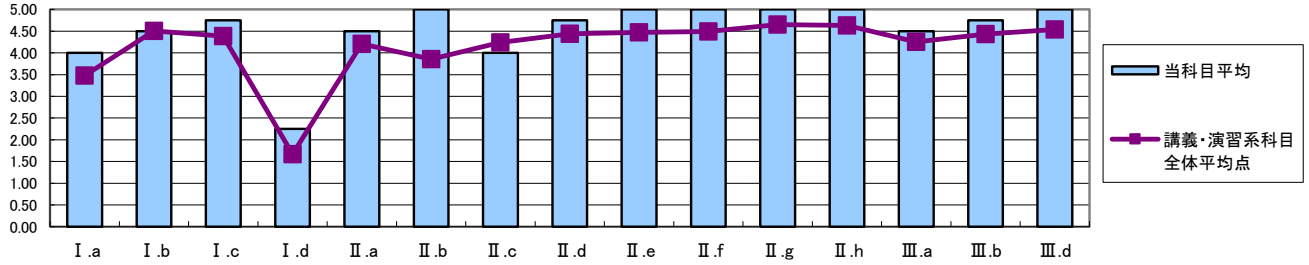
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ＩＢ
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 25.00
			3: 100.00	2: 0.00
			1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

平成30年度に立ち上がった新専攻、パフォーマンス総合芸術文化専攻における授業である。1950年代以降のポップス音楽史など現代に求められる音楽業界における実践的知識を中心に学ぶ学生に対し、この講義ＩABにおいてクラシック音楽の声楽史を1600年以降から1950年に亘る作曲家達の横顔を学びつつ作品に触れる講義を行った。講義は、各学生がそれぞれの作曲家について調べ発表をし、その声楽作品を鑑賞し、学生からの気づきや、疑問をさらに話し合いながら作曲家についての知識を深めていく授業である。アンケートは、履修学生4名全員から提出された。歌とは何か、歌の可能性とは何かを問う、または考えることを常に行い、幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とした。様々な試みが行われてきた声楽曲の背景にある時代、作曲家についての知識を持ち、歴史を理解した上で、歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べることが出来ることが到達目標である。アンケートは、16項目からなる。Ⅰa，b，c，dは、授業に取り組む学生の態度について、Ⅱa~hは、教員についての評価、Ⅲは、授業を通して身についたことを問う。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ－ｄ「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習をしましたか」が、2，25であり、昨年の1.6からわずかに改善された。二時間以上は取り組んでいる。講義系の全体平均に比すると高くなっている。平均設問Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは総じて4点台、5点であった。授業が意義のあるものだったかという問いは、5点となった。

●　問題点

このアンケート結果から、自身の予習復習、授業への積極性について肯定的な評価となり、授業内容は適切であり、教員に対しても高評価となった。この授業により、新しい知識を身に付け、関連分野の学習意欲が刺激された様子がうかがえる。これに満足することなく新たな問題点を模索しながら、学生との意識のズレがないように享受して行きたい。

●　改善の方策

この専攻の学生にとって、専攻の知識からは一見遠いところにあるかに見えるクラシック音楽の歴史を取り扱っているが、音楽の歴史の延長上に今のエンターテイメントの音楽も位置する事が実感できた様子を確認できた。本学の新たな試みであり、現代の音楽活動に生きる人材の知識、考え方の多様性を引き出す一端を担えれば喜ばしい。今後とも学生との対話を大事にしながら、何が必要なのか、何が提供できるのかを常に考慮し、授業に臨むことが授業をさらに進展させてことなる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

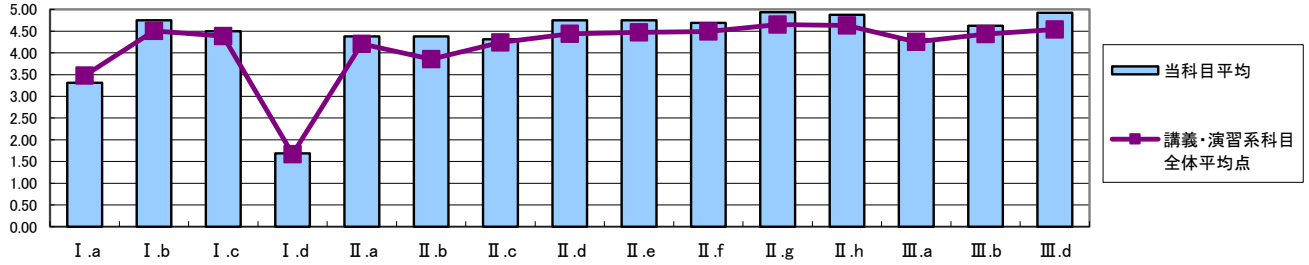
科目名	音楽科教育法Ba
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	17
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.69	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.25	4: 50.00
			3: 43.75	2: 31.25
			1: 37.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。　水曜日の２時限に17人の学生が履修しましたが、授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「この授業を履修して自分のためになったことは何ですか」の問いに対して、「当科目」と「講義・演習系科目全体」の回答率を比較すると、全ての項目（５項目）について、当科目の回答率が全体の回答率を上回っており、特に「コミュニケーション能力が向上した」については大きく上回る結果となりました。　この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で、実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であったことです。この点で、多くの学生が「コミュニケーション能力の向上」を実感できたと考えます。　一方、「開講時に示された到達目標を充分に達成できた」の問いに対して、「どちらとも言えない」と回答した学生が３人いました（他の学生は「強くそう思う」又は「ある程度そう思う」と回答）。当科目は、音楽の教員免許状を取得する上で最も基本となる科目であることから、全ての学生が目標の達成感を得られるようにする必要があると考えます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対し、「３時間」と回答した学生が４人いた一方で、他の学生は「２時間」又は「１時間未満」の回答であり、予習、復習に充てる時間に幅が見られました。また、「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した」の問いに対し、否定的な回答をした学生が５人いました。

●　改善の方策

学生が、予習や復習を主体的に行い、当科目の学修が一層深まるようにするため、シラバスの記述内容を丁寧に確認することと、学生一人一人が将来の自分の在り方を見通す中で、当科目を履修する意義や価値などについて考察する場面などを取り入れていきたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

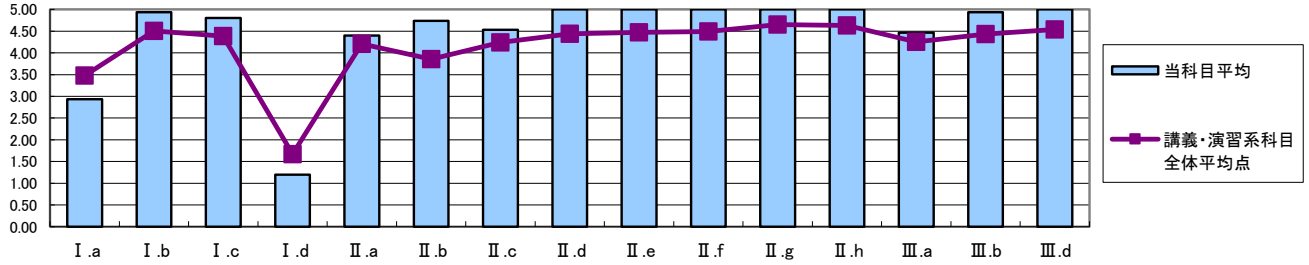
科目名	音楽科教育法Bb
教員名	大熊　信彦

職名	03. 特任教授

履修者数	15
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.93	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.93	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.73	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.93	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.67	4: 66.67
			3: 46.67	2: 26.67
			1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。　水曜日の３時限に15人の学生が履修しましたが、授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「この授業を履修して自分のためになったことは何ですか」の問いに対して、「当科目」と「講義・演習系科目全体」の回答率を比較すると、全ての項目（５項目）について、当科目の回答率が全体の回答率を上回っており、特に「コミュニケーション能力が向上した」と「新しいものの見方が身に付いた」については大きく上回る結果となりました。　この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で、実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であったことです。この点で、多くの学生が「コミュニケーション能力の向上」を実感できたと考えます。また、学習指導要領の目標と内容、各学校における教育課程の編成・実施と学習指導要領の関係、学習指導要領を生かした授業づくりなどの学修によって、多くの学生が「新しいものの見方」を得ることにつながったと考えます。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対し、「２時間」と回答した学生が３人、「１時間未満」と回答した学生が12人であり、予習、復習に充てる時間が十分でないことが分かりました。また、「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した」の問いに対し、否定的な回答をした学生が５人いました。

●　改善の方策

学生が、予習や復習を主体的に行い、当科目の学修が一層深まるようにするため、シラバスの記述内容を丁寧に確認することと、学生一人一人が将来の自分の在り方を見通す中で、当科目を履修する意義や価値などについて考察する場面などを取り入れていきたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

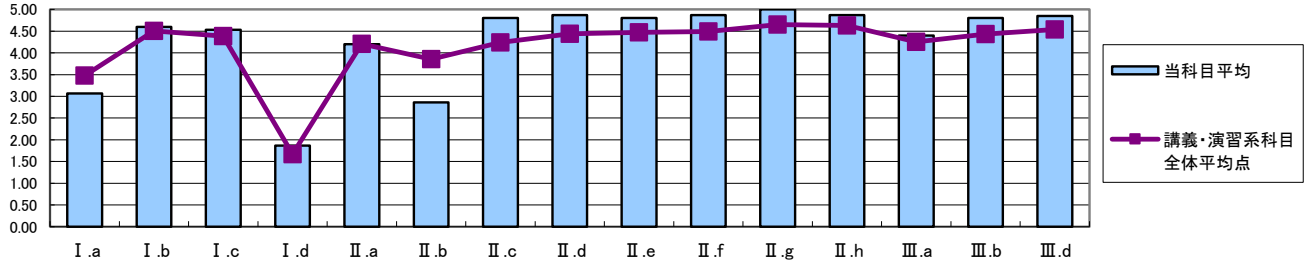
科目名	ソルフェージュ4c
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.07	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.87	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.86	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.87	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.87	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.87	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 20.00
			3: 20.00	2: 20.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.85	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業はピアノ専攻・Konzertfachピアノ・教職実践ピアノの学生を対象に、４年前に開設した必修の授業です。火曜日の2時限に行っています。履修者18名中15名より回答がありました。　授業はレベルによって2クラスに分け、90分の授業のうちの前半を初見視奏、後半を移調奏(もう一方のクラスは逆)として2名の教員で担当しています。初見視奏は毎回6~8曲の初見演奏をするだけでなく、初見視奏に必要な「楽譜の速読み」「いろいろな拍子とリズム」「鍵盤を見ないで弾く」など、基礎的なスキルを上げるカリキュラムにしています。また移調奏では、「調性の確認」「耳の訓練」など基礎的なことを学んだ上でさまざまな歌曲を移調するなど、数多くの課題演習を行っています。　設問Ⅰでは、出席も良好で熱意を持って積極的に取り組んだ学生がほとんどであったことがわかりました。しかし授業の予習復習については5時間以上もいれば1時間未満もいるなど、その開きの大きさに驚きましたが、移調奏については取り組み方の違いが出来不出来に関係しているのか知りたいところです。設問Ⅱの授業内容については、ほとんどの学生が高く評価しています。難易度については「難しい」「やや難しい」「適切」がほぼ1／3ずつなのは興味深いところです。設問Ⅲについては、学生の満足度の高さが伺えます。　自由記述欄には「沢山課題を出して頂き勉強になった」「初見と移調が少し身に付いた気がする」「自分のピアノの演奏にも役立つので受講できて良かった」「一人ずつ当たるので、緊張感を持って授業を受けることができた」「初見能力が向上した」などの記述がありました。

●　問題点

予習復習の時間と学生の成績との関係はどの程度あるのか。例えばよくできるから時間が少ないのか、時間が少ないから成績が良くないのか。

●　改善の方策

この授業では中間試験と期末試験を一人ずつ行うので、その際に面談をして実態を尋ね授業に生かしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

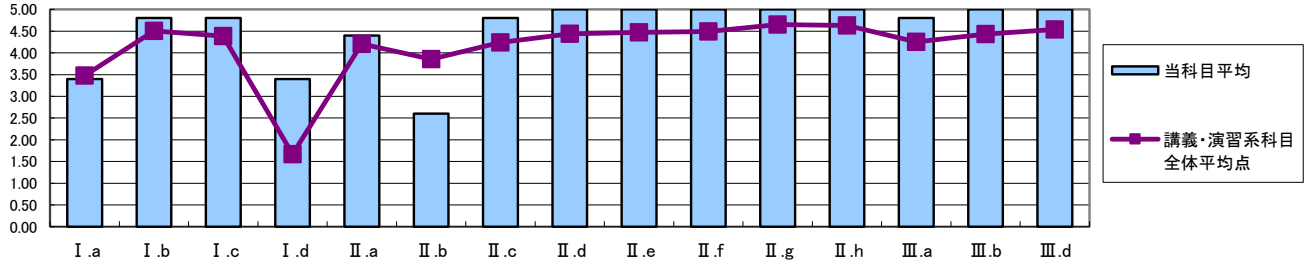
科目名	ピアノ伴奏法ＩＢ
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	9
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.40	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 20.00
			3: 80.00	2: 20.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は火曜日の4時限に行っています。前期は9名でスタートしましたが、後期の履修者は5名となり、全員から回答を得ました。　伴奏はピアノ演奏の重要な分野です。声楽あるいは器楽とのアンサンブルであることから、ソロを弾く時に加えて、さらに多くのことを心掛けなくてはなりません。授業ではドイツ歌曲･オペラのアリア･そして器楽とのアンサンブルを取り上げました。　まず演奏をする曲やその作曲家についての情報を知ることから始めます。次に学生の演奏を基にディスカッションをしながら、ピアノが果たす役割を考え、ピアノとしての演奏を作り上げます。その後、演奏研究員と共に完成させるというプロセスで授業を行いました。　この授業は、自分で正確に譜読みをし、一応演奏できる状態までして来なければ授業が成立しません。中にはそれ自体ハードルが高いと思われる学生もいましたが、欠席も少なく、全員が熱意をもって授業に臨んでいたのは嬉しいことでした。(設問Ⅰ-c)Ⅱの授業の内容については、「難しい」「やや難しい」との回答でしたが、だからこそ学生達は努力をし、達成感を持つことが出来たのではないかと思います。自由記述欄には「伴奏についてのいろいろな知識が身についた」「実際に演奏しながら学べて、とてもためになった」「伴奏を中心に沢山のことを学べた」などの記述がありました。

●　問題点

難しいことをより分かりやすく伝え、難しい曲をより取り組み易く出来るようにする

●　改善の方策

課題の発表を早くすることにより、譜読みと練習の時間が多く取れるようにする

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

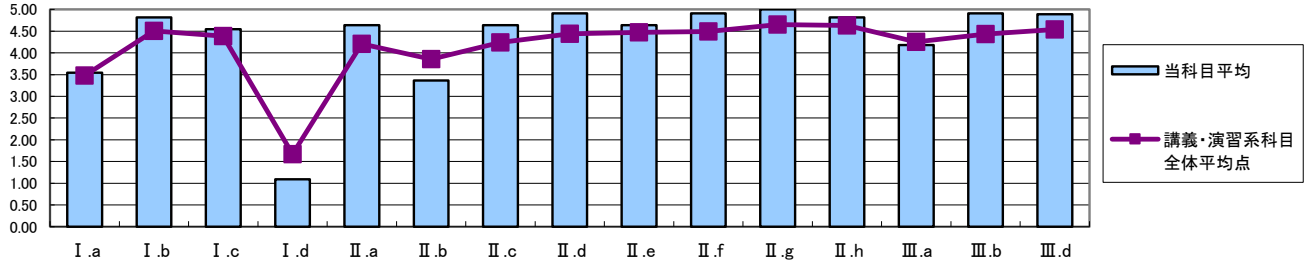
科目名	指揮法b
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	15
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.55	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.82	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.64	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.36	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.64	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.91	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.91	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.18	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.91	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82	4: 45.45
			3: 36.36	2: 18.18
			1: 9.09	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

○科目の目的・内容　本授業の目的は、教育現場での授業や部活動、社会教育活動等における合唱や器楽指導に役立つための基本的な指揮の技法を身に付けることである。内容及び授業の目標は、指揮法の基礎・基本技法である「叩き」「平均運動」「しゃくい」の３つの基本的技法を演習をとおして身に付けることである。　授業では教員が作成した資料を配布し、同時にパワーポイントに提示しながら解説、演習を行った。また、教員が手本を示して解説するとともに、イメージを持たせることを心掛けた。令和２年度はやや受講生が少なかったこともあり、比較的多くの学生に個人指導を行うことができた。さらに全体の前で一人づ演習を行い、ワンポイントアドバイスをすることができたことは学生にとってもよかったのではないかと思われる。　15回の授業は、脱力演習にはじまり、叩きの技法、平均運動、しゃくいの各技法を演習し、後半にはコンコーネ50番より１番、２番、「中学生の音楽」の共通教材より「夏の思い出」「浜辺のうた」などお教材として演習した。　2拍子、3拍子、4拍子、6拍子の美しい図形の描き方、音楽のテンポやニュアンスによる振り分け方など、指揮で表現することに興味を示す学生もおり、授業後には毎回のように質問にくる学生がいたことは喜ばしい。

●　問題点

今年度は、コロナ禍の影響によりペアワークができないだけでなく、指揮に合わせて歌唱することもできず、より効果的な演習、技術の習得に苦慮した。一方で、受講生が比較的少なかったためひとり一人に対して丁寧な指導ができたことはよかったと考える。

●　改善の方策

授業の目的は、学生ひとり一人が教育現場で役立つ指揮の基本的技法を身に付けることである。そのために、これまで同様に各人の課題を把握し、丁寧できめ細かい指導を行っていく。受講者数についてはある程度の上限を設定することが望ましいが、検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

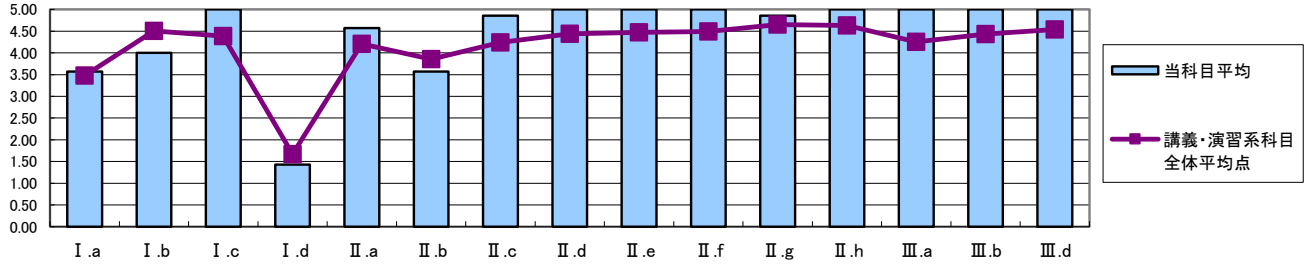
科目名	教育総合科目(教職実践)ＩＢ
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 85.71 / 3: 71.43 / 2: 71.43 / 1: 71.43	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

〇授業目的　本科目は教員として求められる教科専門力、教職教養、教員採用試験対策など、資質能力を総合的に高める科目であり、教職実践専攻の学生だけが履修できる科目である。〇授業内容　・教科専門力では、中学校共通教材の弾き歌い、リコーダー及びギターの演奏力と基本的　　知識の習得、そして和楽器（箏）の演奏力と基本的知識を修得する。　・教職教養では、多くの教育課題を理解し教員としての指導力や対応力を高めるとも　　に、教員採用試験に向けて個人面接や集団討論の模擬演習を行っている。〇授業形態　講義・個人指導・グループ協議・演奏発表・プレゼンテーションなど〇受講者数　教育総合科目Ⅰ（９名）　教育総合科目Ⅱ（４名）〇開講曜日（金曜日）〇状況説明と集計結果の分析　令和２年度は、コロナ禍による授業への影響が大きく、前期、後期ともに授業確保に苦慮したが、何とか対面で実施できた。授業は、「教育総合科目Ⅰ」と「教育総合科目Ⅱ」を２年間継続して開講している。学生ひとり一人の資質能力を伸ばすことをねらいとして、学習課題によっては学年別に行い、個人指導やグループ活動を取り入れて授業を行った。　やむなく授業内容を変更したことが、学生評価や感想に現れていたと想像するが、十分に省察して今後に生かす必要がある。評価については概ね良好であるが、２年生と３年生の授業への満足度に差異があったことは残念であり、次年度への課題としたい。

●　問題点

・シラバスに明示してあるものの授業変更等があり、評価方法がわかりにくいと感じた学生　　がいたと思われる。・教職実践専攻に在籍していても必ずしも将来教員を目指すとは限らないが、不安を抱えて　いる学生も少なくない。学生ひとり一人のニーズや思いに寄り添っていく必要があると思　われる。

●　改善の方策

教育総合科目は２年次、３年次それぞれ通年で履修できる科目である。より教育効果を上げ、資質能力が積みあがっていくように次年度の授業内容の一部を修正する。具体的には、教科専門力、演奏力を一定の期間にまとめて行うのではなく、継続的に指導、確認ができるよう通年でバランスよく配置していくこととする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

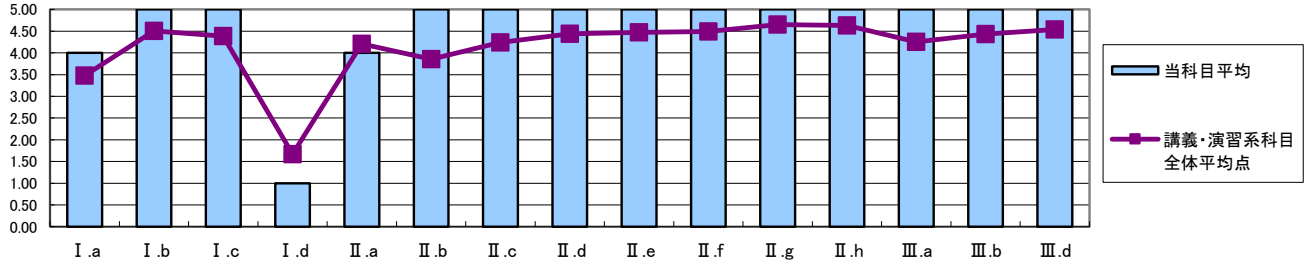
科目名	教職特講(教職実践) I
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
III	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

○授業目的　本科目は教職実践専攻の学生だけが履修できる科目であり、各自治体の教員採用試験に向けて、教員として求められる資質能力を高めることを目的とする科目である。○授業内容　教職教養、専門教養、教育論作文、面接、集団討論を通して教員としての指導力や対応力を高めていく。なお、教職インターンシップでの学びや気づき、教育総合科目で学んだ知識等を総合的に捉えて面接や教育論作文、集団討論に生かせるよう授業を展開している。○授業形態　講義・個人指導・個人面接・グループ協議・集団討論・プレゼンテーションなど○受講者数　教職特講Ⅰ（１名）　教職特講Ⅱ（９名）　教職特講Ⅲ（４名）○開講曜日（金曜日）○状況説明と集計結果の分析　教育総合科目と同様に、学生ひとり一人の資質能力を伸ばすことをねらいとして、教育を取り巻く状況や教育課題を理解し、指導力、対応力を身に付けるため、個人指導やグループ活動を取り入れて授業を行った。教職インターンシップと連動する科目でもあることから、学生の授業スケジュール及び受け入れ校の都合により、急遽授業の一部をインターンシップの準備のための時間とした。それにより、シラバスの内容変更が余儀なくされる状況となり、学生も当初は戸惑いが見られたたが、実施校の児童生徒には大変喜んでいただけたようであった。コロナ禍においてインターンシップができたことに感謝し、限定的な内容であったが教育現場を理解できたことはよかった。　やむなく授業内容を変更したことが、学生評価や感想に現れていたと受け止めている。十分に省察して今後に生かさなければならない。評価については概ね良好であるが、教育総合科目と同じように２年生と３年生の授業への満足度に差異があったことは残念であり、次年度への課題である。

●　問題点

教職特講Ⅰ、Ⅱの学生からは高い評価を得たが、教職特講Ⅲの受講生からは必ずしも好評とは言えす残念であった。民間企業も考えているなど、ひとり一人の進路希望には十分に応えられなかったと受け止めているが、教科の特性上ある程度は止むを得ないところである。

●　改善の方策

今後も教職以外の道を考える学生も在籍することがあると思われるが、可能な限り一人ひとりの学生のニーズに応えれるよう授業内容を精査し、きめ細かい指導をしていく。　なお、「教職実践専攻ルーブリック」を作成、明示して、４年間を通して学生が身に付けるべき資質能力を明らかにしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

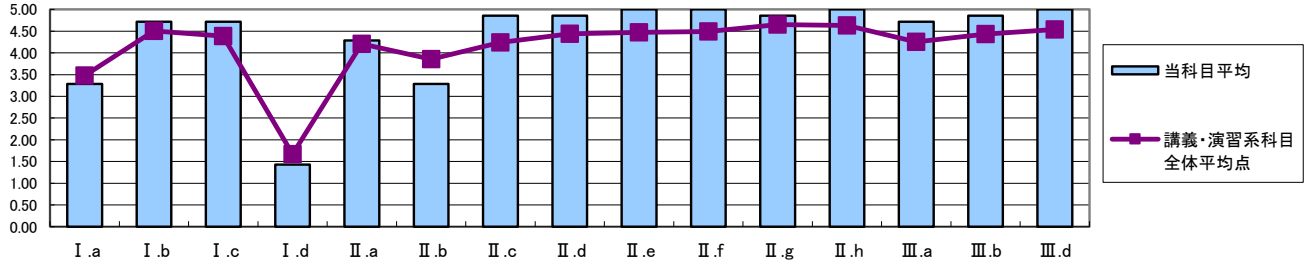
科目名	教職特講(教職実践)Ⅱ
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.71	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 85.71
			3: 57.14	2: 71.43
			1: 71.43	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

○授業目的　本科目は教職実践専攻の学生だけが履修できる科目であり、各自治体の教員採用試験に向けて、教員として求められる資質能力を高めることを目的とする科目である。○授業内容　教職教養、専門教養、教育論作文、面接、集団討論を通して教員としての指導力や対応力を高めていく。なお、教職インターンシップでの学びや気づき、教育総合科目で学んだ知識等を総合的に捉えて面接や教育論作文、集団討論に生かせるよう授業を展開している。○授業形態　講義・個人指導・個人面接・グループ協議・集団討論・プレゼンテーションなど○受講者数　教職特講Ⅰ（１名）　教職特講Ⅱ（９名）　教職特講Ⅲ（４名）○開講曜日（金曜日）○状況説明と集計結果の分析　教育総合科目と同様に、学生ひとり一人の資質能力を伸ばすことをねらいとして、教育を取り巻く状況や教育課題を理解し、指導力、対応力を身に付けるため、個人指導やグループ活動を取り入れて授業を行った。教職インターンシップと連動する科目でもあることから、学生の授業スケジュール及び受け入れ校の都合により、急遽授業の一部をインターンシップの準備のための時間とした。それにより、シラバスの内容変更が余儀なくされる状況となり、学生も当初は戸惑いが見られたたが、実施校の児童生徒には大変喜んでいただけたようであった。コロナ禍においてインターンシップができたことに感謝し、限定的な内容であったが教育現場を理解できたことはよかった。　やむなく授業内容を変更したことが、学生評価や感想に現れていたと受け止めている。十分に省察して今後に生かさなければならない。評価については概ね良好であるが、教育総合科目と同じように２年生と３年生の授業への満足度に差異があったことは残念であり、次年度への課題である。

●　問題点

教職特講Ⅰ、Ⅱの学生からは高い評価を得たが、教職特講Ⅲの受講生からは必ずしも好評とは言えす残念であった。民間企業も考えているなど、ひとり一人の進路希望には十分に応えられなかったと受け止めているが、教科の特性上ある程度は止むを得ないところである。

●　改善の方策

今後も教職以外の道を考える学生も在籍することがあると思われるが、可能な限り一人ひとりの学生のニーズに応えれるよう授業内容を精査し、きめ細かい指導をしていく。　なお、「教職実践専攻ルーブリック」を作成、明示して、４年間を通して学生が身に付けるべき資質能力を明らかにしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

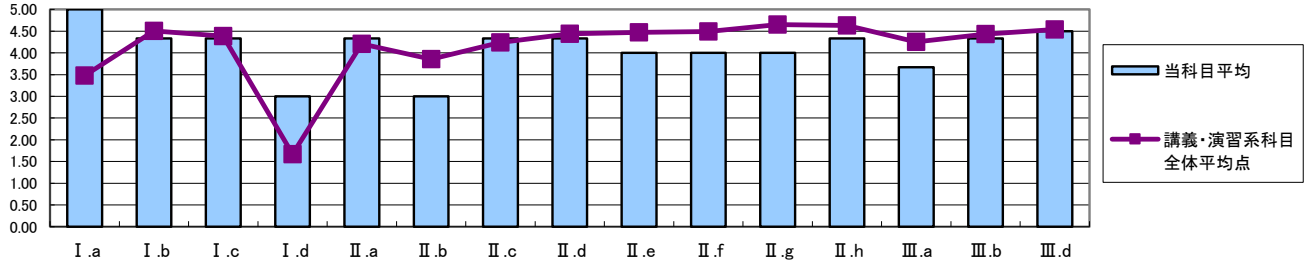
科目名	教職特講(教職実践)Ⅲ
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 100.00 / 3: 33.33 / 2: 0.00 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

○授業目的　本科目は教職実践専攻の学生だけが履修できる科目であり、各自治体の教員採用試験に向けて、教員として求められる資質能力を高めることを目的とする科目である。○授業内容　教職教養、専門教養、教育論作文、面接、集団討論を通して教員としての指導力や対応力を高めていく。なお、教職インターンシップでの学びや気づき、教育総合科目で学んだ知識等を総合的に捉えて面接や教育論作文、集団討論に生かせるよう授業を展開している。○授業形態　講義・個人指導・個人面接・グループ協議・集団討論・プレゼンテーションなど○受講者数　教職特講Ⅰ（１名）　教職特講Ⅱ（９名）　教職特講Ⅲ（４名）○開講曜日（金曜日）○状況説明と集計結果の分析　教育総合科目と同様に、学生ひとり一人の資質能力を伸ばすことをねらいとして、教育を取り巻く状況や教育課題を理解し、指導力、対応力を身に付けるため、個人指導やグループ活動を取り入れて授業を行った。教職インターンシップと連動する科目でもあることから、学生の授業スケジュール及び受け入れ校の都合により、急遽授業の一部をインターンシップの準備のための時間とした。それにより、シラバスの内容変更が余儀なくされる状況となり、学生も当初は戸惑いが見られたたが、実施校の児童生徒には大変喜んでいただけたようであった。コロナ禍においてインターンシップができたことに感謝し、限定的な内容であったが教育現場を理解できたことはよかった。　やむなく授業内容を変更したことが、学生評価や感想に現れていたと受け止めている。十分に省察して今後に生かさなければならない。評価については概ね良好であるが、教育総合科目と同じように２年生と３年生の授業への満足度に差異があったことは残念であり、次年度への課題である。

●　問題点

教職特講Ⅰ、Ⅱの学生からは高い評価を得たが、教職特講Ⅲの受講生からは必ずしも好評とは言えす残念であった。民間企業も考えているなど、ひとり一人の進路希望には十分に応えられなかったと受け止めているが、教科の特性上ある程度は止むを得ないところである。

●　改善の方策

今後も教職以外の道を考える学生も在籍することがあると思われるが、可能な限り一人ひとりの学生のニーズに応えれるよう授業内容を精査し、きめ細かい指導をしていく。　なお、「教職実践専攻ルーブリック」を作成、明示して、４年間を通して学生が身に付けるべき資質能力を明らかにしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

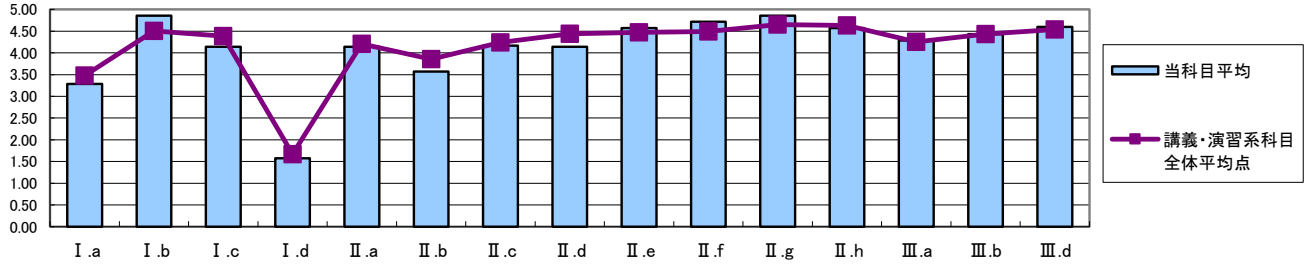
科目名	P.A.C.S.2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 85.71 / 3: 28.57 / 2: 28.57 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

エンターテイメントを含む芸術作品が、どの様な歴史や社会を背景として持っているのかを映画化された作品を通して読み解いて行く授業を展開した。ドイツ、アメリカ、フランス、イギリス、イタリアの文学の紹介と解説を行い、それぞれの特徴を社会的、歴史的背景を踏まえて理解することを主眼にした。

●　問題点

それぞれの国の社会状況や歴史の基本的な知識が共有されていないので、各作品の問題点を理解出来ない。それ故全体的な説明が必要になり、作品自体の問題性を議論するまでには行きつかなかった。

●　改善の方策

扱う国々の社会的特徴や歴史のレジュメを作成し、学生一人一人にそれを踏まえての作品の解釈をプレゼンさせることにした。それによって社会的、歴史的視点が深まった。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

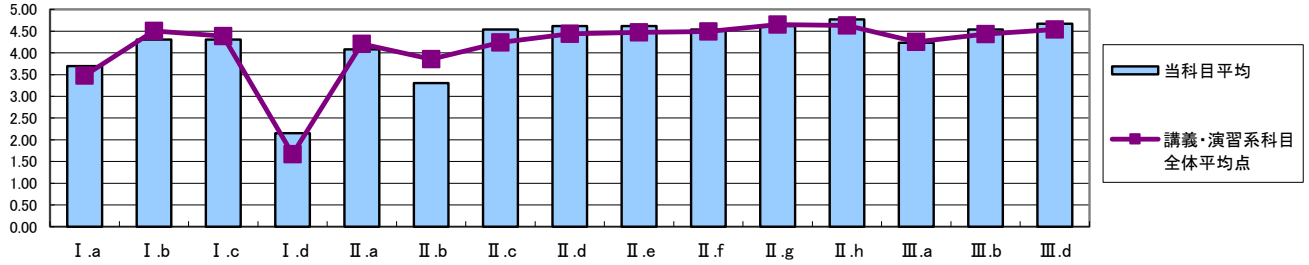
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	14
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.69	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.15	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.08	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.31	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.62	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.54	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.54	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 84.62	4: 23.08
			3: 30.77	2: 30.77
			1: 15.38	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１年次のソルフェージュ１および２の成績を基に再編成した、下位のクラスである。履修者数は１４名で回答者数は１３名である。シラバスにある聴音、新曲視唱、教科書の歌唱、リズム打ちを中心に行い、試験はそのうちの聴音、新曲視唱、教科書の歌唱の暗譜唱の３項目で行った。全体の出席率はどちらかというと良いとは言えず、また個々の基礎的な力や意識に差があって、授業態度もあまり積極的であるとは思えなかった。

●　問題点

この人数でも各人のレヴェルの差は大きく、適した課題を用意するのは不可能である。さらに今年度は、教科書を買っておらずスマートフォンに入れてあると授業中にスマホをしまうよう注意をしても見続ける、遅刻・欠席が多い、日本語が通じているのかいないのかが不明等の授業態度や易しい課題であっても基礎力不足からか本人にはとてつもなく困難な課題に感じてしまうということが、数人いることによってそれが全体のモチベーションの低下を招く原因になっている。近年、音楽の向上や上達のためにソルフェージュを学ぶ必要性を感じていない学生が増えてきており、基礎力の不足やモチベーションの低下から音楽に対する意識や姿勢が年々薄くなっている。

●　改善の方策

そういう時代だからと指導の方法を再考するのは当然であるという意見もあるのだろうが、質の低下や果ては芸術の衰退につながることは否めない。ソルフェージュは音楽の土台を作るための下支えであり、日々の積み重ねが必要である。さらにワンツーワンの理念に基づく指導は、学生同士が似たような出来具合の中で各人のモチベーションが切磋琢磨されて上がる。一番の方策はクラスサイズを小さくすることであり、クラス内の能力の差を縮め、扱う課題が十分に機能するようにすることである。さらには授業以外でも訓練を継続することの必要性を説くこと、個々の弱いところに時間をかけて対応出来るような、各人にあった適切なアドバイスを表面的ではないさらに踏み込んだコミュニケーションを基にした効果的な訓練のプログラムの組み立てをすることが必要である。日本語が通じないのはこれ以前の問題ではあるが、各人に合ったきめの細かい指導をする授業を目指したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

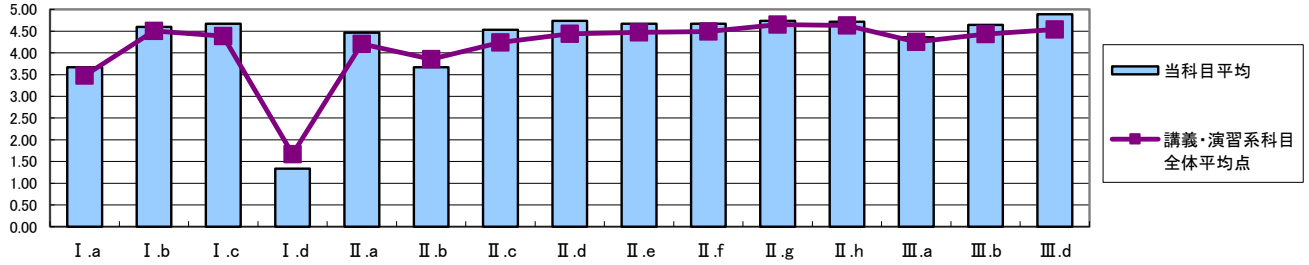
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	16
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.47	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71	4: 14.29
			3: 35.71	2: 21.43
			1: 7.14	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学１年次生を対象に、２クラスに分けた、基礎訓練がまだ充分に必要な下位クラスである。履修は16名で回答者数は15名である。多くの学生が音符の読み書きがまだ不確かで、特に聴音では、リズムにつながる音価が即座に思い浮かばない、音楽の流れの中でそれを感覚的に捉えることが困難、といった学生がいる一方で、簡単な問題はたやすく出来てしまう学生もいて、クラス内でのレヴェルの差は人数以上に大きい。特にリズムを伴わない和音の書き取りで顕著であった。授業で扱う聴音、新曲視唱、リズム打ち、弾き歌い等が音楽の中でどのように結び付けられるかの体感がまだ出来ておらず、自己の問題として積極的に捉えるより、与えられたものをこなすだけで精一杯な状況である。しかしながら積極的に取り組もうとする真摯な姿勢も窺われた。

●　問題点

授業を難しいと感じている者と適切だと思うものがそれぞれ半数ほどおり、このクラスの状態を言い当てている。１つの課題を指導側は能力を引き上げる意図を持って扱う事が多く、また受け取り側はそれが出来なければ難しいと感じるので、問題点は教材の難易度ではなくどう扱うかである。

●　改善の方策

力の差への改善にはクラスを増やし、サイズを人数で振り分けるのではなくほぼ同じレヴェルの学生だけにすることにあるのは明確で、その上で音楽の習得には日々の努力とその積み重ねが、特に基礎訓練にはじっくりと時間をかけて行われなければならないということを同レヴェルでの切磋琢磨を通じて自覚してもらうことである。授業という限られた環境と時間の中での上達は微々たるものであるため、授業以外にも常にそのことを念頭に訓練を怠らないよう、個々に合った方法の指導やアドバイスの徹底を行うためにもクラスサイズを考えていかなければならない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

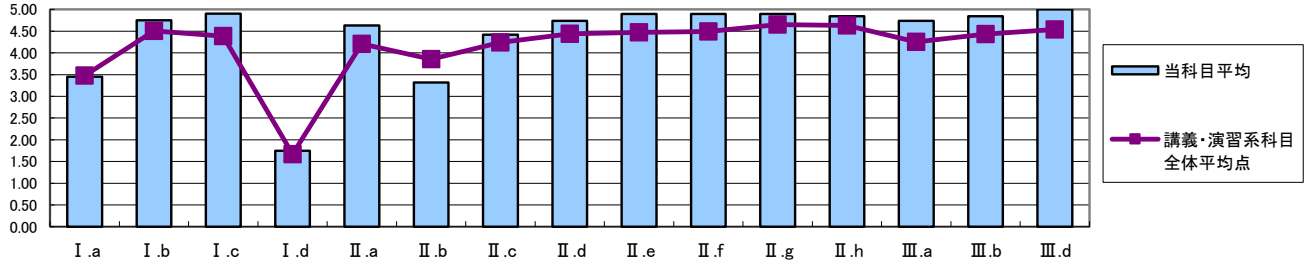
科目名	和声学2b
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	22
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.45	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.90	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.32	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.42	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.74	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.84	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.74	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.84	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 94.74	4: 21.05
			3: 26.32	2: 10.53
			1: 5.26	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声法の学習のうち、基礎となる和音の構成および連結の実習を習得する授業で、１年生を対象に２クラスに分けた外部より入学した方のクラスである。履修者は２２名で回答者は２０名である。和声法はやや煩雑な規則を基に、連続した理論的組み立ての上に実習を重ねて行くもので、そのため本授業は板書が多い。（毎回約1／3の時間）それを理解するには自分でノートに書くやり方が一番である。音楽は理論的規則性に縛られない自由な芸術ではあるが、理論的な裏づけや積み重ねの無いその場の感性だけでは、作品の本質や演奏表現を多くの人に伝えることは出来ない。学生の中には専攻実技のみに専念すればとの誤解からこのことを疎かにしてしまいがちな考えを持つ者がいる。それを是正して、こつこつ自己の努力を積み重ねていく重要性は実技のみではなく、むしろ背景にある音楽を支えている部分に多くあるということを理解して、和声の重要性を認識してもらうための授業である。

●　問題点

実習したノートを時間が許す限りひとりひとり見てアドバイスすることを行っているが、復習や実習を怠ることや、また一回の欠席でも授業が分からなくなることが多いため、一旦、滞ってしまうとノートを見せなくなる学生もいた。そうなると悪循環で、モチベーションが下がり、さらに欠席を重ねてしまったり、やる気が失せたりして学習が続かなくなる。また演奏と同じで、理解が出来てもそれがすぐに実習でうまく行くとは限らず、何回も失敗を積み重ねて一歩ずつ理解しつつ、規則に慣れながら体得していかなければ上達しないため、これも積み重ねが必要となる。学生側の和声法への意識や方法の改善が必要であると思う。

●　改善の方策

下のクラスのクラスサイズは、学生の理解力や実習の速度がまちまちで、全ての学生に目を行き届かせながらそれぞれの進度に合わせたアドバイスをするには今の約半分（１０人前後）が理想的背ある。いかに学生の集中力を持続させながら、コツコツとやる重要性を理解してもらえるかの指導に今後さらに腐心したい。加えて、やる気の出る板書、話し方、接し方に工夫を心がけ、休んだ学生や遅れている学生には、自覚を促すべく細かな指導を通して、モチベーションを保つように徹底したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

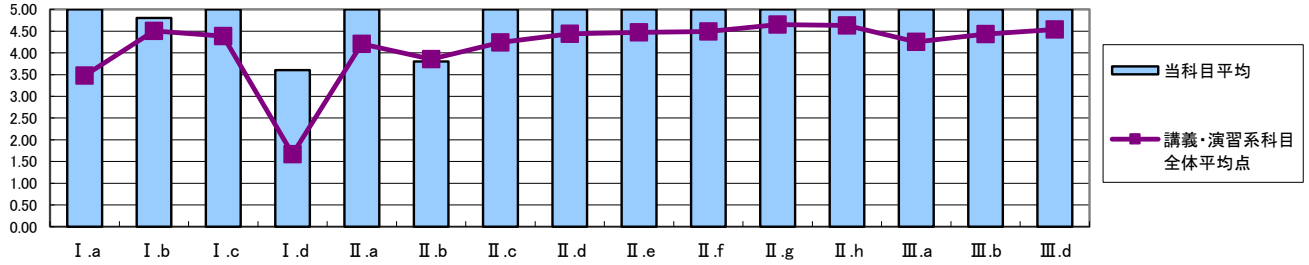
科目名	総合作曲演習ⅢB
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 20.00 / 3: 40.00 / 2: 20.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽創造専攻生のための講座で、今期は１年次生３名、４年次生2名（全て留学生）が履修した。ゼミ形式での授業形態で、作曲を行うための音楽の形式を基礎から取り上げ後半であるbでは、複合三部形式を主に、アナリーゼや演奏論まで広汎かつ総合的な講義を行った。曲創りに役立つような様々な音楽やそれらに関連する事柄を、学生の反応を聞きながら逐一取り上げた。双方向や学生間の意見交換を行うことにも重点を置いた。

●　問題点

毎回学生の希望や意見を取り上げながら講義を進めたため、シラバス通りには行かなかった。（学生はシラバス通りと解釈していたようだが）毎回の講義でその時々で出た疑問やもっと深く掘り下げるべき事項があればそれらの事にある程度解明し納得するまで変更は余儀なく行った。そのため開講時には成績の評価基準を明確に示す事が出来なかった。

●　改善の方策

あらかじめ決まった内容を押し進めるのは学生の理解度を無視し、前後のつながりがよく分からないまま講義だけが先走りになる恐れがある。シラバス通りに行かないのはその時の学生の反応を見ながら授業を進めているためで個々の学生が何を学ぶべきかを優先した結果である。しかし、出来得る限り予測を立ててシラバスを作成することを次回より心がけたい。さらに学生の曲創りのニーズに細かく応えられるように講義を進めて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

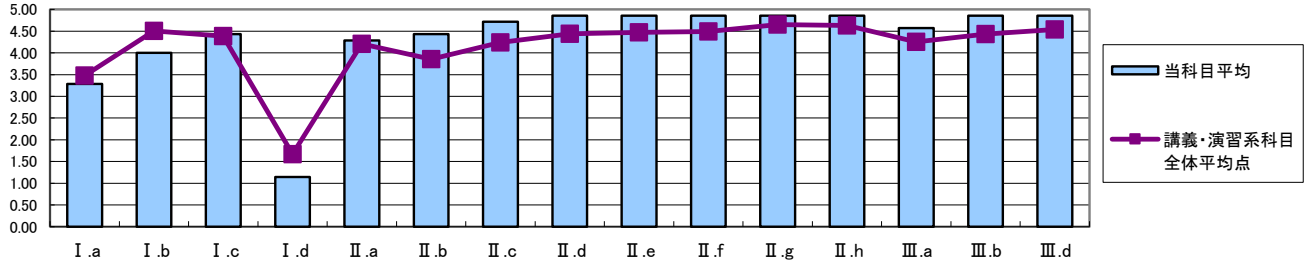
科目名	楽器の特性と機能(教職実践)
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 71.43 / 3: 71.43 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の専門の講師を招いて、演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。将来教員を目指す教職実践専攻の学生が対象なので、学ぶ意識が高く、中身の濃い授業になっている。各講師には、将来吹奏楽部指導を行うことを前提として、楽器解説に加えて、移調楽器、スコアリーディング等も交えながら授業を進めてもらった。学生のこの授業に対する満足度は高いと思われる。教職実践専攻以外の教職課程履修学生には、将来の吹奏楽部指導のため、単位は取得できないが聴講を勧めている。今年度の聴講生は１名であった。

●　問題点

アンケート結果を見る限り回答は4と5に集中しているため、学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。15名程の教員が関わるため、アンケート結果は担当教員に対するものではなく、授業全体の評価となる。　設問Ⅱ－aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ－h、補講に関して、授業の特性上、補講を実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。講師が授業毎に代わるため試験を実施出来ないので、評価はレポート100%となる。全ての楽器についてレポートを提出させるので、レポートの分量が必然的に多くなってしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師から指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。実際の吹奏楽コンクールがどのようなものか理解させるため、吹奏楽コンクールの映像を見せたかったが、今年度は新型コロナウィルスの影響もあり時間が取れなかった。

●　改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕a
教員名	岩間　丈正

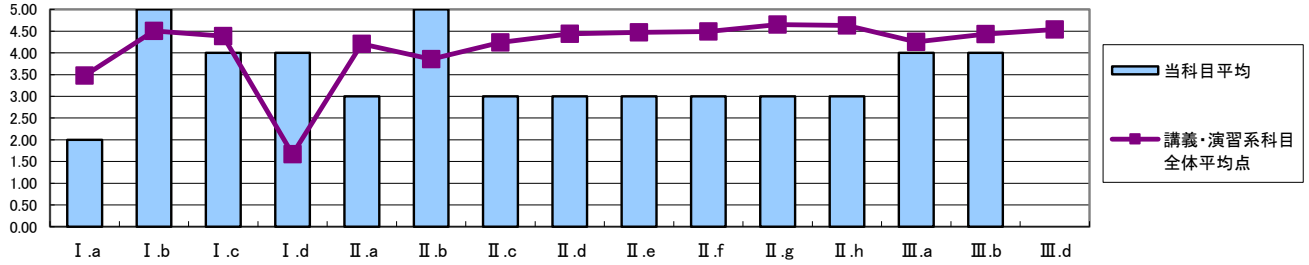
職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.54

回答率				
5	4	3	2	1
100.00	0.00	100.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。今年度室内楽Ⅳを履修した学生はオーボエの学生1名であったため、クラリネットとファゴットに研究員を入れて、トリオ・ダンシュを行った。学生は欠席もなく、楽しく授業に参加していた。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

●　問題点

近年、履修学生の減少傾向が見られる。今年度は履修学生が１名であった。設問Ⅱの結果は、履修学生と教員の専攻楽器の違いから、履修学生の専門性に深く踏み込んだ指導にならなかったことが原因と考えられる。このグループ分けはもう一つの室内楽（木管）の履修学生の人数と実力によるところがあるため、止むを得ない。また、木管楽器は3クラス（サックスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅳ木管a）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。　シラバス作成時には履修学生の専攻楽器と人数が把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

●　改善の方策

学生全体の人数が減少しているため、グループ分けに工夫が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

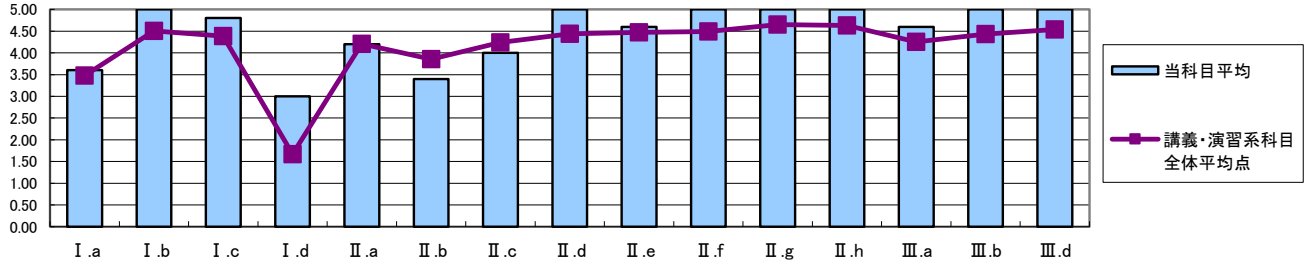
科目名	オーケストラＩＢ
教員名	梅田　俊明

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 80.00
			3: 40.00	2: 80.00
			1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度新たに授業を担当するにあたり、授業形態から課題、演奏会プログラム等々を考察してシラバスを作成しました。まずはオーケストラの基本的なレパートリー曲を通してアンサンブル力を向上させる目的から、古典派の名作を重点的に取り上げることにしました。管打楽器についてはオーディションを通してメンバーを決定し、質の向上と共に学生の意識改革を目指しました。弦楽器については能力や経験の差異を考慮しながら、パート別の分奏を通してオーケストラの母体となるセクションの役割を整えました。また毎回の授業後は学生のみで意見交換の時間を設け、インスペクターを通して報告を受けて次回の授業に反映させました。一方感染予防対策を強いられたことから、時間短縮やディスタンスの確保などアンサンブルにとって不利な状況も多々あり、その都度柔軟な対応に追われました。予定されていた演奏会が次々キャンセルになる中でも、音楽大学フェスティバルと定期発表演奏会では十分な成果を披露することができたと考えます。年度末には練習時間に限りがある中で、中止になったトライアルコンサートのプログラムも消化させました。

●　問題点

古典派の作品に重きを置いた結果、管打楽器専攻生の中にそもそも編成上乗り番がない結果になったこと。

●　改善の方策

学生オーケストラとして演奏経験上必須なレパートリーを積み上げながら、管打楽器専攻生にとって編成上の偏りを最小限にしてバランスをとる必要性は常に認識しています。今年度は一部改善してプログラミングした一方、早速本番のキャンセルに見舞われたのが現状です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

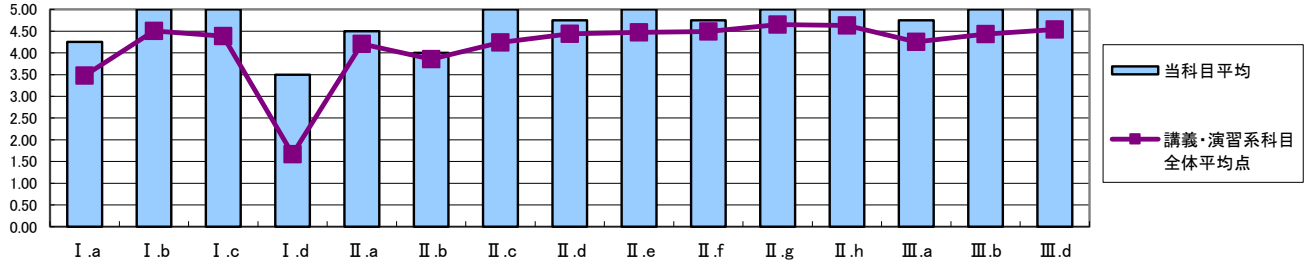
科目名	オーケストラⅡB
教員名	梅田　俊明

職名	05. 特任准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 75.00
			3: 75.00	2: 75.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度新たに授業を担当するにあたり、授業形態から課題、演奏会プログラム等々を考察してシラバスを作成しました。まずはオーケストラの基本的なレパートリー曲を通してアンサンブル力を向上させる目的から、古典派の名作を重点的に取り上げることにしました。管打楽器についてはオーディションを通してメンバーを決定し、質の向上と共に学生の意識改革を目指しました。弦楽器については能力や経験の差異を考慮しながら、パート別の分奏を通してオーケストラの母体となるセクションの役割を整えました。また毎回の授業後は学生のみで意見交換の時間を設け、インスペクターを通して報告を受けて次回の授業に反映させました。一方感染予防対策を強いられたことから、時間短縮やディスタンスの確保などアンサンブルにとって不利な状況も多々あり、その都度柔軟な対応に追われました。予定されていた演奏会が次々キャンセルになる中でも、音楽大学フェスティバルと定期発表演奏会では十分な成果を披露することができたと考えます。年度末には練習時間に限りがある中で、中止になったトライアルコンサートのプログラムも消化させました。

●　問題点

古典派の作品に重きを置いた結果、管打楽器専攻生の中にそもそも編成上乗り番がない結果になったこと。

●　改善の方策

学生オーケストラとして演奏経験上必須なレパートリーを積み上げながら、管打楽器専攻生にとって編成上の偏りを最小限にしてバランスをとる必要性は常に認識しています。今年度は一部改善してプログラミングした一方、早速本番のキャンセルに見舞われたのが現状です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

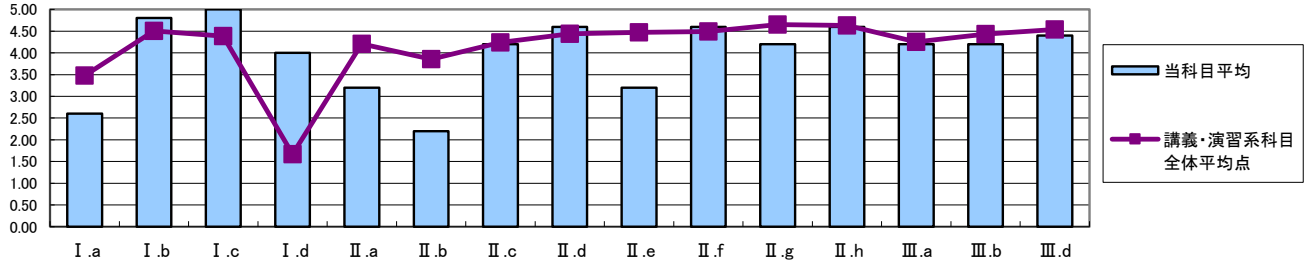
科目名	オーケストラⅢB
教員名	梅田　俊明

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.60	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.20	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 80.00 / 3: 60.00 / 2: 40.00 / 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度新たに授業を担当するにあたり、授業形態から課題、演奏会プログラム等々を考察してシラバスを作成しました。まずはオーケストラの基本的なレパートリー曲を通してアンサンブル力を向上させる目的から、古典派の名作を重点的に取り上げることにしました。管打楽器についてはオーディションを通してメンバーを決定し、質の向上と共に学生の意識改革を目指しました。弦楽器については能力や経験の差異を考慮しながら、パート別の分奏を通してオーケストラの母体となるセクションの役割を整えました。また毎回の授業後は学生のみで意見交換の時間を設け、インスペクターを通して報告を受けて次回の授業に反映させました。一方感染予防対策を強いられたことから、時間短縮やディスタンスの確保などアンサンブルにとって不利な状況も多々あり、その都度柔軟な対応に追われました。予定されていた演奏会が次々キャンセルになる中でも、音楽大学フェスティバルと定期発表演奏会では十分な成果を披露することができたと考えます。年度末には練習時間に限りがある中で、中止になったトライアルコンサートのプログラムも消化させました。

●　問題点

古典派の作品に重きを置いた結果、管打楽器専攻生の中にそもそも編成上乗り番がない結果になったこと。

●　改善の方策

学生オーケストラとして演奏経験上必須なレパートリーを積み上げながら、管打楽器専攻生にとって編成上の偏りを最小限にしてバランスをとる必要性は常に認識しています。今年度は一部改善してプログラミングした一方、早速本番のキャンセルに見舞われたのが現状です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

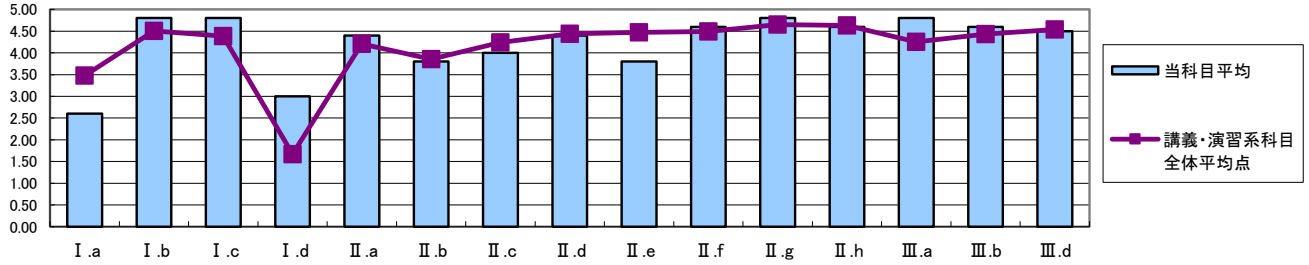
科目名	オーケストラⅣB
教員名	梅田　俊明

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.60	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00	4: 60.00
			3: 40.00	2: 20.00
			1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度新たに授業を担当するにあたり、授業形態から課題、演奏会プログラム等々を考察してシラバスを作成しました。まずはオーケストラの基本的なレパートリー曲を通してアンサンブル力を向上させる目的から、古典派の名作を重点的に取り上げることにしました。管打楽器についてはオーディションを通してメンバーを決定し、質の向上と共に学生の意識改革を目指しました。弦楽器については能力や経験の差異を考慮しながら、パート別の分奏を通してオーケストラの母体となるセクションの役割を整えました。また毎回の授業後は学生のみで意見交換の時間を設け、インスペクターを通して報告を受けて次回の授業に反映させました。一方感染予防対策を強いられたことから、時間短縮やディスタンスの確保などアンサンブルにとって不利な状況も多々あり、その都度柔軟な対応に追われました。予定されていた演奏会が次々キャンセルになる中でも、音楽大学フェスティバルと定期発表演奏会では十分な成果を披露することができたと考えます。年度末には練習時間に限りがある中で、中止になったトライアルコンサートのプログラムも消化させました。

●　問題点

古典派の作品に重きを置いた結果、管打楽器専攻生の中にそもそも編成上乗り番がない結果になったこと。

●　改善の方策

学生オーケストラとして演奏経験上必須なレパートリーを積み上げながら、管打楽器専攻生にとって編成上の偏りを最小限にしてバランスをとる必要性は常に認識しています。今年度は一部改善してプログラミングした一方、早速本番のキャンセルに見舞われたのが現状です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

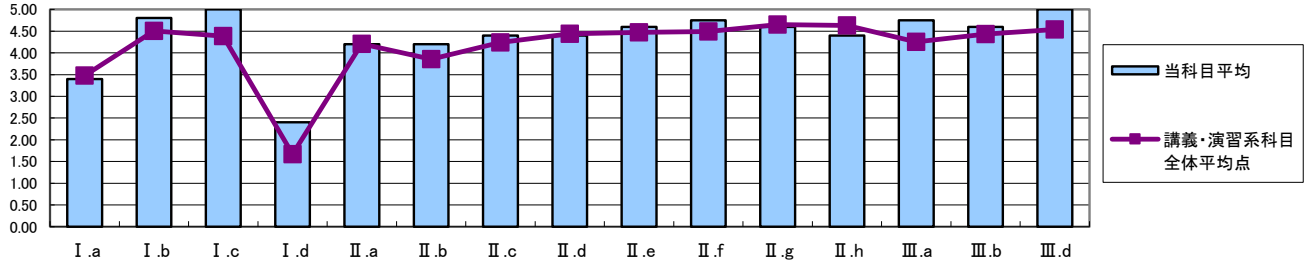
科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.40	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 50.00
			3: 75.00	2: 0.00
			1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、Tb、Tub、を各1名ずつ研究員をお願いしたものの、5～8重奏の編成の大きいブラスアンサンブルが展開出来ました。欠席は殆どなく、学生達も熱心に各曲に取り組んでくれました。また、個々の学生の個人レベルも向上していくのが、しっかり確認できました。概ね目標が達成できたと感じます。

●　問題点

ズレは感じませんでしたが。個人レベルの差が出る為、どの辺にレベルを設定して選曲するのか？が難しい課題でした。そこで今回は、下のレベルに合わせず、上のレベルで考えました。不安はありましたが、ゆっくりなペースで曲を作って行ったので、結果的に下のレベルの向上にも繋がり、良い内容で、授業が進められました。

●　改善の方策

今後は、レベル設定は常に考えるとして。少しでも上のレベルに照準を当て、学生各々にも自分のレベルの向上が実感できる展開に、持っていこうと考えます。そして、学生の中に金管アンサンブルの曲をアレンジする者もいる為、そんな曲も題材にしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

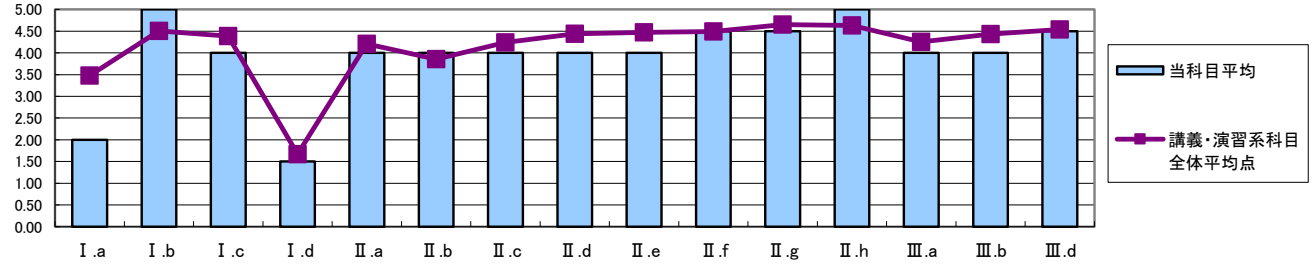
科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、Tb、Tub、を各1名ずつ研究員をお願いしたものの、5～8重奏の編成の大きいブラスアンサンブルが展開出来ました。欠席は殆どなく、学生達も熱心に各曲に取り組んでくれました。また、個々の学生の個人レベルも向上していくのが、しっかり確認できました。概ね目標が達成できたと感じます。

●　問題点

ズレは感じませんでしたが。個人レベルの差が出る為、どの辺にレベルを設定して選曲するのか？が難しい課題でした。そこで今回は、下のレベルに合わせず、上のレベルで考えました。不安はありましたが、ゆっくりなペースで曲を作って行ったので、結果的に下のレベルの向上にも繋がり、良い内容で、授業が進められました。

●　改善の方策

今後は、レベル設定は常に考えるとして。少しでも上のレベルに照準を当て、学生各々にも自分のレベルの向上が実感できる展開に、持っていこうと考えます。そして、学生の中に金管アンサンブルの曲をアレンジする者もいる為、そんな曲も題材にしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

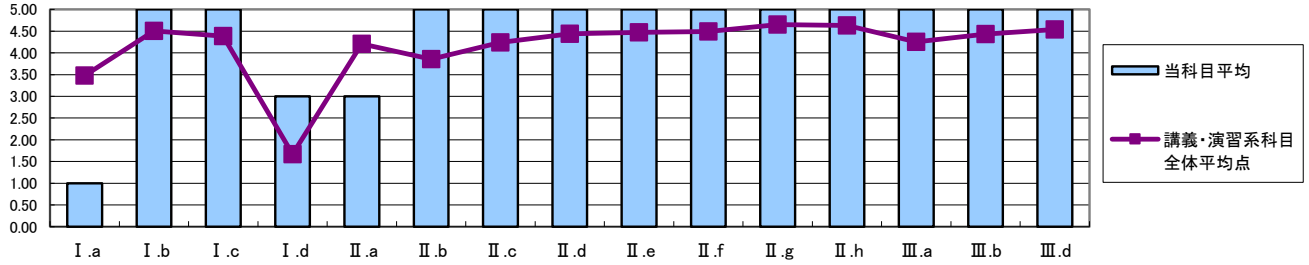
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、Tb、Tub、を各1名ずつ研究員をお願いしたものの、5～8重奏の編成の大きいブラスアンサンブルが展開出来ました。欠席は殆どなく、学生達も熱心に各曲に取り組んでくれました。また、個々の学生の個人レベルも向上していくのが、しっかり確認できました。概ね目標が達成できたと感じます。

●　問題点

ズレは感じませんでしたが。個人レベルの差が出る為、どの辺にレベルを設定して選曲するのか？が難しい課題でした。そこで今回は、下のレベルに合わせず、上のレベルで考えました。不安はありましたが、ゆっくりなペースで曲を作って行ったので、結果的に下のレベルの向上にも繋がり、良い内容で、授業が進められました。

●　改善の方策

今後は、レベル設定は常に考えるとして。少しでも上のレベルに照準を当て、学生各々にも自分のレベルの向上が実感できる展開に、持っていこうと考えます。そして、学生の中に金管アンサンブルの曲をアレンジする者もいる為、そんな曲も題材にしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕d
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

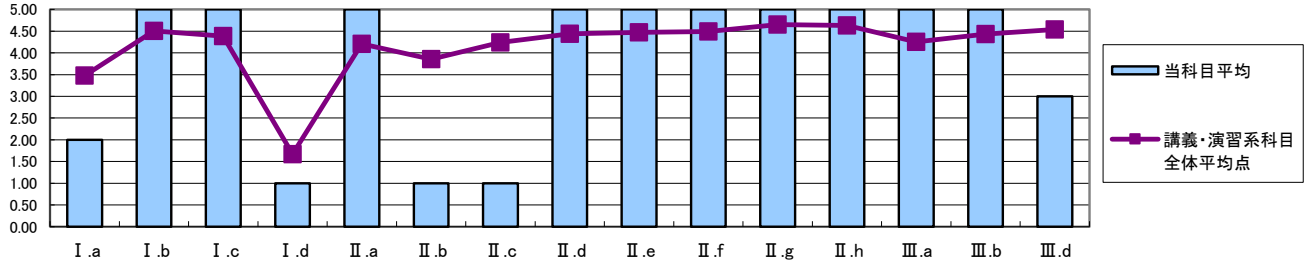
履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	1.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	

5	4	3	2	1
0.00	100.00	0.00	0.00	0.00

	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、Tb、Tub、を各1名ずつ研究員をお願いしたものの、5～8重奏の編成の大きいブラスアンサンブルが展開出来ました。欠席は殆どなく、学生達も熱心に各曲に取り組んでくれました。また、個々の学生の個人レベルも向上していくのが、しっかり確認できました。概ね目標が達成できたと感じます。

●　問題点

ズレは感じませんでしたが。個人レベルの差が出る為、どの辺にレベルを設定して選曲するのか？が難しい課題でした。そこで今回は、下のレベルに合わせず、上のレベルで考えました。不安はありましたが、ゆっくりなペースで曲を作って行ったので、結果的に下のレベルの向上にも繋がり、良い内容で、授業が進められました。

●　改善の方策

今後は、レベル設定は常に考えるとして。少しでも上のレベルに照準を当て、学生各々にも自分のレベルの向上が実感できる展開に、持っていこうと考えます。そして、学生の中に金管アンサンブルの曲をアレンジする者もいる為、そんな曲も題材にしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

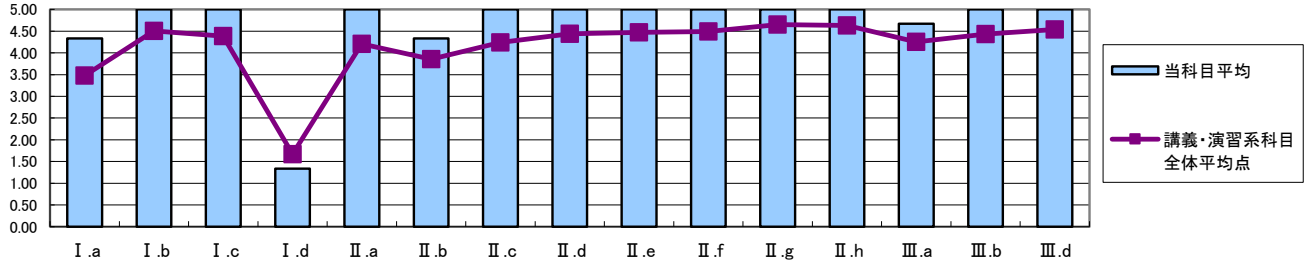
科目名	ピアノ指導者を目指すための音楽教育学入門B
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 66.67 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

火曜日３限に開講。2020年度は4名が履修した。総じて非常に熱心な授業への取り組みが見られた。講義の概要については以下の通りである。将来的にピアノ指導者を目指す者にとって、鍵盤楽器の歴史はもとより鍵盤楽器のための教育的作品について深く理解し、幅広い知見を養うことを目的とする講義形式の科目である。前期においては、鍵盤楽器の誕生以降に活躍した作曲家たちによる教育的作品をキーワードに、バロックから現代にいたるまで、鍵盤楽器による器楽教育ならびに子どものための音楽教育がいかにして築き上げられていったかについて学んだ。後期においては我が国における西洋音楽受容の歴史、明治期以降の音楽教育の変遷、その発展を支えた日本人ならびに外国人音楽家・教育家の功績について取り上げ、ピアノ指導者として必要とされる音楽教育学の幅広い知見を得ることを目指した。

●　問題点

新しいものの見方や知識が得られ、関連分野の学習意欲の向上に結びついたとの回答が多いが、授業内容の難易度についてやや難しいと回答した学生もおり、今後留意していくべきと思われる。予習と復習についてはさらに時間数の上昇を期待したい。

●　改善の方策

学生たちの興味関心の方向性を見極めながら、現代のピアノ指導者として必要とされる知識・教養を幅広く提示し、楽しい学びへとつなげていくことが必要であろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

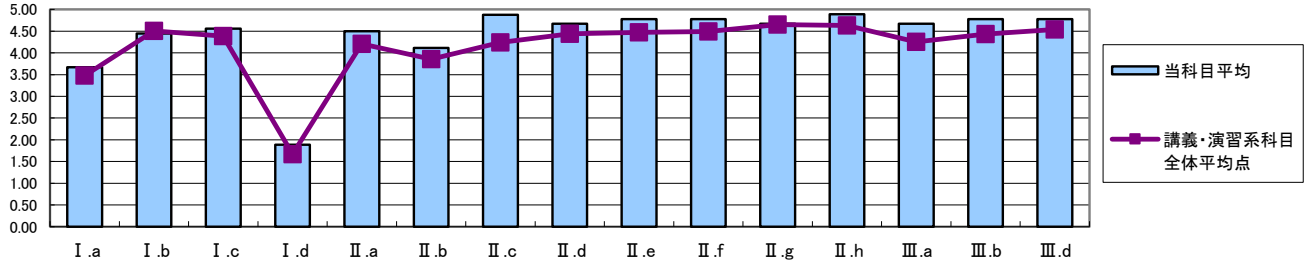
科目名	教材伴奏法ⅠBb
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.89	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.89	4: 33.33
			3: 11.11	2: 11.11
			1: 11.11	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講姿勢は大変良好で、各自のピアノに合わせて皆が積極的に歌唱するスタイルが保たれている。また、コードネームを見ながら自分で伴奏を付ける授業では、持てる技能を開示し皆から賞賛される、得意分野として新たな自己の気づきができるといった学生もみられた。　アンケートの結果はどの項目も全体平均点を上回っていたことから、取り組みの姿勢が伺える。「成績評価の基準が明確に示されていた」（4.88点）「授業内外における質問や相談」「学習意欲を刺激」（共に4.78点）などの回答が得られたのは、授業初回に、授業の進め方や試験の方法・対策などを作成しプリントにて配布、そのつど説明したためと思われる。「教員の熱意や工夫」は4，89点を得られた。

●　問題点

「予習・復習に時間を取ったか」に関しては昨年度の1，63から1，89と上がったが、少人数のレッスン形式で個々によって進め方や課題曲が違い、授業時や直前に曲をさらう学生もいると思われた。　学生同士それぞれの課題に対して助け合う場面も見られ、試験結果も良好で、それ以外の問題点はみられなかった。

●　改善の方策

引き続き内容を充実していく。課題を明確に示し、予習・復習を促す。　コードネームの知識を身につけ自分で考えて伴奏する時間は、各自の技術にあわせながら次年度も充実させたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

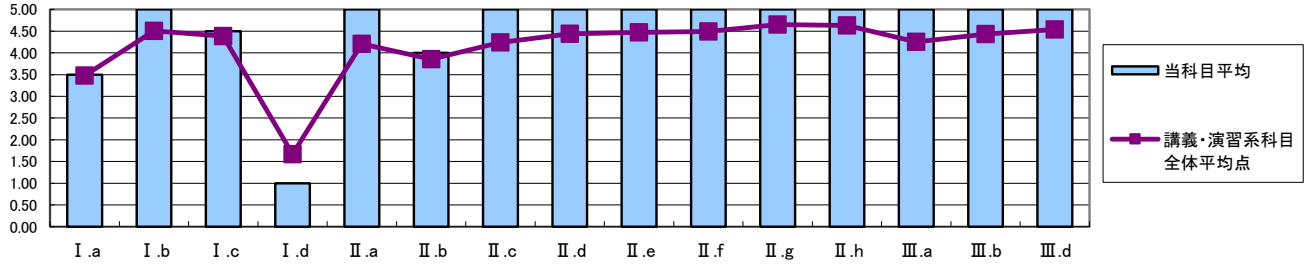
科目名	音楽療法的音楽論
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

音楽療法専攻の必修科目(他専攻も受講可)で、今年度は専攻生一名と管楽器専攻から一名受講があった。例年より少ないが、各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、多くの学生に履修してもらいたい。　受講者は皆出席で遅刻や居眠りもなく、熱心にメモを取り自己開示のワークにも積極的で、取り組みの姿勢がすばらしかった。授業内容に関しては「教科書や資料は効果的」、「授業に対する教員の熱意や工夫」「学習意欲を刺激し興味深い」などで平均点5,00を得ることができた。　「自分のためになったこと」については「新しい知識・技能」「新しいものの見方」を得られた、との回答があった。「総合的に意義のある授業だった」にも5.00点を得られ、学生の意識の高さを感じることができた。

● **問題点**

年度末の試験も優良で、今年度に関して問題点はみられなかった。より多くの学生に受講してほしい。

● **改善の方策**

手作りの資料、私物の音源など駆使し、引き続き内容を充実していく。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

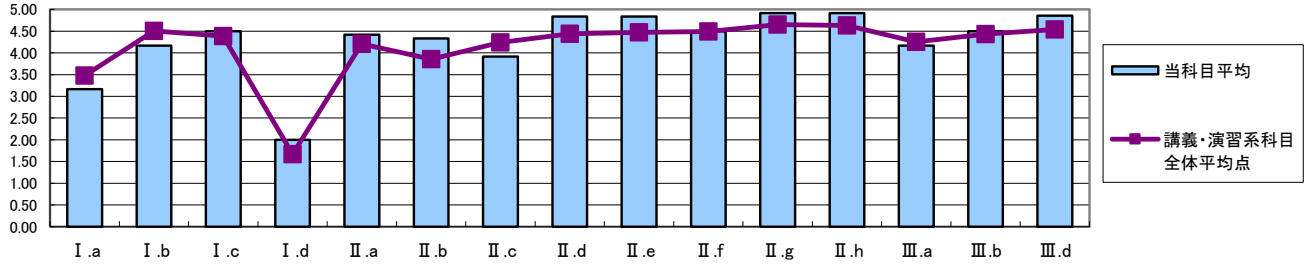
科目名	キャリア・クリエイティブ・メソッドB
教員名	大神　賀世子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.42	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.92	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.92	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33	4: 75.00
			3: 25.00	2: 50.00
			1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

キャリアクリエイティブメソッドでは、自ら想い描いたキャリアを実現できる力を習得することを目標としています。その為に、社会を知り、自己理解を深め、ゴールを明確にするスキルを学びます。また、今年から、大学入試のテーマも30年ぶりに大きく変わり、暗記式、左脳式の試験のスタイルから、右脳の感性をより高く求められるようになり、思考力、判断力、表現力なども必要とされる社会になりつつあります。また、コロナ禍に世の中が激変する中で、リアルからオンラインに変化し、５Ｇも導入され、益々変幻自在に対応し社会で逞しく生き残るスキルが必要です。在学中に、キャリア人生に必要なスキルや知識を体系的に学ぶことができるように、インプットとアウトプットを常にセットに考え、実践していただきました。学生のアンケートでは、将来に役立つ実践的な内容であった。就活前にも再度受講したい。物事の味方、考え方、今後のキャリアに対する課題が発見できた。グループワークが多く、主体的に考える機会が多く、自分の体に落とし込むことができた、社会で役立つ知識を多く身につけることができた、教えられたことをアルバイト先で実践したところ、社員の方に褒められた、など、授業内での知識、実践、グループワークでのアウトプットなど、体系的に習得していただくことができた。等、回答していただきました。半面、最終回のオーディション以外は、予習課題を出すことは少なく、復習のみになっていてる点が、今後の課題であると感じています。他のカリキュラムに比較すると予習復習時間が少ないようでした。新年度は、年間通してシラバスを示し、課題や復習を提示し、更なる成長に役立てていただける工夫が必要だと考えております。以上

●　問題点

①シラバスを活用…前期後期の初回のみの確認になっていた。②予習復習を増やす…授業内で最大限実施することに注力していたため、予習復習の時間が必要だとわかった。③成績評価基準を示す…定期的に成績評価基準を示す必要があった。

●　改善の方策

・定期的にシラバスを活用する・毎回課題を示し、予習復習を増やす・定期的に成績評価基準を示す①昨年度は、シラバスを確認するのは前期後期の初回程度であったため、確認する機会を増やす。②予習復習の時間が少ない点が課題。授業内にしっかりと実践していただく工夫をしてきましたが、更に学びを定着し、スキル向上を図るために課題を示す。③予習復習のテーマを具体的に示し、「次回に確認します」など、評価基準を定期的に示していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

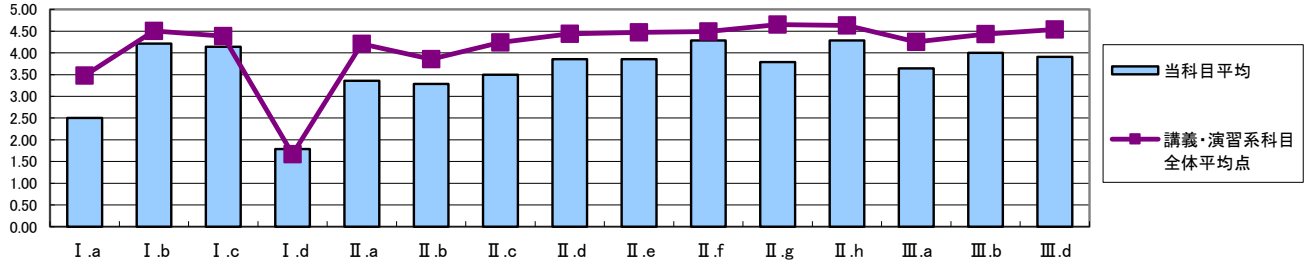
科目名	教材伴奏法ⅠBa
教員名	小野瀬　照夫

職名	08. 講師

履修者数	22
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.21	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.79	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.36	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.86	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.86	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.79	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.64	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 84.62	4: 23.08 / 3: 23.08 / 2: 15.38 / 1: 7.69
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.91	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この講座は同じ内容で2つのクラスに分割されているものである。他の講座との時間割の関係からこのようになったので、学生はクラスを選択することはできない状況であった。　クラスは違っても内容は揃えるべきと考え、年度が始まる前に以前から担当されている先生にへ「先生の内容に揃えさせて戴きたい。」と申し出、そこでは「中学校の共通教材を中心に扱う」ということが確認された。　学校現場での音楽の授業におけるピアノ伴奏は、本来であれば作曲家が作ったとおりのものであるべきだが、実際は中々そのようにはいかない。その原因は、教師の技量の問題であったり、児童生徒の習熟度にも依るからである。　そこで必要になるのが「現場に合った、児童生徒の習熟度に合わせた伴奏」ということになる。この講座では履修した学生全員がそういう伴奏を弾けるようにしていくことも、目的の一つとして設定した。しかし、初めから「作曲されたものとは違う伴奏」ばかりを目指しても、それは良策とはならないし、本来弾くべき原曲の伴奏に対して正面から向き合い、それをアナリーゼすることの大切さ、そして目標の一つである教員採用試験での「弾き歌い」の練習も行う必要を考えて講座の進行を以下のように組み立てた。　1．先ずは伴奏譜のアナリーゼを通して楽譜を理解し、そのとおりに弾けるようになるこ　と。それを歌いながらもできるようにすること。　2．次に本来の伴奏の良さを生かしながら、自分の技量や児童生徒の習熟度に合わせた伴奏が弾けるようになり、歌いながらもできるようにすること。　ところが、それを進めていく中で一つの問題が浮き彫りになった。伴奏を弾くだけでなく歌も入れて「弾き歌い」をするようにしたところ、多くの学生の声が小さく、とても現場では通用しないだろうと思われる状態だったのである。これでは採用試験時のみでなく、学校現場の授業で範唱するをする時などかなり厳しいだろうということが感じられた。　また、ちょうどその時期に私の勤める県立高校が教育実習中で、その実習生たちによる授業での「発声練習」がおぼつかなく、過去に指導した実習生の様子からも「発声指導」の方法に触れておく必要を強く感じていたため、急遽この講座の授業内容に組み入れることにした。　実際に後期試験を行ったところ、その評価は伴奏実技の完成度はもとより、歌唱の良さ（声の大きさ）も大きく影響した。

●　問題点

学生からの回答にもあったように、　1．二つの講座での内容があまり揃っていなかった。　①「本来の伴奏」に時間がかかってしまったこと。　②途中から臨時的に「発声練習」も入れてしまったこと。　2．コロナ感染防止対策があまかった。　①練習室で三密状態になってしまったこと。　②教師側が風下であることに安心してマスクを外す場面があったこと。　3．時間内に終わらず、終業時間がたびたび超過していたこと。　以上の点が挙げられ、改善が必要になる。

●　改善の方策

上記の問題点を改善するために、　1．講師どうしの連携がとれるよう、大きく捉えた「内容」だけでなく、更なる詳細部分に関しても合わせられるようにする。特に、原曲の伴奏に時間をかけすぎないようにする。　2．コロナ感染防止対策を徹底するため、練習室での密になる状態を作らない。　3．今まで行っていた講座での流れ、　全体講義⇒練習室へ移動しれ練習⇒講義室に戻り全員の前で発表（公開レッスン形式）を改める。　以上の件を改善していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

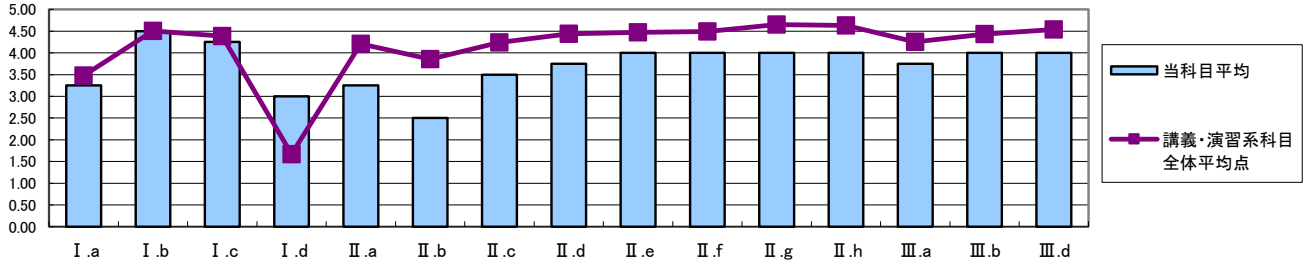
科目名	教材伴奏法ⅡB
教員名	小野瀬　照夫

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 75.00 / 3: 0.00 / 2: 25.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この講座は必修科目ではないので選択する学生は多くなく、昨年に引き続いて本年度も同じく四人であった。その四人の学生の内訳は、ピアノ科2人、弦楽器専攻1人、管楽器専攻1人で、学生相互のピアノ演奏に対する技術的な習熟度の差は大きく開いていた。　そのため、四人全員が同じ課題に取り組むことが良いのかどうか、判断が難しい状況ではあった。この講座は伴奏法のⅡであることや、学生数が四人という少人数であることから考えると、課題として扱う楽曲を学生それぞれの技術的な段階に合わせて変えることも考えられた。　しかし、この学生たちがやがて教師となり、どんな現場でも授業を行うことができるようにしておかなければならないことを考えると、取り組んでおくべき楽曲はみな共通とし、差を付けることは無意味であると判断した。また、ピアノ演奏習熟度の高くない学生にとって、それの高い学生の伴奏演奏を聴くことは大いに刺激となり、参考になり、役に立つはずである。そのような考えから、四人共通の楽曲に統一して進めることにした。　毎時間の授業の流れは、初めに全体で楽曲や伴奏の構造や使用された和音に関しての解説などを行い、その後で一人ずつ演奏をし、それに助言を与えるという、いわゆる公開レッスンの形式をとった。扱う楽曲は、Ⅰでは中学校の共通教材が中心であったので、ここでは小学校と高等学校の歌唱曲を中心にした。小学校のものでは、それぞれの楽曲に簡易伴奏とある程度複雑で音や和音を充実させた伴奏の両方が掲載されているテキストをもとに行った。高等学校のものでは、実際の教科書から伴奏もしっかりと作曲された幻術歌曲とコードネームのみが掲載された楽曲の二種類から選び、取り組んだ。　また、毎時間に次回扱う楽曲を知らせておいたので、学生は予習がしやすく、よく取り組んでいた。特に、コードネームのみが掲載されている楽曲では、それぞれの学生がコードネームをもとに自分なりの伴奏を用意してくるため、学生相互には興味深いものがあったようである。　前述の方針とは異なるが、1曲だけ学生それぞれに違う楽曲を与え、伴奏演奏に取り組ませた。これは夏期休暇の課題とし、休暇明けに披露し合った。ねらいは、単なる学校現場用の歌曲のみならず、いわゆる芸術歌曲の伴奏を体験し、その奥深さを味わっておいたほうがよいと判断したからである。

●　問題点

コロナ禍の影響があったとはいえ、今年度はシラバスのとおりに進めることはできなかった。実技試験もやむを得ずレポート形式となり、急なこともあったので、学生ともども戸惑いがあった。　どのようなシラバスを設定しても受講する学生の習熟度や演奏技術などの状況は毎年同じではないため、教えるのに必要とされる内容は違ってくるのは当然であるが、どのような状況になっても対応できるシラバスの設定は必要だったかもしれない。　以上の点をもとに改善が必要であると思われる。

●　改善の方策

本学における教材伴奏法Ⅱの位置付けがどのようなものであるかに関わるが、ここではやはり小学校や高等学校の教材について触れることが敵していると思われる。　しかし、Ⅰで中心的に扱う中学校の共通教材とは違って、「それ以外の楽曲」となると範囲が広まり、網羅することは不可能である。そこで、この講座では学生が将来どんな楽曲にあたっても対応のできる力を付けていくことが望まれる。いわゆる問題発見・解決能力になる。　今後はそれを目指して改善していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

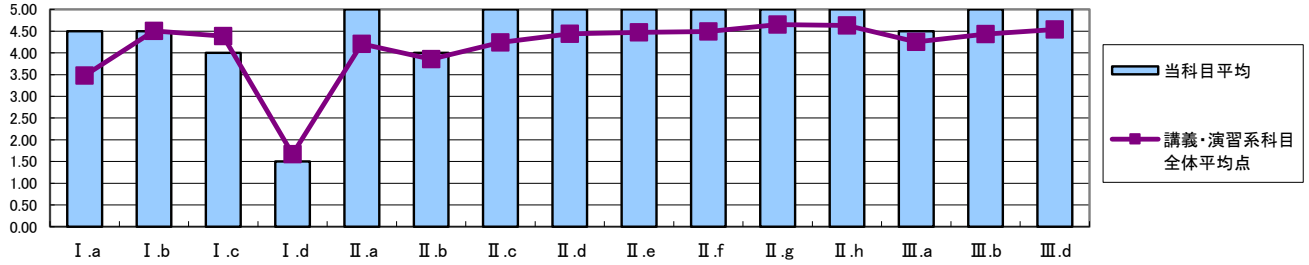
科目名	チェンバロ研究ＩＢ
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度後期の履修者数は２名と、ここ数年では最も少なかった。そのため結果的には、例年よりも毎回の授業で充分楽器に触れる時間が取れたと思う。ただ履修者２名の実力にかなり差があり、力のある学生にとっては、やや物足りなさを感じる面があったかもしれない。実力のばらつきは毎年の事だが、実技に関してどこまで要求するかは、現状では各学生のレベルに合わせている。初回のオンライン授業でシラバスの読み合わせをしたこともあり、演習系科目の中では「シラバスを活用した」という回答が平均を上回る結果につながった。その他の設問でも、概ね平均を上回っているのは良い傾向。

●　問題点

アンケート集計結果からは、大きな問題点はなし。強いて挙げるなら、コロナ禍におけるソーシャル・ディスタンシングを保ちながらの実技指導は困難を極める。

●　改善の方策

2021年度もcovid-19感染予防に留意しながらの授業が予想される。より多様な授業形態を検討していくことも今後の課題であり、オンラインに対応する内容も工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

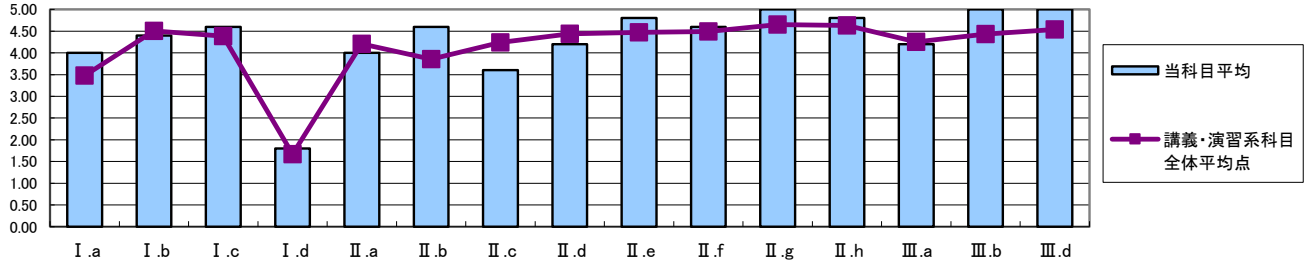
科目名	チェンバロ研究ⅡB
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 60.00 / 3: 40.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度の履修者数は５名で、２年目のクラスとしては例年では多い方だった。実力差はあっても総じて意欲的で、授業への参加度・貢献度も高く、教員にとっても刺激のある授業を展開できた。「開講時に成績評価の基準が明確に示されたか」の設問に「強くそう思う」と「あまりそう思わない」と回答が半々に分かれ、初回オンラインでの説明が不十分だったかもしれない。その他は概ね平均を上回った。

●　問題点

２年目の授業では毎年アンサンブル実習を実施しているが、四年次生は教育実習等で長期公欠になる場合があり、授業計画の変更を余儀なくされる。加えて2020年度はコロナ禍により、実習の形態も例年とは異なる対応が必要だった。これは2021年度も継続する可能性が高く、さらに工夫をしていかねばならないだろう。

●　改善の方策

上記問題点の解決策は、実際にはその都度履修者の状況に応じ、授業の進行に幅を持たせる等フレキシブルな対応を取る以外にない。今回のアンケートでは自由記述欄での授業内容について具体的な記載が多く、非常に手応えを感じた。「ルネサンス～バロックの音楽を学ぶことで、自分自身のピアノに生きています」という記述は、この授業の到達目標の一つでもあり、今後もピアノ専攻の学生にとってJ.S.バッハ以前の音楽を識ることの重要性を理解させたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

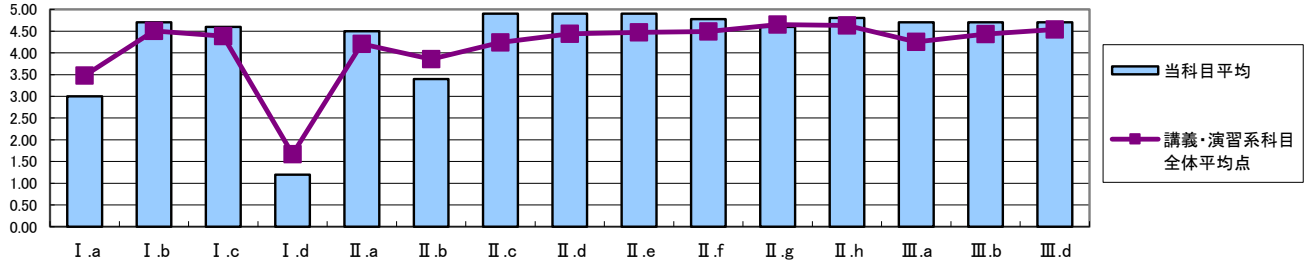
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	17
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.70	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.70	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00 / 4: 10.00 / 3: 20.00 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　2019年度に他の教員が担当していたソルフェージュ2aクラスの受講生からピアノ専攻生を除いた受講生のクラス。受講態度が良く、能力的にも高い受講生が多かった。今年度は新型コロナの感染対策のために授業の実施に関しては様々な影響を受けたが、授業内容に関しては何とか例年通りの内容を取り扱うことができたと思う。但し歌うことに関してはかなり控え目に行ったため、充分な練習を積むことができなかったことは否めない。集計結果の分析：ほぼ良好な回答を頂けていると思うが、設問Ⅰbに関して考慮すべき点があると思う。設問Ⅱbに関して、授業の難易度を難しいと感じた受講生が多かったようであるが、設問Ⅲの解答を見ると、ほとんどの受講生が達成感や学習意欲を感じてくれたようであるので、大きな問題はなかったのではないかと思う。

●　問題点

予習復習の時間が少ない点。

●　改善の方策

授業で取り上げた課題について、難しいと感じたものは復習するようにシラバスに記述してあるが、それが充分には行われていないということだと思う。もう少し具体的に、復習の課題を課すことを心掛けたいと思う

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

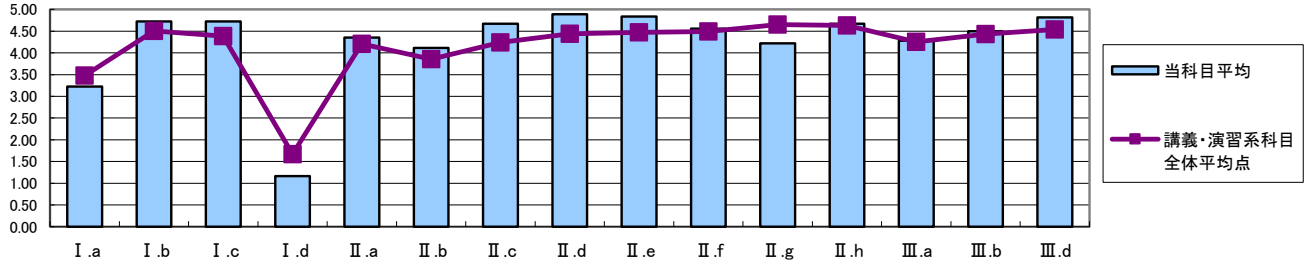
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	25
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.22	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.72	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.72	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.35	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.22	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.28	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33	4: 27.78
			3: 38.89	2: 22.22
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：付属高校出身者によるクラス。後期からは１ｂクラス（一般高校出身者）からの移動者を数名加えたクラスとなった。入学前に充分にソルフェージュを学んでおり、受講態度が良く、能力的にも高い受講生が多かったため、授業の進めやすいクラスであった。今年度は新型コロナの感染対策のために授業の実施に関しては様々な影響を受けたが、授業内容に関しては何とか例年通りの内容を取り扱うことができたと思う。但し歌うことに関してはかなり控え目に行ったため、充分な練習を積むことができなかったことは否めない。集計結果の分析：　ほぼ良好な回答を頂けていると思うが、設問Ⅰbに関して考慮すべき点があると思う。また自由記述の回答にソルフェージュの課程だけに捕らわれず、そこからの音楽的な広がりを意識した回答があった点は収穫であった。

●　問題点

予習復習の時間が少ない点。

●　改善の方策

授業で取り上げた課題について、難しいと感じたものは復習するようにシラバスに記述してあるが、それが充分には行われていないということだと思う。もう少し具体的に、復習の課題を課すことを心掛けたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

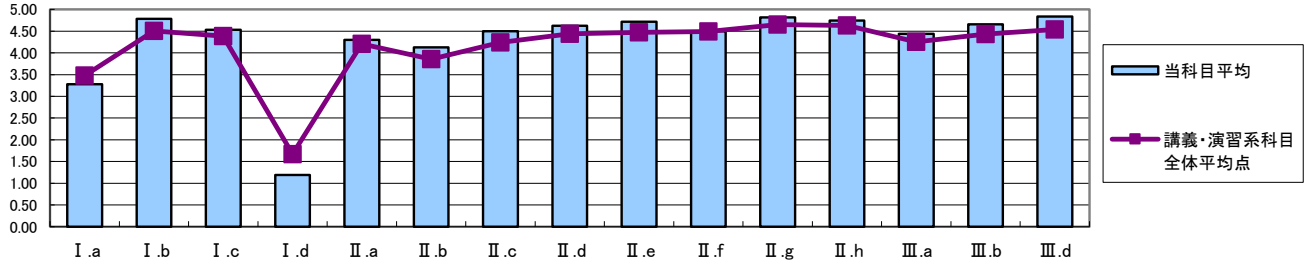
科目名	音楽の基礎理論Bb
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	41
回答者数	32

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.28	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.78	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.19	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.13	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.72	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.81	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.74	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.66	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50	4: 46.88
			3: 34.38	2: 28.13
			1: 6.25	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：日本人学生41名の受講生からなるクラス。受講人数が多いこと、授業時間が短いこと（1コマ50分）等、この科目固有の問題点への対処に加え、今年度は新型コロナの感染対策のために、授業の実施方法にも部分的変更（授業の題材となる曲の視唱を省略）が必要となったが、設問Ⅰの回答に表れているように、受講生達の出席状況や積極性等の基本的な受講態度が良く、スムーズに授業を行うことができたと思う。集計結果の分析：　全体的にほぼ良好な回答を頂けていると思う。設問Ⅱbの授業の難易度に対する回答の幅も、この人数のクラスにしては大きなものではないように思う。設問Ⅰbに関してはやはり考慮すべき点があると思う。設問Ⅲcに関しては、関連分野の学習意欲がもっと高まって欲しかったと思う。

●　問題点

予習復習の時間が少ない点。

●　改善の方策

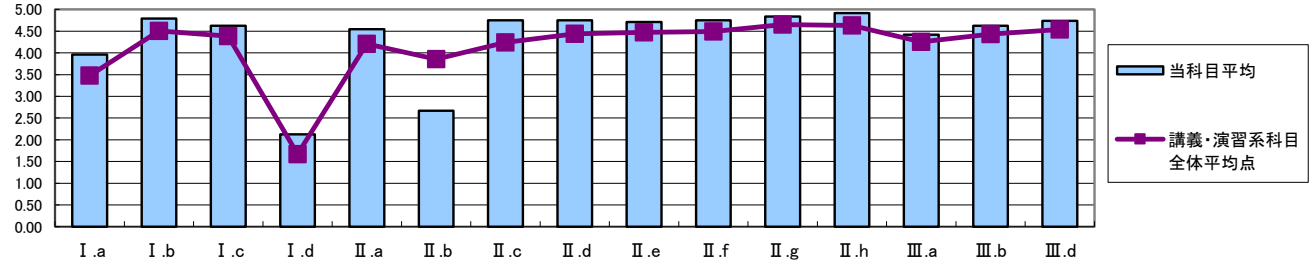
提出課題の再提出や各時間の題材曲の視唱等、特に復習の内容を具体的に指示することを考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学4b	職名	08. 講師	履修者数	30
教員名	加茂下　裕			回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.96	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.79	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.13	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.54	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.42	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 79.17 / 4: 16.67 / 3: 33.33 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.74	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　前年度の和声学2bクラスの受講生に留学生数名と若干の再履修者を加えたクラス。大部分の受講生は前年度からの継続であるため、前年度の授業同様、和声への関心と学習意欲を高めること、基礎的な内容の解説と基本的な課題の考え方の解説を丁寧に行うこと、等を心掛けて授業を進めた。この科目も今年度は新型コロナの感染対策のために授業の実施に関して様々な影響を受けたが、授業内容に関しては何とか例年通りの内容を取り扱うことができたと思う。
集計結果の分析：全体的に、ほぼ良好な回答を頂けていると思う。設問Ⅱbの回答に表れているように、この授業の難易度を難しいと感じた受講生が多かったようではあるが、高い学習意欲と熱意を持って授業に臨んでくれた受講生が多く、この点は設問Ⅰdの回答で予復習の時間が比較的多かった点にも表れているように思う。

●　問題点

授業の難易度を難しいと回答した受講生が多かった点。

●　改善の方策

和声学1・2に比べて作曲学的な専門性が高まるこの科目は、多くの演奏専門の受講生にとっては難しいものであることに変わりはないと思われるので、和声への関心を失わせず有意義な成果を達成できるように、授業の進め方を色々と工夫して行ってきた。このアンケートの自由記述の回答を見ると、この点については受講生達にもよく伝わっているように思われるので、今後もこれまでと同様に、この科目は内容的に難しいものであるということを前提として、課題を取り組み易くする工夫と、学習意欲を高めて問題発見・解決能力の向上につなげる工夫を続けていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

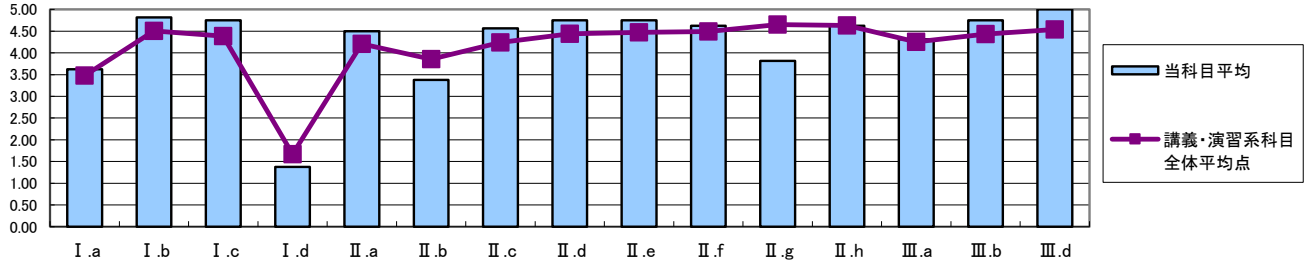
科目名	和声学2a
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.81	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.38	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.81	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 31.25
			3: 25.00	2: 50.00
			1: 6.25	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：付属高校出身者によるクラス。入学前に和声学を学んでおり、受講態度が良く、理解力も高い受講生が多かったため、授業の進めやすいクラスであった。復習を兼ねて基礎的内容を確認しつつ、できる者にはテキスト内の多くの問題に積極的にチャレンジするよう鼓舞して授業を進めた。この科目も今年度は新型コロナの感染対策のために授業の実施に関して様々な影響を受けたが、授業内容に関しては何とか例年通りの内容を取り扱うことができたと思う。集計結果の分析：ほぼ良好な回答を頂けていると思うが、設問Ⅱbに関しては考慮すべき点があると思う。また設問Ⅲcの回答に問題発見・解決能力を上げた受講生が多かった点は、「音楽的思考力を高める」というこの科目の核心に係わる部分であり、大きな収穫であったと思う。

●　問題点

授業の難易度が難しいと感じた受講生が多かった点。

●　改善の方策

授業中の感触からすると意外な感のある点であったが、後期後半の付属高校では扱っていない内容（属九の和音）辺りの基礎的内容の理解度を上げる工夫が必要なのではないかと思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

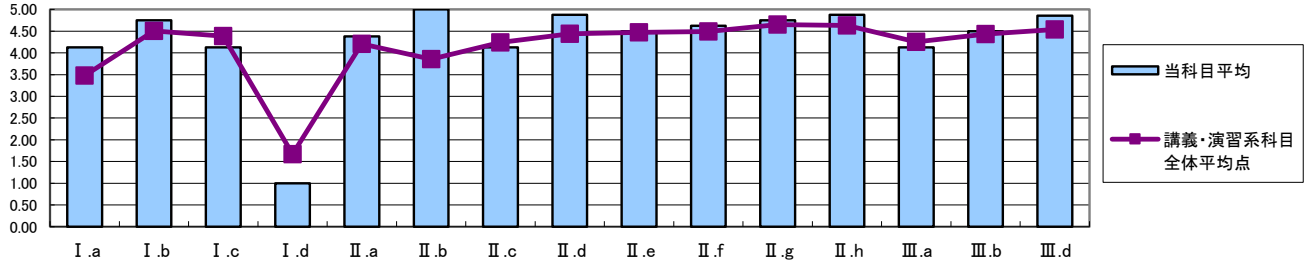
科目名	日本音楽史概説B
教員名	黒川　真理恵

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.13	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.13	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率 5: 75.00 / 4: 25.00 / 3: 37.50 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の目的は、日本の伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習し、基本的な知識を身につけることである。後期では、近世から近代に成立した種目として、三味線音楽、地歌箏曲、歌舞伎、文楽、尺八、近代以降の音楽を取り上げた。具体的には、以下の４点を目標とした。（１）日本の伝統音楽の歴史を理解し、代表的な曲の音楽的特徴を説明することができる。（２）和楽器の楽器構造や材質、製作工程について説明することができる。（３）日本語の特徴と音楽との関りについて理解し、受講生各自の音楽表現に活用することができる。（４）この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。　授業形態は講義で、開講曜日・時限は火曜日１時限だった。受講者数は前期１４名、後期８名で、このうち通年で履修したのは１名だった。学年は１年生と２年生が大半だった。教職実践専攻の学生は通年での履修が必修と理解しているが、当該の学生は前期しか履修していなかった。知識の定着を図るためにも、できれば通年での履修を周知してきたい。　受講者数は、２０１９年度は約４０名だったが、２０２０年度は少人数となり、きめ細かい対応ができたと思われる。遅刻する学生も少なかった。授業ではパワーポイントを使用し、スライドと同じ内容をレジュメにして配布した。ほぼ毎回の授業でコメントシートを配布し、質問や感想を記入してもらい、翌週の授業の冒頭で回答するようにした。アンケートの自由記述欄にも、質問の解説が丁寧で理解が深まったとの記述があった。アンケートの設問項目は、ほぼすべての項目で２０１９年度よりもポイントが上昇した。特に、Ⅱd「授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった」、Ⅱh「この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた」には、７名から「強くそう思う」、１名から「ある程度そう思う」という回答が得られた。　新型コロナウィルス感染症対策としては、以下の点に注意した。①教室のドアと窓を開放した。②座席を１机１人に指定し、誰がどの席に座ったかわかるようにした。③レジュメとコメントシートは、学生同士で回すのではなく、教員が手指を消毒の上、個別に配布するようにした。

●　問題点

アンケートのⅠd「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか」という設問は、８名全員の回答が１時間未満だった。教科書を購入していない学生もいたため、予習復習の課題を出すことが難しかった。日本の伝統音楽は、学生にとって普段なじみのないことが多いため、できるだけ理解を促し、親しみを持てるよう課題を工夫する必要がある。

●　改善の方策

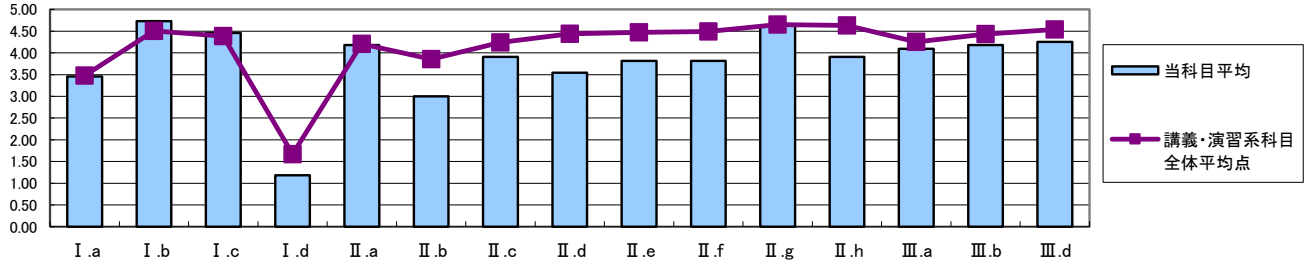
冬休みの課題として、和楽器についてのレポートを課した。年明けの授業で、全員のレポートをコピーして配布し、口頭で発表する時間を設けた。お互いの発表に対して、質問や感想を述べることで、意見交換をすることができた。　また、感染症対策のため、教員が個人のウェットティッシュ等を使用して、マイクを拭いたり、手指の消毒をしたりした。できれば各教室に、アルコール消毒液やペーパータオルを配備していただきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本の伝統音楽概説	職名	08. 講師	履修者数	13
教員名	黒川　真理恵			回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.45	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.73	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.18	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.18	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.91	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.55	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.82	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.82	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.91	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.09	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.18	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00	4: 20.00
			3: 50.00	2: 20.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の目的は以下の通りである。（１）和楽器のそれぞれの基本的な奏法と、実践的な指導法を習得することができる。（２）この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。　授業形態は演習で、開講曜日は火曜日２時限だった。受講者数は、前期１４名、後期１２名だった。このうち通年での履修者は６名だった。後期の学年別の内訳は、４年生１名、３年生２名、２年生３名、１年生６名だった。　後期では、祭囃子、長唄三味線、長唄囃子、箏の実習を行った。祭囃子の締太鼓、大太鼓、当り鉦、箏は大学の楽器を使用した。長唄三味線は、教員の個人所有の三味線２挺を使用した。長唄囃子は楽器を用いずに、唱歌（しょうが）と手拍子で体験した。いずれも合奏を目的としており、楽器の準備や後片付けは受講生で協力して行うようにした。　箏については、前期は入門編、後期は応用編という位置づけで、一年間を通して発展的に学習できるようにしていた。前期では《さくらさくら》と《初夏の小川》を教材とした。後期では、《さくらさくら》の合奏、《六段の調》の初段、わらべうたを教材とした。前期の授業回数が少なかったため、後期に多くの教材に取り組むこととなった。また、受講生１２名のうち、前期から継続の学生が６名、後期から新規の学生が６名だったため、特に箏の進度にばらつきが見られた。アンケートの設問Ⅱb「授業の難易度」については、「難しい」４名、「やや難しい」３名、「適切」１名という回答だった。　感染症対策としては、以下の点に注意した。①SA教室の搬入口を開放し、送風機を回して換気するようにした。②打楽器を共有して使用する場合は、手袋を配布して、直接触れないようにした。③三味線を共有して使用する場合は、ウェットティッシュで手指を消毒させるようにした。④箏は番号を振り、毎回同じ楽器を使用させるようにした。

●　問題点

アンケートの自由記述欄に、箏の授業が独学で個人練習のようになってしまったという意見があった。しかし、箏の初歩の段階で、３週連続で休んだ学生がおり、その学生のみに個別に対応することは難しかった。　授業で習った部分については、個人での十分な復習練習をしてくるように伝えていた。しかし、練習の習慣が定着していない学生が見受けられ、練習をしてきた学生との差が出てしまっていた。

●　改善の方策

箏の《六段の調》の初段は、高校の音楽の教科書に掲載されているため、課題曲としたが、グループレッスンでは指導が行き届かず、難易度が高かった。初段の一部分のみにするなど、教材を工夫したいと思う。　感染症対策として、SA教室にもアルコール消毒液とペーパータオルを配備していただきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

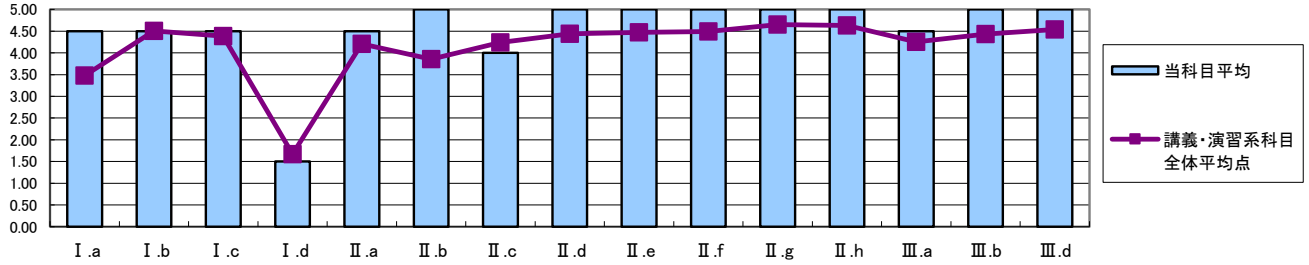
科目名	アジア音楽文化論
教員名	櫻田　素子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講学生が２名という少数だったため、個々の目的意識や専門性、その時々の状況に応じて柔軟に対応することができたため、概ね、学生の意欲を強く保ち、また、疑問点等にも十分に応える時間が取れ、理解へ至るまで丁寧に説明したり議論することができ、アンケートの結果を見ても、良好な方向へ働いていると考えられる。その一方、音楽文化に対する新しい考え方や知識を、教員から学生へ与える・投げかける、という授業姿勢が多くを占め、予習、復習という課題の提供が少なかったという点と、期末課題内容と評価の仕方を初期からより明確化することを要するということがわかった。

●　問題点

教員側は、文化への理解やとらえ方の深度を深め、また広げることを目指しているが、学生側の個々の状況によっては、そうした意識を持つことからまずスタートする段階の学生もおり、より分かりやすい目標や課題を提供することを望むのではないかと考えられる。

●　改善の方策

開講時に、授業の進め方と何を目指すのかという点と、期末課題の詳細の説明を、より丁寧に行ない、また、毎回の授業の際に、予習復習ができるような投げかけをより意識して行なうこと、以上を心掛けたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

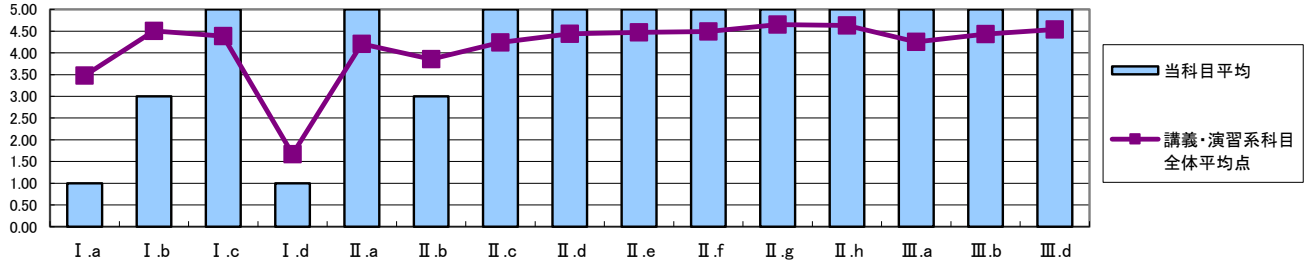
科目名	和声学(Konzertfach)2
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声学（Konzertfach／木曜日・３限目）は１・２年生合同授業になっているため、学生は同じ内容の授業（Konzertfach）を二度受講することになっているが、ここには前期授業終了後にある一年生にとって初めてのウィーン研修までにある程度のところまで授業を進める必要があり授業の進度が速くなるという背景がある。進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすくするが、深く学ぶことに関しては弱くなる。そこで学びを確かなものとするために、同じ内容の授業を二度受講するようになっている。　この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」という Konzertfach 学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることであり、このため授業は講義形式を主体とし、学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（ Konzertfach ）２・４ではこの課題の比率が高くなっている。　和声学１から４まで、それぞれの到達目標は〈和声学１：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学２：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学３：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学４：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な〝自分で考える力〟を身につけることができる〉である。　今年度の受講生は１年生１名（打楽器）、２年生２名（ピアノ）の合計3名であった。　今年度の１年生は打楽器科の学生であり、附属高校からの進学者であるため和声学習経験者ではあるものの、１年生一人で和声学習に有利な二人のピアノ科２年生との合同授業は大変であったろうと推察する。１年生が授業内容を『やや難しい』としているところ、２年生のうち一人が『易しい』としていることは、このような状況を反映しているものであろう。

●　問題点

アンケート結果には、学生がシラバスをあまり活用していない傾向が見られた。　このことからは１年生と２年生では目標が異なることが明瞭に認識されていないことが窺える。合同授業であるために、１年生は教員が考えている以上の学習成果を出さなくてはいけないと思っている可能性が考えられる。

●　改善の方策

あまりシラバスを活用していない学生が多いことにどう対応するかは前年度からの課題でもあり、授業計画については、次回授業内容の告知（受講生全員の公欠等による授業計画変更を含む）をするなど、学生がシラバスを見なくても実質活用したと同じことになるよう工夫したが、来年度については目標等についても機械を捉えて意識させるよう努める。また授業内容についても、より学生が理解しやすくなるようにテキストを改変する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

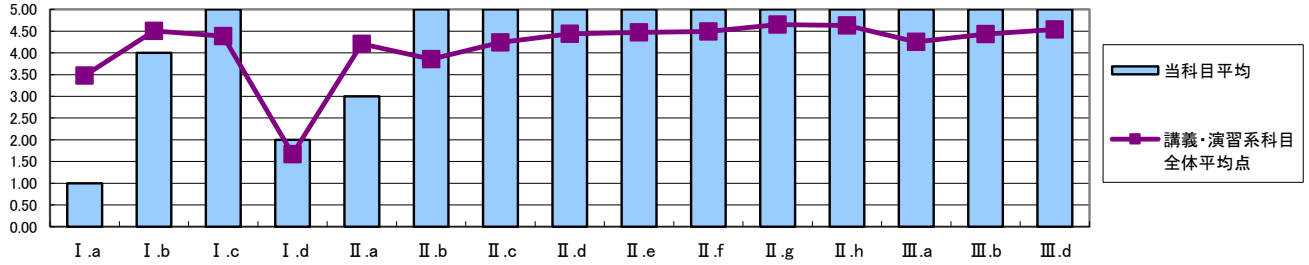
科目名	対位法(Konzertfach)B
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

３年生で学ぶ対位法（Konzertfach／木曜日・３限目）の学習目的は、和声学同様、自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようにすることであるが、対位法Bでは、〈対位法Aで学んだ知識を確かなものにする〉とともに、１・２年時に学んだ〈和声学の知識との統合ができる〉をその目的として掲げている。　今年度の受講生は打楽器の学生１名のみであり、これは実質個人授業であった。　Ⅱa「この授業はシラバスに沿って行われていた」の設問に対する回答が「どちらとも言えない」、Ⅱb「この授業の難易度はどうでしたか」の設問に対する回答が「適切」であったのは、教員が自分のペースに合わせて授業の進行を調整していた事を受講生が認識していたことの現れであり、ここでは自分だけのために行われた授業に対して低い評価をつけることが憚られる心理が働いたことが考えられるため、このアンケート結果の授業に対する高評価をそのまま受け止めることはできない。　このアンケート結果で授業の参考にできる回答は多くないが、Ⅰa「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した」に対する「全くそう思わない」という回答、Ⅲc「この授業を履修して自分のためになったことはなんですが」の回答として「問題発見・解決能力」にチェックが入っていなかった点が気になるところである。

●　問題点

学生が気を遣ってこの授業の評価を高くつけていたのであれば、ここで「問題発見・解決能力」にチェックが入っていなかった」ことは、授業の最終目的である「独力で楽曲分析・解釈を行えるようにする」の「独力で行えるようにする」への意識が低かったことを意味する。

●　改善の方策

楽曲分析・解釈もそうではあるが、自分の音楽は自分自身で気づいていくものであることを常に意識させるとともに、課題実習指導においてもこの点に留意した指導を心がける必要があると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

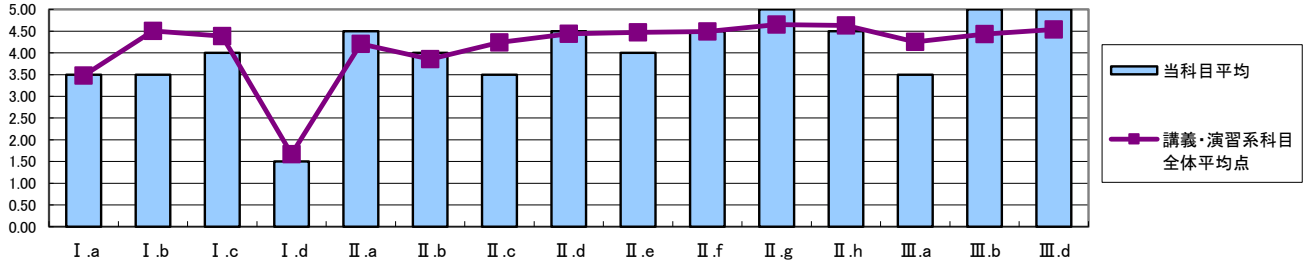
科目名	ピアノ伴奏法ⅡB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 50.00
			3: 50.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

前期の伴奏法に続いて後期はオーケストラの代わりをするピアノ伴奏法を学んだ。オペラ、オペレッタ、ミュージカルなど普段接する機会もない物なので、DVDなども利用した。受講生は3名。2名は休みが多く練習もして来ない。この授業は課題が多く決められた課題をクリア出来たのは１名のみ。しかし最後の試演会では均等に配分して伴奏したのでクリアするのが大変だったと思う。

●　問題点

問題点は休みが多いこと、練習をして来ないこと。一回一回内容が違い繰り返しが無いので休むと致命的。又譜読みの能力と弾く技術が足りないので試演会まで持っていくのは大変だった。

●　改善の方策

この授業は全員が同じ課題を必ず弾いて一回一回進めているが、個人個人の能力に合わせて曲を選んだ方が良いかもしれない。試演会のあり方も均等に弾かせるのでなく、能力と勤勉さに合わせて弾かせるように検討して行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

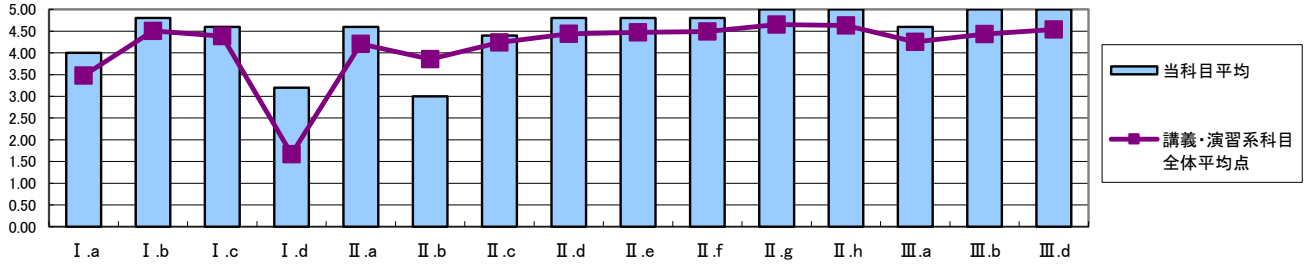
科目名	ピアノアンサンブルB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 0.00
			3: 40.00	2: 0.00
			1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

毎回授業の開始時と終了時にシラバスを用いて解説を行っていたが、予習・復習で活用してもらえるような説明を工夫する。授業の難易度、授業の進め方については受講生の理解度を常に把握しながら、到達目標を達成できるよう、臨機応変に対応して行く。

●　問題点

問題点は各自の能力の差。譜読みの速さ弾く技術等にペアの間で差があり、能力のある方にもっと課題を沢山弾き増やして欲しかった。しかし生徒は現状に満足しているようである。

●　改善の方策

出来ればもっと沢山の曲目をやりたいし、もっと高度な技術を必要とする大曲にも取り組んでほしい。ペアの技術が同程度となるようにさせたいが、始めて出会う生徒の能力を見極めることは難しい。又学年の違いや性格の合う合わないなどあり、ペアを決めるのは大変だ。来年度はそこの問題点を話して理解して貰ってペアを決めたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

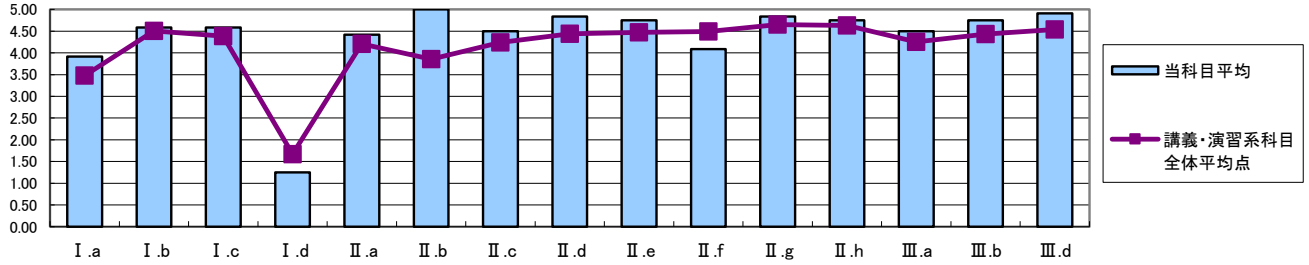
科目名	音楽心理学B
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.92	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.58	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.42	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 75.00 / 3: 83.33 / 2: 25.00 / 1: 16.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.91	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業では、音楽を使用した心理学実験の解説及び、自分の性格と音楽の関連性を考察することが目的であった。受講者数は15人。一部を除き出席は良好であった。小さな教室で毎回12人程度の出席者で講義が行われた。アンケートの集計結果は概ね良好なものであった。特に「この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。」という設問で高い評価を得られたことから、満足度が高いものになっていたと思われる。

●　問題点

小さな教室で少人数での講義だったことから、学生一人ひとりの顔を見て授業を進めることができた。おそらくそれが功を奏したのか、学生の理解度をチェックしつつ、授業を展開することができた。

●　改善の方策

講義の中で様々な実習を取り入れて、一方的に話を聞くだけではない時間を設けることができた。しかし、コロナ禍ということで、双方向的な対話などができなかったので、今年度は引き続きコロナ禍ではあるが、紙のやり取りがなく、ソーシャルディスタンスを保った上での双方向性を実現できるものを用意したいと思っている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

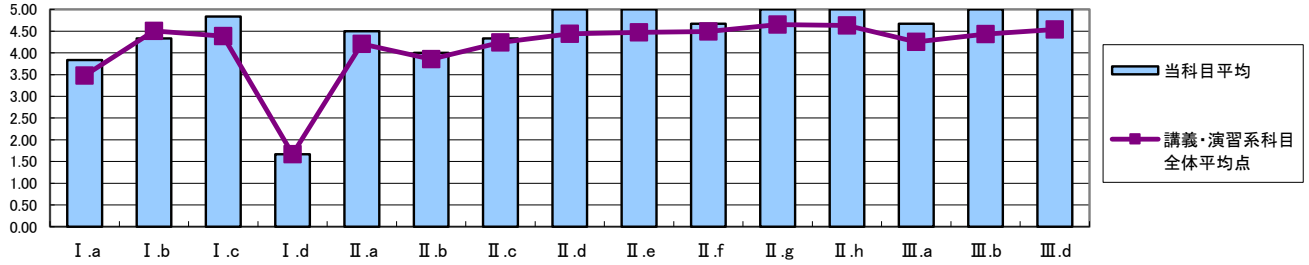
科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 83.33
			3: 83.33	2: 33.33
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業では初めて心理学に接する学生向けにできるだけわかりやすく臨床心理学、発達心理学、生理心理学、教育心理学といった内容を解説することが目的だった。基本的に講義形式である。受講者は7人で、おおむね良好な出席率だった。アンケート結果は良好なものであった。少人数ということもあって、一人ひとりの反応を見て、理解できているかどうか確認しながら授業を進めることができたからであろうと思う。

●　問題点

昨年度はたまたま少人数で、学生と教員との心理的距離が近い中で授業を行うことができていたと思う。ただし、授業の難易度に関しては再考の余地がある。「難しい」「やや難しい」と感じている学生もいるので、この点を修正する必要があるだろう。

●　改善の方策

学生の理解度をチェックするのは例年実施していた授業終わりの小レポートが適している。昨年度はコロナ禍ということもあって実施できなかったが、今年度はコロナ禍でも実施できる手法を考案したいと思っている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

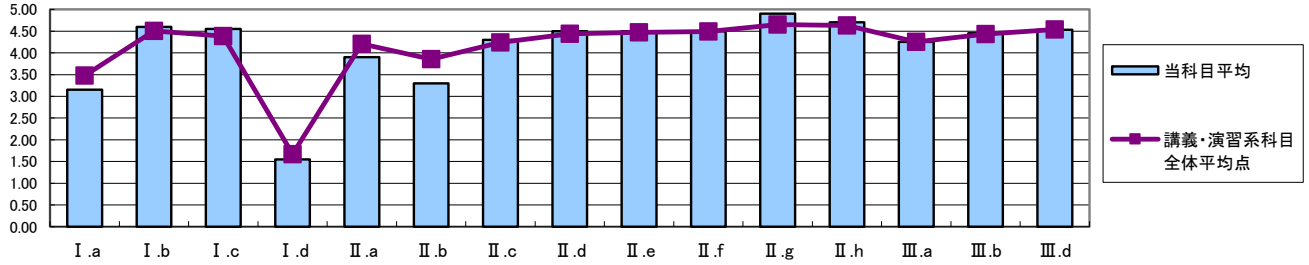
科目名	音楽科教材研究B
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	20
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.15	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.90	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.30	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.90	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00	4: 45.00 / 3: 20.00 / 2: 25.00 / 1: 20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.53	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１．シラバスにおける科目の目的及び内容は以下の通りである。　本科目は、次年度の教育実習を見すえて、教科書掲載の楽曲に基づく教材研究を通して、楽曲の教材性を生かした音楽科授業構成力を身につけることを目標としています。・教材研究の方法を学修します。・教材研究により明らかになった教材性を生かした指導構成の方法を学修します。・指導構成に基づいて学習指導案を作成し、模擬授業を行います。２．授業形態は教員による講義及び学生による授業演習と討議による。　３．受講者数は20名４．開講曜日は水曜日第２限５．受講者の状況説明　授業への取り組みは関心・意欲共に大変良好であった。学力獲得状況も概ね満足のゆくものであることが授業実践の状況等から評価可能である。６．集計結果の分析　概ね、科目平均と同等の集計結果であるが、とりわけ回答項目のⅢa～dについては大学における学修として重要と考えており、なかでもｃ項目は教員として気になる項目となっている。その意味でC-4／ 5に対する学生の自己評価に幾分、安堵している。　いっぽうで、自由記述に見られるようにパワーポイントの色調も問題、机間指導の仕方が適切ではなかったことについては、まさに次項の《学生の意識とのずれ》にも関わり率直に反省すべき点と考える。

●　問題点

集計表のデータのうち最も気になるのが予習・復習の時間の確保がほとんど成されていない点である。自らが担当する科目のうち、最もそれらが必要なだけに問題点と考える。自由記述における机間指導の問題については自らが公平にと意識していたにも関わらず学生の受け止め方は異なっているという点で非常に重く受け止めている。また、「吹奏楽好き」と受け止められていることについても意外であり、これが授業内容の偏りにまで印象付けられていなかったことが幸いである。

●　改善の方策

予習復習に関しては、明確な課題提示と自宅振り返り用のワークシートの作成を考えたい。机間指導については改めて注意し、声がけも頻繁に行いたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

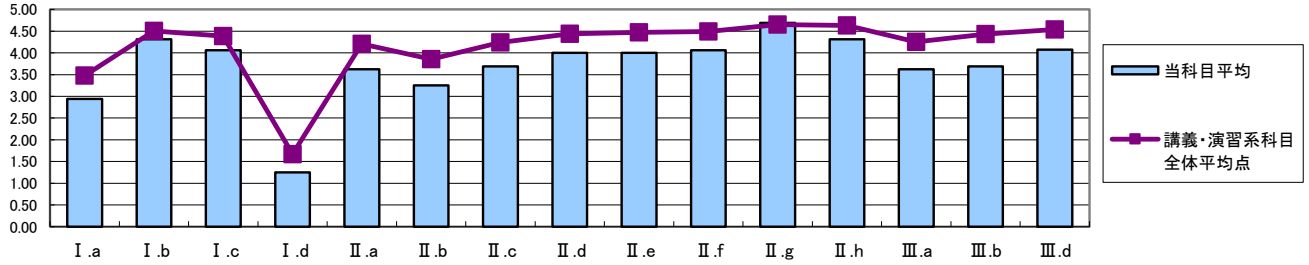
科目名	合唱ⅢBa歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む）
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.94	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.06	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.63	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.69	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.06	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.31	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.63	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.69	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71	4: 21.43
			3: 7.14	2: 14.29
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.07	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１．シラバスにおける本科目の目的及び内容は以下の通りである。　本科目では音楽科授業での合唱指導を想定して、生徒の意欲と思考力、判断力、表現力を高める学習活動のあり方を学修します。・合唱指導における発声練習、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、集団を対象とする指導ならではの課題について理解します。また、その対応策について、討議を通して理解を深めていきます。・創意工夫段階における合唱指導を想定し、生徒の主体性を引き出すための指導法について学修します。・日本の伝統歌唱について講義と演習を通して学びます。２．授業形態は教員による講義及び、学生による指導演習と討議としている。３．開講曜日は水曜日　第３限４．受講者数は16名５．学生の授業への取り組みは関心及び意欲について良好であった。ただし、新型コロナ感染症の広がりによりシラバスに記載されている内容の変更をせざるをえなくなり、一度も歌声を発することのない合唱と名の付く授業となった。　具体的には合唱指導における《指揮》に焦点をあて、合唱曲及び、器楽曲（『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』（W.A.Mozart）のピアノ4手用編曲版）の指揮の方法を通して、楽曲の指導のまとめ方を考察することとした。　器楽曲では違和感がないものの声のないピアノ伴奏のみの合唱曲については大きな違和感があり、学生には物足りなさ、もしくは不満であったと思われる。　ただし、ワクチン、特効薬のないなかでも合唱活動に踏み切ることはできず、置かれた状況の中では学生の協力もあり《指揮》というものの理解と演習については一定の学力が身についたと考えている。

●　問題点

他科目同様、パワーポイントの色調についての指摘があり、色を多彩にして分かりやすくという当方の思いが全く実情を理解していないことが分かった。質問項目Ⅲa～ｄについては教員にとり大変関心のある項目であるが、C-5に関しては、ある程度の学修効果として評価できるものの、例えばⅢb、cにおける《1》評価のそれぞれ1名ずつについては反省点そのものになるが、何をもって《1》評価であるのか、その理由を今後の改善のために把握したいと思う。

●　改善の方策

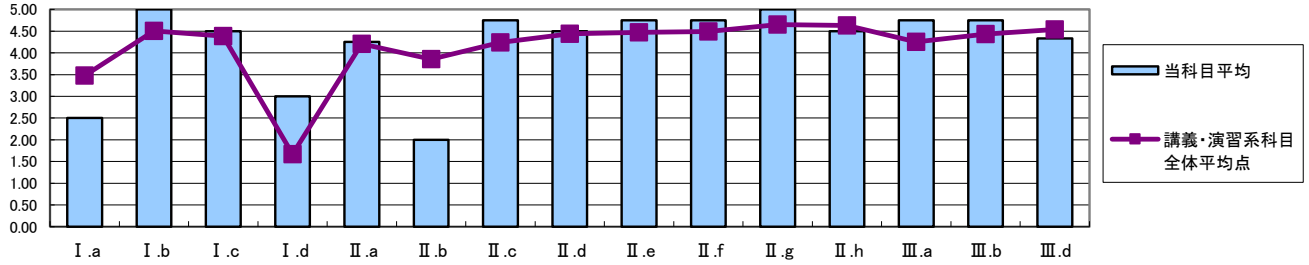
他科目平均に比して、おしなべて低い集計結果については重く受け止めている。合唱活動が声を出して自然に行えれば学生の意識や印象が改善されるのかどうか定かではないが、いずれにせよ、学生がより《学ぶことができた》それまでに知らなかったことが理解できた、それまでに出来なかったことが出来るようになったという内容が保障できるよう工夫をし、より意味のある授業内容としたい。それにつけても新型コロナ感染症の終息しだいであり、状況によっては残念ながら今年度と同様の展開にせざるをえない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢBb歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む）	職名	08. 講師	履修者数	4
教員名	山崎　正彦			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 100.00 / 3: 66.67 / 2: 66.67 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１．本科目の目的及び内容は以下の通りである。　本科目では音楽科授業での合唱指導を想定して、生徒の意欲と思考力、判断力、表現力を高める学習活動のあり方を学修します。・合唱指導における発声練習、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、集団を対象とする指導ならではの課題について理解します。また、その対応策について、討議を通して理解を深めていきます。・創意工夫段階における合唱指導を想定し、生徒の主体性を引き出すための指導法について学修します。・日本の伝統歌唱について講義と演習を通して学びます。　２．授業形態は教員による講義及び、学生の模擬指導と討議としている。３．開講曜日は水曜日　第3限４．受講者数は４名５．授業に取り組む態度は関心、意欲共に非常に高く良好であった。　新型コロナ感染症の広がりにより当初予定していた合唱活動については、全く歌声のない合唱活動としている。そのため《指揮》というものに焦点化し、ピアノ伴奏のみの合唱曲と器楽曲（『アイネ・クライネ・ナハトムジーク（W.A.Mozart)ピアノ4手編曲版）の指揮の方法を通して楽曲の指導のまとめ方を習得するという内容とした。とりわけ、後者については器楽曲ということもあり違和感なく取り組むことが出来ていたと思われるが、歌のない合唱については学生にとっては物足りず、不満であったと思われる。

●　問題点

質問項目のⅢa～dについては教員にとり、とりわけ関心のあるものであり、本科目においてはc-4についての回答率を見ると、一定の学修は成しえたのではないかと評価している。ただ、いずれにしても新型コロナ感染症の終息を見ない限り、本科目が直面する課題である「歌えない」という実情は改善できず、自由記述に「ただただ歌いたい」という学生の痛切なまでの一言が次年度の自由記述からは消えるような状況にまで改善されることを祈るばかりである。当方としては「やはり歌いたかったのだな」と、改めて思い知った。

●　改善の方策

述べたように新型コロナ感染症の終息が見えてこない限り、やはり教室内で歌うことは危険と考えている。中途半場は結果的にすべてを無効にしてしまうことになるからである。とはいえ、学生の学習意欲と科目の内容への期待を裏切ることはできず、感染状況に応じて、今年度実施した学習内容をベースにしながらも、さらに討議の時間を増やし、他者の模擬指導を他人事としないで常に自分のこととしてとらえる等の工夫をワークシートを含めて考えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

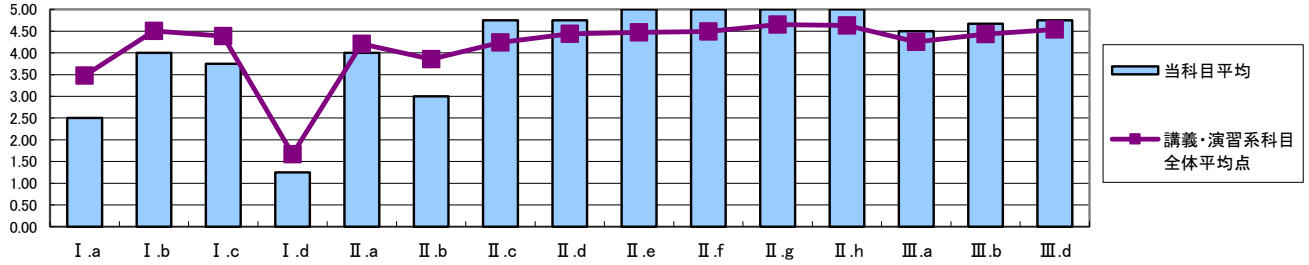
科目名	合唱ⅣBa
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 0.00
			3: 0.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１．本科目の目的及び、内容は以下の通りである。　本科目では音楽科授業での合唱指導を想定して、生徒の意欲と思考力、判断力、表現力を高める学習活動のあり方を学修します。・合唱指導における発声練習、及び読譜指導の方法を学ぶとともに、集団を対象とする指導ならではの課題について理解します。また、その対応策について、討議を通して理解を深めていきます。・創意工夫段階における合唱指導を想定し、生徒の主体性を引き出すための指導法について学修します。・日本の伝統歌唱について講義と演習を通して学びます。　２．授業形態は教員による講義及び、学生の模擬指導と討議としている。３．受講者は4名４．開講曜日は水曜日　第3限　５．受講者の授業態度は教職実践ということもあり関心、意欲共に大変に高く常にノートにメモを取りながら受講していた。集計結果からも、それを読み取ることが可能であり、総じて4名の学習効果に寄与できたと評価している。彼らにとり3年時における授業内容との重複となるはずだったが、新型コロナ感染症の広がりにより歌のない伴奏のみの合唱及び、器楽曲（『アイネ・クライネ・ナハトムジーク　(W.A.Mozrt)ピアノ４手編曲用）の《指揮》の方法に特化した授業内容は彼らにとっては幸いとなったと考える。とりわけ、器楽曲の指揮は教員となった際に吹奏楽の指導等で直面する必須の技能でもあり、教壇に立つ者にとり有効な学修内容であったと考えている。

●　問題点

予習と復習の時間がほぼ確保できていない現実が明らかになっている。この点は自宅での振り返り用ワークシート等の配付も必要と考えている。

●　改善の方策

述べたように、授業を振り返るワークシートを宿題として、自らの振り返りをふまえて次時の授業に備える等の工夫を考えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

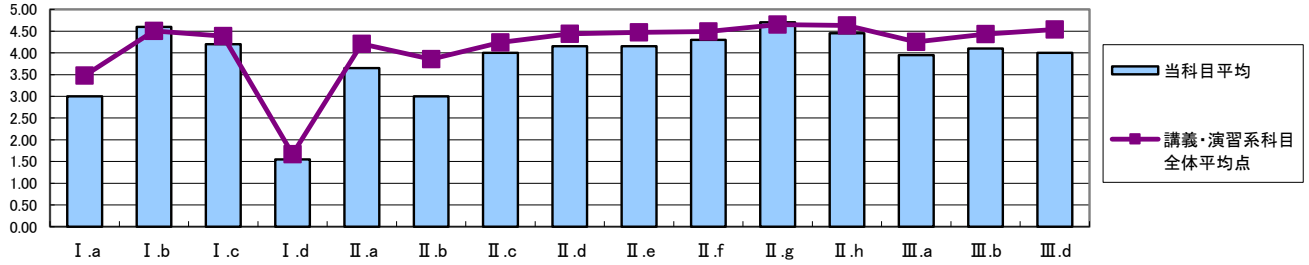
科目名	合奏B(和楽器を含む)
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.55	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.65	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.15	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.15	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.30	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.95	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.10	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33	4: 38.89
			3: 22.22	2: 16.67
			1: 11.11	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１．本科目の目的及び内容は以下の通りである。・教育現場において一般的に扱われているリコーダー（ソプラノ・アルト）の奏法の基本を理解するとともに、その演奏に習熟し、将来教壇に立つ際に不足のない技能や表現力を身につけます。リコーダー演奏には技能的な課題が生じることが多く、それが生徒の意欲の喪失の原因にもなりますが、独奏やアンサンブルを通してリコーダー独自の繊細で美しい音色を実感し、生徒にリコーダーのよさを伝えることのできる指導の進め方を究明します。・和楽器について学び、基本的な奏法を身につけます。　　２．授業形態は教員の講義としている。３．開講曜日は水曜日　第4限４．受講者は20名５．受講者の授業態度そのものは大変に良好であった。それに反して、授業に対する評価は各集計、自由記述の双方について厳しいものとなっている。新型コロナ感染症の広がりにより予定していたリコーダー、ギター、アンサンブルのすべてが不可能となり、それが学生の未消化、不満となって表れたものと評価している。学生の自由記述にもある通り、「やることがないのになんとか90分をもたせている感が毎回あって…」は事実でもあった。とはいえ、学生への了解に基づき、器楽曲を中心として、それを教材とする音楽鑑賞指導の方法についての学習と明確に定めての授業方針としてからは毎回、「やることがないのに」という状況ではなかったと考えており、この点、自由記述は一部ではあるが次項の「学生との意識のずれ」に関わる問題と理解している。やはり、ある意味で当方が設定した音楽鑑賞指導方法の講義にも無理があったのだと考えるべきであろう。新型コロナ感染症が終息に向かわない限り、初めて楽器を手にする者も多いアンサンブルには、やはり危険が伴い、今年度と同じ状況が再現することは十分にありうる。また、同様の思いを学生が抱くと思うと心苦しいが最善は尽くしたい。今年度も「やることがない」という次元ではなく「そうであるならば、これは扱っておこう」という考えから学習内容をその都度、決定していたので、そのような基本は押さえておきたい。

●　問題点

Ⅲa～dの質問項目に関して、本授業の意味を全く感じていない学生が2名存在していることに、やはりという思いとともに、そこまでか…という思いが混在している。新型コロナ感染症とはいえ、学ぶ権利を有する学生にとっては、それなりの判断基準があったものと考える。状況の劇的な改善が見込めない限り、この状況が再現する可能性もあり、対応策を考えたい。

●　改善の方策

仮に楽器に触れることのできない環境が続くようであるならば、楽器の理解のための映像を編集するなど学習内容を考え、少しでも科目内容に近づくよう工夫を試みたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

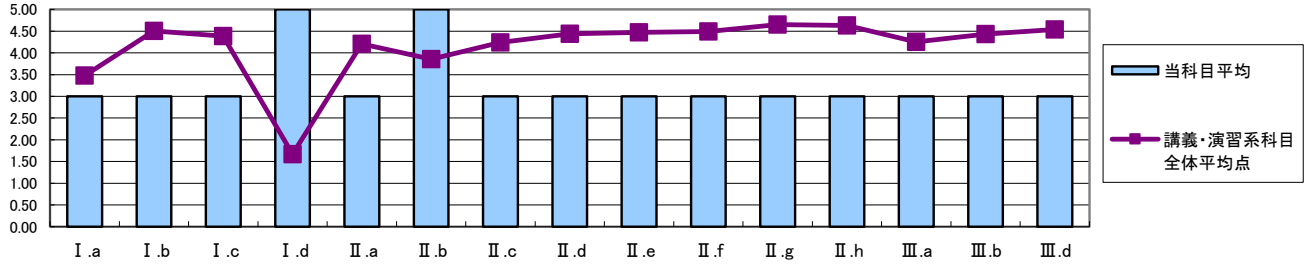
科目名	ソフトウェア演習ⅢB
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　ソフトウェアを活用する演習の最終形として「自分がイメージするコンテンツを創作する、実現するには」に向けての企画立案から完成までを学ぶ。ソフトウェア活用を実践的に修得し、自らの創作表現活動の拡大を目標とする。　履修生自らが選択した制作テーマに必要なソフトウェアスキルの習得、進行スケジュール設計と管理力（タイムラインの明示・作業内容の具体化）を養う。＜内容＞　ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱで学んできたことの最終形として各自掘り下げたいテーマを絞り、作品にする。制作物の企画（立案・コンセプトの明示・スケジュールの設計）、及び修正を行い、制作を進める。中間発表・最終発表において、プレゼンテーションを行う。＜状況説明と分析＞　火曜日３時限、履修生は４年生１名であった。教室内のWindowsPC、また学生本人のコンピュータを用いて演習を行った。制作物として初めに計画した内容は「映像に合わせた楽曲編曲をし、演奏者に依頼して映像を撮る」というもので、難易度の高いものであった。作業工程は「映像編集」「映像の長さ・内容に合わせた編曲」「演奏依頼」「撮影」と内容が多く、当学生は自宅での作業も含め、熱心に進めていたと考える。しかし、現実的に「演奏依頼」「撮影」というところまでは、時間的にも内容的にも実現は難しいという見通しとなり、制作物の計画変更となった。生演奏や演奏の配信の企画に興味のある学生であったため、制作内容は「演奏撮影の企画」「撮影シュミレーション」へ変更し、また、これらのコンテンツを含むポートフォリオを作成した。進行の遅れや計画の変更が度重なり、モチベーションを保つことが困難なこともあったが、最後まで試行錯誤を繰り返して制作に臨んでいた。

●　問題点

選択テーマの幅が広く、時間的にも内容も当初立てた計画どおりに進まないことがかなり多くあった。自由テーマで企画立案・スケジューリングから行うというシラバス内容ではあるが、教員側で計画進行が難しいと感じた場合には、適切な時期に修正に導く必要があった。

●　改善の方策

学生自身で企画・スケジューリングをしているため、その修正を教員側から促すことが大変難しかったが、こうした場合も、納得できるよう修正の必要性を明示し、「達成できなかった」ではなく「修正変更して到達できた」と感じられるようにしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

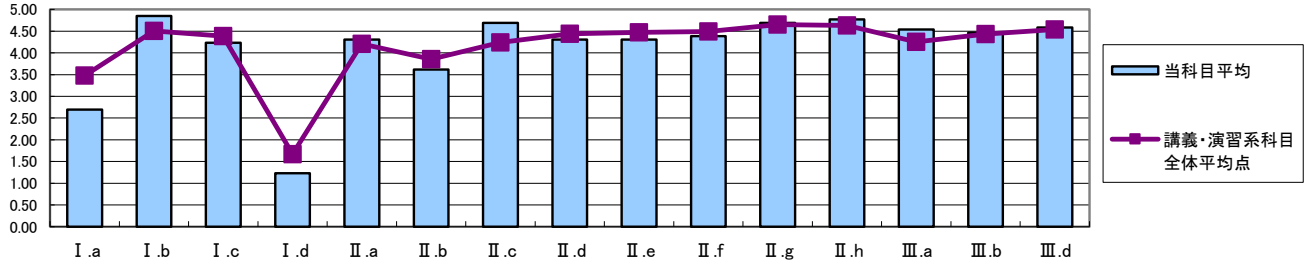
科目名	和声学4a
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.69	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.85	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.23	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.23	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.31	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.62	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.69	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.31	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.54	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.46	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 92.31 / 4: 0.00 / 3: 46.15 / 2: 30.77 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声学二年目、2クラスの内の上のクラス。テキストとプリントを使い、講義と課題実習の組み合わせで進めている。今年度はコロナ禍という特殊な状況であったため、課題実習のポイントとアドバイスを授業中に説明するだけでなく、提出課題を増やし、ポイントとアドバイスを直接書き込んで記憶に残るよう努めた。着実に力を伸ばしていった学生が多く、よく頑張っていたと思う。授業前は、早く教室を開け、板書を済ませ、質問に来る学生らに対応できるように心掛けた。

●　問題点

欠席を重ねる学生はモチベーションが下がりやすいので、どう指導していくかが大事である。

●　改善の方策

予習復習の重要性をもっと強調していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

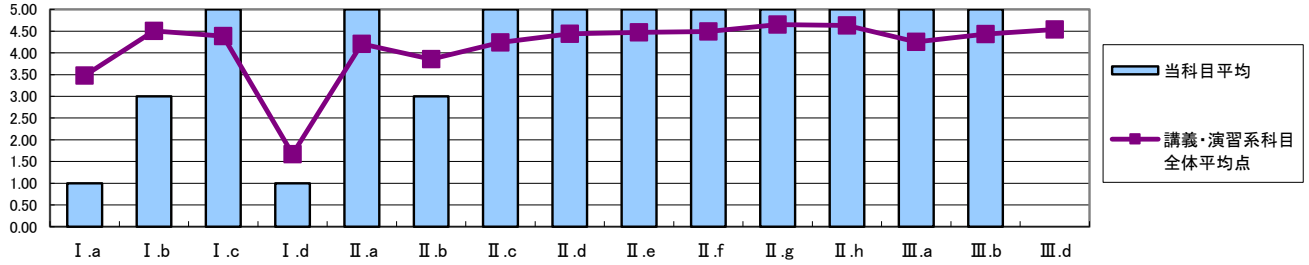
科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

Konzertfachコースの一年生のための授業である。今年は学生は1人だけである。コロナ禍という特殊な状況の今年度ほど、1人であるという事が学生にとって不安だった事はなかったのではないだろうか。知識の積み重ねと楽曲分析、イタリア語とドイツ語の音楽用語の小テスト等を実施している。ユニークで新しい発見や解釈、そういう感性を大事に育てていきたいと思っている。

●　問題点

50分という短い時間の中で、どう授業をまとめていくか。

●　改善の方策

中身の濃い授業を50分という短さでどこまで出来るか、更に工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

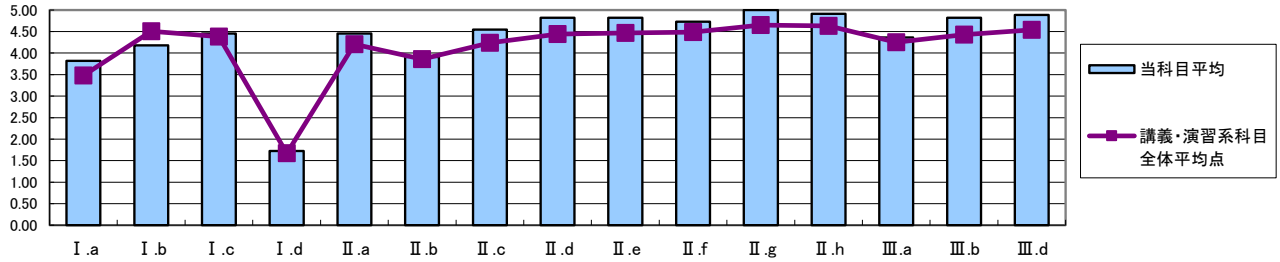
科目名	音楽文化論B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	12
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.82	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.18	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.73	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.45	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.82	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 27.27 / 3: 54.55 / 2: 18.18 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



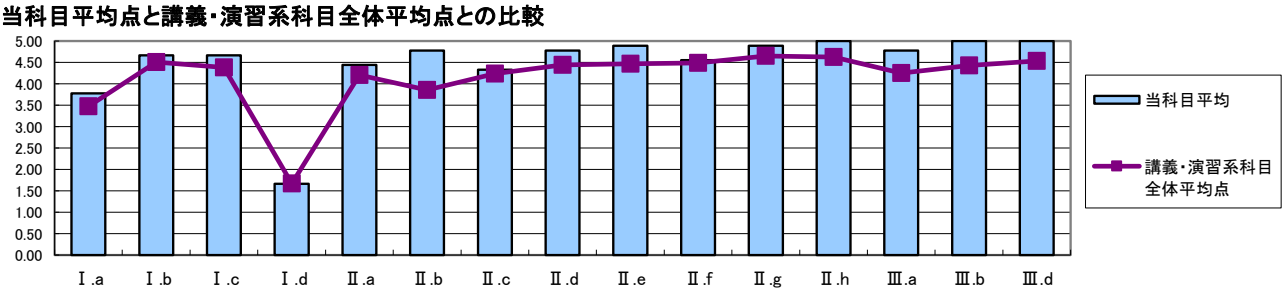
科目名	作品研究〔鍵盤〕B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	13
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.44	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.78	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.78	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78 / 4: 33.33 / 3: 55.56 / 2: 22.22 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

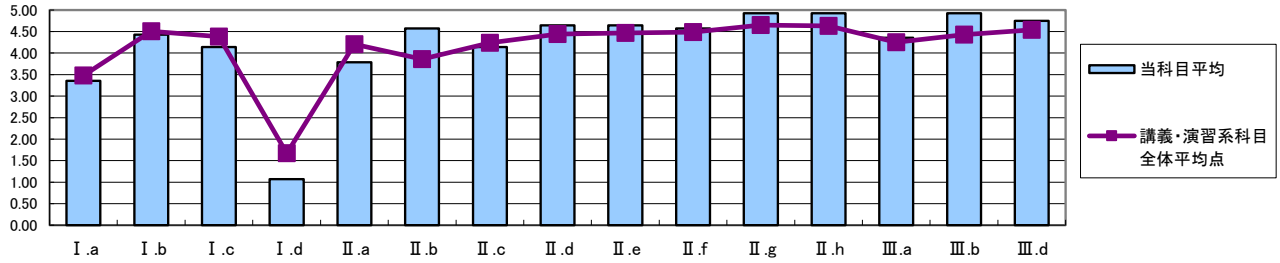
科目名	音楽史B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	29
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.36	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.79	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.57	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.93	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 64.29 / 3: 57.14 / 2: 21.43 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



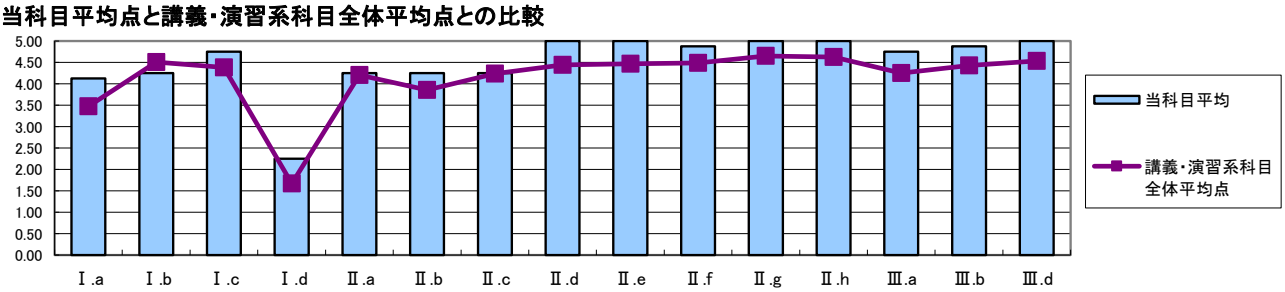
科目名	作品研究〔管弦楽〕B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	13
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.13	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.88	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 100.00 / 3: 25.00 / 2: 12.50 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

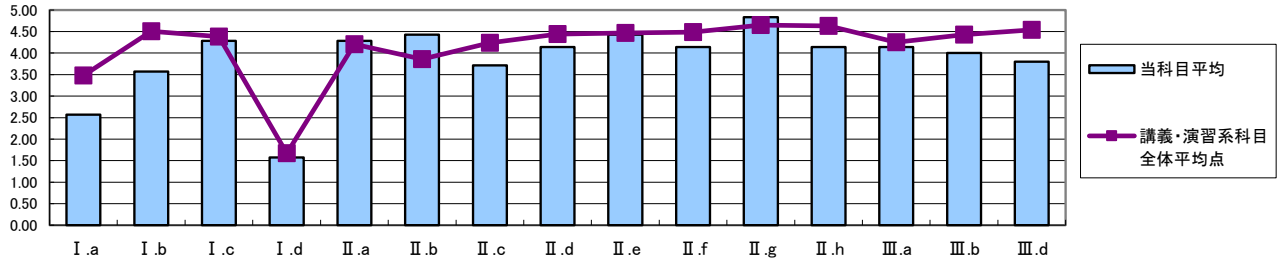
科目名	P.A.C.S.4
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.57	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.57	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.71	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.14	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 42.86 / 3: 28.57 / 2: 14.29 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.80	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



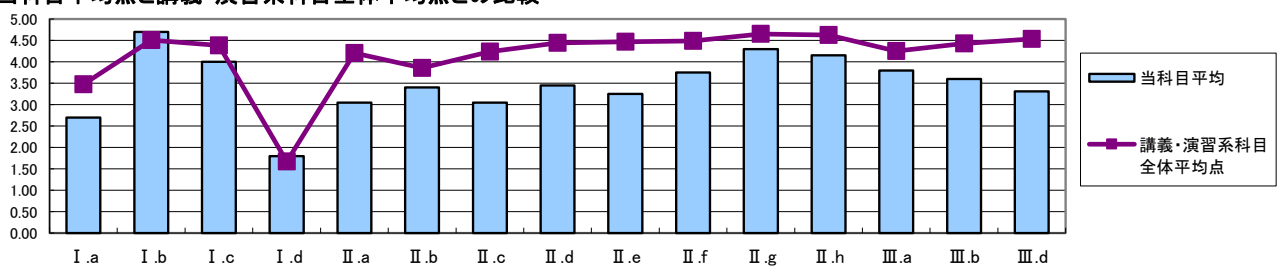
科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ・ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅠ
教員名	浅野　高瑛

職名	03. 特任教授

履修者数	24
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.70	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.70	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.05	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.05	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.45	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.15	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.60	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 46.67 / 3: 26.67 / 2: 40.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.31	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

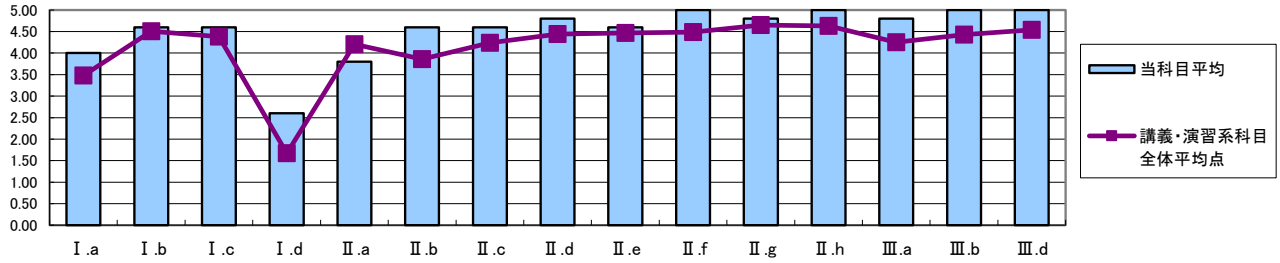
科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅡ
教員名	浅野　高瑛

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 40.00 / 2: 20.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



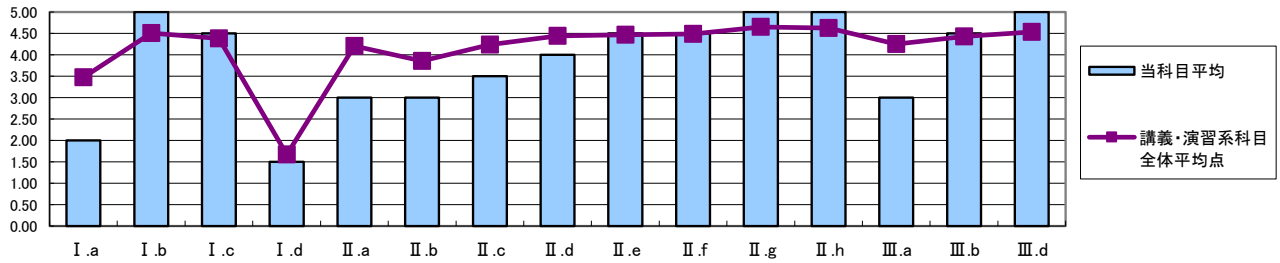
科目名	ｵｰｹｽﾄﾗ･ｳｲﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗのための合奏ﾍﾞｰｼｯｸⅢ
教員名	浅野　高瑛

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

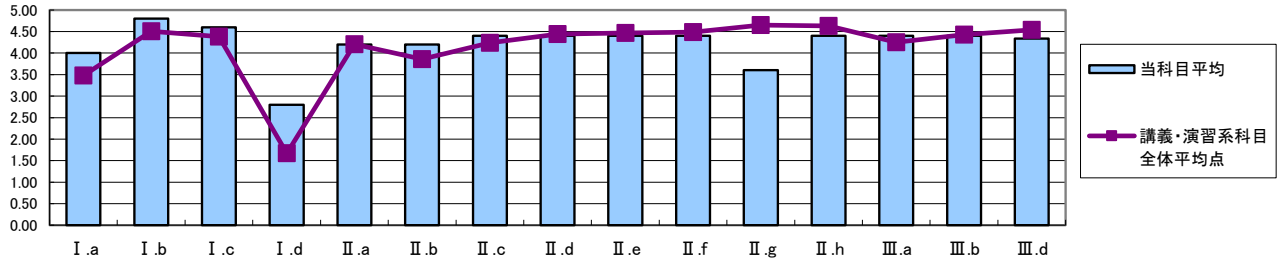


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰﾐｭｰｼﾞｯｸB〔作曲法・編曲法を含む〕	職名	03. 特任教授	履修者数	8
教員名	荻久保　和明			回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.80	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 40.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

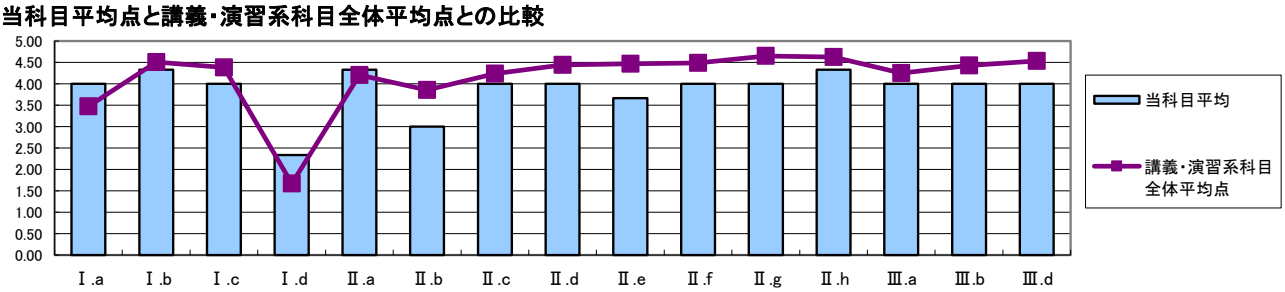
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB	職名	03. 特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷　宏美			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 66.67 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

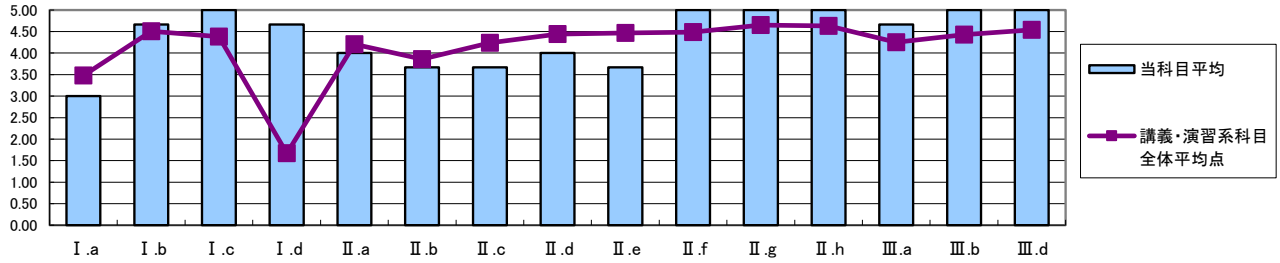
科目名	室内薬Ⅰ〔異種薬器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 0.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



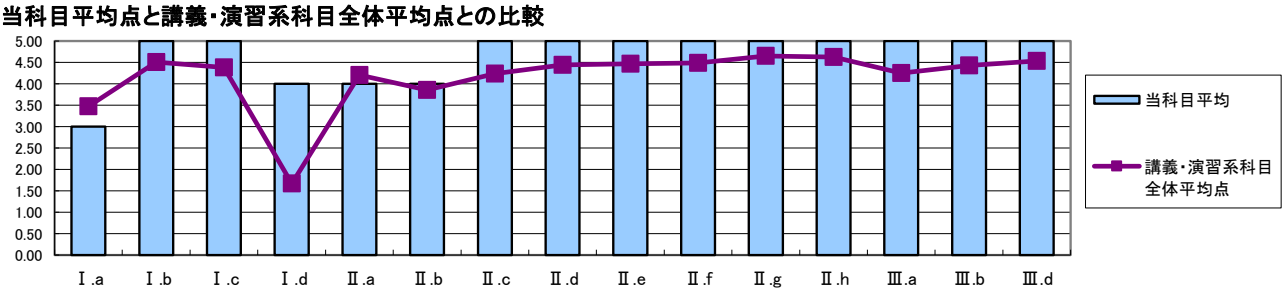
科目名	室内薬Ⅱ〔異種薬器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

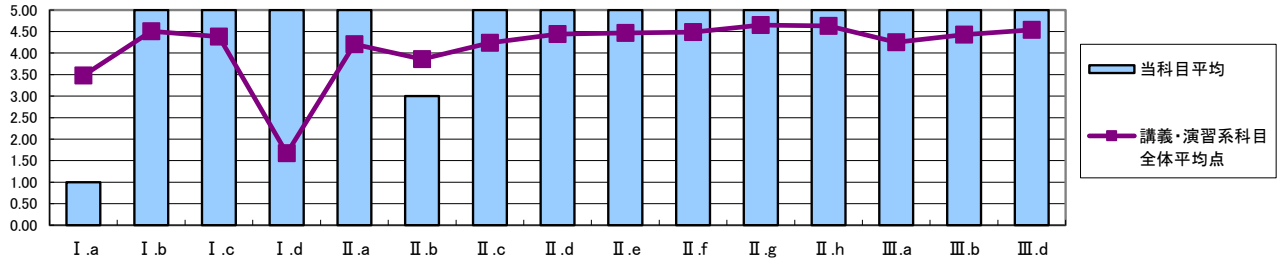
科目名	室内薬Ⅲ〔異種薬器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



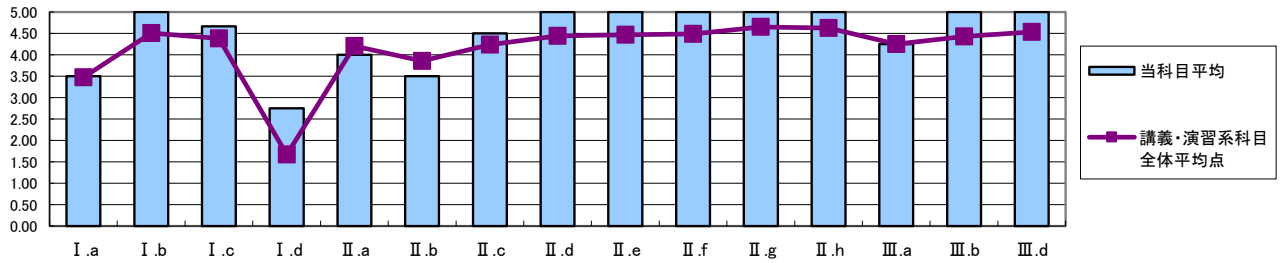
科目名	室内薬Ⅰ〔異種薬器〕f
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 25.00 / 2: 75.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

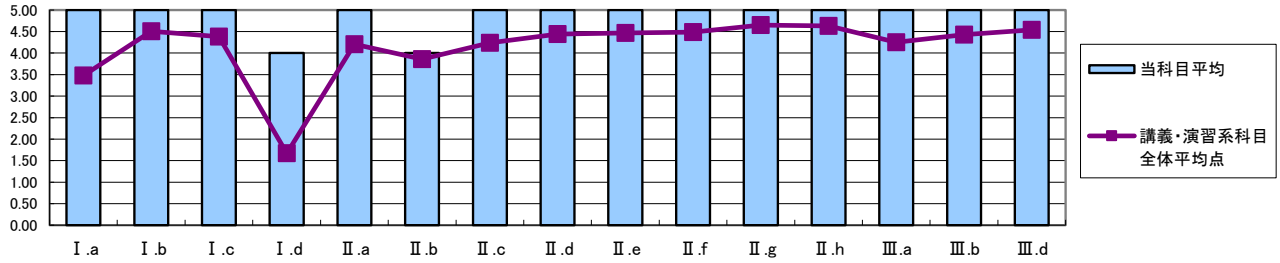
科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕f
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



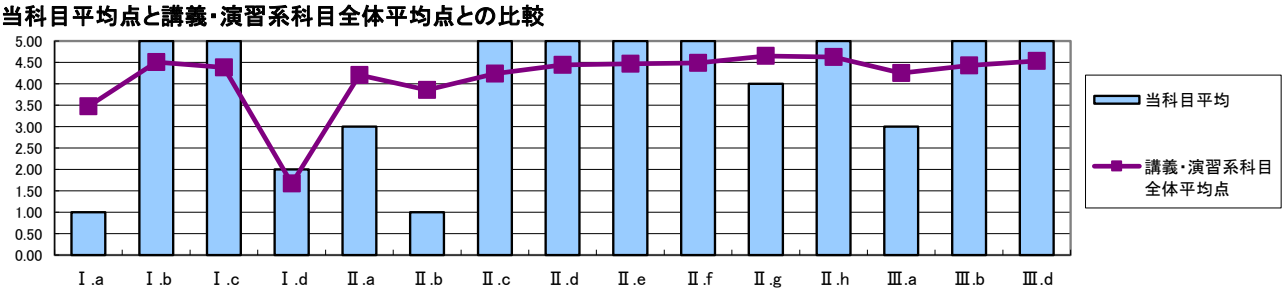
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕f
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

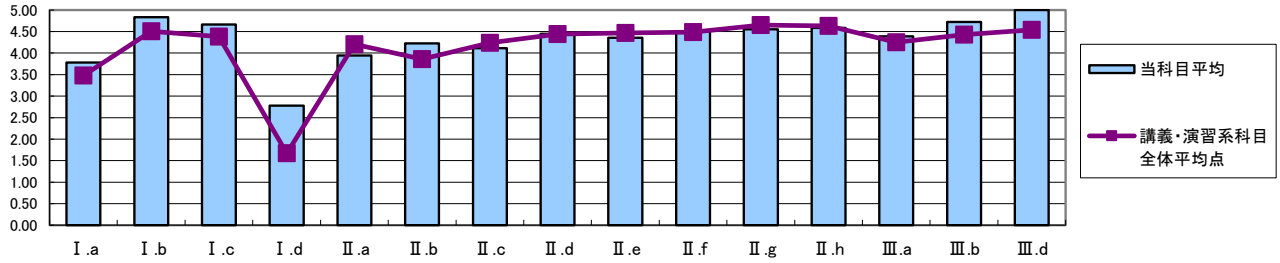
科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	18
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.78	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.94	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.22	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.35	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.39	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.72	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 37.50 / 3: 37.50 / 2: 25.00 / 1: 6.25	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



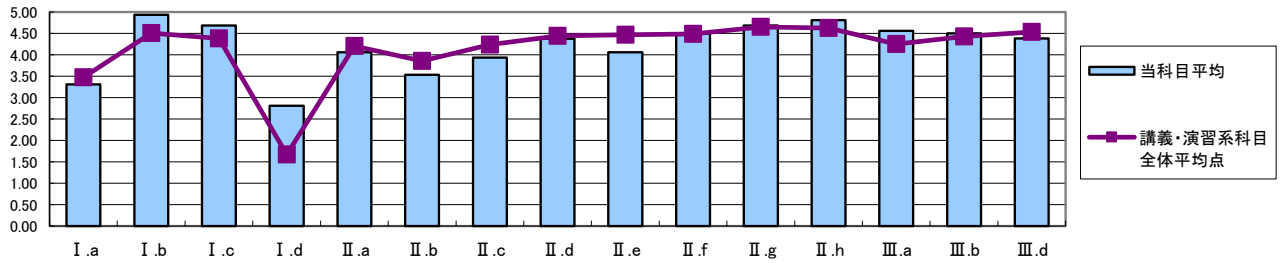
科目名	ウインドオーケストラⅡＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	18
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.94	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.69	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.81	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.06	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.53	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.94	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.06	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.81	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.56	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 73.33 / 4: 20.00 / 3: 33.33 / 2: 33.33 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

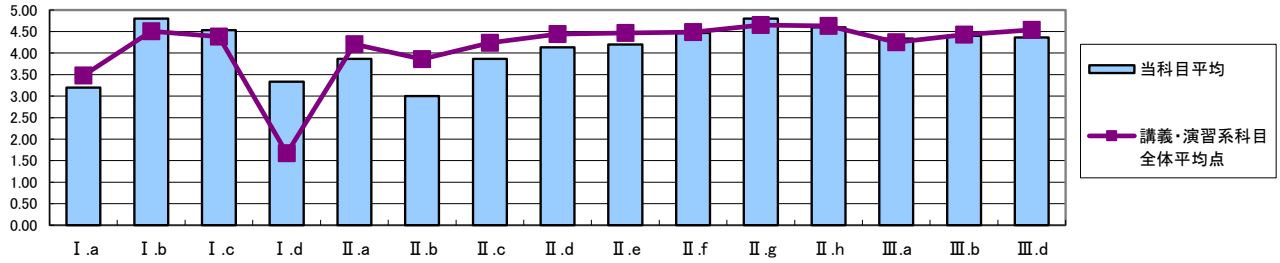
科目名	ウインドオーケストラⅢB
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	16
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.87	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.87	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.13	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 58.33 / 4: 58.33 / 3: 50.00 / 2: 58.33 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.36	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



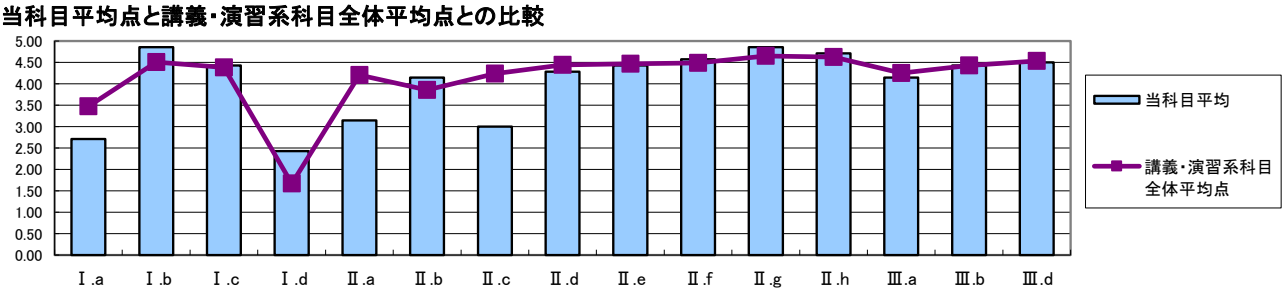
科目名	ウインドオーケストラⅣB
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	13
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.43	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.14	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 16.67 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

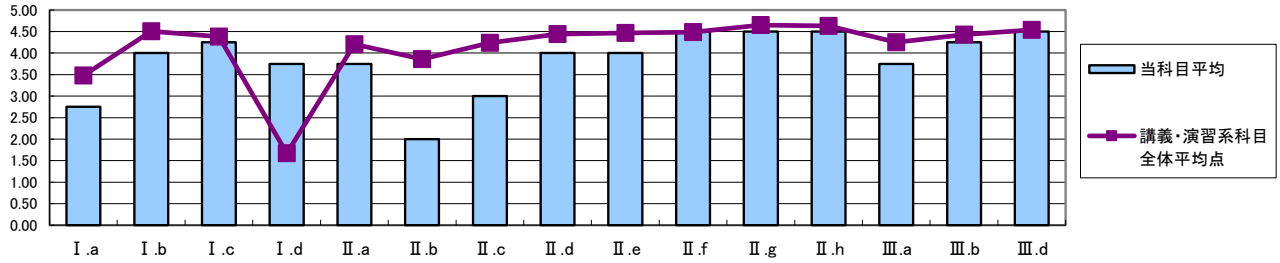
科目名	オペラ研究ＩＢ
教員名	松本　重孝

職名	05. 特任准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.75	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 100.00 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



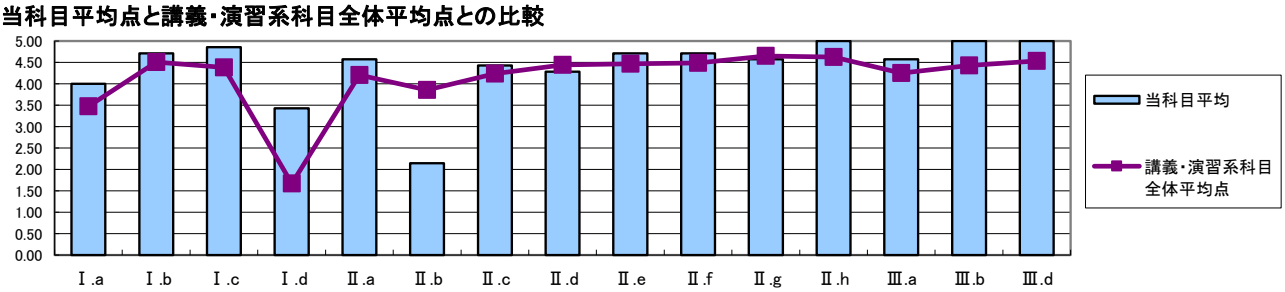
科目名	オペラ研究ⅡＢ
教員名	松本　重孝

職名	05. 特任准教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.43	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 71.43 / 3: 42.86 / 2: 28.57 / 1: 28.57	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

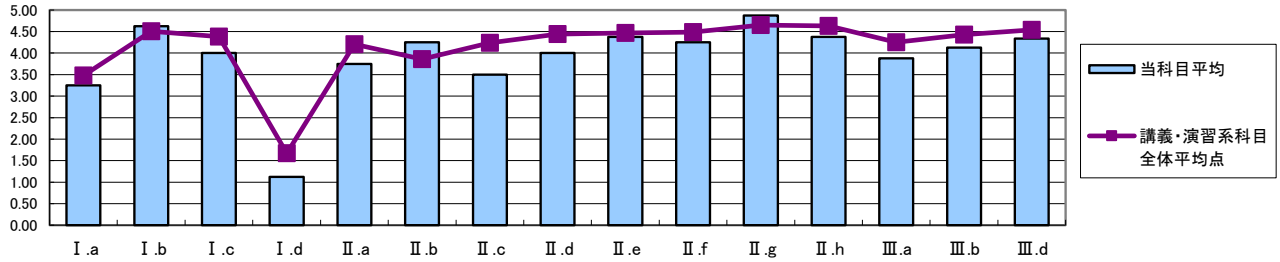
科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)
教員名	阿部　雅士

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.88	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.13	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 12.50 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



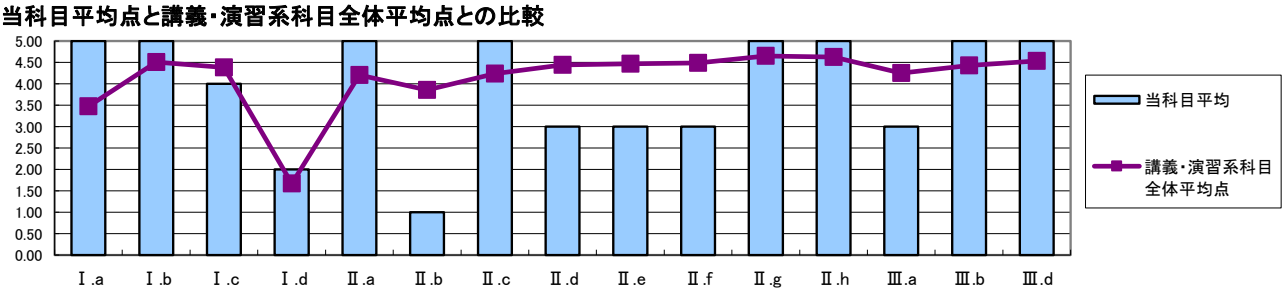
科目名	対位法B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

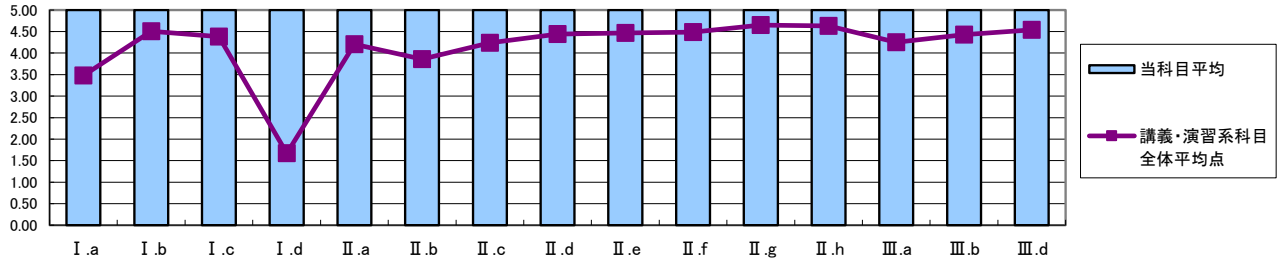
科目名	キーボードハーモニーB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



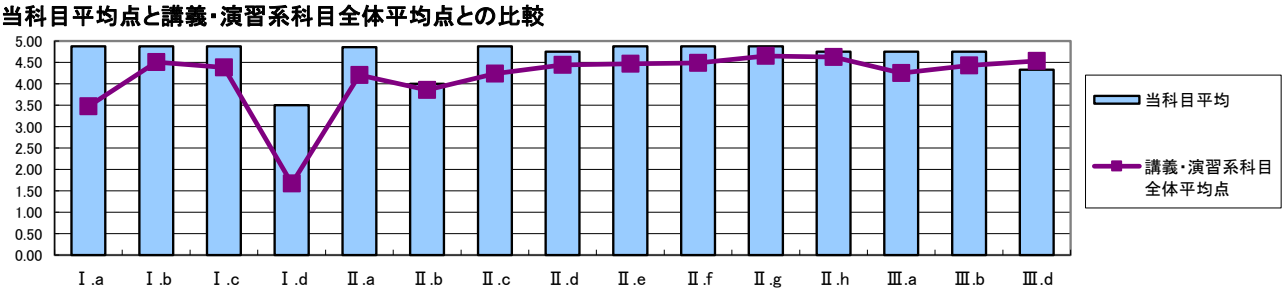
科目名	ソルフェージュ2c
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.88	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.88	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 12.50 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

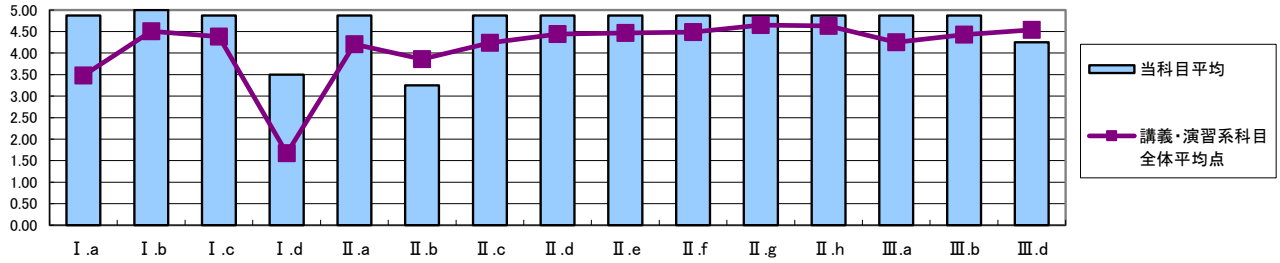
科目名	和声学2c
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.88	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.88	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.88	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.88	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 14.29 / 3: 42.86 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究〔歌曲〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	17
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.90	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.80	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.10	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.00 / 4: 70.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.71	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

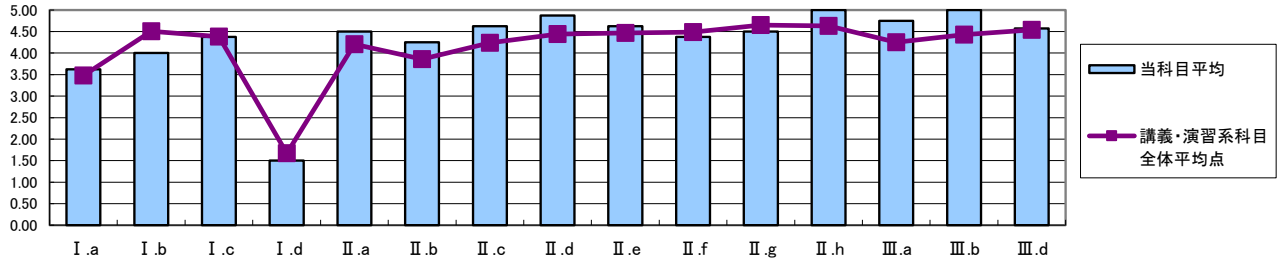
科目名	作品研究〔オペラ〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 37.50 / 3: 50.00 / 2: 12.50 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



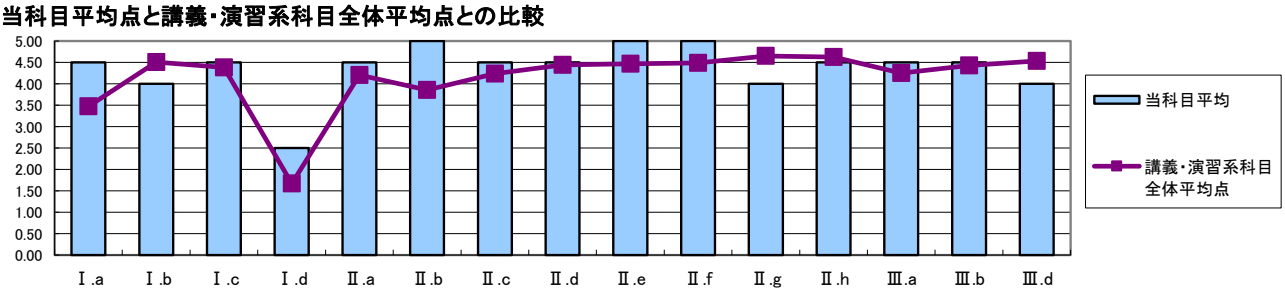
科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕b
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

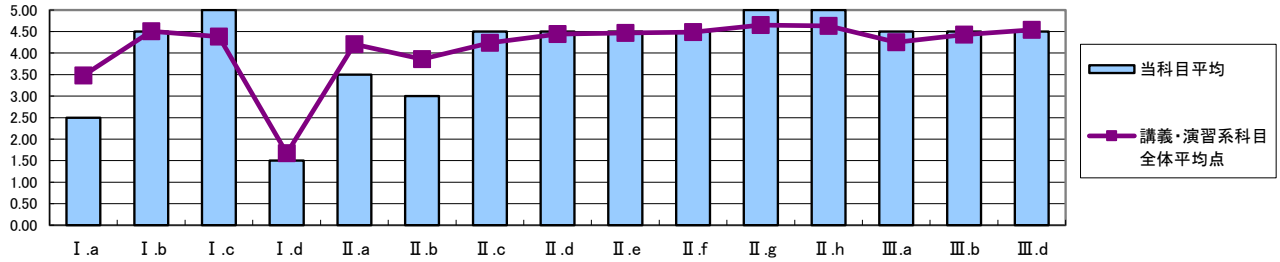
科目名	和声学(Konzertfach)4
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



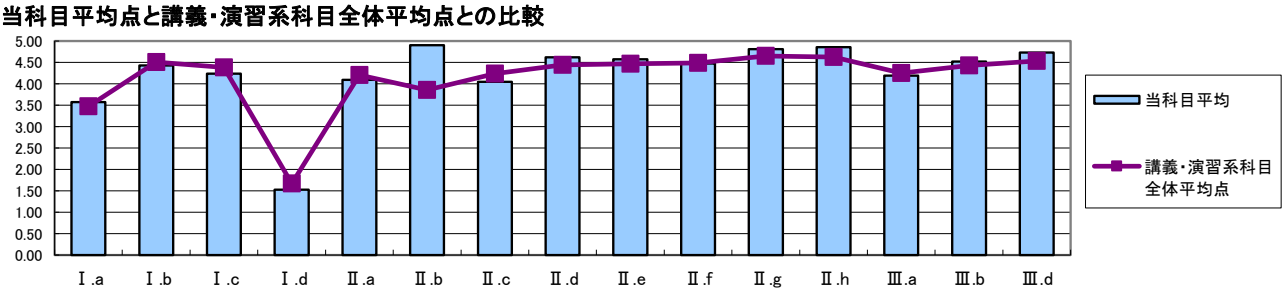
科目名	民族音楽学B
教員名	鈴木　良枝

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	21

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.24	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.52	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.90	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.05	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.48	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.81	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.19	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.52	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 50.00 / 2: 5.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

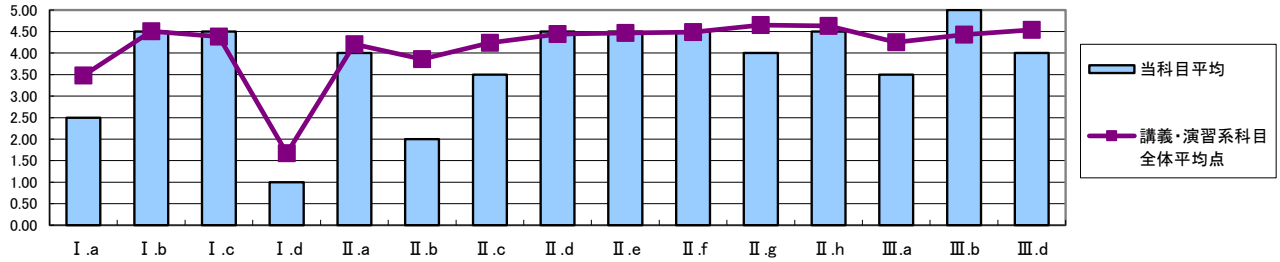
科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕a
教員名	田村　治美

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



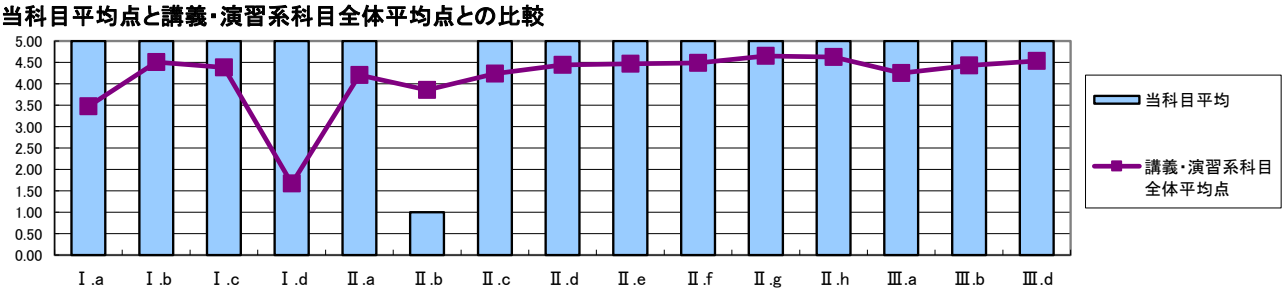
科目名	ソフトウェア演習ＩＢ
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

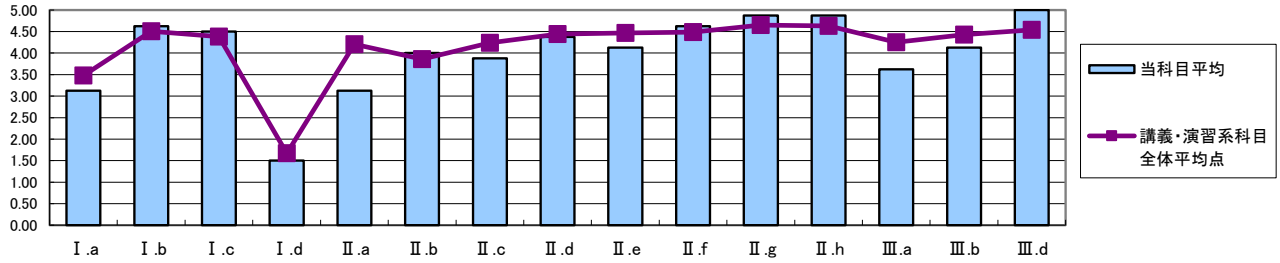
科目名	ポップスボーカルアプローチB
教員名	仁科　薫理

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.13	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.13	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.63	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.13	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 87.50 / 3: 50.00 / 2: 25.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	林　信子

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.83	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 33.33 / 3: 16.67 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

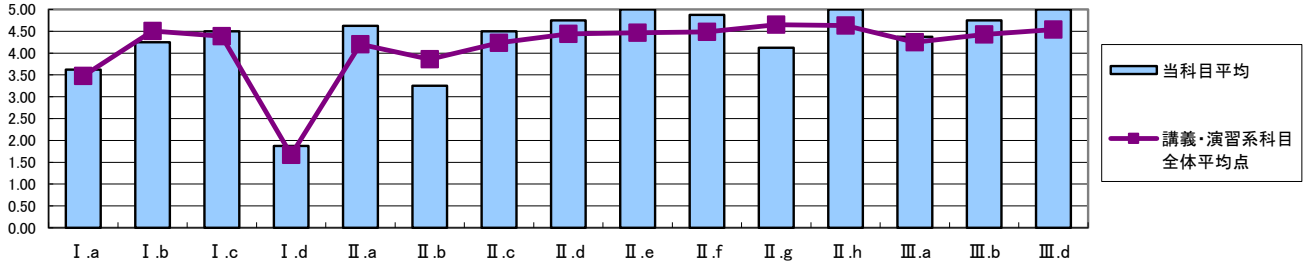
科目名	音楽療法の理論と技法B
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.13	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.38	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 75.00
			3: 62.50	2: 25.00
			1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



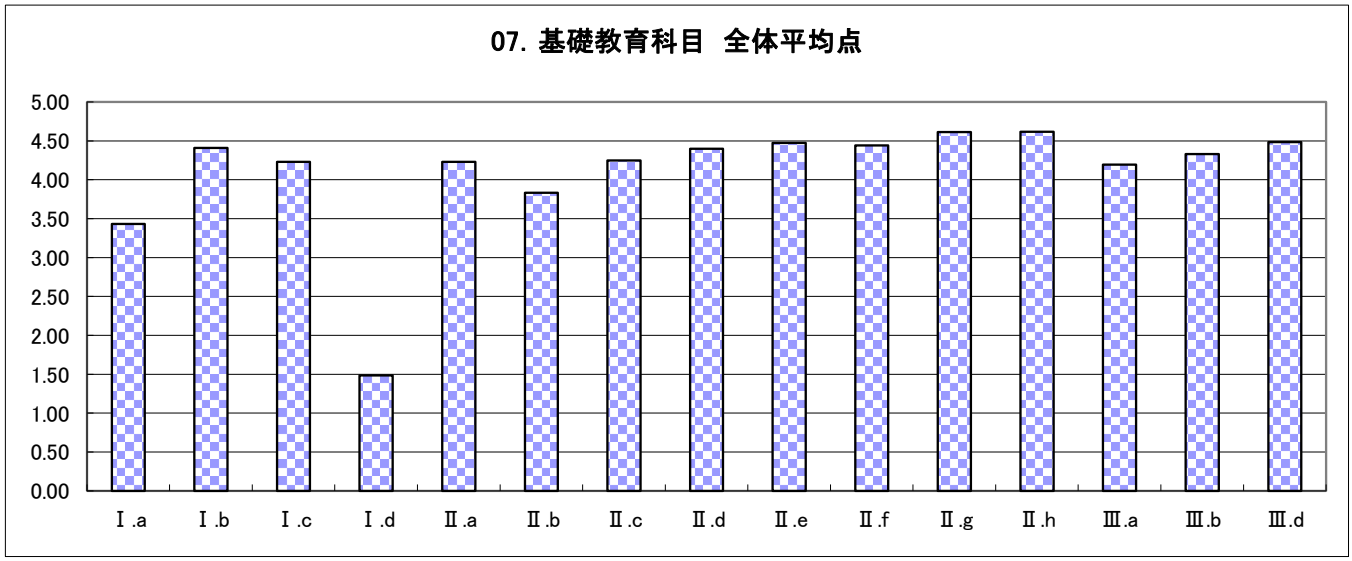
基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	07. 基礎教育科目
科目数	47

履修者数	700
回答者数	528

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	144	126	144	42	72	528	0
				27.3	23.9	27.3	8.0	13.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41	314	144	44	21	4	527	1
				59.6	27.3	8.3	4.0	0.8		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.23	247	189	65	17	9	527	1
				46.9	35.9	12.3	3.2	1.7		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.48	16	13	43	67	389	528	0
				3.0	2.5	8.1	12.7	73.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	260	139	115	9	2	525	3
				49.5	26.5	21.9	1.7	0.4		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	62	119	303	17	23	524	4
				11.8	22.7	57.8	3.2	4.4		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	276	138	89	16	8	527	1
				52.4	26.2	16.9	3.0	1.5		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	324	123	54	17	9	527	1
				61.5	23.3	10.2	3.2	1.7		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	344	118	47	10	9	528	0
				65.2	22.3	8.9	1.9	1.7		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.44	336	106	72	7	6	527	1
				63.8	20.1	13.7	1.3	1.1		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	387	94	35	8	4	528	0
				73.3	17.8	6.6	1.5	0.8		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	380	105	36	3	4	528	0
				72.0	19.9	6.8	0.6	0.8		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	225	199	87	10	5	526	2
				42.8	37.8	16.5	1.9	1.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	297	150	53	14	14	528	0
				56.3	28.4	10.0	2.7	2.7		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	349	183	154	70	132	499	29
				69.9	36.7	30.9	14.0	26.5		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.48	288	99	34	5	11	437	91
				65.9	22.7	7.8	1.1	2.5		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

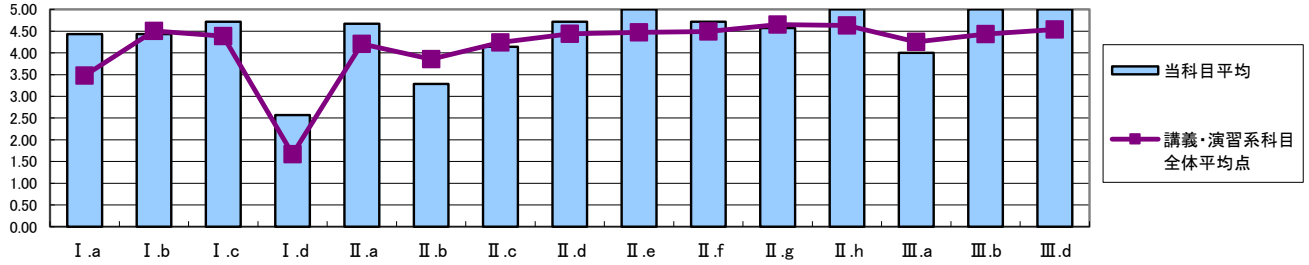
科目名	朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.43	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.57	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 57.14 / 3: 71.43 / 2: 28.57 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、8名が履修し、アンケートには7名が回答しています。アンケート結果を分析しますとⅡbとⅢaが低く、難しいと感じていた学生が多かったように思います。今年度は声楽を始めたばかりの学生が多かったこともあり、例年に比べ具体的な予習・復習課題を多く与えました。その為、設問ⅠaとⅠdが高く出ていることは大変嬉しく思います。難しいと感じ、今後の課題も明確になったかとは思いますが、自由記述欄を見ても今年度の授業としては大変充実していたのではないかと感じています。以上を踏まえた上で、今年度のシラバスに提示されている科目の目的と内容は概ね達成出来たと考察します。

●　問題点

現役生と社会人に加え留学生が混在する中での進め方は、更に工夫が必要です。

●　改善の方策

履修者は多くありませんので、更に一人一人に注意を払えるよう努めます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

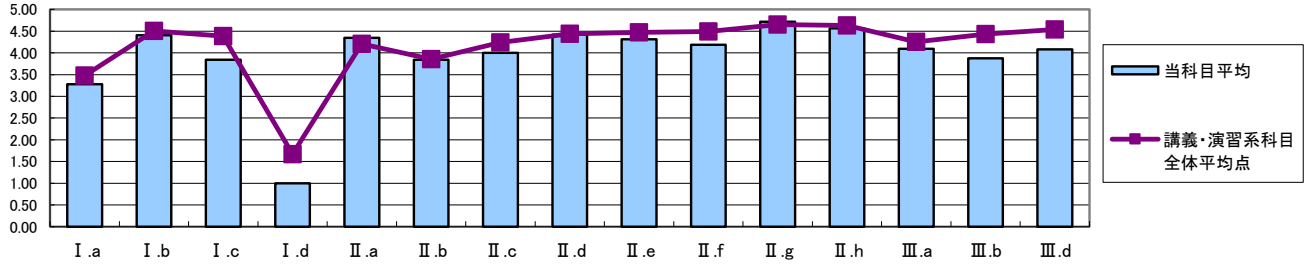
科目名	東邦スタンダードⅠBa
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	39
回答者数	32

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.28	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.84	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.34	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.84	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.42	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.19	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.72	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.09	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.88	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 45.16	4: 51.61
			3: 6.45	2: 19.35
			1: 38.71	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.08	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、39名が履修し、アンケートには32名が回答しています。今年度が連続3年目となる1年生の担任でしたが、やはりコロナ禍での開講となった今年度は例年にも増して慎重に授業をスタートさせました。オンラインで始めた5月当初は、新一年生からの不安な様子も感じ取れ、出来るだけ丁寧に、安心して学ぶことが出来る環境づくりに努めました。学生達もそれによく付いて来てくれたように思います。ただやはり後期になると学生の中にも差が生まれ、これについてはコロナ禍での精神的な部分が多く影響しているように感じています。アンケートの集計結果からも読み取ることが出来ます。このような中ではありましたが、自由記述欄での学生達の生の声は大変励みになるものも多く、これらを踏まえた上で、今年度のシラバスに提示されている科目の目的と内容は概ね達成出来たと考察します。

●　問題点

一部の学生に科目の目的と意義が伝わっていません。

●　改善の方策

より具体的に解りやすく話します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

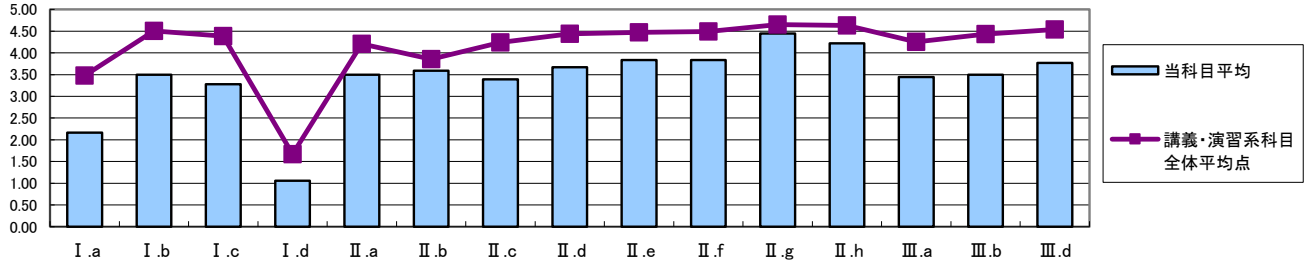
科目名	東邦スタンダードⅢB
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	27
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.17	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.28	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.06	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.59	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.39	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.83	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.83	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.44	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.22	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.44	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67	4: 26.67
			3: 13.33	2: 6.67
			1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.77	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学３年次スタンダードⅢは１クラスのみでⅢBは２７名が履修した。回答者数は１８名であった。７回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含み、東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と将来のありかたとの接点を見出し、現時点での各自の将来像をより具体化・可視化することにより学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。コミュニケーション能力を高めながら、協調性と協働性を身につけて物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養うことを中心にして授業は進められた。学生は現時点での各自の将来像をより具体化・可視化するためにやるべきことは何かを理解しており、滞りなくこなすことが出来た

●　問題点

1回１回の授業のための予習および復習が１時間未満のものが１７名いた。また「シラバスの活用」、「授業の難易度」、の設問にそれぞれ７名、４名が低評価を付けている。「開講時の成績評価の基準の明確性」、「授業の進め方」、にどちらでもないという評価が多く見られ、学生の積極性が必要になるような項目に問題点が見られる。

●　改善の方策

予習に関しては、キャリアや社会について学生には未知の領域であるため、どう予習をするかが掴めていないようであったので、日頃より社会や職業についての関心を高めるように促して行きたい。また当科目は必修であるため、シラバスを活用するに当たらないと、目を通さない学生もいたようであるが、事前にシラバスには目を通すよう、オリエンテーションなど授業開始前の期間に、機会があれば促すことが必要であろう。そして積極的な取り組みにさせるためには、学生の少数意見の中にもより良い授業展開をするためのヒントが隠れていることもあるので本人に関連した身近に感じるようなエピソード等を多く提供し、有意義な授業展開を行うために協力を仰ぐことを喚起、要請したいと思う。自由記述等の少数意見でもそれを真摯に受け止めて極力個別に対応するように心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

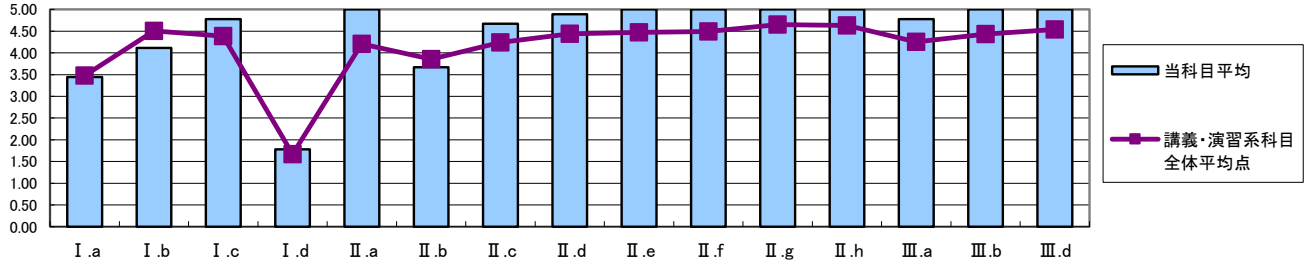
科目名	Communication Skills ⅡB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.11	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.78	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.78	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.89	4: 22.22
			3: 22.22	2: 33.33
			1: 77.78	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、Communication SkillsⅠA／Bの発展版である。その目的は日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、大きく以下2点掲げる。・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現を運用できること・英語を用いたコミュニケーションにおいて、主に自分自身のことだけでなく、相手の意図を正しくくみ取るため、主に話したり、書いたり、聞くスキルを向上させること　開講曜日・時限は、毎週月曜日2限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の2年生以上10名であった。履修者は全体として、将来への意欲や目標をしっかりと見据え、仕事と英語との関連を自分自身の問題として意識しており、授業にも意欲的に臨んでいた。　一方で、2020年度はコロナ禍での対面授業となり、いかにして実践で役立つ英語を授業内で身につけてもらえるか、指導法には一層配慮した。生きた英語を学ぶためには、本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、それを避けなければならない状況だったからである。そこで、コミュニケーション英語の発展版として、英会話のやりとりを提示し、そのなかに潜む言語上の問題点について考えるような授業を行った。　その上で、アンケートの集計結果によると、「Ⅰd. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」についてはやや低く、また、「Ⅰb. この授業の出席は良好であった。」については全体平均をやや下回るものとなった。これに関する問題点と改善の方策について以下に考察する。

●　問題点

授業では、授業時間内でどれだけ自身の英語運用能力を向上させることができるかについて意識している。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことも一因と考える。また、コロナ禍での対面授業となり、講義形式中心となったことも出席率の低下に影響しているだろう。英語運用能力の向上には、継続的な学習が必須であり、授業外での学生の主体的な学びへと促せなかった結果を真摯に受け止めている。

●　改善の方策

次年度は、履修者の英語習熟度と意欲を踏まえ、継続的な学びができるよう課題の提示方法を改める。問題点を知ることは課題解決につながるため、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を作るなどを検討している。目標が目の前に存在する方が履修者の意欲も継続するものと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

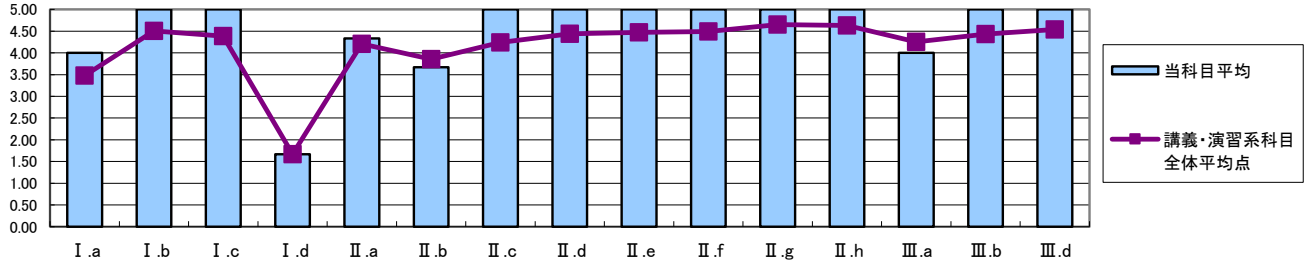
科目名	Advanced English2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 100.00
			3: 100.00	2: 100.00
			1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、「読む、書く、聞く、話す」の4技能を体系的に向上させ、盤石な英語運用能力の基盤構築を目的とする。到達目標は、主に以下の2点である。・英語で話された質問に、英語で答えることができるようにすること・英文を読み、正しい文法で簡単な文章を書けるようにすること　開講曜日・時限は、毎週水曜日2限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の1年生4名であった。履修者は全体として、英語の意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも意欲的に臨んでいた。　春学期の開講時には習熟度確認テストによりBasic／Advancedの2クラス編成とした。本科目の受講生はAdvancedに在籍しており、もともと基礎学力も高く、意欲的な学生たちであった。授業も活発なコミュニケーションのもと展開され、科目担当者としても非常にやりがいを感じさせていただけるクラスであった。　近年学生たちの英語への興味・関心は、他者との「コミュニケーション」に集中している。本科目の履修者も同様であり、「音楽」への深い造詣から本専攻へと進学してきたこともあり、自分自身の発音や円滑な聞き取りに関わる英語の「音」に高い関心があった。そこで、履修者が音楽を通して楽しく英語学習を深められるよう教材の選定にも工夫している。洋楽を聞きながら英語を学ぶスタイルの授業であったが、歌を聴いて歌詞を書きとることや、歌詞を日英訳する作業もあり、シンガーソングライター志望の学生も多い中で例年同様大変評判が良かった。演習との混合形式で授業を実施し、英語を総合的に運用するための基盤が作られたものと考える。一方で、アンケートの集計結果より、「Ⅰd.1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」「Ⅱb.この授業の難易度はどうでしたか。」と「Ⅲa.開講時に示された到達目標を十分に達成できた。」の3点については全体平均並みの結果となっており、問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

授業では、授業時間内でどれだけ自身の英語運用能力を向上させることができるかについて意識している。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことは予習・復習の時間が乏しい一因と考える。難易度についてはおおよそ適切であると感じていただけている一方で、開講時に示された到達目標を十分に果たせたとは言い難い履修者がいることも事実である。

●　改善の方策

次年度は、履修者の英語習熟度と意欲を踏まえ、継続的な学びができるよう課題の提示方法を改める。問題点を知ることは課題解決につながるため、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を作るなどを検討している。目標が目の前に存在する方が履修者の意欲も継続し、到達目標を達成していることを身をもって実感できると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

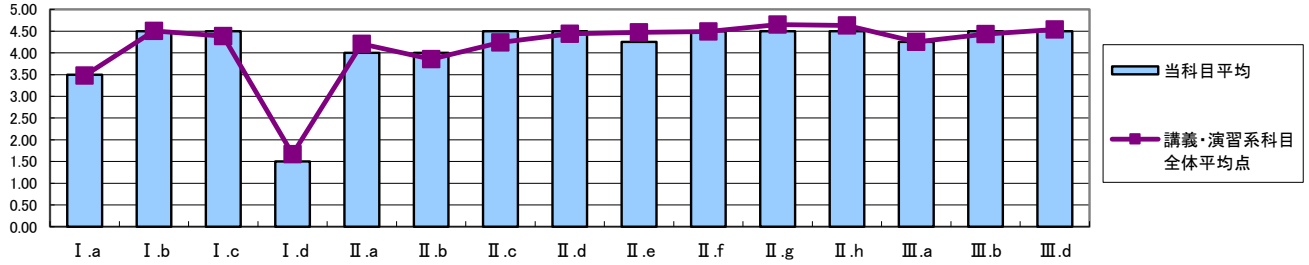
科目名	English PresentationB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、プレゼンテーションの基本を抑えて、重要な英語表現等を理解し、運用できることである。到達目標は、大きく以下3点掲げる。・ コミュニケーションツールとしてのプレゼンテーションの基本を正確に理解できる・ 目的に合わせたプレゼンテーションのタイプを的確に理解し、使うことができる・ 原稿作成を通して、ライティングのスキルが向上させることができる　開講曜日・時限は、毎週水曜日3限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の3年生、4年生の計4名であった。履修者は全体として、将来への意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも真摯に取り組んでいた。　プレゼンテーションは、自分の考えや主張を効率よく正確に相手に伝えるためのコミュニケーションの一環だといわれる。その目的達成のため、発表者とオーディエンスが構造を共有し、限られた時間内の発表でも誤解を生まない工夫が随所に施されている。その工夫は、プレゼンテーションの構造や表現であり、本科目では、課題を通じて成功するプレゼンテーションに関する知識を学び、英語のプレゼンテーションに必要な知識や論理構成を学びながら説得力のあるプレゼンテーションを行えるよう鍛錬した。　2020年度はコロナ禍での対面授業となり、生きた英語を学ぶために本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、いかにして実践で役立つ英語を授業内で身につけてもらえるか、指導法には一層配慮した。感染症対策を意識しながらも、プレゼンテーションの原稿の作成から発表に至り、真摯に取り組む履修者の姿が非常に印象に残っている。　その上で、アンケートの集計結果によると、「Ⅱa. １この授業はシラバスに沿って行われていた。」と「Ⅱe. 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。」については、全体平均をやや下回るものとなった。これに関する問題点と改善の方策について以下に考察する。

●　問題点

2020年度はコロナ禍出の授業となり、当初予定していた内容を変更せざるをえない状況が多々あった。そのためシラバスや教科書を十分に活用しきれなかったものと考える。

●　改善の方策

本来プレゼンテーションの授業としては授業内においても発表を繰り返すことが肝要であるが、自宅学習としてプレゼン用の動画を撮ってきてもらい、それを授業でみんなで評価する機会を設ける。そうすることで、授業内で必要以上に発言することなく徹底した感染対策のもと、継続的な自宅学習も促すことができるものと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

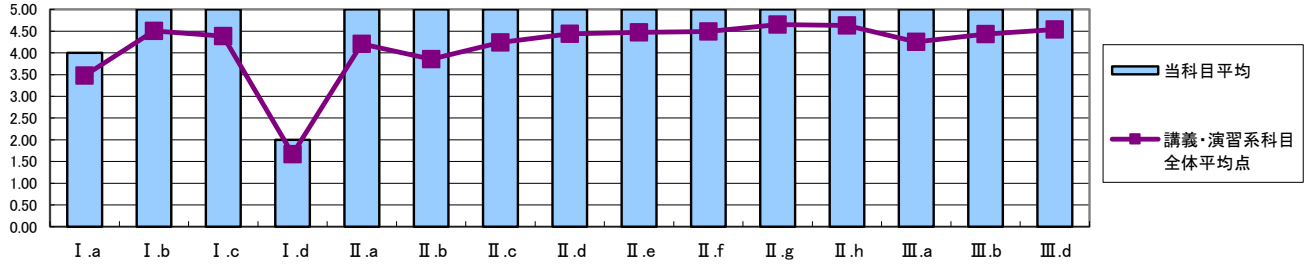
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーションB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は2020年度新規開講科目である。到達目標は下記の通りである。・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できる。・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。　開講曜日・時限は、毎週水曜日4限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の2年生と4年生の3名であった。履修者は全体として、ドイツ語への意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも意欲的に臨んでいた。ドイツ語初学者だけの授業であり、各回の小テストにも意欲的に取り組んでおり、科目担当者としてもやりがいを感じさせていただいた。　一方で、2020年度はコロナ禍での対面授業となり、いかにして実践で役立つドイツ語を授業内で身につけてもらえるか、指導法には一層配慮した。生きたドイツ語を学ぶためには、本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、それを避けなければならない状況だったからである。　そのような厳しい状況下での対面授業であったが、履修者の意欲も高いことから、すべてのアンケート項目において平均を大きく上回る高値となった。ただし、その中でも集計結果によると、「Ⅰd. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」についてはやや低く、これに関する問題点と改善の方策について以下に考察する。

●　問題点

授業では、初めて学ぶドイツ語を好きになること、そして授業時間内でどれだけ自身のドイツ語運用能力を向上させることができるかについて意識した。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことは予習・復習の時間が乏しい一因と考える。また、度々同じ内容の質問をいただくこともあり、履修者による毎回の復習がうまく定着していないことも考えられる。

●　改善の方策

次年度は、課題の提示方法を改める。自身の学習上の問題点を知ることは課題解決につながるため、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を設定する。問題が明らかとなることで、履修者の持続的な学習へのモチベーションへとつながり、予習や復習への取り組みも充実するものと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

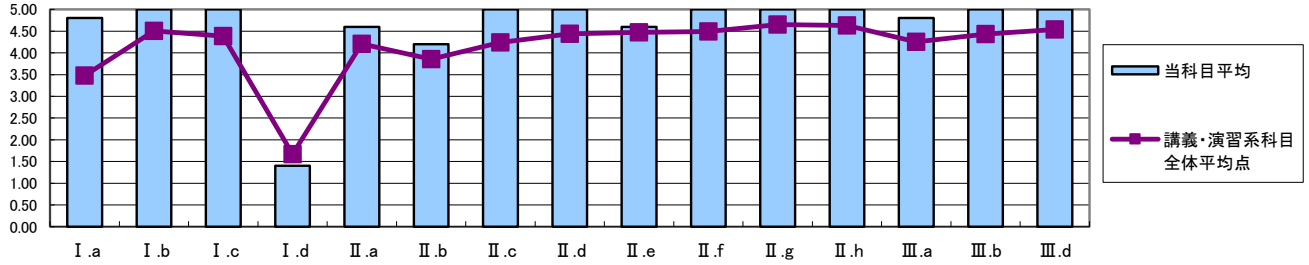
科目名	Basic English 2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.80	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 40.00 / 3: 20.00 / 2: 40.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、「読む、書く、聞く、話す」の4技能を体系的に向上させ、盤石な英語運用能力の基盤構築を目的とする。到達目標は、主に以下の2点である。・英語で話された質問に、平易な英語で答えることができるようにすること・英文を読み、正しい文法で簡単な文章を書けるようにすること　開講曜日・時限は、毎週木曜日2限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の1年生9名であった。履修者は全体として、英語の意欲や目標をしっかりと見据え、授業にも意欲的に臨んでいた。　春学期の開講時には習熟度確認テストによりBasic／Advancedの2クラス編成とした。本科目の受講生はBasicに在籍していた。課題に取り組む姿勢も意欲的であり、懸命に取り組む姿勢に、科目担当者としてもやりがいを感じさせていただいた。　近年学生たちの英語への興味・関心は、他者との「コミュニケーション」に集中している。本科目の履修者も同様であり、「音楽」への深い造詣から本専攻へと進学してきたこともあり、自分自身の発音や円滑な聞き取りに関わる英語の「音」に高い関心があった。そこで、履修者が音楽を通して楽しく英語学習を深められるよう教材の選定にも工夫している。洋楽を聞きながら英語を学ぶスタイルの授業であったが、歌を聴いて歌詞を書きとることや、歌詞を日英訳する作業もあり、シンガーソングライター志望の学生も多い中で例年同様大変評判が良かった。演習との混合形式で授業を実施し、英語を総合的に運用するための基盤が作られたものと考える。　一方で、アンケートの集計結果より、「Ⅰd.1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」については全体平均並みの結果となっており、問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

授業時間内でどれだけ自身の英語運用能力を向上させることができるかについて意識している。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことは予習・復習の時間が乏しい一因と考える。

●　改善の方策

次年度は、履修者の英語習熟度と意欲を踏まえ、継続的な学びができるよう課題の提示方法を改める。問題点を知ることは課題解決につながるため、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を作るなどを検討している。目標が目の前に存在する方が履修者の意欲も継続し、到達目標を達成していることを身をもって実感できると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

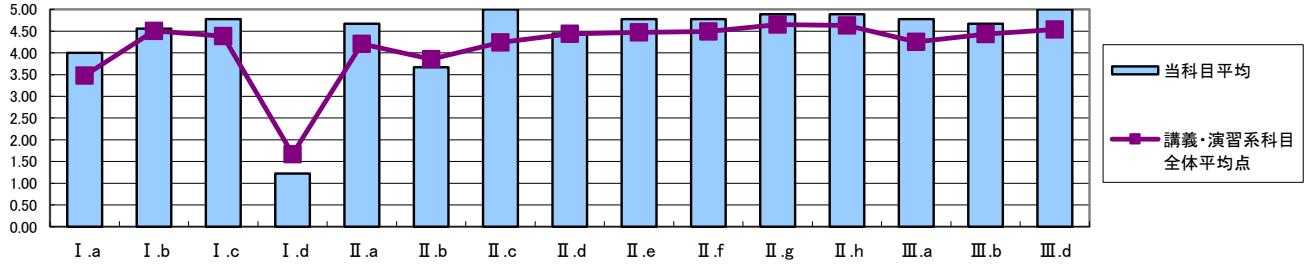
科目名	Career English ⅠB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	13
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.56	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.22	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.78	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 28.57 / 3: 28.57 / 2: 14.29 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学ぶこと、そしてビジネス英語特有の表現を活用できる能力を育成することである。到達目標は、大きく以下2点掲げる。・英語の基礎となる「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能を体系的に磨くこと・ビジネスにおける英語を用いたコミュニケーションにおいて、必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しくくみ取ることができること　開講曜日・時限は、毎週木曜日3限であり、受講生はパフォーマンス総合芸術専攻の2年生以上13名であった。履修者は全体として、将来への意欲や目標をしっかりと見据え、仕事と英語との関連を自分自身の問題として意識しており、授業にも意欲的に臨んでいた。　ビジネスの場面で求められる英語は、日常会話のコミュニケーションにおいて求められる素養だけでなく、言葉遣い、立ち振る舞い、マナーなどを洗練させる必要がある。本専攻には、既に大学に在学しながら仕事をしている学生もいることから、より実践で役立てるよう教材の選定や指導法も検討した。一方で、2020年度はコロナ禍での対面授業となり、いかにして実践で役立つ英語を授業内で身につけてもらえるか、指導法には一層配慮した。生きた英語を学ぶためには、本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、それを避けなければならない状況だったからである。しかし、感染症対策を意識しながらも、常に前向きに取り組む履修者の姿が非常に印象に残っている。　その上で、アンケートの集計結果によると、「Ⅰd. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」については、党科目平均をやや下回るものとなった。これに関する問題点と改善の方策について以下に考察する。

●　問題点

授業においては、授業時間内でどれだけ自身の英語運用能力を向上させることができるかについて意識している。そのため、なるべく持ち帰り課題等の負担を軽減するよう努めたことも影響しているかもしれない。一方で、英語の上達には、継続的な学習が必須であり、授業外での学生の主体的な学びを誘発できなかった結果を真摯に受け止めている。

●　改善の方策

次年度は、履修者の英語への関心にかかわらず、継続的な学びができるよう課題の提示方法を改める。問題点を知ることが課題の解決につながることから、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を作るなどの対策を検討している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

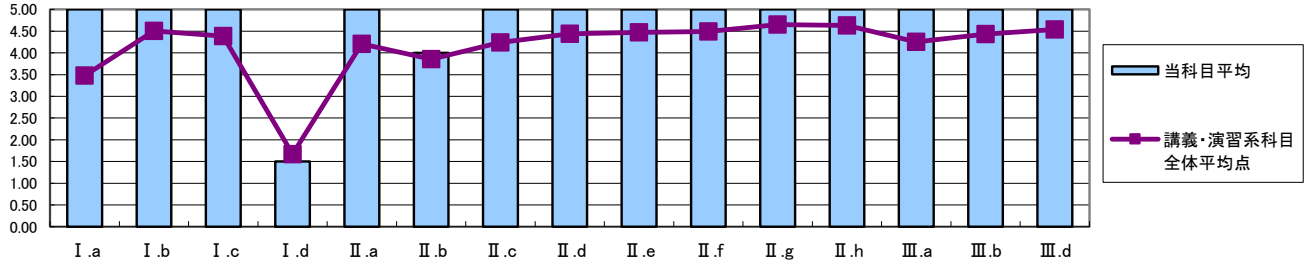
科目名	Communication Skills Ⅰ B
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 25.00 / 2: 25.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目の目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、大きく以下2点掲げる。・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現を運用できること・英語を用いたコミュニケーションにおいて、主に自分のことを表現できるようになること　開講曜日・時限は、毎週木曜日4限であり、受講生は主にパフォーマンス総合芸術専攻の1年生以上8名であった。履修者は全体として、将来への意欲や目標をしっかりと見据え、仕事と英語との関連を自分自身の問題として意識しており、授業にも意欲的に臨んでいた。
2020年度はコロナ禍での対面授業となり、いかにして実践で役立つ英語を授業内で身につけてもらえるか、教材や指導法には一層配慮した。グローバル社会の一員であることを意識し、いざというときのひとことを助ける力を養うために、日常生活を想定しながら学べるよう授業内容を検討した。その中で、生きた英語を学ぶためには、本来教員や履修者間での豊かなコミュニケーションが求められるなか、未曾有の感染症によりそれを避けなければならない状況が強いられた。しかし、徹底した感染症対策のもと、質疑応答も活発で、大変意欲的に取り組む履修者の姿が非常に印象に残っている。
その上で、アンケートの集計結果によると、「Ⅰd. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」については、他の設問と比較して低い結果となった。これに関する問題点と改善の方策について以下に考察する。

●　問題点

授業では、授業時間内でどれだけ自身の英語運用能力を向上させることができるかについて意識している。そのため、極力持ち帰り課題の負担軽減に努めたことも一因と考える。一方で、英語運用能力の向上には、継続的な学習が必須であり、授業外での学生の主体的な学びへと促せなかった結果を真摯に受け止めている。

●　改善の方策

次年度は、履修者の英語習熟度と意欲を踏まえ、継続的な学びができるよう課題の提示方法を改める。問題点を知ることは課題解決につながることであり、例えば、毎回小テストを実施し、教員と学習者自身が常に互いの進捗状況を確認しあえる状況を作るなどを検討している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

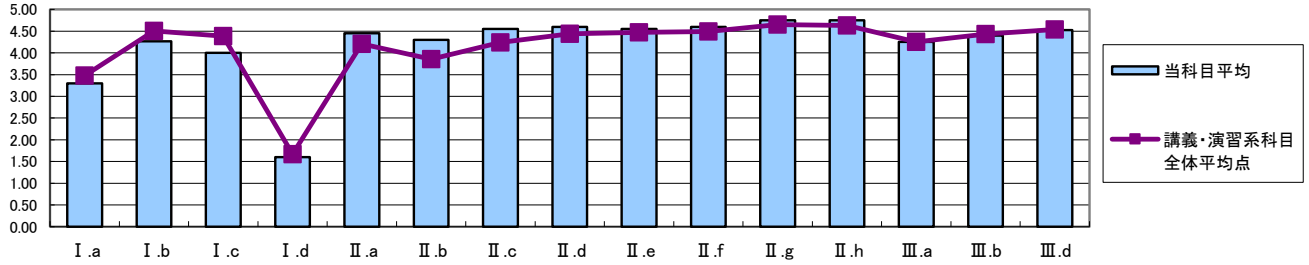
科目名	東邦スタンダードⅡBa
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	26
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.30	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.26	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.45	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.30	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.55	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 55.56	4: 55.56
			3: 11.11	2: 5.56
			1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.53	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞各自の専門分野のスキルアップや社会の仕組みを学び、将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につける。また、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させて、社会性を高める。　＜内容＞８回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含めて、多角的な講義やワークを行う。大学の学修を真剣に考え、学生生活の充実や卒業後のことを熟考する。＜授業形態＞講義形式であったが、講師や仲間の意見を聴いたり、自分の意見を述べたりする場面も適宜設けた。その際、普段あまり接点のない同学年の学生とペアになるように工夫した。＜受講者数＞26名。＜開講曜日、時限＞水曜日、１限。◎アンケート設問Ⅰについて多くの学生が、１限の授業であったが出席良好・熱意をもって授業に取り組んだと回答していた。シラバスについては、授業の開始時や終了時に複数回アナウンスしたが、一定数「活用したと思わない」と回答していた。予習・復習については、「５時間以上」が数名で、あとはすべて「１時間未満」であった。◎アンケート設問Ⅱについて多くの学生が、この授業の内容・難易度について適切であったと回答していた。◎アンケート設問Ⅲについて全体回答と比べると、この授業では「コミュニケーション能力が向上」し、「新しいものの見方」ができるようになったと回答していた。まず「コミュニケーション能力」については、距離をとりながらも学生同士が自分の意見等を頻繁に発言する機会を齋藤ただし先生が設けてくださったことが要因として考えられる。さらに親しい友達とだけ話すのではなく、普段あまり接点のない学生同士をペアリングさせるよう座席配置も工夫したことが影響しているであろう。「新しいものの見方」については、まさに「様々な物事を多角的に捉える」ワークを行ったため、その結果であると考えられる。

●　問題点

・シラバスについては、教員が意識して複数回一緒に見たり、活用するように声かけを行ったが、活用する学生とそうでない学生で分かれてしまっていることが明らかになった。・予習復習の時間に、学生間で二極化が生じていた。

●　改善の方策

シラバスについて、何度も見る機会を設けたり、予習復習を伝える時にも読み上げるなどの工夫をしていきたい。また、予習・復習については、さらに具体的にやって欲しい作業等を伝えていくことが必要なのかもしれない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

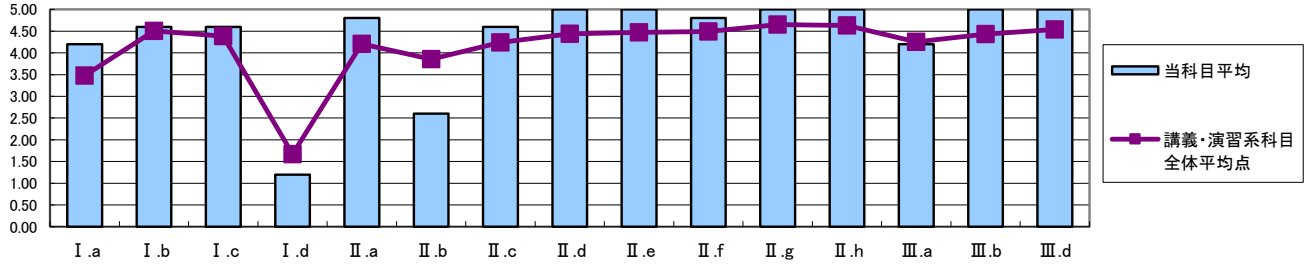
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 60.00 / 3: 40.00 / 2: 40.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

①科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望などあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：５名。うち回答は５名。⑤受講者の状況：人数が少ないが1年生・2年生・3年生（編入）と学年ではそろっていた。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、“0.5p以上低い値”の項目は、「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習をしましたか【1.1h以下】」「この授業の難易度はどうでしたか【難しい】」「新しい知識・技能【低】」の３項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「この授業の難易度はどうでしたか」の１項目である。

●　問題点

教員と学生の意識のズレ：内容として難しいという反応があるのが後期Ｂの特徴である。前期に行った授業アンケート（独自に行った）では、難易度が高いという反応が小さかったので、後期Ｂの授業内容が高度であることを示唆している。ただ、相対的に見て授業に対する満足度（Ⅲ）は高く、難しいが学ぼうと思えば学べるというのが実際の所ではないだろうか。

●　改善の方策

改善方策：前期Ａを比較的広範な内容を含んでおり、その応用編という位置づけの後期Ｂという設定は必ずしも効果を発揮しているとはいえない。誰にとっても受講しやすく、満足度が高いというのが理想である。同じような位置づけのPACS対象の後期Ｂは、ⅡbやⅢがどちらも比較的高いことから、PACSのような授業内容の方がニーズに合っているのであろう。今後の改善としては、PACS後期で実施している人間関係の学習と実践が方向性として考えられるものの、川越ではコミュニケーション論があって重複する恐れがあり、アセスメント論のような内容も考えられる。いずれにしても学生のニーズについての自由記述での分析（KHcoderによるテキストマイニング）を待ちたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

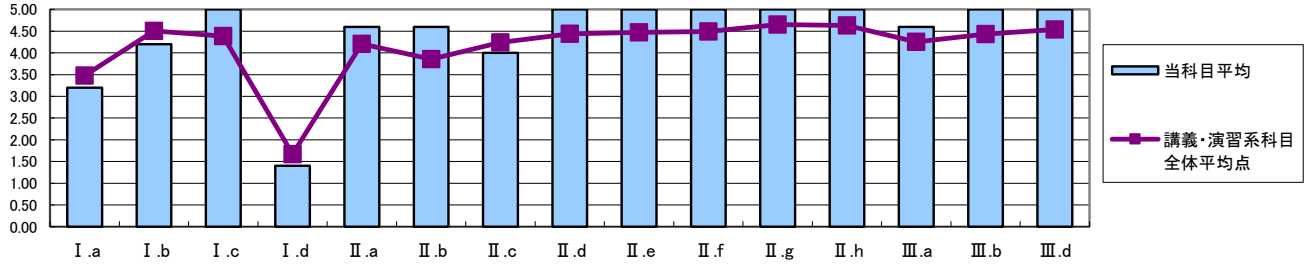
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 20.00 / 3: 0.00 / 2: 40.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

①科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容・目標：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望などあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：４名在籍。回答者数は４名。⑤受講者の状況：1年生2名、2年生1名、３年1名、4年1名。と各学年がそろっているのが特徴である。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「0.5pポイント以上低い値」の項目は、「この授業を受けるに当たってシラバスを活用【どちらともいえない】」「この授業の出席は良好だった【ある程度】」「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習したか【1.1h未満】」「開講時の成績評価の基準が明示【どちらともいえない】」「関連分野の学習意欲【低】」「新しいものの見方【低】」「新しい知識・技能【やや低】」の６項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「平均どのくらい予習復習したか」「新しいものの見方」の２項目である。

●　問題点

教員と学生の意識のズレ：人数が少なかったが全体に出席状況が良好で、かつ授業への態度も良好であった。後期Bは人間関係論を基本に、心理学的な実践が多く設定されていたことから、コミュニケーション能力の向上や問題発見・解決能力が身についたと感じる学生が多くを占めた。おそらく学生のニーズに近い授業内容だったと推測する。

●　改善の方策

改善方策：語学科目と重複するため履修が急に増えたりはしないと思われるが、川越後期Ｂと比較しても人間関係論に近い内容の方が、現在の学生のニーズや学生生活の問題点や課題などとも結びつきやすいと思われる。ただ、成績評価の基準がルーブリックで示されているわけではないので、これを明示することが予習・復習にもつながるかもしれない。改善の方策と言うよりも現状維持でも問題がないように考えられる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

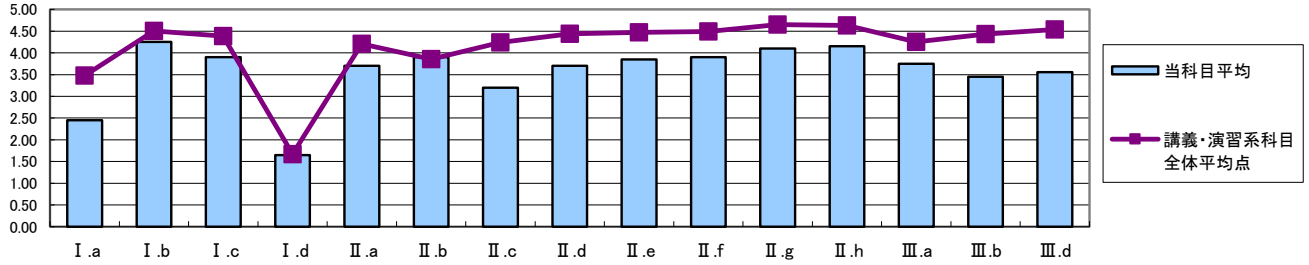
科目名	東邦スタンダードⅣBb
教員名	澤　敦

職名	05. 特任准教授

履修者数	22
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.45	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.90	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.65	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.70	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.20	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.70	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.85	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.90	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.10	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.15	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.45	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.33	4: 22.22
			3: 22.22	2: 11.11
			1: 38.89	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.56	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

シラバスに提示した内容については、ほぼ実行出来た。対象が4年生なので、東邦スタンダードの必要性、その意義等もよく理解していると感じます。欠席者が多い日もありましたが、概ねよく来ていました。4年生での最大のテーマは、（プレゼンテーション）なので、前期、後期の2回の発表を、メインとし展開しました。私の使った教室は、16-LH401でしたが、この部屋は東邦スタンダードの授業には、最適と考えます。全体を把握しやすく、すり鉢状のホールなので、授業の雰囲気をとても作りやすかった。

●　問題点

学生とのズレは、感じませんでしたが。プレゼンテーションの各自のテーマは、前期はテキスト通りの（自分の専門）を基本にやらせましたが、学生より自分と興味のあるテーマで話したい、との要望があった為。後期は、テーマは自由としました。その結果、私の想像以上の見事なプレゼンテーションが数多くあり。充実した授業となりました。

●　改善の方策

授業を展開する上で、各テーマごとに、教師のそのテーマについての、一考察も交えて授業を進めていくことが、学生に理解させる上でとても重要であると考えました。また、学生との質疑応答も大切で、みんなで考えるシーンも作れると、より意味のある授業になると考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

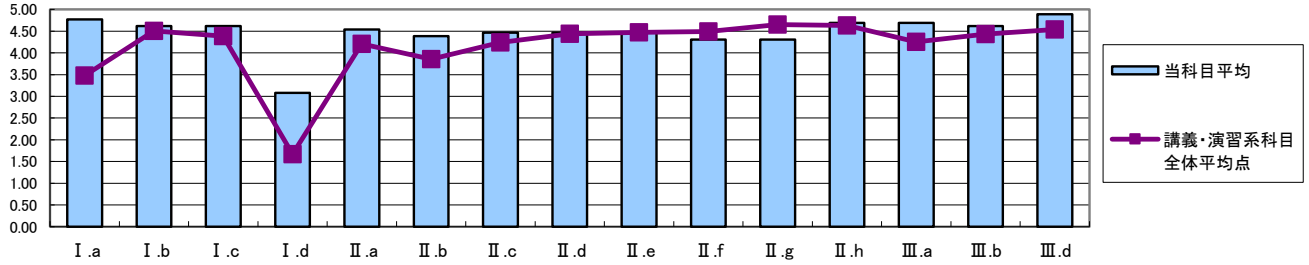
科目名	東邦スタンダードⅠBb
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	18
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.77	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.62	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.62	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.08	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.54	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.46	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.46	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.31	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.31	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.69	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.62	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.92	4: 46.15
			3: 23.08	2: 23.08
			1: 23.08	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度、東邦スタンダードⅠBbクラスは「留学生クラス開設」の2年目にあたり、年間を通じた内容を「学生生活の拡充と大学での授業サポートを基軸にした授業」と設定し、留学生対応として長年の経験をもつ職員を通訳として配置し、「留学生センター」学生対応担当と常に連動した体制で、年間30回の授業を開講いたしました。感染症対応のため「遠隔授業」「対面授業」両方の形態で開講、渡航制限も鑑みて本学での学修が負担なくスムーズに進められることを最優先に実践いたしました。設問Ⅰについては、新設クラスでもあり流動的な対応をしているためテキストは副教材としての使用。文科省留学生への最新の資料を準備しながら日本語での演習を実践いたしました。設問Ⅱについては、「ポートフォリオの重要性」についての理解に時間を設ける必要があると思われます。設問Ⅲについては、授業目標の達成について、前向きな自己評価ができるところが反映されており授業の成果がみられます。本集計結果には、日本での大学授業に真摯に取り組んだ成果が表れており、学びの基軸形成にむけ効果的な開講内容であったことが分析され、本年度の授業実践が個々の能力と発達段階に無理なく進められたものであったことを再確認しております。感染症禍でも十分な学びの成果があったことをご報告いたします。

●　問題点

本年度は感染症対策により大学1年生全体での合同開催講義が実現せず、その影響で留学生クラス隔離の閉塞感が大きな課題として残りました。国際人としての人格形成には人間関係の構築と協働経験、社会人基礎力は留学生にも等しく必要なものでありますので、本年度身につけた力を今後の学生生活で活発に発展してゆくことを期待したいと思います。

●　改善の方策

3年目に向けては、以下の改善点を加えつつ授業拡充してゆきたいと思います。「合同開催授業の設定」＝協働する中からの国際人としての学びの実践「留学生の特性を生かす授業内容」＝個人の能力を引き延ばす積極的に参加する学びの実践

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

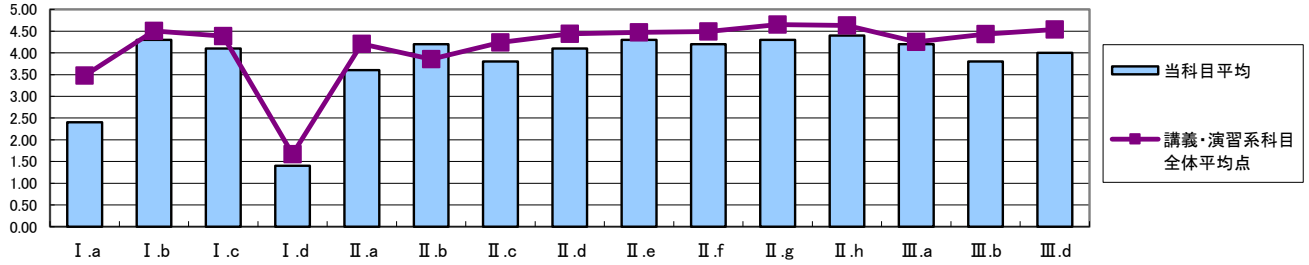
科目名	東邦スタンダードⅣBa
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	20
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.40	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.30	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.10	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 30.00	4: 50.00
			3: 30.00	2: 20.00
			1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

出席状況への回答は「良好」が「そうでない」を上回り4.30点であった。しかし「授業に当たってシラバスを活用した」に関して「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の回答率が30%ずつだった。「予習・復習をした」の問いには「1時間未満」の回答が70%にのぼった。　授業内容については「新しいものの見方」の回答が50%と最も多く、「新しい知識・技能」「関連分野の学習意欲」が30%とそれに次いだ。通年のテーマが「各自で選んだ研究をプレゼンテーションする」という内容で、前・後期とも初回の授業で「社会に出て、専門分野以外の人の前でプレゼンテーションする」ことの必要性を説明し、スキルを具体的に示したことで授業の意図について理解が得られたと感じる。他学年を担当した時より、生き生きとした学生の姿が見受けられ、授業参加へのモチベーションが多少上がったと思われる。　各自の持ち味や独創性を活かして「自分で考え、演奏以外の方法で言語化し表現する」場を経験することは大切だと感じた。　ただ個人差もあり、研究・準備期間に取り組んだ学生と、一夜漬けでトークをしてしのいだ学生がみられた。これらは発表の時点で見て取れるので、他学生の発表を聞いた第一回目のプレゼン以降は、全体の内容がレベルアップしていく様子も見受けられた。

●　問題点

出席率は向上がみられ私語も無いが、傾眠・内職など、授業への取り組みに個人差がある。　1限に関しては、他学年ほど起きられない・早すぎるなどの意見はなかったが、引き続き自己管理や生活リズムを整えることに意識を向ける指導が必要と感じる。　シラバスがうまく活用されていない。

●　改善の方策

この授業の意図するところを、毎回くり返し明確にわかりやすく伝える。　初回の授業にシラバスを持参させ、読み合わせをする。　次回の授業に繋げるような課題を出すことで、予習・復習ができると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

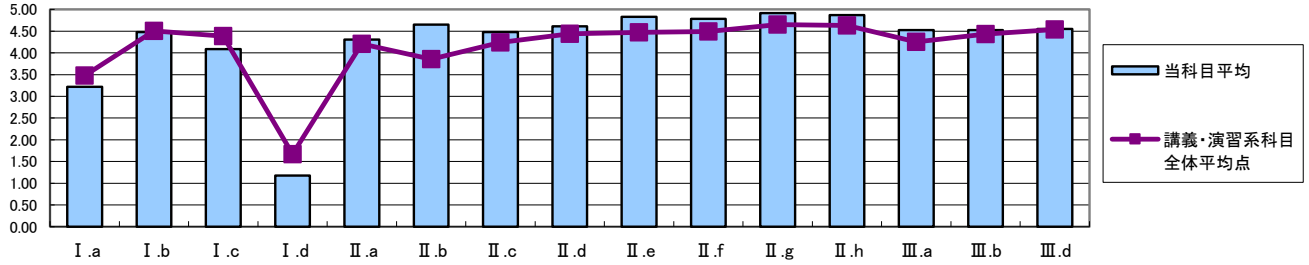
科目名	東邦スタンダードⅡBb
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	27
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.22	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.48	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.09	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.65	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.91	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.87	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.52	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.52	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 45.45 / 4: 50.00 / 3: 13.64 / 2: 18.18 / 1: 54.55	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.55	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

東邦スタンダードは大学で学んだスキルを社会でどの様に役立てていくかを考える授業である。特に2年次は外部の講師を招き、社会的常識や社会で求められる能力にスポットを当て、学生の感覚との違いや不足している部分を意識していくものとなっている。音楽を学んで得たスキルは素晴らしいものであるが、社会で求められるものとはそれなりのズレがある事も確かな為、学生は不安になったり苦痛に感じる事も多いのかと感じる。授業は押し付けるものではなく様々な考え方や現在の常識を与え、そこから自らがどのように考えていくかと言う所にスポットが当てられていて良いものだと感じているが、音楽と離れている内容なので意義を感じ取れない学生がいる事も事実である。今年度の学生は、まだ社会に目を向けている学生が少なく授業が1限と言う事もあり必要性を感じにくい学生がいた様である。

●　問題点

今年度はコロナ下でも授業であったものの、学生達の協力により回を重ねるにつれより良いものになっていったと思う。学生達に感謝であるが、今後もよりアクティブに授業に参加させる努力が必要である。

●　改善の方策

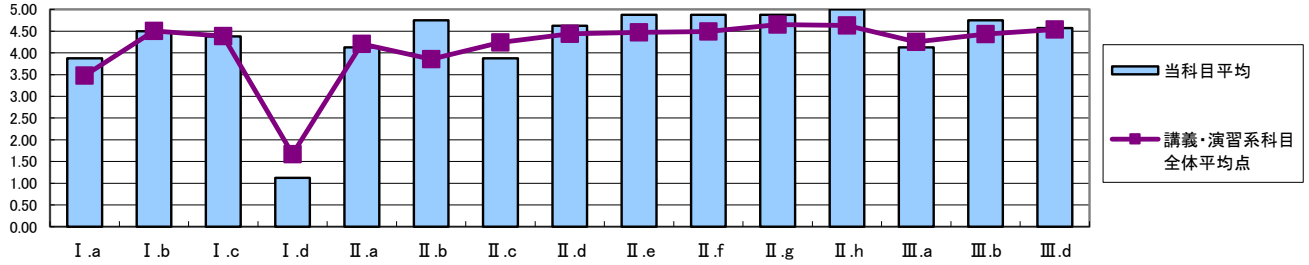
自らが学びたい音楽と関係ない様に感じる社会的スキル、その必要性に意識させる為に、外部講師と学生の間に入って自らの経験などを交えながら理解しやすい形にする事が必要かと考える。授業の考えは押し付けるものではなく、各々が大学生活で得たスキルを発展的に生かす事が目的である事の理解を深め、肯定的な方向で学べる環境作りをしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	東邦スタンダードB	職名	06. 専任講師	履修者数	11
教員名	武藤　直美			回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.88	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.75	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 37.50 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今回は11名の履修者の内8名がアンケートに回答してくれました。設問Ⅰb、Ⅰc に対する回答が「5」「4」に集中しており、履修者が授業に対し大変意欲的であったことを認識することができました。

●　問題点

授業履修にあたり、予習や復習を行っている学生は設問Ⅰdの結果よりほぼ皆無に等しく、次年度の改善点とする必要性があると思われます。

●　改善の方策

履修者はこの授業に対し興味や関心を持ち、大変積極的ではあったが、予習や復習を行なっていなかったという結果から、次年度は確実な予習復習の履行を促していく所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

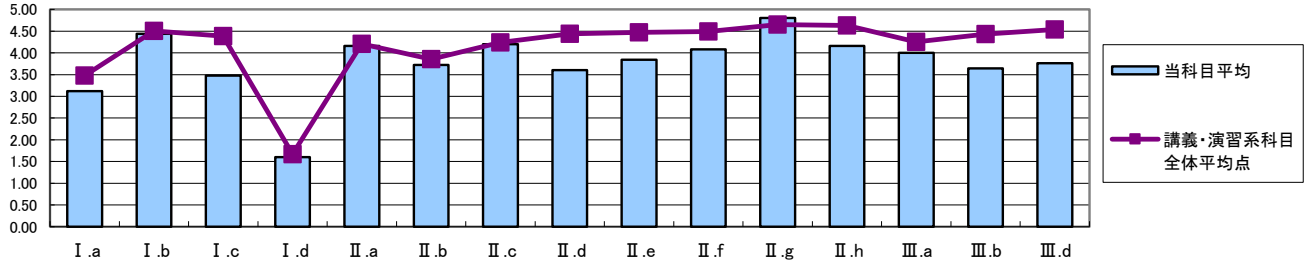
科目名	ウィーンの社会と文化Ba
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	32
回答者数	25

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.12	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.48	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.16	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.72	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.84	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.16	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.64	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 65.00	4: 30.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.76	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前からプロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課す形をとっている。　そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。昨年度は特に前期、日程消化が不規則であったが、出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。　次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関してはd，e，fの数値が特に低い。このことは講師側の授業の進め方全般に対して学生側の満足度が低いことを示すように思われる。先述のようにa，ｂ両クラスでの教授内容は同一であるが、全体として数値面で比較的良好な結果であったbクラスと比べて最も差がみられたのもこの部分である。またこの評価は授業全般に関する満足度に関係するⅢグループの数値全般の低さにもつながっているように思われる。この点については、（問題点）で指摘する事情で昨年度aクラスにおいて授業進行に問題が生じたことが背景の一つとしてあるように推測される。自由記述欄については、回答のあった学生に関しては好意的な評価、批判的評価双方がみられた。上述アンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととしたい。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにあるが、アンケートの結果をみると当クラスでは成果が十分に出たとは言い難い。原因の一つとして、特に昨年度は教室内機器の不具合が授業進行に影響を与えることが多かったことが考えられる。自由記述欄においてもその指摘がみられるが、その点がbクラスと大きな結果の差が出た理由のひとつと考えられる。

●　改善の方策

昨年度の授業に対しては、自由記述欄において好意的な意見もみられた。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標といえる。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、教室内機器の作動をスムーズに行う、プロジェクター用教材及び配布教材の内容の充実、口頭発表を充実させる（評価基準の可視化等）などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

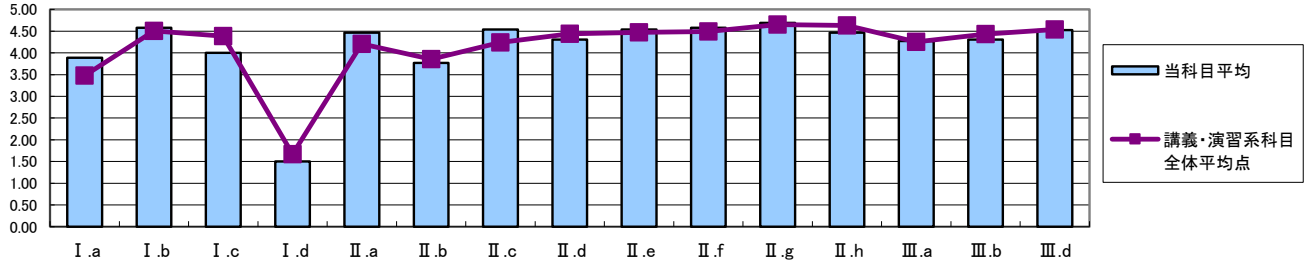
科目名	ウィーンの社会と文化Bb
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	29
回答者数	26

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.88	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.46	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.77	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.31	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.54	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50	4: 25.00
			3: 41.67	2: 4.17
			1: 4.17	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.52	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前から、プロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課する形をとっている。　そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。昨年度は特に前期、日程消化が不規則であったが、出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。　次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関しては、各指標の数値が全体として同一内容を教授するaクラスより高かった。その中でd, hの数値が比較的低かったが、それはbの数値と関連し、授業内容がやや難しいことと、講師の説明についての学生側の満足度がやや低いことを示しているように思われる。授業全般の充実度・評価に関係するⅢグループに関しては、一昨年度と比較して数値全般に顕著な好転がみられ、aクラスと比較してもその点は明白であった。自由記述欄で指摘された内容については（問題点）で改めて触れることとする。このアンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととしたい。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると当クラスについてはある程度一昨年度と比較して効果が表れたといえるのではないか。aクラスと比べて良好な結果を得られた理由として、aクラスの項で触れた教室内機器の問題が当クラスではほとんど見られなかったことが挙げられる。自由記述欄もおおむね好意的な意見が多かったが、講師が説明をより丁寧にするよう指摘する意見もみられた。

●　改善の方策

当クラスに関しては、昨年度の授業に関し、講師側の工夫の成果はある程度表れたといえる。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標と考える。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、プロジェクター用教材、配布教材の内容の充実、口頭発表の充実（評価基準の可視化等）などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

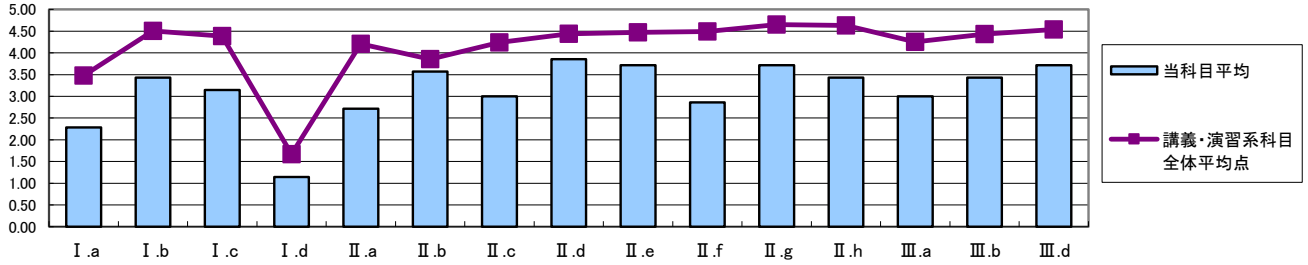
科目名	哲学B
教員名	桑原　恒久

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.29	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.43	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.14	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	2.71	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.86	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.71	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	2.86	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.71	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.43	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.43	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00	4: 40.00
			3: 60.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.71	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

哲学A

●　問題点

専門用語が多いため、教師が普通に講じた事に付いても、理解が未熟であったり、異なった受け止め方がなされている場合もあり、常にこの点に留意をし続けつつ、講義を進めて行く意識が必要である。

●　改善の方策

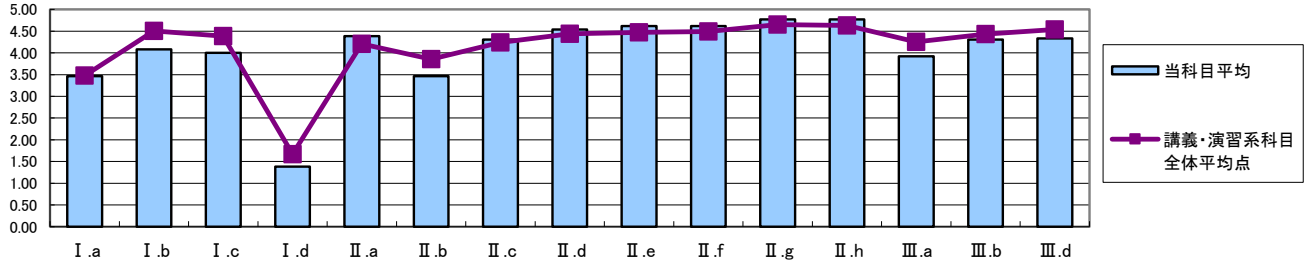
生徒一人一人の理解度を、確認しつつ進む事が肝要である。この為に、講義の中に、生徒への質問や要点の繰り返し説明、板書に特記するなどの手段と共に、講義の速度についても、生徒の反応を斟酌しつつ配慮するよう、試みて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語2a	職名	08. 講師	履修者数	16
教員名	増渕　千幸			回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.46	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.46	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.54	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.62	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.92	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 33.33 / 3: 50.00 / 2: 16.67 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

中高6年間で学んできた基礎力をもとに、応用力をつけてゆくことを目的に授業を進めた。平均して基礎力のある学生が揃い、1限にもかかわらず出席率も高く、授業にも積極的に取り組み感心させられた。一年を通じ、よく取り組んでいた。発音にも積極的で、習ったことがよく定着していた。

●　問題点

復習をしている学生が少ない。予習の必要はないと伝えてあるが、音読などの復習はするように毎回声をかけてはいた。実行にはつながっていないようだ。

●　改善の方策

学生は語学が専門ではないので、勉強の仕方をまずは伝え、習ったことの定着を図りたい。授業の中で積極的に発音させ、新しい言語を身につける感覚を、体感させてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

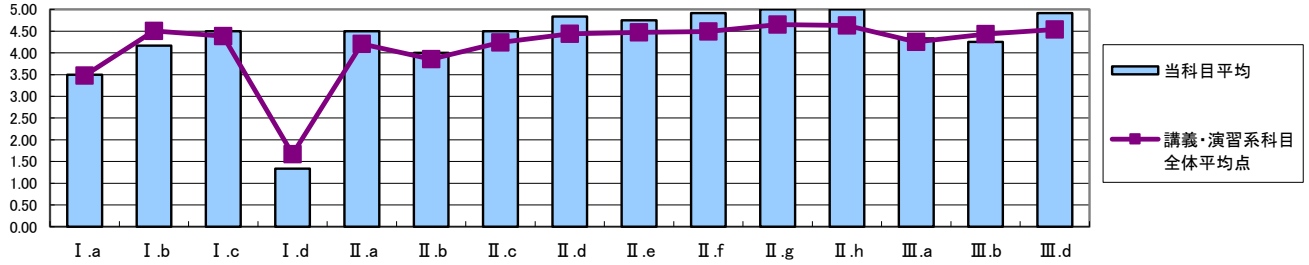
科目名	英語2b
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	19
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.92	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 72.73 / 4: 45.45 / 3: 18.18 / 2: 9.09 / 1: 27.27	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

中高6年間で学んできたことを基礎にして、応用力を身につけることを目標にして授業を進めた。学年が上の学生も多いクラスだった。初めは消極的にしか参加できない学生も多かったが、次第に学び方を覚え、英語自体も身につけられるようになり、成長がよく見えるクラスであった。集計結果も、実情をよく反映する内容であると思う。

●　問題点

復習をしている学生が少ない。予習の必要はない授業であるが、毎回復習の必要性を述べていたので、もう少し実行してくれていると思っていた。知識の定着のためにも、復習の重要性を伝え続ける必要がある。

●　改善の方策

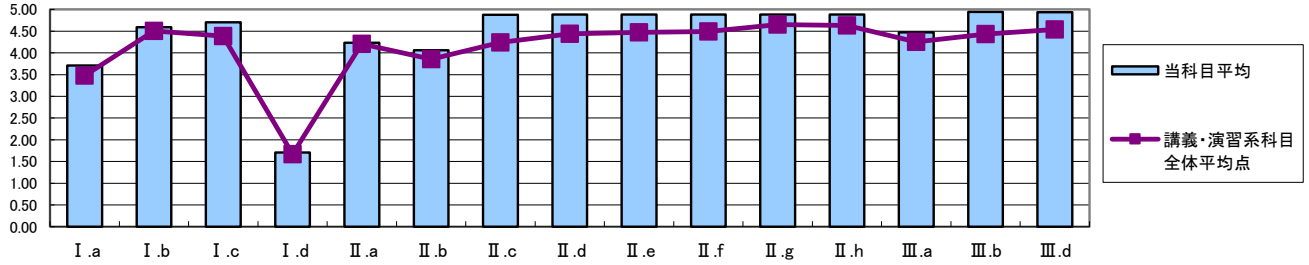
学生は語学が専門ではないので、勉強の仕方をまずは伝え、習ったことの定着を図りたい。授業の中で積極的に発音させ、新しい言語を身につける感覚を、体感させてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語4	職名	08. 講師	履修者数	19
教員名	増渕　千幸			回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.59	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.71	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.24	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.06	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.88	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.94	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.59	4: 29.41
			3: 35.29	2: 17.65
			1: 17.65	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

英語1、2で培った基礎力をもとに応用力を養うことを目的とし、講義演習形式で授業を行った。2年生以上の履修で、積極的な授業への参加が見られた。英語1のときに比べ、格段に英語への抵抗感や苦手意識が減っていて、感心させられた。多くの学生が集中して受講していた。

●　問題点

音読などで、よく復習をするよう声をかけていたが、実際に行っていた学生は少ないようだった。定着のためにも、復習を徹底させるようにしたい。

●　改善の方策

学生は語学が専門ではないので、勉強の仕方をまずは伝え、習ったことの定着を図りたい。授業の中で積極的に発音させ、新しい言語を身につける感覚を、体感させてゆきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

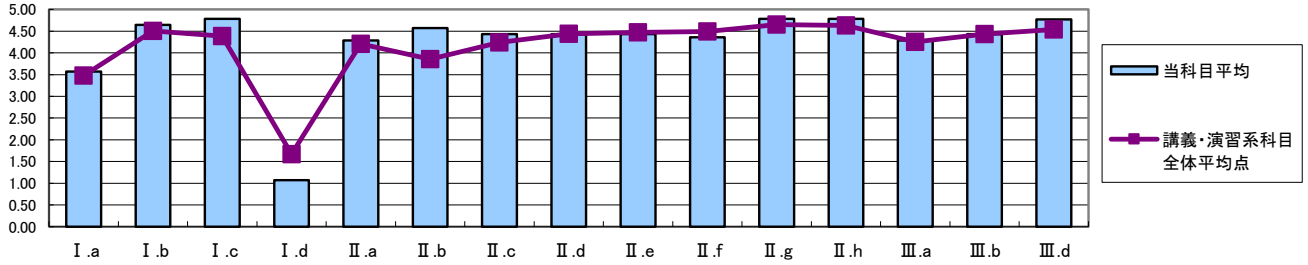
科目名	スポーツ演習b
教員名	南　明恵美

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.79	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.57	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71	4: 42.86
			3: 21.43	2: 14.29
			1: 21.43	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.77	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

演習の内容は、受講生もよく理解できていたようである。意欲をもって、学習していた。出席率が良かったこともあり、受講生の人数も常に安定していた。目的の内容を実現できた。

●　問題点

予習や復習が充分でないと考える。

●　改善の方策

①授業内で予習と復習になる内容を明確に提示して対処する。②こまめな提出でチェックする事とする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

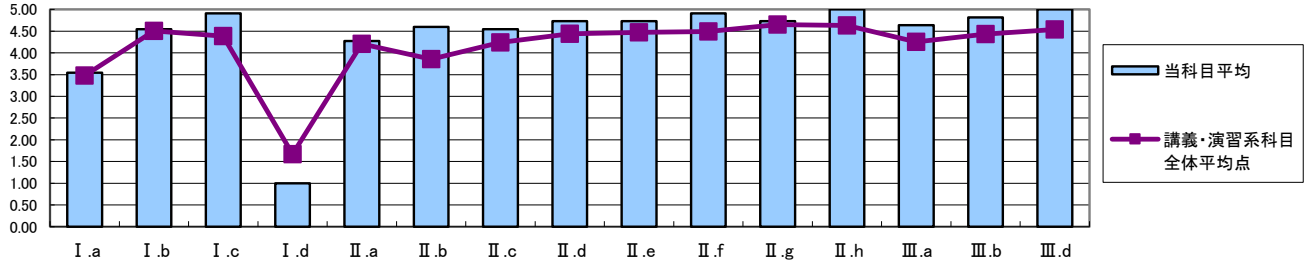
科目名	コンピューター演習Bb
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.55	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.55	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.91	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.73	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.91	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.64	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.91	4: 9.09
			3: 45.45	2: 27.27
			1: 9.09	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術ついて基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法を概観する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。＜内容＞　コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、本年度より小学校から順次必修化となるプログラミング教育について、その意義と教育現場で想定されるプログラミングソフトウエアを概観する。　PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。終期は、学生各自が、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。＜状況説明と分析＞　土曜日１時限、履修者数１２名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて１人１台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは１、３、４年生の混合クラスであった。学習意欲の高い学生が多く、各課題に対して真剣に取り組めた。社会人学生が２人履修していて、聞く姿勢や向上心が１年生などには良く影響していたのではないかと思う。

●　問題点

「予習・復習をしたか」PCの操作以外に情報技術・セキュリティ・ネットワークに関する題材も扱うが、コンスタントに行える予習復習へ結びついていないと思われる。

●　改善の方策

授業はPCでの演習が中心となり、自宅でのPC環境も学生によって異なることから予習復習に結びつけることが難しいが、社会全体のIT化の現状も鑑みて、フリーソフトウェアやWeb上のソフトウェアなどを利用しながらも、できる範囲で学生自身のディジタル端末での作業環境を整えることを勧めたい。そのうえで、コンピュータを使った予習復習、また端末を使わずにできるプリント課題などを提示し、習慣化できるようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

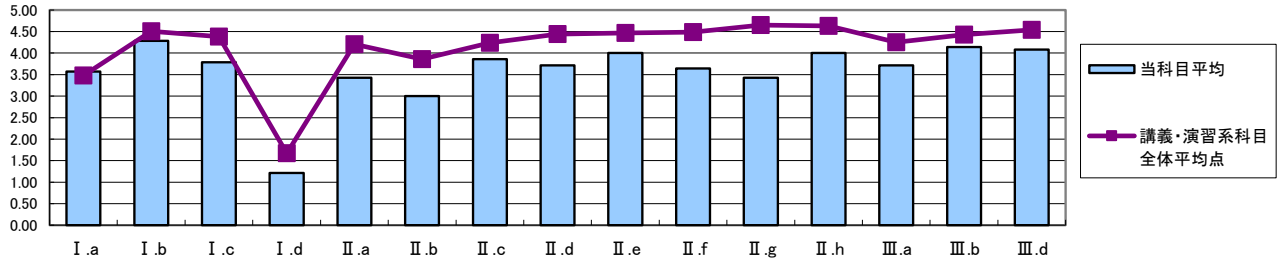
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	23
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.79	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.21	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.43	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.71	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.64	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.43	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.71	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.14	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 57.14 / 3: 7.14 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.08	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



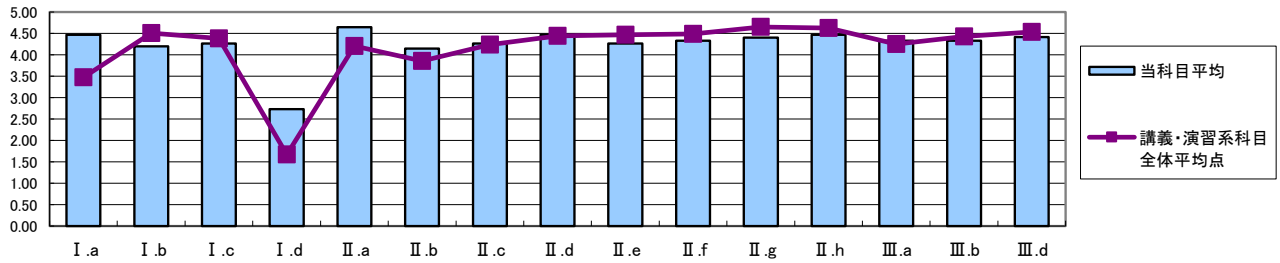
科目名	国際理解と交流B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	26
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.47	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.27	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.73	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.64	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.27	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.67 / 4: 20.00 / 3: 26.67 / 2: 6.67 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.42	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

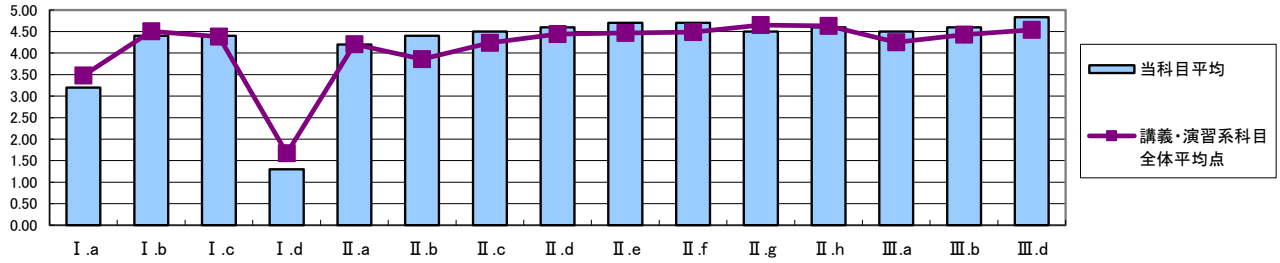
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.40	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.70	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 50.00 / 2: 20.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



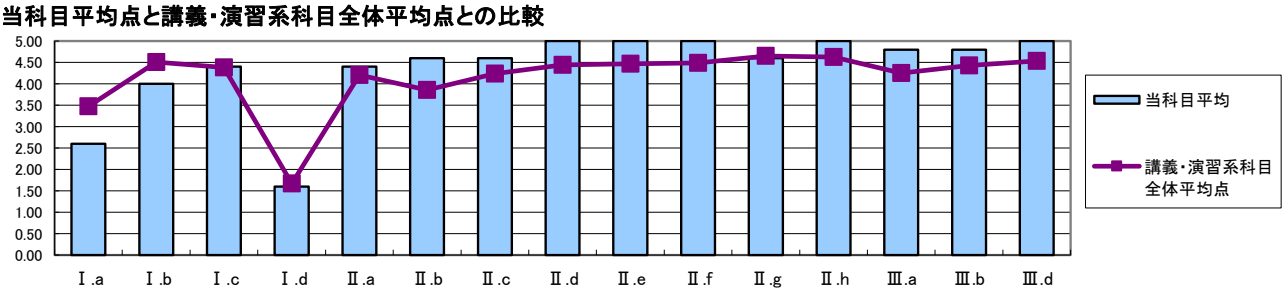
科目名	芸術文化とユネスコB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	11
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.60	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.00 / 4: 60.00 / 3: 40.00 / 2: 20.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

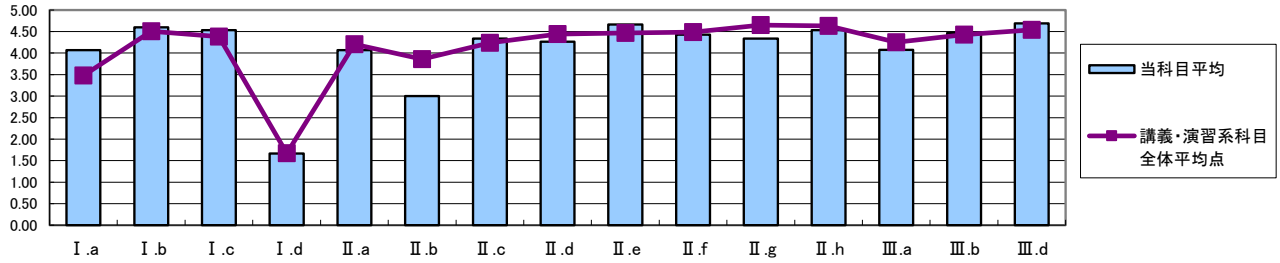
科目名	ドイツ語2a
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	17
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.07	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.07	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.27	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.07	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.67 / 4: 20.00 / 3: 53.33 / 2: 6.67 / 1: 6.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



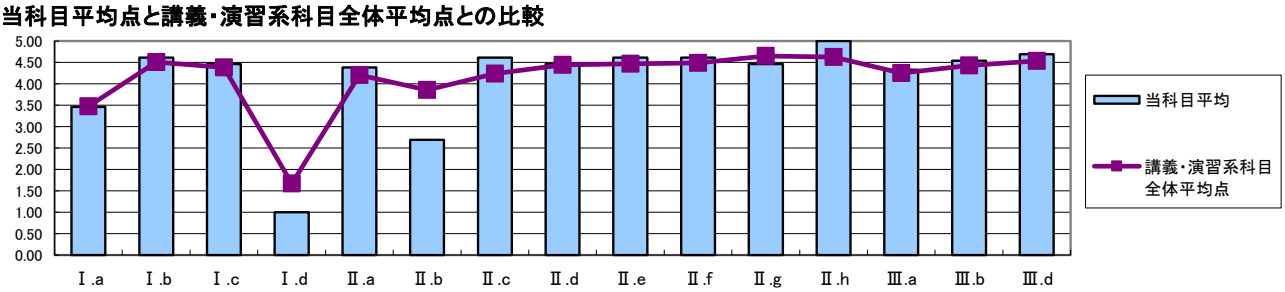
科目名	ドイツ語2b
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	21
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.46	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.62	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.69	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.62	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.62	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.46	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.54	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 30.77 / 3: 30.77 / 2: 15.38 / 1: 7.69	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

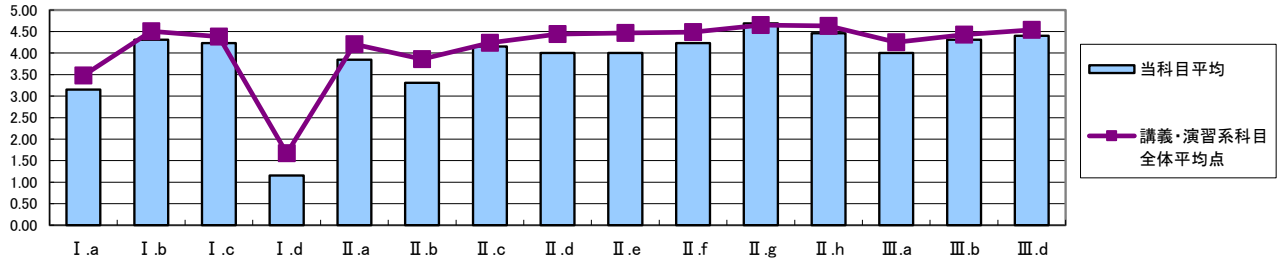
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	レンツI.K

職名	04. 准教授

履修者数	14
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.15	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.23	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.15	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.85	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.31	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.15	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.23	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 84.62 / 4: 23.08 / 3: 15.38 / 2: 0.00 / 1: 23.08	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



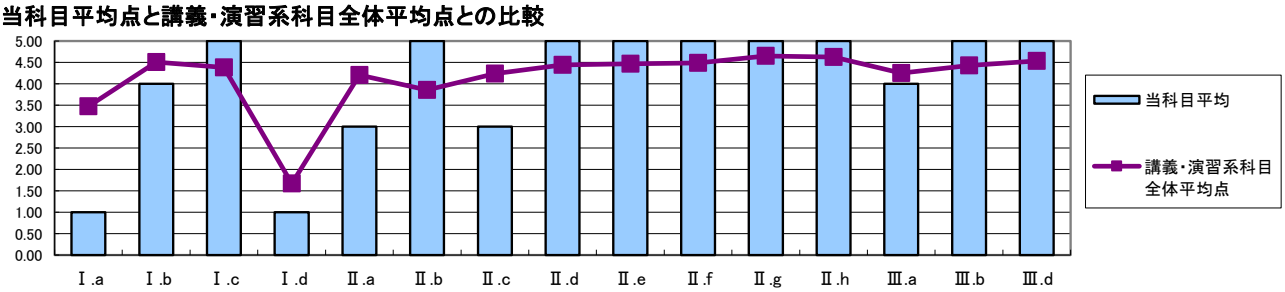
科目名	ドイツ語(Konzertfach)6
教員名	レンツI.K

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

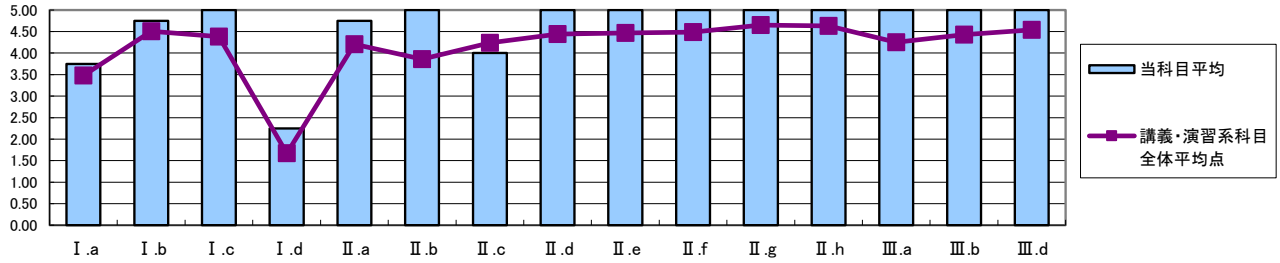
科目名	ドイツ語(Konzertfach)8
教員名	レンツI.K

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 75.00 / 3: 50.00 / 2: 25.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



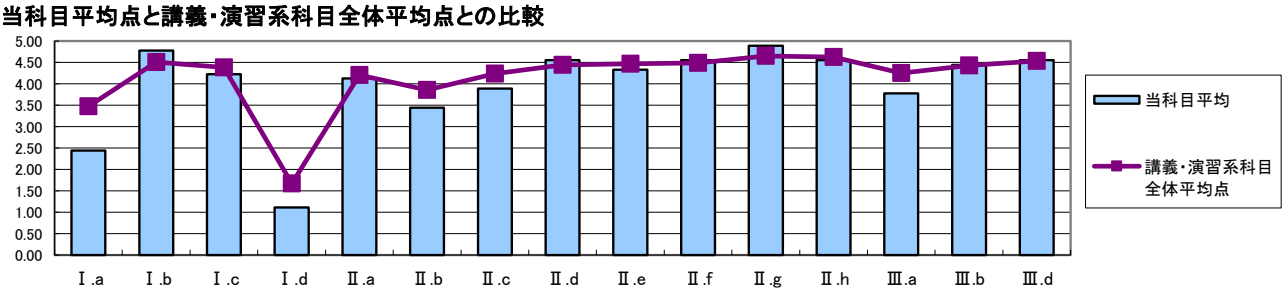
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4
教員名	レンツI.K

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.44	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.78	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.44	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.89	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.78	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 0.00 / 3: 55.56 / 2: 0.00 / 1: 22.22	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

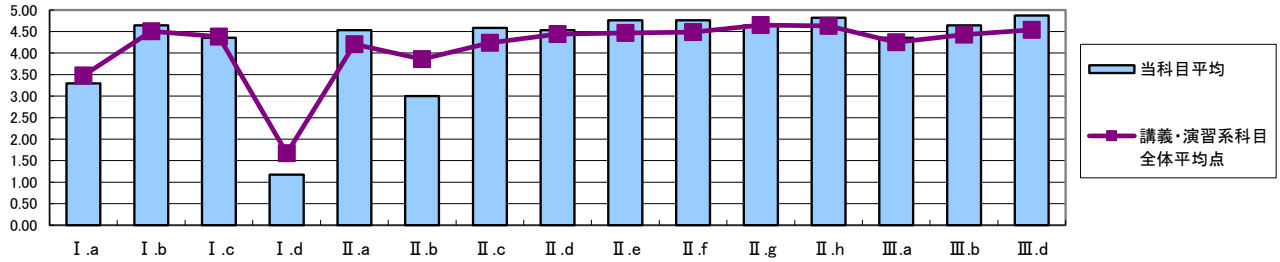
科目名	ドイツ語4
教員名	高橋　幸雄

職名	05. 特任准教授

履修者数	24
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.65	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.35	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.18	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.53	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.59	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.53	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.76	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.76	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.65	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.35	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.65	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.24 / 4: 0.00 / 3: 41.18 / 2: 11.76 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



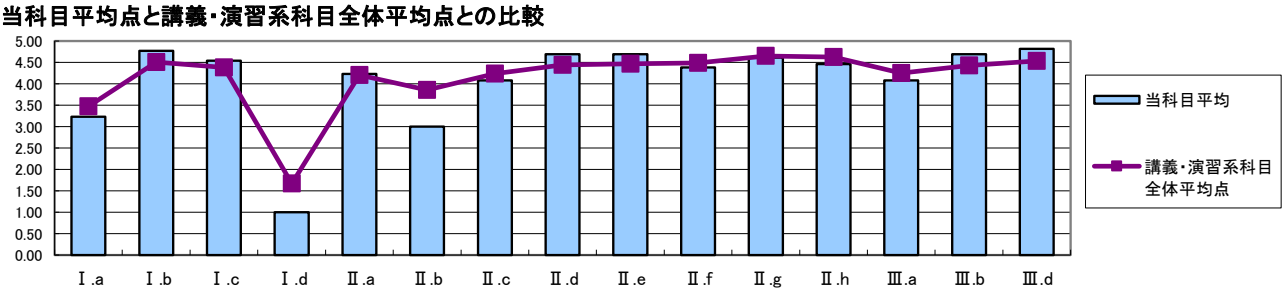
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.23	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.77	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.69	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.69	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.69	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 16.67 / 1: 41.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

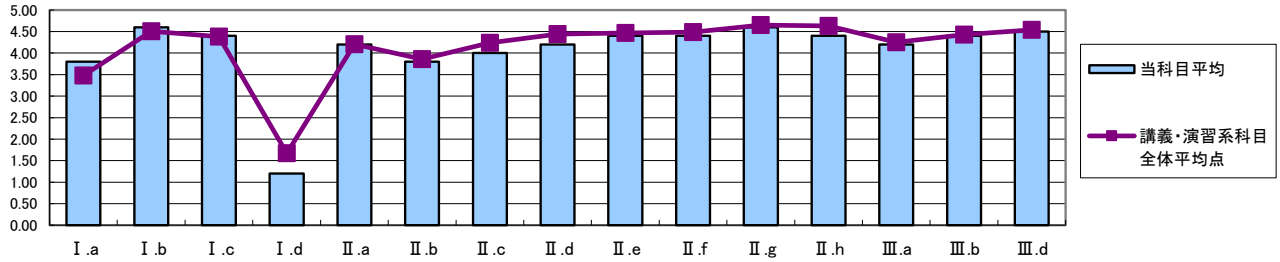
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.00 / 4: 0.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



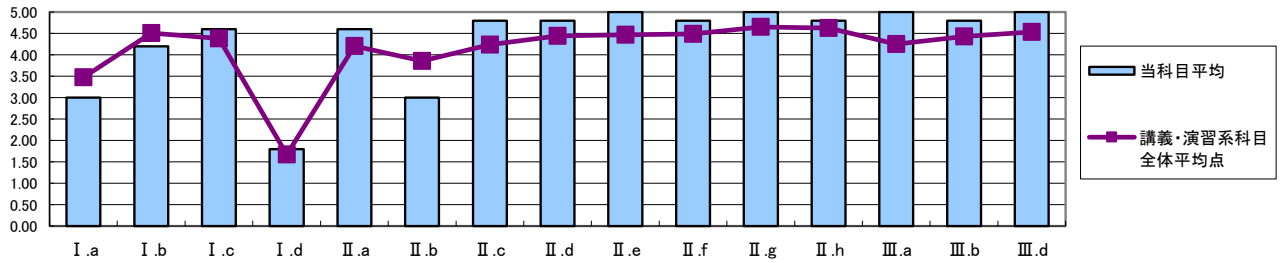
科目名	英語圏異文化コミュニケーション4a
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 60.00 / 3: 60.00 / 2: 20.00 / 1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

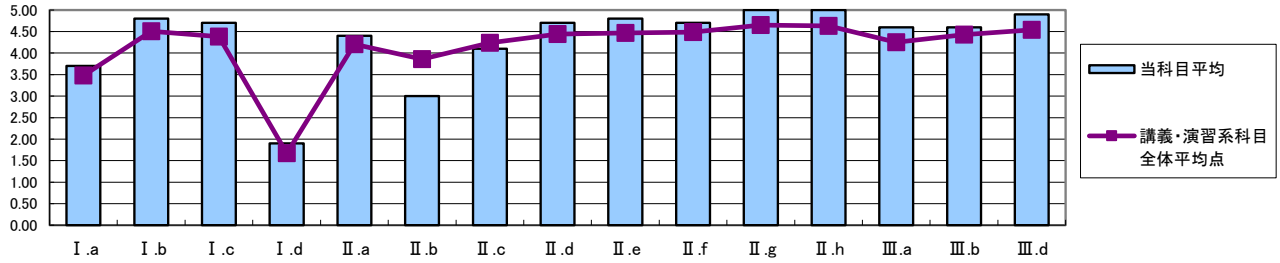
科目名	イタリア語2
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.90	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 30.00 / 3: 40.00 / 2: 20.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



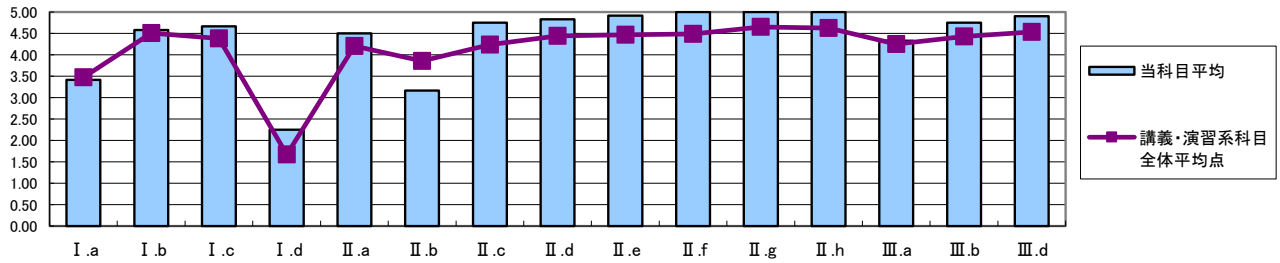
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.42	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.17	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.92	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 36.36 / 3: 45.45 / 2: 18.18 / 1: 63.64	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

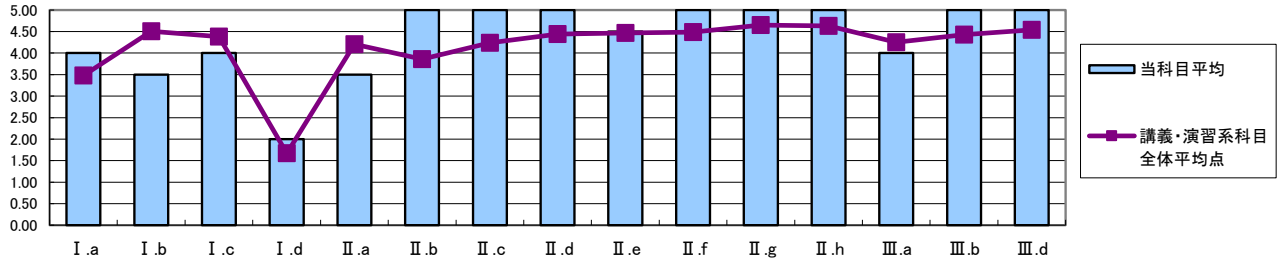
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



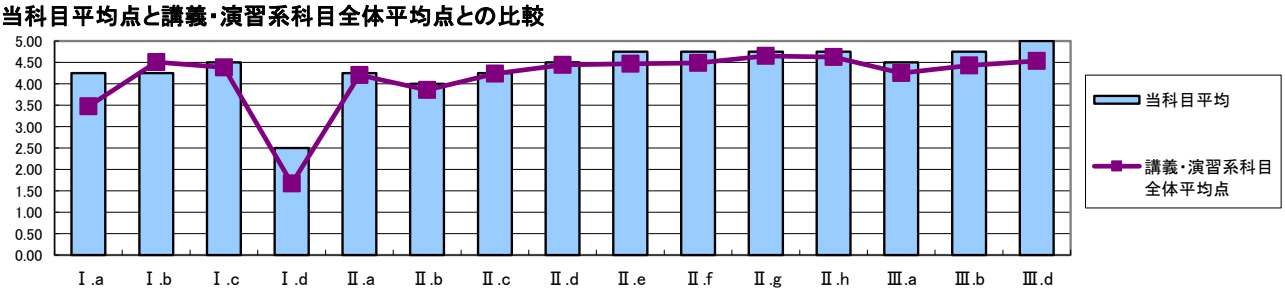
科目名	イタリア語4
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 75.00 / 2: 0.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

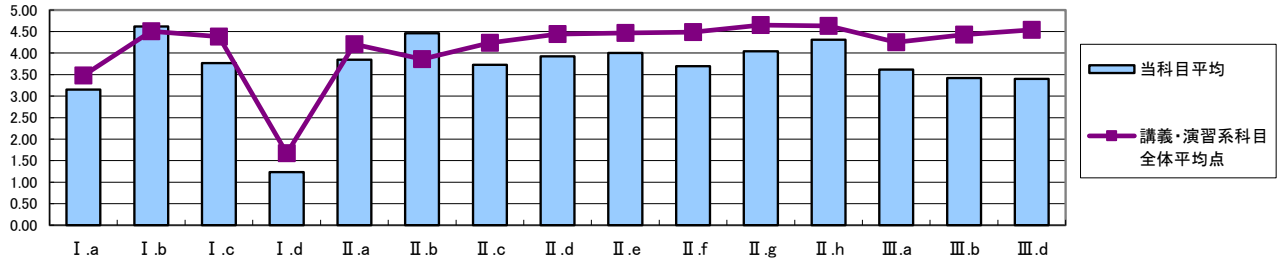
科目名	スポーツ文化論
教員名	江向　真理子

職名	08. 講師

履修者数	36
回答者数	26

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.15	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.62	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.77	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.23	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.85	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.46	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.73	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.92	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.69	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.04	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.31	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.62	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.42	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 63.64 / 4: 22.73 / 3: 22.73 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.40	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



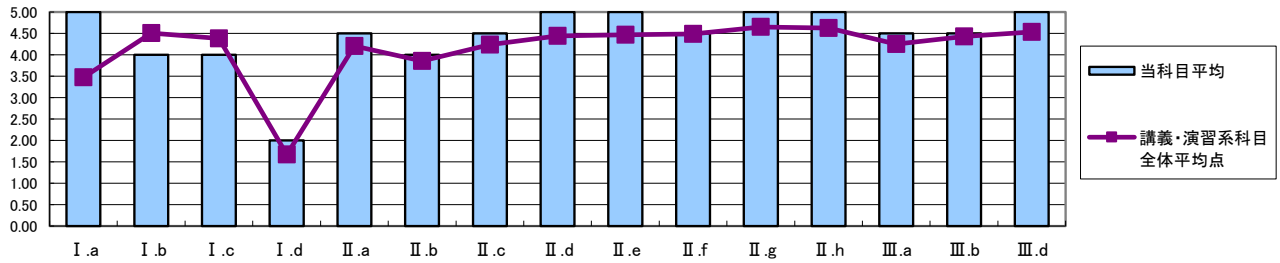
科目名	社会福祉概論（老人・児童福祉を含む）B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

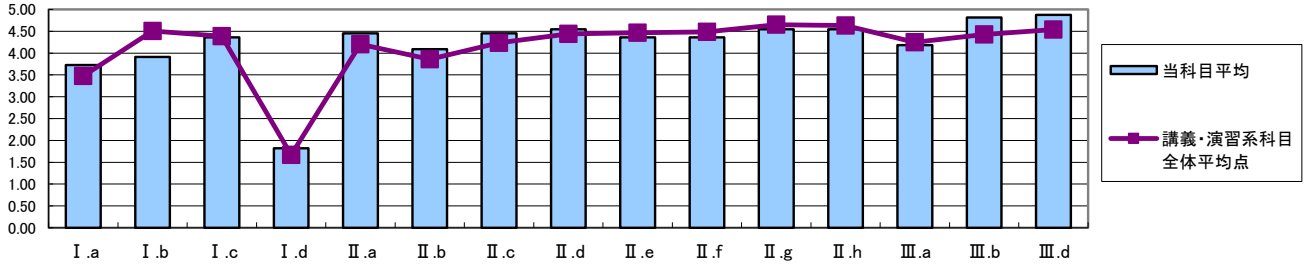
科目名	文化芸術論B
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.73	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.91	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.82	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.45	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.09	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.36	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.55	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.55	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.18	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.82	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 72.73 / 3: 72.73 / 2: 18.18 / 1: 18.18	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



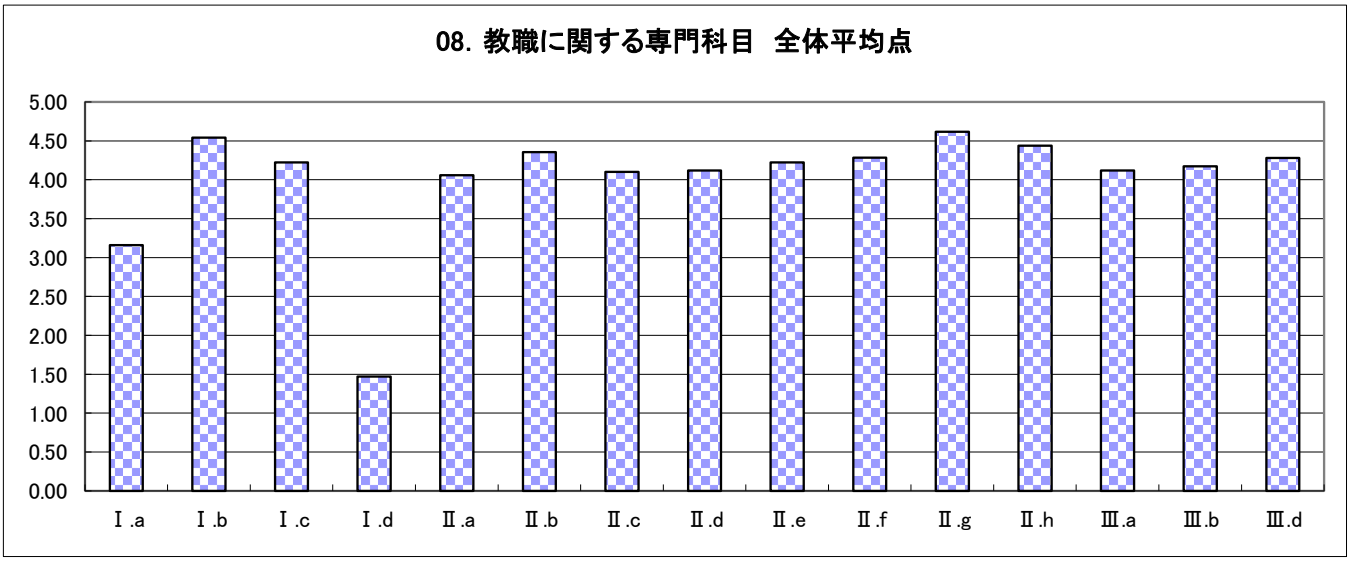
教職に関する専門科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	08. 教職に関する専門科目
科目数	7

履修者数	135
回答者数	118

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.16	23	29	32	12	22	118	0
				19.5	24.6	27.1	10.2	18.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.54	74	36	6	2	0	118	0
				62.7	30.5	5.1	1.7	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	54	41	14	7	0	116	2
				46.6	35.3	12.1	6.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.47	4	2	9	15	87	117	1
				3.4	1.7	7.7	12.8	74.4		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.06	47	36	30	2	2	117	1
				40.2	30.8	25.6	1.7	1.7		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.36	10	17	90	1	0	118	0
				8.5	14.4	76.3	0.8	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	51	33	29	2	2	117	1
				43.6	28.2	24.8	1.7	1.7		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.12	52	37	21	4	3	117	1
				44.4	31.6	17.9	3.4	2.6		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.22	60	32	18	5	2	117	1
				51.3	27.4	15.4	4.3	1.7		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.28	59	32	26	0	0	117	1
				50.4	27.4	22.2	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	84	21	12	0	0	117	1
				71.8	17.9	10.3	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	75	22	17	2	1	117	1
				64.1	18.8	14.5	1.7	0.9		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.12	45	43	27	2	0	117	1
				38.5	36.8	23.1	1.7	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	52	38	22	5	0	117	1
				44.4	32.5	18.8	4.3	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	75	54	22	28	13	110	8
				68.2	49.1	20.0	25.5	11.8		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.28	54	34	7	6	2	103	15
				52.4	33.0	6.8	5.8	1.9		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

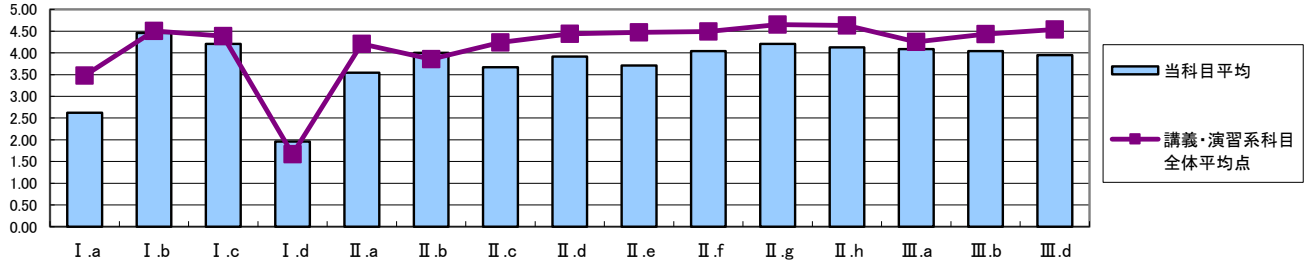
科目名	教職実践演習a
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	28
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.63	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.46	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.21	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.96	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.54	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.92	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.71	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.04	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.21	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.13	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.04	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 55.00
			3: 25.00	2: 35.00
			1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.95	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

○科目の目的・内容　教職実践演習は、４年間の教職課程での学びや教育実習などの体験を通して教員としての資質能力を身に付けたかどうかを最終的に確認するための授業である。特に以下の４つの資質能力が重要である。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③生徒理解や学級経営に関する事項④教科内容等の指導力に関する事項学生３名が一つのチームとなり、教科指導、生徒指導、教員の資質力量などの教育課題を取り上げて研究を進める。調査・研究したテーマを基に、教育現場を想定して教員研修会を企画・運営する。各チームは、研修会がスムーズに効果的に進められるよう企画書やワークシートなどの研修資料を作成し配布する。毎回の授業で研修を担当するチームが変わり、参加する学生は常に新たなテーマ、教育課題を理解し教員としての資質能力の向上に努めていた。○授業形態　　協働学習、グループワーク、プレゼンテーション、研究協議など○受講者数（２８名）○開講曜日（金曜日）○状況説明と集計結果の分析　学生はひとり一人が主体的に取り組み、互いに学びあい、研究協議を含めて概ね意義のある授業との感想があった。教育実習を終えたこともあり、すべての学生が大人として成長した様子がうかがえたことは喜ばしい。

●　問題点

・授業を３人の教員が担当することがあったが、教員側の授業への取り組みの姿勢（熱意）　　にばらつきがあるとして学生に受け止められたことは残念である。・各チームが取り上げるテーマについては教科専門力・指導力の部分が少ないことが問題で　　ある。

●　改善の方策

次年度は授業を２人の教員で担当することとし、授業内容については昨年の反省をふまえて、模擬授業（教科指導）については一定の時間をとって行うこととする。これによって教員としての資質能力をバランスよく身に付けたかどうかを確認することができると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

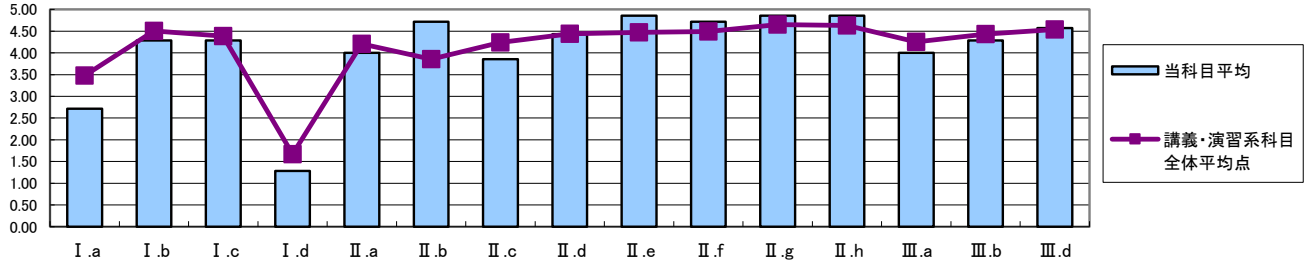
科目名	教育行政b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 14.29 / 3: 28.57 / 2: 14.29 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

各授業とも、講義式と協働的な学修を織り交ぜたが、新型コロナウイルス感染防止のため、付箋を用いるなどして話し合い活動を制限した。パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽科授業との関連に触れ、具体例を示した。アクティブ・ラーニングでは、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う中で、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及ぶため、教育行政全般の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野への興味・関心が薄い学生が多くいることから、教育行政の概要を具体的事例を基に考察し、体系的に理解する意義は大きいと考えている。　留意したことは次の３点である。　①　教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。②　教育行政の変遷について概要をつかむ。③　現在の教育行政の現状と課題を整理する。この３点は授業全般で意識して取り組んできたところである。教職課程の授業であることから、特に学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性、家庭、地域との協働について、具体的で踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育行政は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。

●　問題点

Ⅰａ「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「全くそう思わない」に２人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。また、Ⅰｄ「１回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、５人が１．１時間未満と回答しており課題を残した。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、１５回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

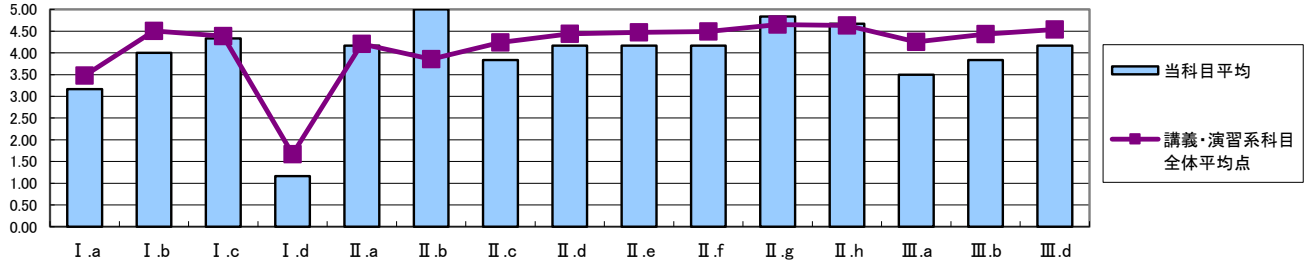
科目名	教育方法b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.83	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33 / 3: 16.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.17	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

中学校、高等学校で実践されている多様な指導方法や学習形態を擬似的に体験的する授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、多様な学習方法を体験的に学修した。各授業とも講義式、アクティブラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。残念ながらコロナ禍により、話し合い活動を制限し付箋を活用するなどの工夫をしたが、もう一歩深まりに欠けたことは否めない。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学修状況を把握するため「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返却した。音楽大学という特質から、音楽の授業と結びつけて実践的な内容とした上で、主体的・対話的で深い学びを進め、これからの教育で必要とされるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について、体験的に理解していった。三年生という特質から、各種演奏会出演、各種体験活動等から公欠数が多く、学修の継続という点で課題がある。留意したことは①ねらいを明確にして、学修の見通しを示し、学修の内容、成果や課題について振り返りのある授業を目指すこと。②協調学習（ジグソー学習）等、主体的対話的で深い学び指導方法、学習方法を理解すること。③資質能力の3つの柱を理念とした学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や、ＩＣＴ教育の意義及び今後の課題についても取り上げた。

●　問題点

Ⅰａ「……シラバスを活用した」という設問に対して、「全くそう思わない」と一人の学生が回答している。また、履修するにあたって、シラバスを読み込んでいる学生が少ない現状である。、あた、Ⅰｄ「1回の授業のために平均どれくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、5人が1．1時間未満と回答している。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、１５回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習の時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。今後一人一人の学生の学修状況を十分に把握しながら、授業を進めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

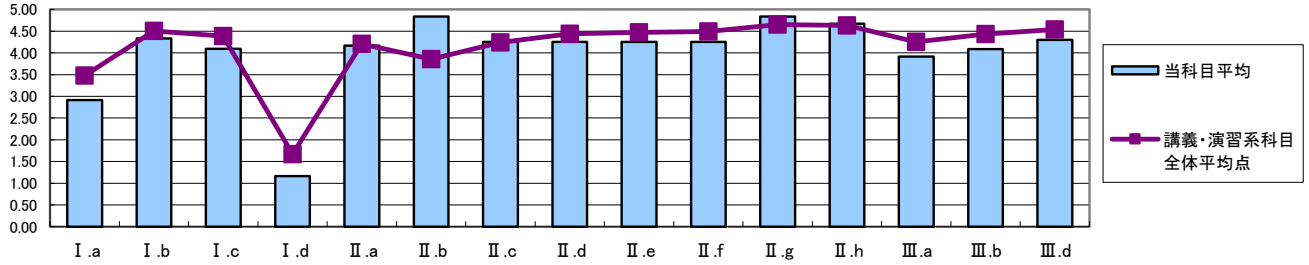
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成a
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.09	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.83	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.92	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.08	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 63.64	4: 72.73
			3: 45.45	2: 18.18
			1: 27.27	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議などの授業形態で進めてきたが、色々な視点で考えることができるようになった自己評価している割合が多くなっている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した予習・復習が不十分である。

●　改善の方策

１　授業、予習・復習の学習サイクルを充実させるためにシラバス及び具体的な課題の提示など工夫していく。２　学習指導要領の改訂の趣旨、生徒指導・教育課程の現状を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究の課題を工夫するとともに、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）による学習過程、授業形態を工夫して、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。３　同一科目でも、受講する学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、常に実態に基づいて授業の進め方の改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

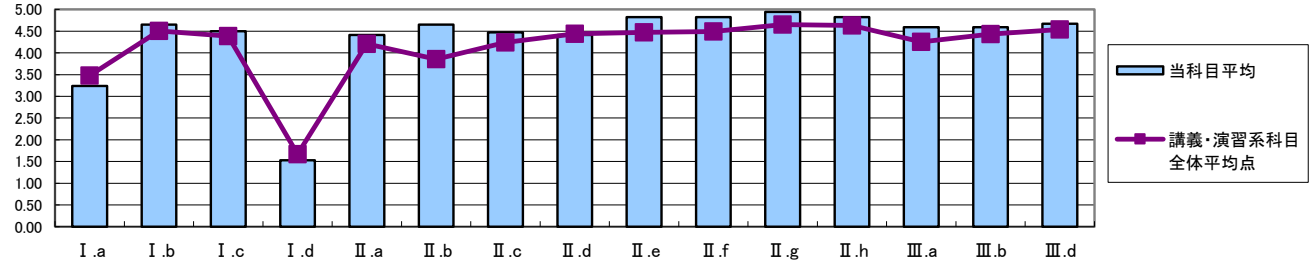
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成b
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	17
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.24	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.65	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.41	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.65	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.59	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.59	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 64.71	4: 64.71
			3: 23.53	2: 58.82
			1: 23.53	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議などの授業形態で進めてきたが、色々な視点で考えることができるようになった自己評価している割合が多くなっている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した予習・復習が不十分である。

●　改善の方策

１　授業、予習・復習の学習サイクルを充実させるためにシラバス及び具体的な課題の提示など工夫していく。２　学習指導要領の改訂の趣旨、生徒指導・教育課程の現状を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究の課題を工夫するとともに、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）による学習過程、授業形態を工夫して、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。３　同一科目でも、受講する学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、常に実態に基づいて授業の進め方の改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

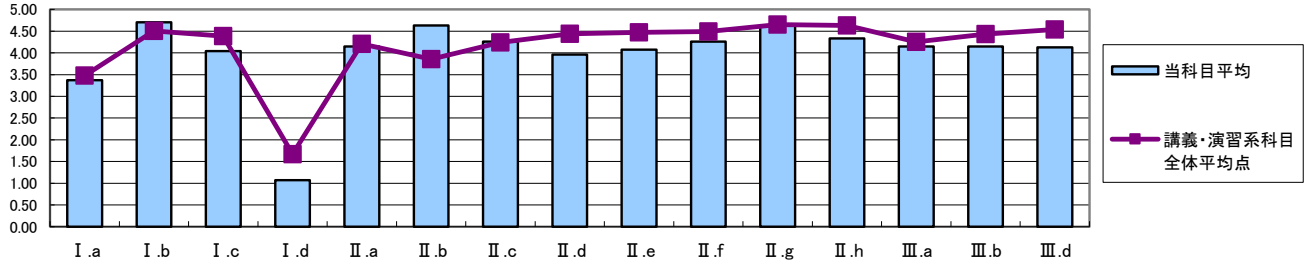
科目名	教育心理学
教員名	川久保　惇

職名	08. 講師

履修者数	30
回答者数	27

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.37	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.70	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.15	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.63	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.26	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.96	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.07	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.26	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.15	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.15	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 64.00	4: 52.00
			3: 8.00	2: 12.00
			1: 8.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.13	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本講義は教職課程の一環として、子どもの発達と学習を中心とした心理学的知識について講義するものであった。そのため人の発達には何が重要か、どのような教育が効果的かについて取り上げた。心理学を初めて学ぶ学生が多かったこともあり、講義においては出来る限り学生自身の身近な問題を講義のテーマと結び付けた。同時に、映像資料を多く活用した。また、毎回の授業終了時に受講者にコメントを記載してもらい、その内容を次回の授業時に紹介するという取り組みを行った。本講義が開講された９月以降はコロナウイルスの影響がまだ大きく残っていたが、全体の出席率は良好であった。学生アンケートの結果は、概ね全体の平均通りであった。ただし、この授業を履修して自分のためになったものは何かという項目については、新しい知識やものの見方の回答率は比較的高かった一方で、コミュニケーション能力向上や問題発見・解決能力についての回答率は低かった。

●　問題点

「教育心理学」の到達目標が何かという点を学生自身があまり意識していなかったこと、教室内の静粛性が保たれていなかったことが挙げられる。出席率は良好であった反面、講義内容に関する予習や復習を促す取り組みが不足していた。

●　改善の方策

初回授業時に講義全体の狙いや目標について、丁寧に説明することで教育心理学の講義が何を目標としているのかについて周知したい。また、最終試験時以外にも、自主的かつ発展的な学びに繋がるような課題を出すなどの工夫を考えたい。また、学生同士のディスカッションを行う機会を取り入れることを検討したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

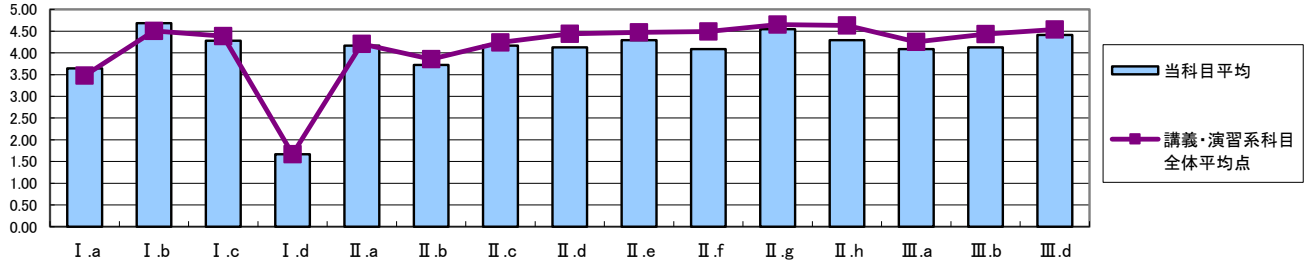
科目名	教育相談・進路指導
教員名	川久保　惇

職名	08. 講師

履修者数	30
回答者数	25

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.64	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.68	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.28	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.72	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.13	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.54	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.13	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 33.33 / 3: 12.50 / 2: 16.67 / 1: 4.17
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.41	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本講義は、全15回の講義を２人の教員が交代で担当する形式で行われた。前半の「教育相談」の目標は、人の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を学ぶことと、生徒を支援するために必要な基礎的知識を身に付けることであった。講義は、思春期の児童や生徒が抱えやすい問題を講義内で具体例として紹介しながら展開した。　全体の出席率は良好であり、全体のおよそ72%の学生が「この授業の出席は良好であった。」という設問に対して「強くそう思う」と回答していた。他方、本講義のアンケートの平均点が全体より下回っていた回答は、「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものであった」や「授業内外における質問や相談の対応は適切であった」などであった。

●　問題点

「教育相談」の到達目標が何かという点を学生自身があまり意識していなかったこと、教室内の静粛性が保たれていなかったことが挙げられる。出席率は良好であった反面、講義内容に関する予習や復習を促す取り組みが不足していた。配布資料については、授業内容のどの程度の部分までを資料として配布するかについて再度検討したい。

●　改善の方策

講義形式に拘らずに、ディスカッション形式の演習やグループワークを積極的に取り入れるなどして、学生の授業への関わりを深めたい。同時に、多くの学生が学びやすい環境を整えるために、私語に対する注意を増やす。また、各回の講義内容を改めて精査し、1回の講義がそれぞれの時間内に収まるような改善をしたい。

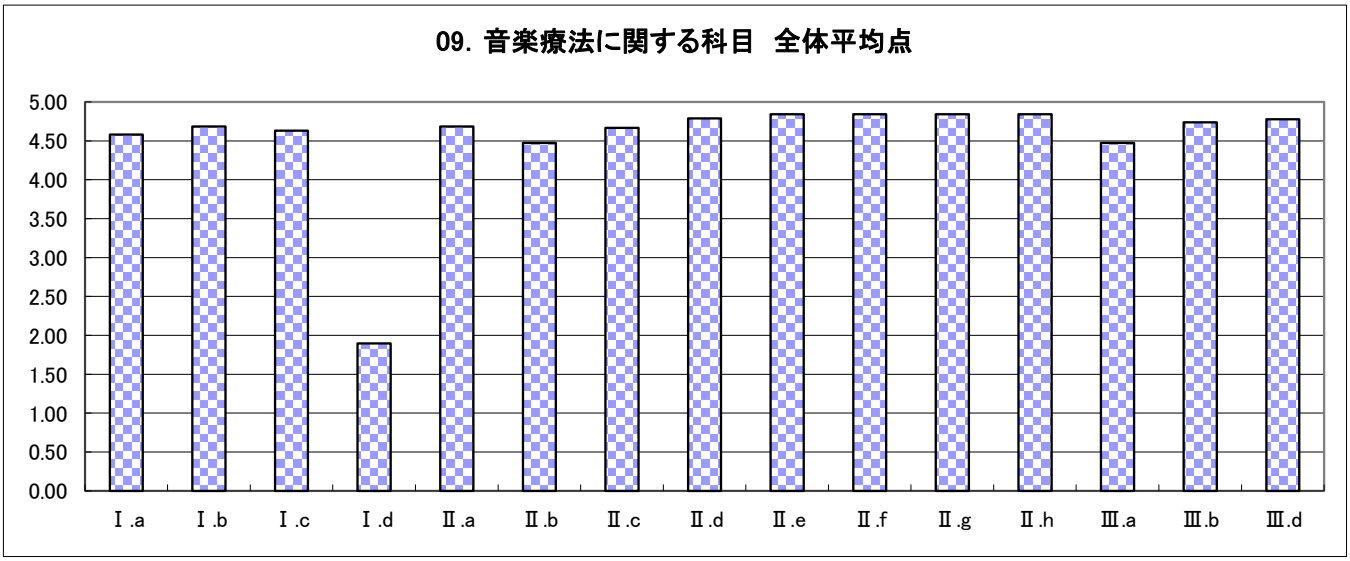
音楽療法に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 音楽療法に関する科目
科目数	5

履修者数	19
回答者数	19

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.58	11	8	0	0	0	19	0
				57.9	42.1	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.68	13	6	0	0	0	19	0
				68.4	31.6	0.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	12	7	0	0	0	19	0
				63.2	36.8	0.0	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.89	1	1	2	6	9	19	0
				5.3	5.3	10.5	31.6	47.4		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.68	13	6	0	0	0	19	0
				68.4	31.6	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.47	1	3	15	0	0	19	0
				5.3	15.8	78.9	0.0	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	13	4	1	0	0	18	1
				72.2	22.2	5.6	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.79	16	2	1	0	0	19	0
				84.2	10.5	5.3	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.84	16	3	0	0	0	19	0
				84.2	15.8	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.84	16	3	0	0	0	19	0
				84.2	15.8	0.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.84	17	1	1	0	0	19	0
				89.5	5.3	5.3	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.84	16	3	0	0	0	19	0
				84.2	15.8	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	10	8	1	0	0	19	0
				52.6	42.1	5.3	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.74	15	3	1	0	0	19	0
				78.9	15.8	5.3	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	18	10	13	3	2	19	0
				94.7	52.6	68.4	15.8	10.5		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	14	4	0	0	0	18	1
				77.8	22.2	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

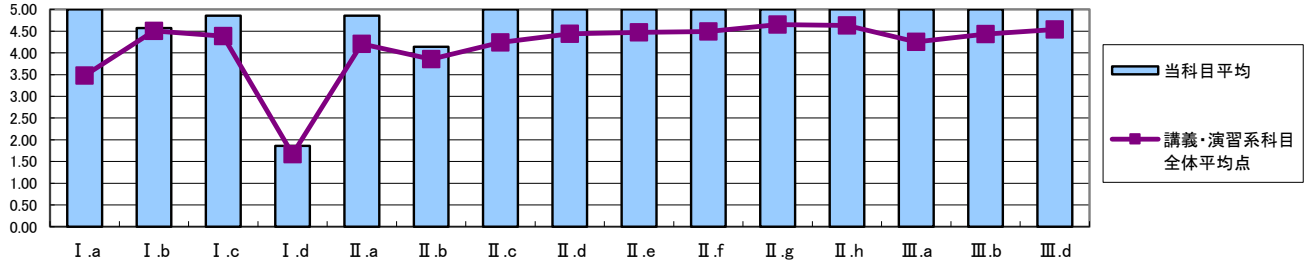
科目名	人間と医療ＩＢ
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.57	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.86	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 71.43 / 3: 85.71 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の対象者の精神疾患、それに伴う症状や精神状態を学習することを通して、音楽療法実践に役立つ精神医学基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。＜内容＞精神疾患の分類の理解、さまざまな精神疾患の症状や特徴の理解、検査や精神療法を理解する力を身につける。また、それら精神疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように工夫するか、などを言葉にする。＜授業形態＞　講義形式であったが、上記のように精神疾患の症状や精神疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。＜受講者数＞７名。＜開講曜日・時限＞火曜日３限。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ａより、学生全員がシラバスを活用したことが明らかとなった。Ⅰ－ｂ・ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。②担当教員は難しい精神医学の内容をカラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、教科書のみでは理解が難しい脳のしくみなどを別資料カラーで用意したため、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。③Ⅲ－ａ・ｂ・ｄより、７名全員が到達目標を十分に達成でき、興味深く学修し、意義のある授業だと感じていた。今年度の学生は、もとから精神医学に対して強い興味を抱いていたことも影響していると思われる。また、Ⅲ－ｃで「新しい知識・技能」が身に付いたと全員が回答していた。これは、精神疾患を学んだことで、学生たちが今まで出会った人たちの行動が精神疾患の症状であることと結びつき、「新しいものの見方」も出来るようになったことに繋がっていると思われる。加えて、さらに精神医学や周辺領域について勉強したいという「関連分野の学習意欲」にも影響を及ぼしているだろう。

●　問題点

アンケート結果より、2020年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業終了時に、学生一人一人にその日の講義の感想や質問を述べてもらい、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。

●　改善の方策

2020年度の学生については、先述したように、元から精神医学に興味のある学生たちだったため、全員が意欲的に授業に出席していた。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

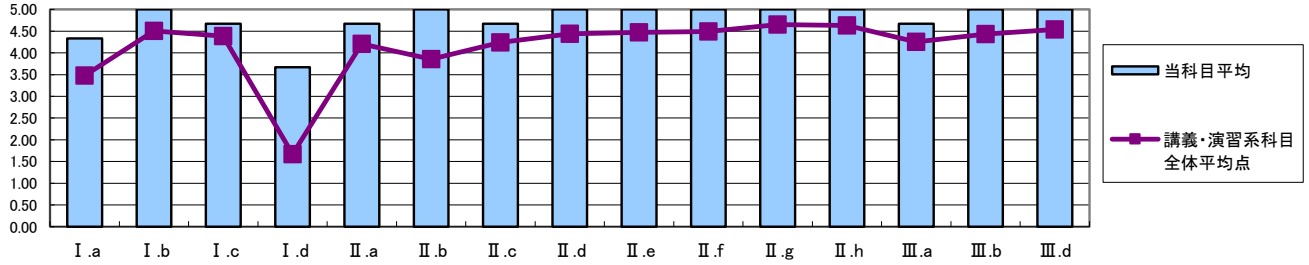
科目名	学内実習発表(音楽療法)
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 33.33 / 2: 66.67 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法における「研究とは何か」について多面的に学ぶ。また、研究をする上で必要な学術的思考や学術的情報収集能力、そして自分の考えを適切かつ客観的な言葉にして他者に伝えることのできる言語表現力を身につける。＜内容＞音楽療法の領域において、自分の興味のあるテーマを見つけだし、それに対して科学的なリサーチを行うための手法を学ぶ。そして、研究としてまとめるための学術的思考や言語能力を身につける。最終的には、実際に専攻内の教員と全学年学生の前で学術発表を行う。＜授業形態＞講義形式と、自分のテーマをみんなの前でプレゼンテーションしディスカッションすることを、およそ半々の割合で行った。＜受講者数＞３名。＜開講曜日・時限＞火曜日４限。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ａ・ｂ・ｃより、学生がシラバスを活用して積極的にこの授業に取り組み、出席も良好であることが分かった。また、Ⅰ－ｄの結果より、全体平均よりも当科目の予習復習時間が顕著に多いことが明らかになった。これは、この授業が自分で研究したいテーマを決め、授業外の時間でそのテーマについて論文を読んだり、自分の論文を執筆したりする作業があることが要因と推察された。②Ⅱ－d～ｈについては平均より若干高い数値であることが分かった。これは、担当教員がインターネットでの論文の調べ方や統計手法などを実演したため、学生にとっては理解しやすかったものと想像できる。③Ⅲ－ｃの結果より、この授業では「新しい知識・技能」「問題発見・解決能力」「新しいものの見方」が自分のためになったと学生が捉えていることが分かった。今まで学生が経験してきた＜小論文＞は、テーマを与えられて自分の意見を述べるものであったが、＜論文＞はテーマ自体を自分で決め、研究方法についても自分で立案する、という明確な違いがある。この授業において論文の書き方を学んだことが、上記の結果に繋がっているように感じた。

●　問題点

アンケート結果より、2020年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業中もディスカッションの時間を多くとって意見交換したこと、相手の意見を尊重する・褒める・疑問を率直に投げかけるなど、学生同士も学生と教員も密にコミュニケーションをはかったことが影響しているように思う。

●　改善の方策

2020年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたこと、また２名とも学修に対して非常に意欲的な態度であったことが挙げられる。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

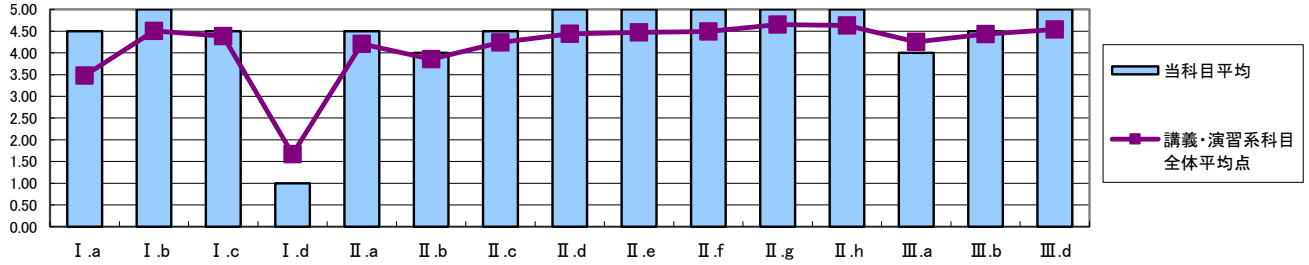
科目名	人間と医療ⅡB
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00	3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法実践に役立つ基礎・身体医学（主に神経学）の基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。＜内容＞基礎医学・身体医学の中で、音楽療法の対象者理解に必要な神経学（入門程度）を理解する力を身につける。また、それらの様々な疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように工夫するか、などを言語化できるようにする。＜授業形態＞講義形式であったが、上記のように身体疾患の症状のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。＜受講者数＞２名。＜曜日・時限＞火曜日５限。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ｂ、ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。ただ、Ⅰ－ａ、ｄの結果より、「予習・復習の時間」が少ないことが明らかになった。②担当教員は、難しい身体医学の内容をカラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果と自由記述の結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、脳の器質的疾患や聴覚のしくみなどを、全てカラー資料で用意した。また、図表をPPTでも映し出し、当該部位を指し示しながら説明した。加えて、検査方法などは学生たちに実践してもらったが、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。③Ⅲ－ａ～ｄより、この授業の到達目標を十分に達成し、興味深く学習したことが分かった。Ⅲ－ｃ〔この授業を履修して自分のためになったこと〕については、「新しい知識・技能」「新しいものの見方」の回答率が顕著に高かった。これに関しては、今まで学習する機会のなかった基礎・身体医学に触れることで、音楽療法実習で出会う対象者の状態を新たな視点から理解・評価できることに繋がっていると感じた。

●　問題点

アンケート結果より、2020年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業の途中や終了時に、学生一人一人に講義内容の感想や質問を述べてもらい、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。

●　改善の方策

2020年度の学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションしたこと、また２名とも非常に意欲的に授業に出席していた。しかし、そのような学生ばかりではないため、次年度以降も受講する学生の興味・関心・意欲等に合わせて授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

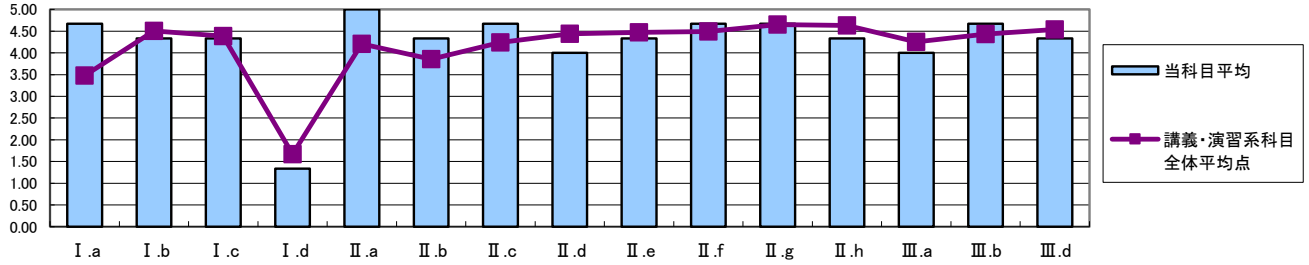
科目名	臨床心理学ＩＢ
教員名	岩澤　直子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33 / 3: 66.67 / 2: 0.00 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

前期の開講科目である「臨床心理学ＩA」は講義が中心の授業であったのに対して、本授業は、演習を中心とする授業形態であったため、学生の積極的な参加が必須の授業であった。事前に学生にも授業の形態を伝えてあったためか、積極的に取り組んだ学生が多かったように感じる。この点については、学生のアンケート結果からも同じ内容がうかがえる。また、「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」という質問への回答の平均点が高いことから、本授業に対して興味を持っている学生が多く、それに応えることのできた内容であったと考えられる。難易度に関する質問では、「適切」と回答した者が多かった点から、やや難しい内容も含まれていたが、全体として理解できる内容であったことが推測される。

●　問題点

問題点としては、2点挙げられる。1点目は、到達目標の達成についてである。「開講時に示された到達目標を十分に達成できた」という質問への回答にばらつきが見られた。学生自身が達成したと感じられるような工夫が必要であると考えられる。2点目は、授業の進め方である。アンケートの自由記述にて「板書が多い」というコメントがあったため、内容にボリュームがある際には工夫する必要があると考えられる。

●　改善の方策

1点目としては、学生への問いを増やすことで、学生が自分の考えを言語化する機会を増やす必要があると考えられる。学生の発言に対して教員がポジティブなフィードバックをすることで、学生の「わかった」「できた」という感覚につながり、それが到達目標の達成感へつながると考えられる。　2点目としては、内容にボリュームがある時には、配付資料を工夫する等して、板書の量を調節することで対応できると考えられる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

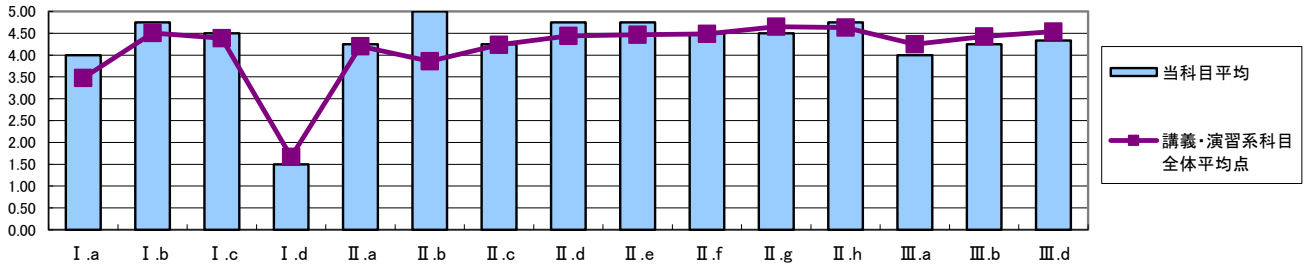
科目名	障害学B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 25.00
			3: 75.00	2: 25.00
			1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



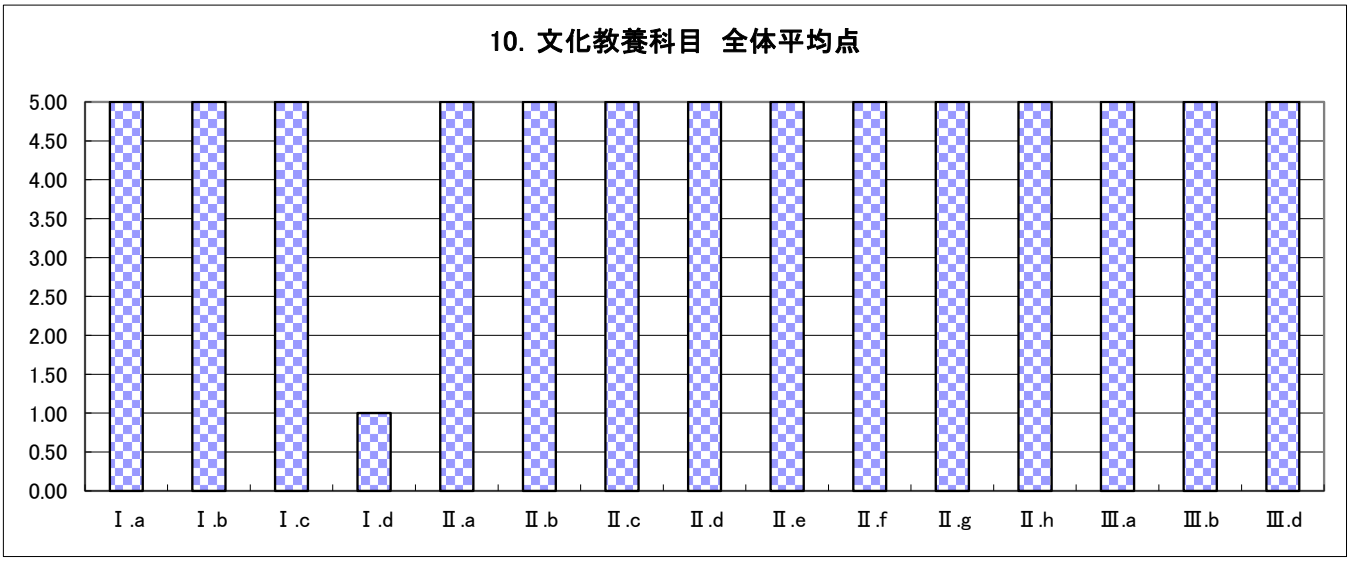
文化教養科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	10. 文化教養科目
科目数	1

履修者数	1
回答者数	1

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	0	0	0	0	1	1	0
				0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	0	0	1	0	0	1	0
				0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	1	1	0	0	0	1	0
				100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	コンピュータミュージック演習ⅡB
教員名	湯浅　恭子

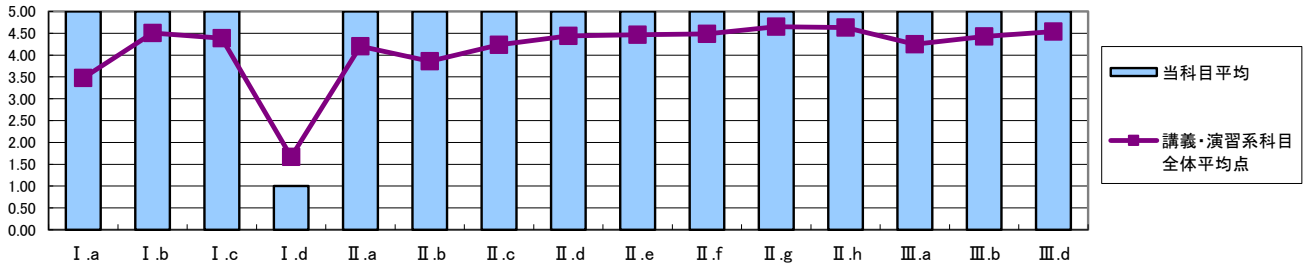
職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

5	4	3	2	1
100.00	100.00	0.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



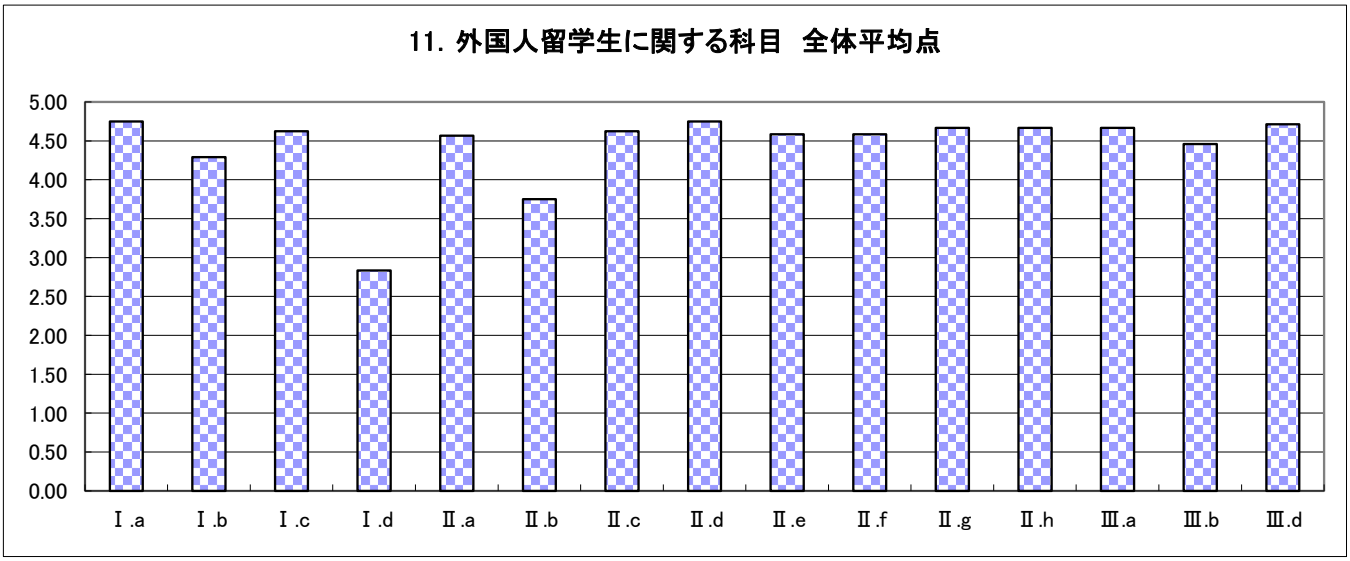
外国人留学生に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	11. 外国人留学生に関する科目
科目数	3

履修者数	27
回答者数	24

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	18	6	0	0	0	24	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	10	12	1	1	0	24	0
				41.7	50.0	4.2	4.2	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	17	5	2	0	0	24	0
				70.8	20.8	8.3	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.83	7	1	5	3	8	24	0
				29.2	4.2	20.8	12.5	33.3		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	15	6	2	0	0	23	1
				65.2	26.1	8.7	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.75	5	3	14	2	0	24	0
				20.8	12.5	58.3	8.3	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	16	7	1	0	0	24	0
				66.7	29.2	4.2	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	18	6	0	0	0	24	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.58	18	3	2	1	0	24	0
				75.0	12.5	8.3	4.2	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58	17	4	3	0	0	24	0
				70.8	16.7	12.5	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	17	6	1	0	0	24	0
				70.8	25.0	4.2	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	18	4	2	0	0	24	0
				75.0	16.7	8.3	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	17	6	1	0	0	24	0
				70.8	25.0	4.2	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.46	13	9	2	0	0	24	0
				54.2	37.5	8.3	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	13	7	5	2	7	21	3
				61.9	33.3	23.8	9.5	33.3		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	11	2	1	0	0	14	10
				78.6	14.3	7.1	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

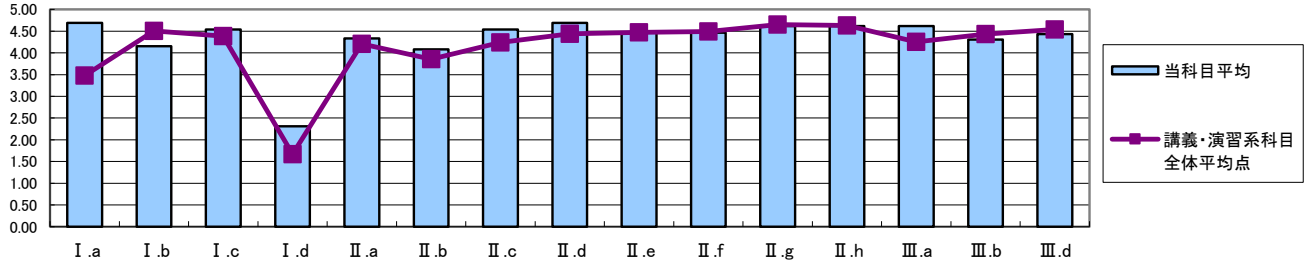
科目名	日本事情ＩＢ
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.69	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.15	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.31	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.54	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.69	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.46	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.46	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.62	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 50.00 / 3: 16.67 / 2: 8.33 / 1: 33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、学生が大幅に増加し、日本語能力に格差があること。また、専門科目の関係で時として３学年、４学年の学生が授業に参加することもあり、教材の選定に苦慮した。幾つかの教材を準備しておいてその日の出席者に合わせて選定したり、授業方法を変えたりしていた。日本事情という科目の性格上、学習目的に添って日本語能力の低い学生にも基礎的な語彙、文法を補いながら、日本の現代、歴史、文化、中国との関係について日本と中国を比較しながら考えさせるよう努めた。学生のアンケート集計結果から、Ⅰaのシラバスの活用、Ⅰcの学習意欲、Ⅰｄの予習復習、Ⅱｃの成績評価基準の提示、Ⅱｄの授業の進め方、Ⅲaの到達目標に高い評価が得られたのは、私自身の目指すところでもあり、学生にも伝わっていると考えられる。Ⅱｂの難易度に関しては、難から易まで散在するのではないかと恐れていたが、結果は難7.7%（1名）、やや難15.4%（2名）、適切61.5%（8名）、やや易15.4%（2名）で、適切と答えた学生が６割、前後合わせて９割以上であり、難しい環境の中であったが、教材や授業方法の工夫によって何とか達成できた。Ⅲcの自分のためになったことの項目では、新しい知識、技能や新しい物の見方、コミュニケーション能力向上を挙げた者が多く、いずれも私の目指すところであり、科目の目標にも合っていると考える。また、今年度初めての試みであるが、全学年を通じて、各個人の成果物を全てファイルに閉じて、ポートフォリオ評価を実践した。学期末に学生個人と成果物を確認しながら１年間の授業の振り返りをする予定であったが、残念ながら、コロナの感染者発生で、残り２日の授業を残して本年度の授業は終了し、担当者を通じて各個人にファイルを渡すことになった。ファイル返却の前に、各学生の年間の成果物を点検し、日本語能力は伸びていると判断した。本年度はとくに能力に応じて、読み書き能力を伸ばすことを目標においた。毎時間後半に作文課題を出して、時間中に提出させ、添削して返却し、ファイルに閉じさせた。初期の頃の作文と比べると、書く速度も早くなり、語彙も増え、文法の正確さも増し、長い文章も書けるようになった。上級者は内容がしっかりしたものになり、自分の意見を表現できるようになったことが本年度の成果である。

●　問題点

毎年の傾向であるが、Ⅰｂの出席の項が全体に比べてよくない。音楽大学での日本語の授業ということ、また、聞くところによると火曜日は音楽関係の授業がない曜日で、日本語の授業のためだけに登校するのは面倒という気分的なものも関係しているらしい。出席率は成績に反映すると伝えてあり、毎時間提出物の多い本授業ではその量でも必然的に成績が決まる。にもかかわらず、学生によっては、単位取得のみを目的にしている者もいる。

●　改善の方策

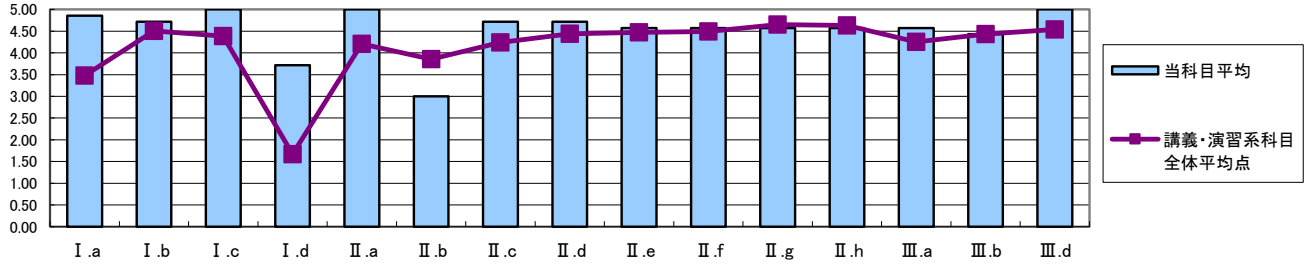
昨年は、１学年の学生が増えて、日本語能力にN1レベルからN5以下程度まで１クラスにしたため、教材選定や授業方法等で困難な点があった。また、人数も多く、一人一人に授業中にきめ細かい指導が出来なかった点が反省点である。この点を踏まえて、次年度は、習熟度別クラスにして人数もできるだけ少なくし、音楽関連の授業を考慮して、曜日も選べるように火曜日と金曜日を希望している。担当者との蜜な情報交換も重要であると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本事情ⅡB	職名	08. 講師	履修者数	7
教員名	高岸　美代子			回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.86	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.71	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 0.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 20.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２年目受講の学生ということで、表現能力の育成に重点を置き、学習目標のレベルをあげた。①自分について語ることや②書いてあることをただ正確に伝えるだけでなく、聴いた者が興味を持ってくれるような伝え方を工夫すること、また、③抽象的なことを考えて、自分の言葉で表現することを主眼にした授業を行った。具体的には、Show&Tellでは、自分が大切に思っているものを皆の前で実物を見せながら発表させたり、ある時は自分の興味ある昔話を紹介したり、有名な昔話の東西比較をして東洋と西洋の文化の違いについて考えさせたり、日本の名作を読んで生きることについて考えさせたりした。考えたことは作文にして毎回提出、添削して返却した。文法や表現に誤用は見られるが、各自真面目に取り組んでいた。中には、優れた考察を示す学生もいた。母語での思考力、これまでに受けた日本語の授業が大きく表現力に影響していることがわかった。このように目標を高く掲げたため、学生のアンケート集計結果では、Ⅱbの難易度に関しては、結果は難42.9%（3名）、やや難14.3%（1名）、適切42.9%（3名）と難しく感じた学生も半分くらいいたようである。しかし、Ⅰcの学習意欲、Ⅱaのシラバスに沿った授業、Ⅲdの総合的判断で5.00が得られた。少し難しくても、積極的に取り組んだ結果意義のある授業になり、満足した結果が得られたと判断できよう。例年、Ⅰdの予習復習の項が低く授業外の学習をしない傾向があったが、本年度は欠席をした者、授業時間中に作成できなかった者には、課題を課して後日提出させるように心がけたため3.71と全体（1.67）に比べて高い数値になっている。その他、Ⅰaのシラバスの活用、　Ⅰｂの授業への出席、Ⅱｃの成績評価基準の提示、Ⅱｄの授業の進め方に高い評価が得られていることを考えると学生主体の授業の成果といえよう。尚、Ⅲcの自分のためになったことの項目では、新しい知識、技能を挙げた者が80%と多く見られた。授業は刺激的で楽しいという学生からの感想ある。また、本学年もポートフォリオ評価を実践した。学期末に学生個人と成果物を確認しながら授業の振り返りをする予定であったが、残念ながら、コロナの感染者発生で果たせなかった。担当者を通じて各個人にファイルを渡すことになった。確かな成長の見られた１年であった。

●　問題点

学生のアンケート集計結果では、前述したように指導目標を高く掲げたため、学生のアⅡbの難易度に関しては、結果は難42.9%（3名）、やや難14.3%（1名）、適切42.9%（3名）と難しく感じた学生も半分くらいいた。しかし、平均以下はこの項目のみで全体的には満足度は高いので、少し難しいくらいの内容が逆に功を奏したのではないかと考えられる。これは、それだけ学生に知的な好奇心や学問に対する情熱があるということではないだろうか。

●　改善の方策

言語学者のスーティーブン・クラッシェンの有名な第２言語習得理論のインプット仮説の中にi＋１という仮説がある。これは、学習者は現在の学力より少し難しい、理解可能な学習内容を与えることで進歩するということなのである。本年度はこの理論を裏付けた形になったように思う。従って、次年度も学生が飛びつきたくなるような知的好奇心を刺激する教材を準備して、授業方法を工夫して、楽しく学べる授業を行いたいと思っている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

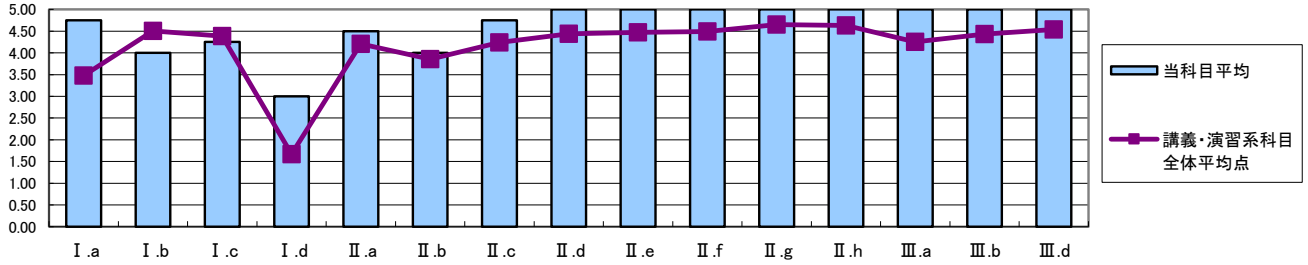
科目名	日本事情ⅣB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00	4: 25.00
			3: 50.00	2: 25.00
			1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業の学生の中には、卒業後は中国へ帰っていく者もいて、日本での留学生活を日本語と共に記録して残しておけるよう卒業レポートの作成を提案した。中には、当授業を４年間受講する学生もいるため、これまでの授業の総決算にもなると考えた。授業は、章立てから一緒に考え、毎時間添削を繰り返して、清書したものを最後にまとめて冊子にするという計画で進んだ。第１章は入学当時から書きはじめて４年間の日本での生活やその中で考えたこと、第２章は大学で学んだ音楽に対する考えについて書くことになった。これまで遅刻、欠席が多く生活を乱していたこともあったようだが、今年度のこの授業への取組みはこれまでになく熱心であった。２年次に父へ宛てた手紙を書いたことがあった。これは対象を教師の方で決めずに、その時手紙を出したいと思っている人に日本語で手紙を書くというタスクであったが、期せずして皆が父親に宛てた手紙を書いた。内容は父親からは反対された日本への留学であったが、異国での自立した生活の中で成長しているから安心してほしいというものであった。いつになく熱心に取り組んでいた姿勢から最終学年での卒業レポートを提案したのである。また、留学はしたものの進むべき方向を見失っている者、大学の外で既に音楽関係の仕事をしている者もいて、自分を見つめて見直す適切な時期とも考えた。４年間の総括的授業であったが、学生のアンケート集計結果では、Ⅱbの難易度に関しては、自分の能力に合わせた取り組みができるので、結果は難25.0%（1名）、適切75.0%（3名）と受け止めてくれていたようである。全体的に、Ⅱｄの授業の進め方、Ⅱeの教科書や資料の学習効果、Ⅱｆの質問や相談への対応、Ⅱｇの授業の回数や時間、Ⅱｈの教員の熱意や工夫、Ⅲaの到達目標、Ⅲｂの学習意欲の喚起、Ⅲｄの総合的判断はいずれも5.00で100%の回答が得られたのは最終学年の学習目標は達成できたと考える。尚、Ⅲc自分のためになったことの項目でも、新しい知識、技能75.0%(3名)、新しいものの見方 25.0%(1)、関連分野の学習意欲50.0%(2)、問題発見・解決能力25.0%(1)、コミュニケーション能力向上50.0%(2)と全般的に満足度の高い結果となっている。

●　問題点

Ⅰｂの出席の項が4.00%全体4.51に比べてよくないように思えるが、人数が少ないため１名の比重が大きくなるということもある。Ⅰcの予習復習１時間未満の１名も同じ学生ではないかと思われる。５時間目の授業であったため待ち時間が長くて面倒になったという者もいた。また、自由度の高い内容であったため欠席分の時間は進度を自主的に調節できたということもある。冊子にまとめるという１年がかりの明確な目標に向かって努力していた。

●　改善の方策

次年度は音楽関連の授業を考慮して、曜日も選べるように火曜日と金曜日を希望している。時間帯と曜日が出席率に影響するようだ。また、学科によって学生の気質も異なるように感じる。器楽系は、何事も一生懸命に取り組む優等生気質の学生か、楽器の習熟に熱中するタイプ、声楽系は総じて真面目、作曲系は個性派で、勉強以外のことに興味のある学生もいる。出欠状況は生活面とも関係するので、担当者との蜜な情報交換が重要である。

東 邦 音 楽 短 期 大 学

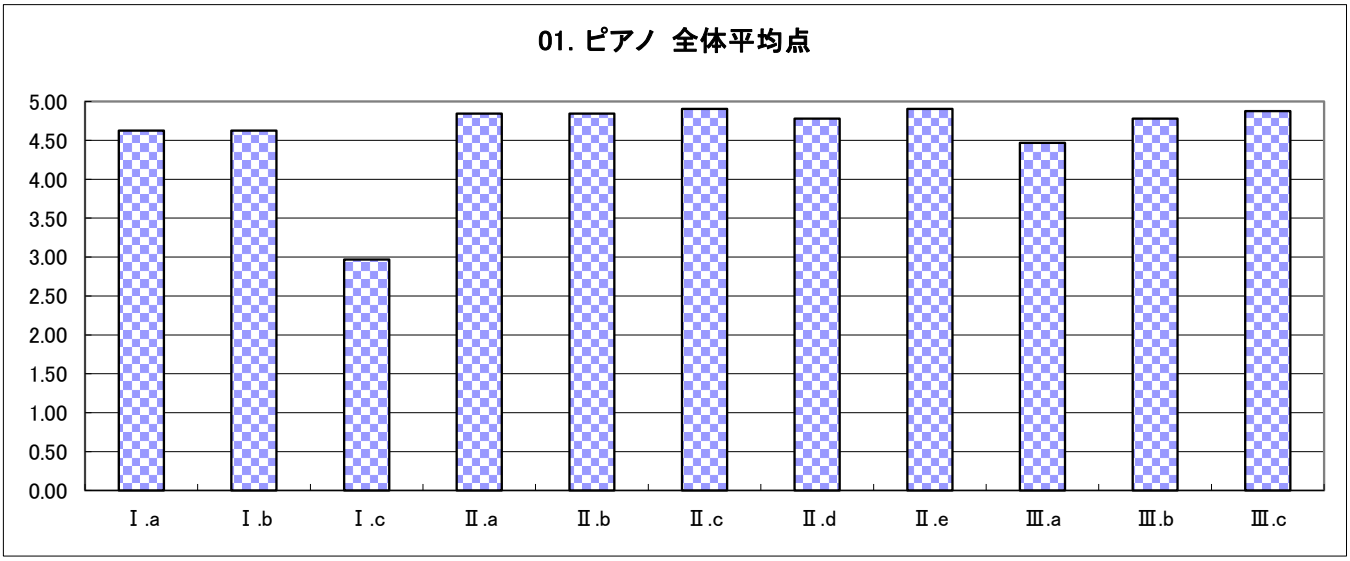
ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	15

履修者数	35
回答者数	32

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.63	25	4	1	2	0	32	0
				78.1	12.5	3.1	6.3	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	21	10	1	0	0	32	0
				65.6	31.3	3.1	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.97	7	3	7	12	3	32	0
				21.9	9.4	21.9	37.5	9.4		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.84	28	3	1	0	0	32	0
				87.5	9.4	3.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.84	28	3	1	0	0	32	0
				87.5	9.4	3.1	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.91	30	1	1	0	0	32	0
				93.8	3.1	3.1	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.78	27	3	2	0	0	32	0
				84.4	9.4	6.3	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.91	30	1	1	0	0	32	0
				93.8	3.1	3.1	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	18	11	3	0	0	32	0
				56.3	34.4	9.4	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.78	25	7	0	0	0	32	0
				78.1	21.9	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	29	2	1	0	0	32	0
				90.6	6.3	3.1	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

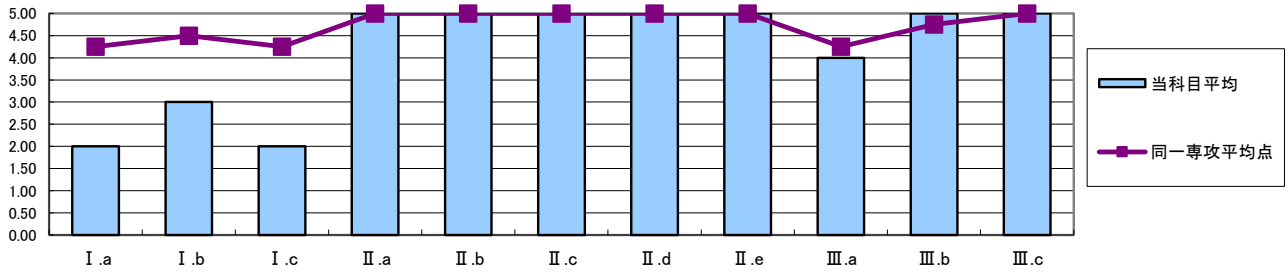
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	2.00	4.25
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１名の履修者があり、内１名の回答が得られた。１名であるため、個人情報に触れない範囲で、集計のみを読み取る。集計上では、受講者本人の反省として、自己評価に当たる部分が低い評価となっており、レッスンおよび教員に対する評価は「強くそう思う」に集中している。

●　問題点

集計上レッスンそのものへの問題点は、見られないが、受講者の自己評価が低い。

●　改善の方策

モチベーションを上げること、演奏する喜びを味わうことは、音楽を学修する上で、何より大切なことであるため、今後も工夫を重ねていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

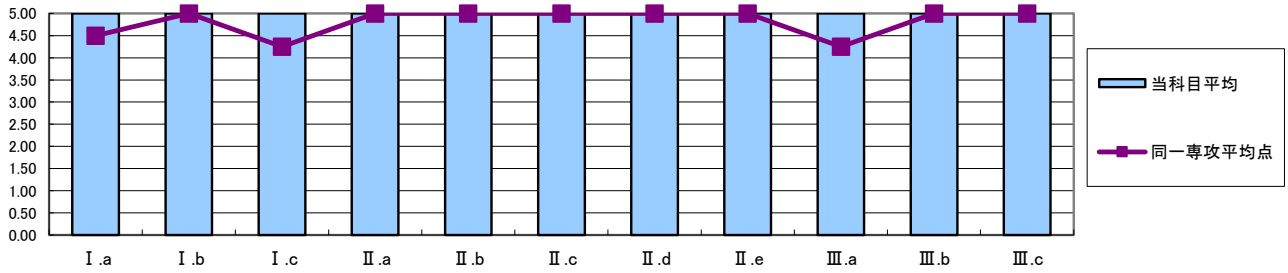
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、長期履修１名を含めた２名の履修者がおり、内１名より回答があった。１名であるため、個人特定のされない範囲で、集計に対する説明のみに留める。集計状は、すべての項目において「強くそう思う」にマークされており、受講者の取り組みに対する熱意と、教員に対する信頼が現れている。

●　問題点

集計状特に問題点はない。

●　改善の方策

問題点はないが、音楽の指導には、常に新しい情報を取り入れながら、受講者の人間的成長を目指したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

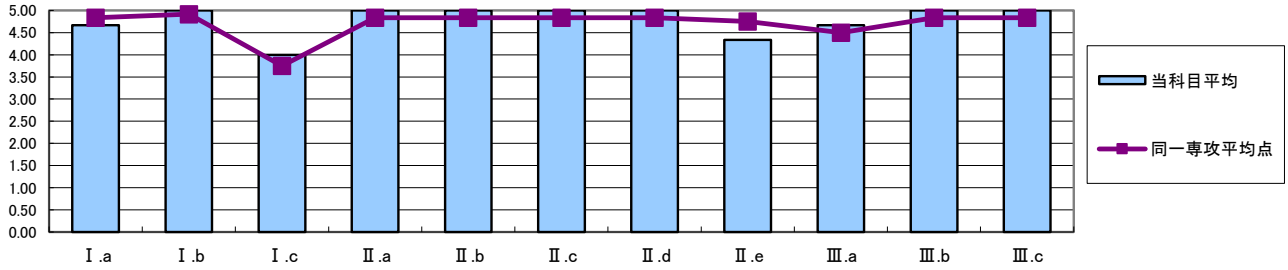
科目名	音楽教養実技
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者3名全員からの回答でした。内訳は2年生2名と長期履修3年目1名で、いずれも50代･60代と年齢の高い学生です。また、その内1名は他の教員から一時的に2ヶ月ほど預かった学生でした。　それぞれが人生の中でピアノとの関係を築いて来ていますが、ここで改めて短大に入って音楽に向き合うという意気込みは、レッスンへの姿勢に現れていました。しかし、長年の癖などが有り、頭で理解出来ても体が思うように動かないなど、歯痒い思いも多かったことと思います。　私は大人としての関係を保ちつつ指導をしていくことに、興味深さを感じました。設問Ⅰでは、それぞれが熱意を持って取り組んでいましたが、家族の介護などに時間を取られる中で練習時間を確保するのは、苦労だったと思います。しかし常にピアノのことを軸と考えて頑張っていました。設問Ⅱ･Ⅲのレッスンについては全員が満足してくれました。ただⅡeのレッスンの回数については、他の教員から預かる際に少しブランクがあったため、この回答になったものと思われます。しかし元の教員に戻ってから、その穴埋めは出来たと承知しています。自由記述欄には、「実技だけでなく、ピアノ･音楽に関わる多くの話を聞くことが出来る貴重な時間でした」とありました。

●　問題点

他の教員から一時的に学生を預かる際、その引き継ぎに戸惑ったところがあった。

●　改善の方策

「急に一時的に学生を預かる」という事態に対して引き継ぎをスムーズに行えるよう考えておく必要がある。日頃から記録簿をつけておくことは勿論だが、教員同士そして学生と遠慮することなく連絡がとれるようにしておきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

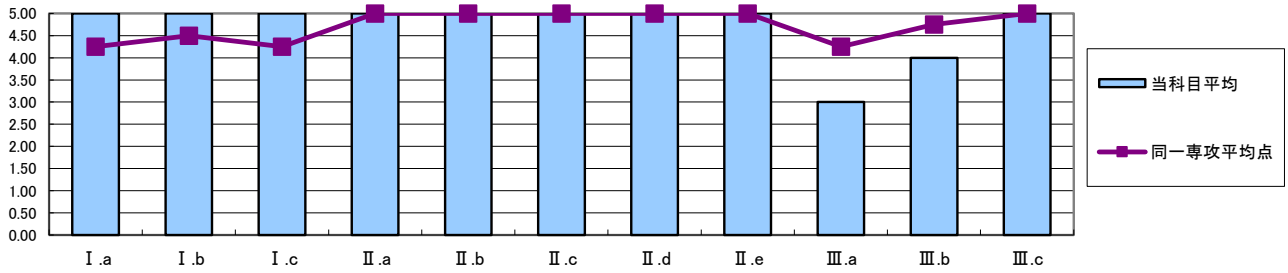
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.25
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度短期大学では1名の専攻学生（社会人）を担当した。短期大学には多くの社会人学生が在籍しているが、皆さん学びの意欲が高く、大変積極的に大変喜びを持って授業やレッスンに臨まれている。レッスンを担当した社会人学生の方も全くその通りであり、毎回大変真剣にレッスンを受け、多くの時間を練習に使い、図書館での知識の吸収もよく行なっていた様である。この1年のコロナ禍によりもちろん様々な影響を受けたであるだろうが、淡々と地道な努力を積み重ねており、頭が下がる思いであった。アンケートの集計結果はある程度納得のいくものであったが、設問Ⅲa、bにおいては明らかに本人の謙遜から来る結果であると思う。大学3年次への編入を目標に大変努力をし、やはりその成果は十分に得られていると考える。

●　問題点

特に認められない。

●　改善の方策

現状を維持できる様、より細やかに目を配り良い学びのサポートをする所存です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

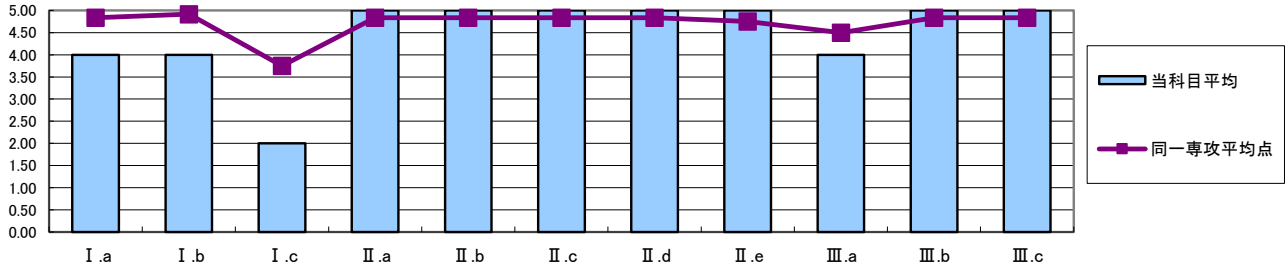
科目名	音楽教養実技
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養2年1名、副科１年3名、２年3名　 アドバンス1名大学は、専門が2年1名、4年2名 副科は２年6名　 3年2名　 4年2名短大の2年音楽教養の学生は、卒業が危ぶまれていたが、後期は卒業旅行など活躍する機会を得て、本人なりに有意義な学生生活が送られていたように見える。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く、大変熱心に勉強した。副科生は、能力の差はあるがそれぞれが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生3名は、出席も良好で、非常に意欲的に取り組んだ。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

大概の学生は、真摯に取り組んでいるが、昨年からの状況下で学業に及ぼす影響がみられる。

●　改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、支援していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

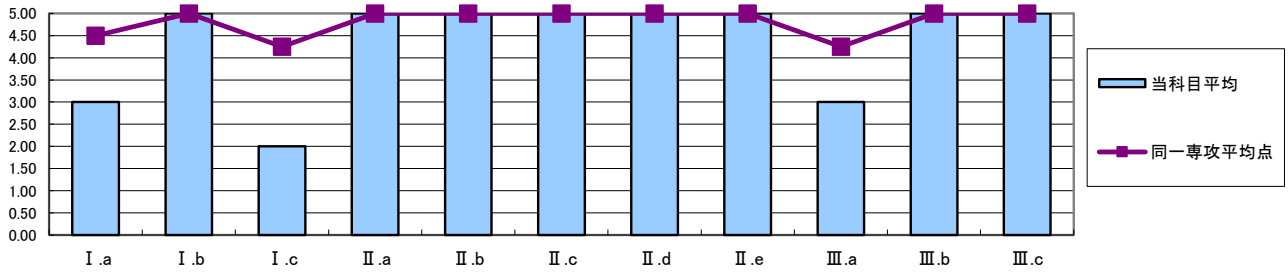
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況は、前期はある程度出席していたが、後期に入ってから欠席が目立った。練習もだんだんと熱意が感じられなくなった。集計結果は予想通りのものである。

●　問題点

ズレは特にない。

●　改善の方策

コロナ禍でリモートレッスンや試験が無くなったりした中で、モチベーションを維持するのは大変だったと思うが、３人とも良く頑張っていたと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

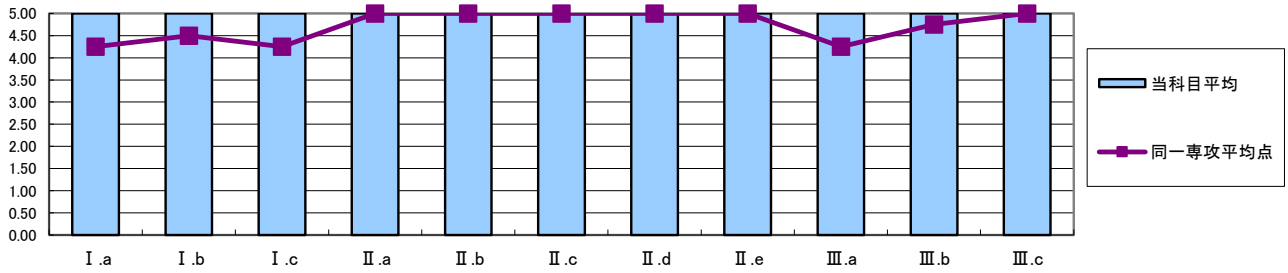
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.25
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度短期大学ピアノ科一名を担当しました。毎回のレッスンに対する姿勢がとても真摯に受講され基礎練を含め本当に熱心に臨んでいました。その成果もあって今年度定期演奏会に選ばれました。

●　問題点

今後の課題として脱力を意識しながらの奏法、テクニックを高めるための練習、ペダリング方法等丁寧に指導しました

●　改善の方策

おさらい会、試験へのモチベーションがとても高く、成長を感じさせてもらっています。レッスンの中身も充実した一年だったと思いました。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

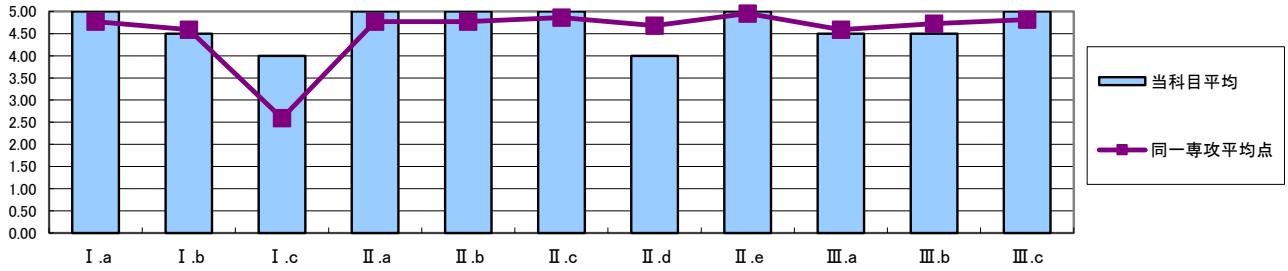
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、２名の履修があり、内２名から回答を得られた。２名とも熱心に取り組んでおり、集計上も特に問題点はない。特に、自由記述に「とても親しみやすく、良い雰囲気でレッスンができています。ありがとうございます。」「レッスン時はいつも全く否定的言葉を言わずにレッスンを受けるにあたりいつも心おだやかにのぞめた。レッスンする先生の姿勢には敬服します。」と書かれており、良いコミュニケーションの取れたレッスンであったと言える。

●　問題点

特に問題点はない。

●　改善の方策

今後とも受講者とのコミュニケーションを大切にして、指導に当たりたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

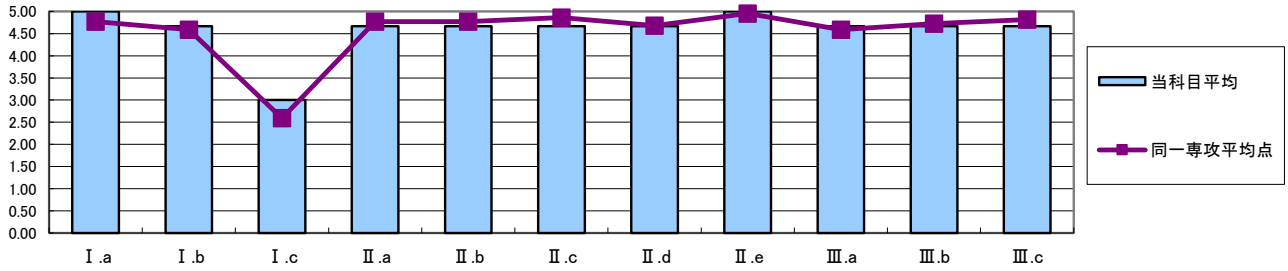
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生2名と、他の教員から一時的に預かった60代の社会人学生１名の計3名よりの回答でした。専門は、声楽2名、音楽教養フルートです。　ピアノに対する向き合い方は様々で、それは練習時間に現れています。1名は5時間以上、2名は2時間とそこには大きな隔たりがありますが、専門との係わりのほか、本人の気質や生活状況にも関係してくるかと思います。　レッスン内容については、ほぼ満足してくれています。自由記述欄には「厳しい先生のおかげで、自分のピアノが前よりとても良くなった」とありました。副科であっても、基本的なことは厳しく指導したいと思っていますので、理解してくれて嬉しく思います。

●　問題点

学生の性格や人間性、育った環境によってレッスンの受け止め方が変わる

●　改善の方策

会話を多くすることにより、より学生を深く理解するよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

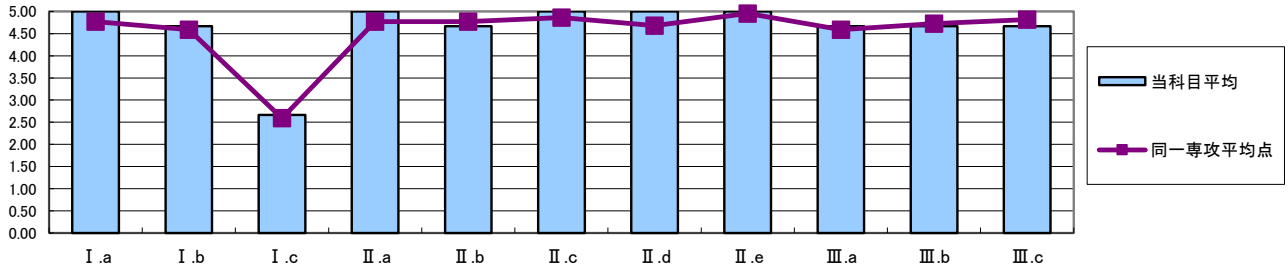
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.67	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

社会人学生の割合が高く、高いモチベーションを持って履修している様子が見て取れる。出席率も非常に良かった。

● **問題点**

練習時間の確保の問題、読譜への苦手意識等、各自が自身を鼓舞しながら継続していた。

● **改善の方策**

履修者それぞれの状況に即した親身な対応が求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

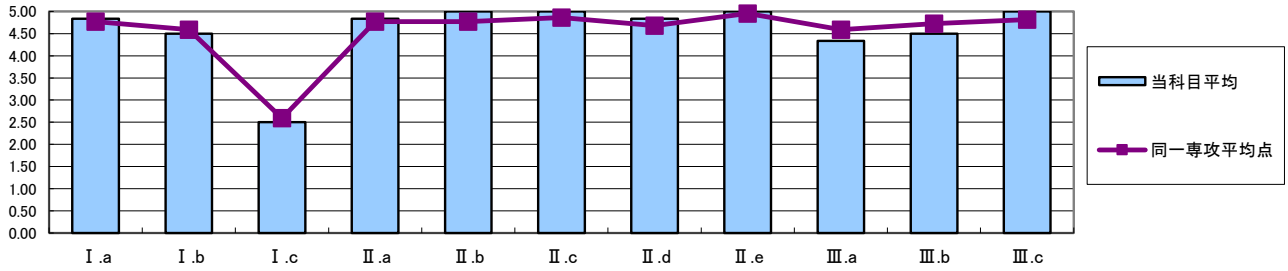
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.83	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養2年1名、副科１年3名、２年3名　 アドバンス1名大学は、専門が2年1名、4年2名 副科は２年6名　 3年2名　 4年2名短大の2年音楽教養の学生は、卒業が危ぶまれていたが、後期は卒業旅行など活躍する機会を得て、本人なりに有意義な学生生活が送られていたように見える。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く、大変熱心に勉強した。副科生は、能力の差はあるがそれぞれが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生3名は、出席も良好で、非常に意欲的に取り組んだ。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

大概の学生は、真摯に取り組んでいるが、昨年からの状況下で学業に及ぼす影響がみられる。

●　改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、支援していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

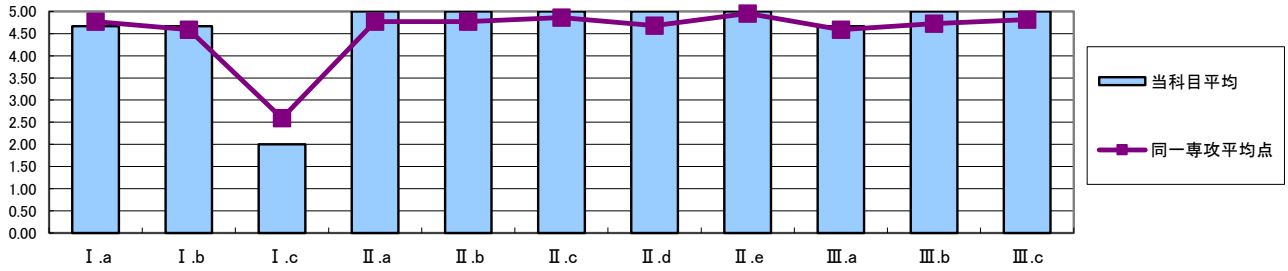
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講生は3名で、出席率も高く欠席の際は連絡があった。練習もある程度やっていて、レッスンに対しても意欲的だった。

●　問題点

ズレは特にない。

●　改善の方策

コロナ禍でリモートレッスンや試験が無くなったりした中で、モチベーションを維持するのは大変だったと思うが、３人とも良く頑張っていたと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

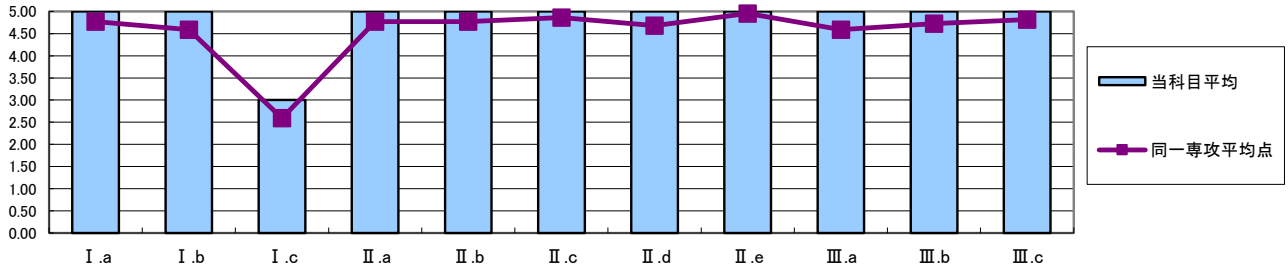
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科生一名から回答を得た。本年は新型コロナウイルスのもたらしたコロナ禍により、学園にも学生にも非常に負担の多い前例の無い一年であった。全国的に見ると年間通してオンライン化した大学・短大も多かった中、対面レッスンを優先し、何より学生のモチベーションを第一に考えた学習環境を整えていただいた学園のスタッフの方々、教員の先生方には頭が下がる思いである。やむを得ない変更が多い年となり、例年出来ていたことの相違など在学中の学生には強いストレスや葛藤もあったことと思うが、非常に協力的に努力しながら学びを続けてくれていた。該当の学生は二年生なので、本年はコロナ禍で苦慮しながらも就職活動に励み、卒業後の音楽教室での就職を決めるなど堅実な努力を重ねていた。本年は技術の習得・向上と平行して出来るだけ学生の不安を汲み、様々な気持ちの変化などを聞くなどコミュニケーションを取ることを第一とした。

●　問題点

一年次から担当しているが、技術的な能力も高く向上心もある優秀な学生なので、有意義なレッスンが展開できたと感じている。

●　改善の方策

このままの方向性で、学生それぞれの個性への理解を深めながら継続していけたらと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

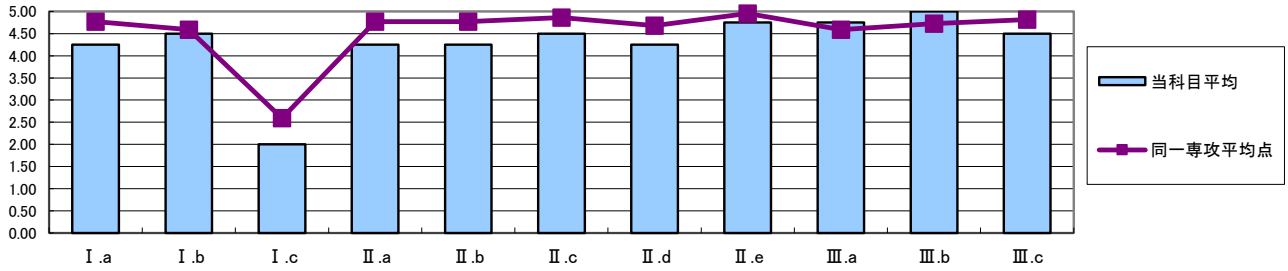
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.77
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.59
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.59
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.25	4.77
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.77
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.25	4.68
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.95
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.59
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.82

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、短期大学副科ピアノ五名担当しました。その人にあった楽曲を選曲し目標に向かって完成させて頂きました。

●　問題点

指使いが自己流になってしまう傾向が強く直すのに苦労しました。本来のテンポで演奏することがなかなか難しく感じました。

●　改善の方策

特に見受けられなかったです。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

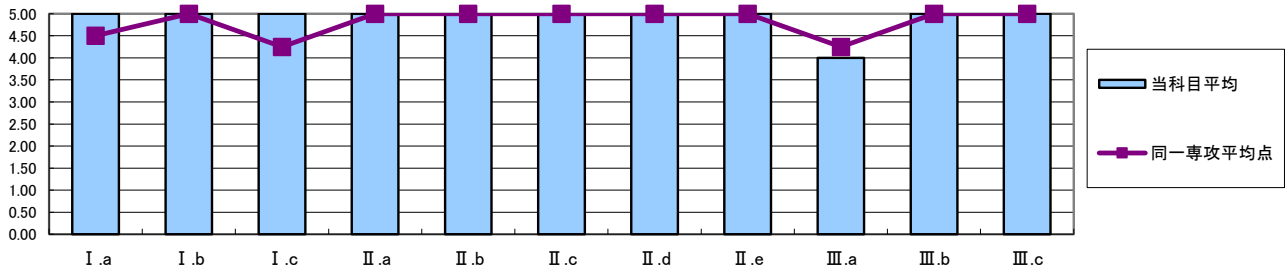
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



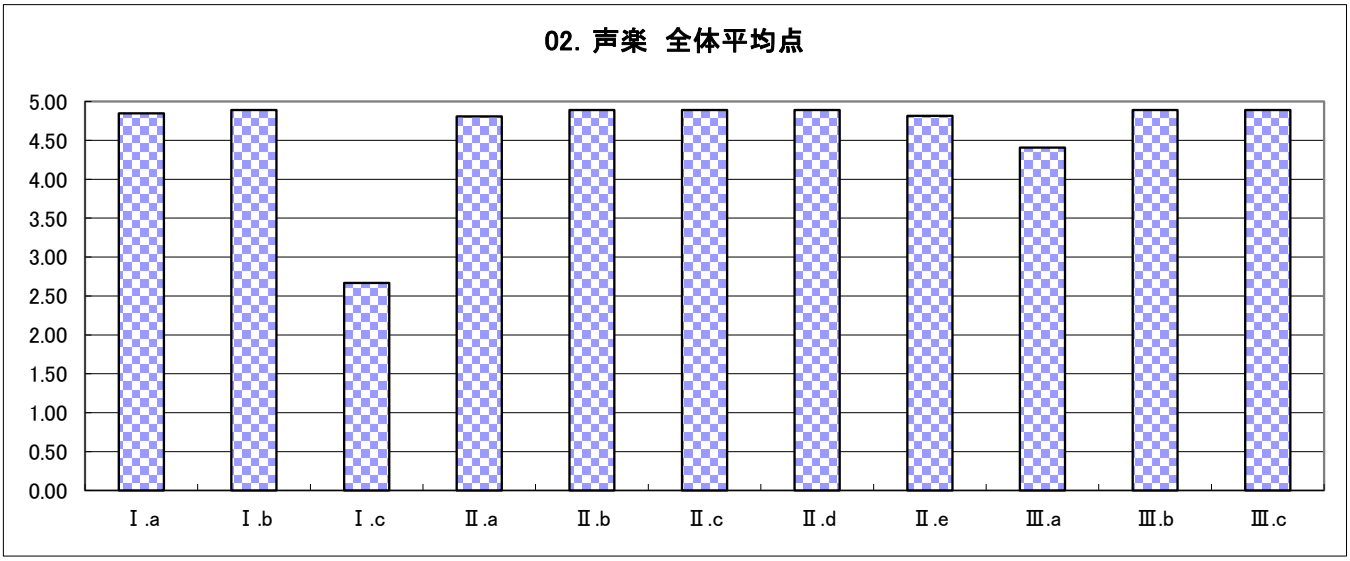
声　楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	14

履修者数	27
回答者数	27

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.85	23	2	1	0	0	26	1
				88.5	7.7	3.8	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.89	24	3	0	0	0	27	0
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.67	5	2	4	11	5	27	0
				18.5	7.4	14.8	40.7	18.5		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.81	22	3	1	0	0	26	1
				84.6	11.5	3.8	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	25	1	1	0	0	27	0
				92.6	3.7	3.7	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.89	25	1	1	0	0	27	0
				92.6	3.7	3.7	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.89	25	1	1	0	0	27	0
				92.6	3.7	3.7	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.81	22	5	0	0	0	27	0
				81.5	18.5	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.41	14	10	3	0	0	27	0
				51.9	37.0	11.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.89	24	3	0	0	0	27	0
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	24	3	0	0	0	27	0
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

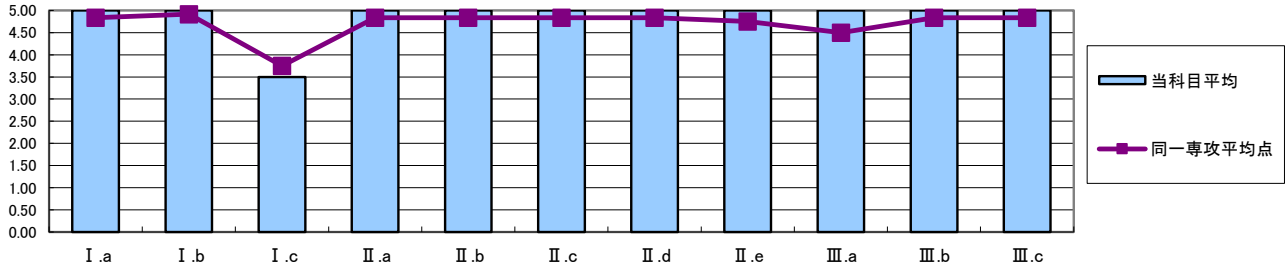
科目名	音楽教養実技
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養ということで趣味で声楽を学んでいる意識は理解できるが、学生自身のレッスンのための予習が足りないことが明らかとなった。

●　問題点

声楽専攻学生と比べて、学生2人の音感やリズム感の能力の欠如が著しく感じられ、単に声楽テクニックを教えるだけのレッスンだけでは進歩に結びつかないことがわかってきた。

●　改善の方策

教員の側からは、発声技術や歌唱技術を教えるだけでなく、基本的な音感やリズム感を強化する訓練、楽譜を正確に読む訓練を加えていく必要がある。また、学生にレッスンの予習を促す意味でも、明確な宿題の提示が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

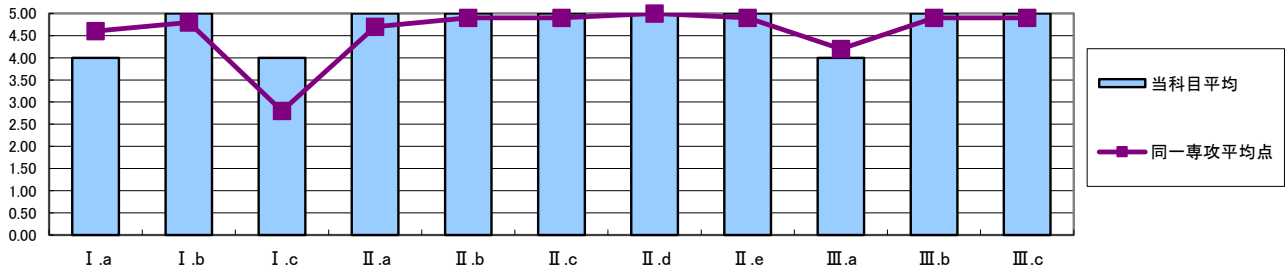
科目名	声楽
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.20
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

短大において専攻声楽の学生2人担当している。アンケートは2人から提出された。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて伴奏者が同伴されると言う形式で進められる。専攻声楽におけるレッスンの目的は、1、声楽技術の習得:呼吸法、レガート唱法の習得、滑らかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。2、さらにそれらを向上させること。3、言葉への十分な取り組みを行うこと。語学としての基礎知識を習得することはもちろん、正確で美しい発音、内容を正しく発音する、想像力を持って表現するなどである。4、曲の背景を理解すること、作曲家について:その時代背景、音楽背景、他の作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人の事などである。また、オペラ、歌曲、宗教曲などのそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を2年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし、充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差し障りのない時間を確保する。1年生1名、2年生1名を担当しているアンケートは本人の受講についての設問が3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達熱到達度についての設問3項目有利になる。回答は積極的肯定:5、消極的肯定:4、普通:3、消極的否定:2、積極的否定:1で回答されている。アンケート結果は、開講時示された到達目標を十分に到達できたが4となり、他はほぼ5だった。

●　問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者4名のアンケートであることを考慮に入れつつ問題点を抽出してみると、Ⅰ―e「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」3.25においてとなった点であろうか。

●　改善の方策

2名のうち1名は積極的肯定5であった。1名が3:どちらとも言えないと回答したことにより平均4となっている。実技の到達度は目標を納得いく形で実感することは難しい。達成度を感じながらもまだもっとできるはずだ、もっと頑張らなければと言う向上心の表れかと思われる。これからもしっかりサポートしつつ指導したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

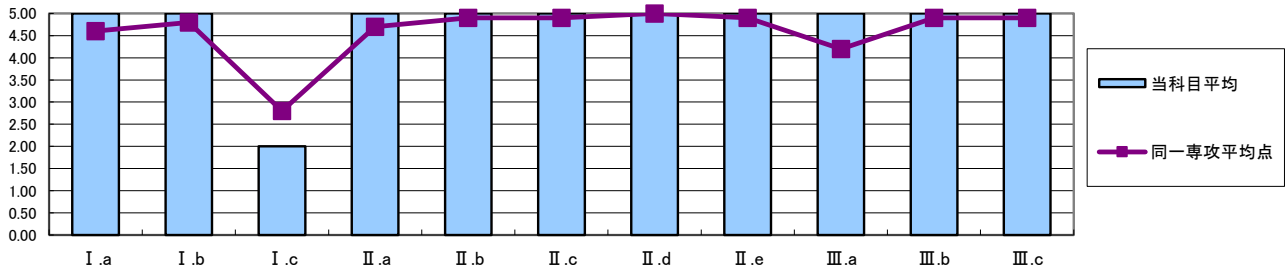
科目名	声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.20
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は社会人長期履修の学生1名を担当しました。やはりコロナ禍でのレッスンということもあり、例年通りは進まないこともありましたが、都度話しながらレッスンを重ねていきました。これらを踏まえアンケート結果を分析しますと、今年度のシラバスに提示されている科目の目的と内容は概ね達成出来たと考察します。

●　問題点

特になし。

●　改善の方策

特になし。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

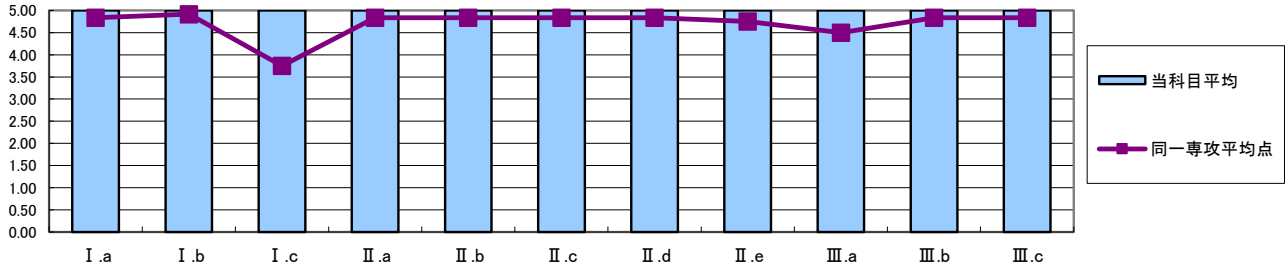
科目名	音楽教養実技
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度の同科目シラバスに基づいた目標を学生と共有し、各課題曲で声楽実技の学修に取り組めるように具体化した内容で年間計画に従い開講。感染症対応のよる「遠隔授業」と「対面レッスン」両方の授業形態で、通年30回の授業を開講致しました。自修力と経験値に個人差があるため①目標達成のイメージを具体化する、響きの創造への発　展性を持たせたレッスンを実施。歌唱意欲と実技の理解に認識差があるため②声楽の習得と理論的な裏付けを紐づけてレッスンを実施致しました。設問Ⅰについては、感染症禍で声を出しての練習が困難な環境があったにも関わらず十分な成果が見られます。設問Ⅱについては、自由記述への書き込みと合わせて本年度は学生の自修力の育成の指導効果が具体化できた数値が見られます。設問Ⅲについては、授業目標の具体的な展開に結び付いた成果がみられます。本集計結果には、声楽という声、響きの実際のイメージに繋がるレッスンの成果が反映されており、感染症禍ではありましたが見えない学びの土台作りの成果がみられることをご報告いたします。

●　問題点

本年度は練習環境の個人差を鑑みて、特に対面レッスン時に精神面の個人差（強弱、長短）として顕著に現れていたと思います。教養としての声楽の学びの実践と共有には新たな課題があると思われます。実技という着眼点を自ら拡げられるように、声楽領域におけるきめ細かな配慮が求められていると感じられます。

●　改善の方策

集計結果数値からは見えない学生の学びへの意欲にどう応えるか、この課題にとりくむ当クラス実技レッスンでは、遠隔でのクラス授業を年間10回開講して、声楽の基礎的な素養の拡充育成を実践致しました。本アンケート結果にはその成果が具体的に反映されており、次年度も遠隔授業の利点を最大に生かし当科目シラバスに準じた声楽的な声・響きの体験と育成を継続することといたします。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

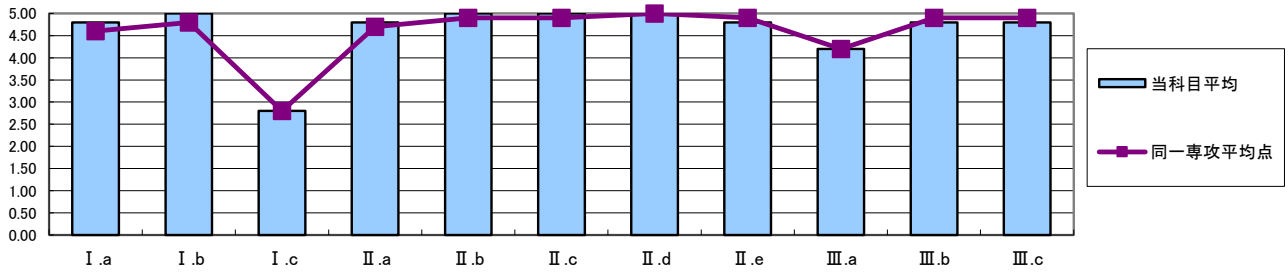
科目名	声楽
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.80	2.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.20
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.90
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

主専攻声楽5名の履修者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。身体の使い方が理解できておらず、呼吸法や発声法も基礎から指導した学生もおりましたが、良く学習し技術の向上もみられました。今回は履修者5名全員がアンケートに回答しておりますがⅠａ、Ⅰｂ の回答率が高くレッスンに意欲的であるにもかかわらず、Ⅰｃの回答率が半分以下という残念な結果となりました。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題はないと思われますが、設問Ⅰｃの回答から、履修者の練習時間の確保を促すための課題等を検討したいと思います。

●　改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とし、学生のレベルに合わせた指導を心がけ、また、課題や練習方法を明確にし、更なる練習時間の確保を促す所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

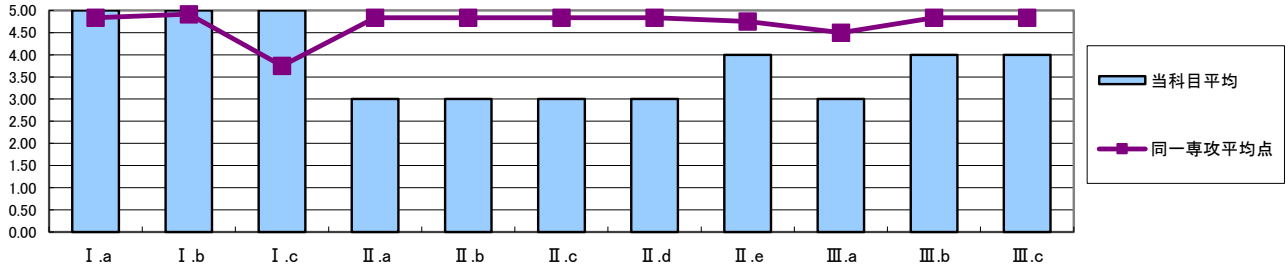
科目名	音楽教養実技
教員名	外山　愛

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	3.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	3.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	3.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養　声楽1名　副科声楽　（短1）2名　（短2）1名　2020年度音楽教養　(60代女性)東邦音楽学校より音楽教養へ入学。保育科専攻で多少ピアノは弾けるがソルフェージュは全く出来ない。音楽学校では新曲視唱や聴音と共に声楽のレッスンをした。音楽教養ではコンコーネ50番とイタリア歌曲のほかソルフェージュもやっていた。真面目ではあるが音楽的な器用さは正直皆無に近いため授業に苦労した。副科声楽　(10代女性)短大1年ポップス専攻で高校時代は合唱部のため基礎は出来ている。あらゆるジャンルの曲を多面的に分析したいようだったため、日本歌曲、イタリア歌曲、ミュージカル等多くの曲を履修。器用で音楽もしっかりしていたが、コロナ禍と地方からの一人暮らしのため精神的に辛い様子もあり声がけを積極的に行った。副科声楽　(10代女性)短大1年ポップス専攻で楽譜もあまり読めないとのことでレッスンには楽譜読みも含めながら、得意な英語を生かした歌曲やミュージカル、イタリア民謡などレッスンした。過敏性の胃腸疾患がありレッスンに来れない日もあったが大変真面目で楽譜に書き込むなどの熱心な姿勢だった副科声楽(20代女性)短大2年エレクトーン専攻、基礎がしっかりしており毎回課題を完璧に仕上げてくる。就職先での弾き歌いの試験を見込んで声楽を履修とのことで、イタリア歌曲集を使い基礎力の徹底を行なった。結果音楽教室に無事に内定をもらった。

●　問題点

副科声楽の生徒は問題なく信頼関係を築けた様子が分かり良かったと思う。大変丁寧に応対したつもりであった音楽教養60代の生徒からのアンケートを見て驚愕してしまった。私はレッスン時間に遅れた事もない、進路やプランについても話したが上手く伝わらなかったことが残念であるが改善するべきことは真摯に受け止めたい。また高齢者であることも加味しもっと細かいケアが必要であることを感じた。記録として残すがこの学生を受けもって1ヶ月した頃に、彼女のピアノ指導していた外部の教師が東邦音楽学校の杉山室長と私を相手に面談を申し込んできた。対応したが「この学生を東邦に入れては大変ですよ」との警告だったのだが次から出てくる信じ難い話に室長と共に閉口した。真面目な学生ではあり、この年代で大学を目指すことは素晴らしい目的意識だが、東邦音楽学校の体験レッスンで挨拶もそこそこに「先生は私と同じ独身で子供も産んでないでしょ？」が第一声だった。そうでないと分かると「チェッ！違ったか。。」と。社会人の入学は大変ありがたいことであるが、ある程度の社会常識と品格も必要である。だが様々な生徒に対する対応を穏便にかつ両者気持ち良い関係を築けるのかを講師として謙虚に模索する必要はあり考えなくてはいけないと感じた件であり勉強となった。

●　改善の方策

社会人学生の一部は何かを説明しても理解をするのに時間が必要であり、より丁寧で綿密な説明が必要なことが分かった。真摯に受け止めてレッスン指導の向上に努めたい。若い学生は色々なことを器用にやってゆく能力はあるが、副科声楽とはいえ　しっかり歌い込んだり語学や作品研究についても掘り下げた授業を短い時間の中で行う必要を感じた。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

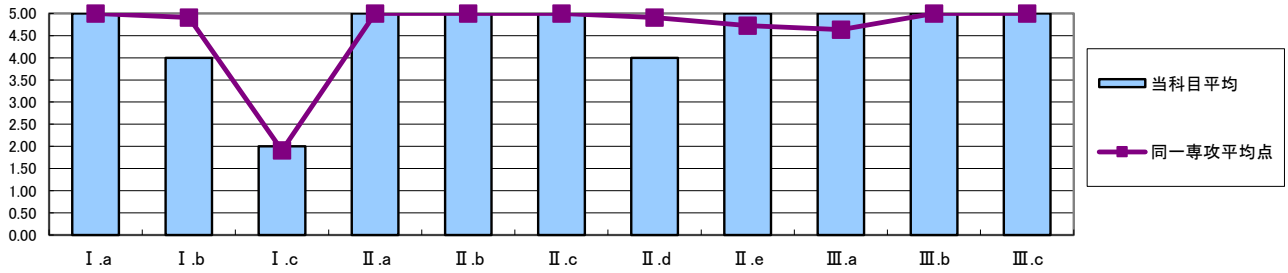
科目名	副科実技(声楽)
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.91
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.73
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

各々の学生によっては能力や進歩にばらつきはあるが、平穏かつ楽しくレッスンに取り組んできた。

●　問題点

普段専攻実技の練習をしている学生にとっては副科実技はおざなりになってしまう傾向は否めない。レッスンのための予習や練習の不足が、実際のレッスンでも感じられたし、統計的にも大いに欠如していることが明らかとなった。

●　改善の方策

レッスンの終わりに学生に大きな負担にならない程度の、宿題や課題を出して、副科であっても勉学の意欲を失わせないように促す必要があることがわかった。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

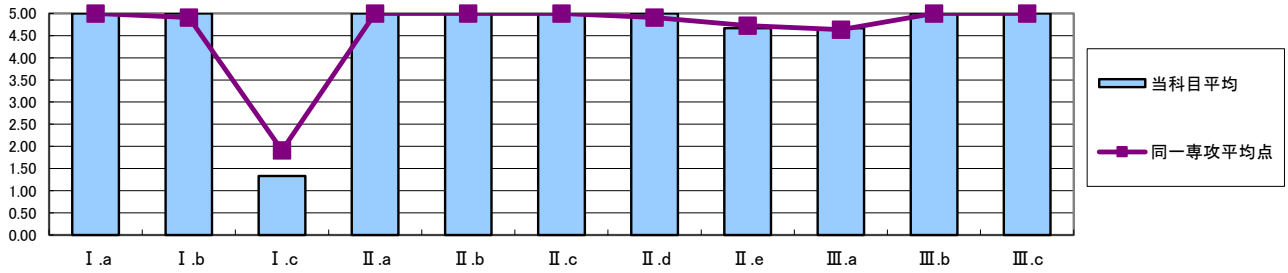
科目名	副科実技(声楽)
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.33	1.91
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.73
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

年度の同科目シラバスに基づいた目標を各学生と共有し、各課題曲で声楽実技の学修に取り組めるように具体化した内容で年間計画に従い開講。感染症対応のよる「遠隔授業」と「対面レッスン」両方の授業形態で、通年30回の授業を開講致しました。自修力と経験値に個人差があるため①目標達成のイメージを具体化する、響きの創造への発　展性を持たせたレッスンを実施。歌唱意欲と実技の理解に大きな認識差があるため②声楽の習得と理論的な裏付けを紐づけてレッスンを実施致しました。設問Ⅰについては、感染症禍で声を出しての練習が困難な環境があったにも関わらず十分な成果が見られます。設問Ⅱについては、自由記述への書き込みと合わせて本年度は自修力の育成の指導効果が具体化できた数値が見られます。設問Ⅲについては、授業目標の具体的な展開に結び付いた成果がみられます。本集計結果には、声楽という声、響きの実際のイメージに繋がるレッスンの成果が反映されており、学生の自修力の基軸形成段階にあるものの効果的な開講内容であったことが分析され、本年度の授業実践は個々の能力と発達段階に無理なく導入されたものであったと伺えます。感染症禍ではありましたが見えない学びの土台作りの成果がみられることをご報告いたします。

●　問題点

本年度は練習環境の個人差が大きく、特に対面レッスン時に精神面の個人差（強弱、長短）として顕著に現れていたと思います。声楽実技への認識、音楽大学での学びの最終目的の共有、各自の専門専攻実技から実技共通の着眼点をもてるように、特にきめ細かく配慮した対応の必要性が感じられます。

●　改善の方策

計結果数値からは見えない学生の学びへの意欲にどう応えるか、この課題にとりくむ当クラス副科実技レッスンでは、遠隔でのクラス授業を年間10回開講して、声楽の基礎的な素養の拡充育成を実践致しました。本アンケート結果にはその成果が具体的に反映されており、次年度も遠隔授業の利点を最大に生かしシラバスに準じた声楽オンラインシラバスに基づき、声楽的な声・響きの育成を重点的に継続することといたします。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

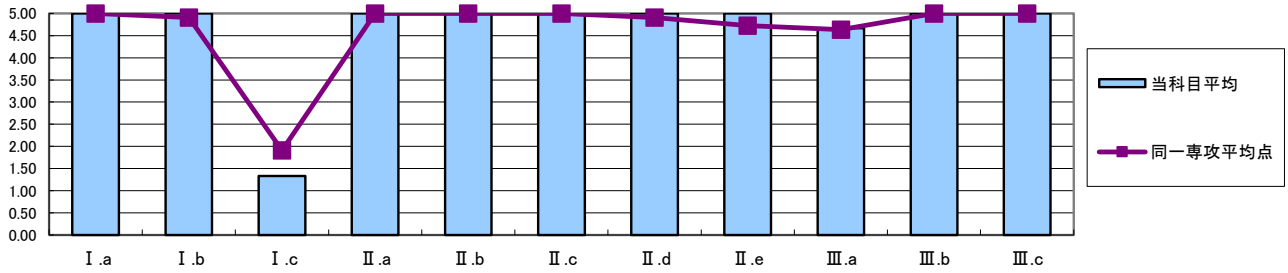
科目名	副科実技(声楽)
教員名	外山　愛

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.33	1.91
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.73
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養　声楽1名　副科声楽　（短1）2名　（短2）1名　2020年度音楽教養　(60代女性)東邦音楽学校より音楽教養へ入学。保育科専攻で多少ピアノは弾けるがソルフェージュは全く出来ない。音楽学校では新曲視唱や聴音と共に声楽のレッスンをした。音楽教養ではコンコーネ50番とイタリア歌曲のほかソルフェージュもやっていた。真面目ではあるが音楽的な器用さは正直皆無に近いため授業に苦労した。副科声楽　(10代女性)短大1年ポップス専攻で高校時代は合唱部のため基礎は出来ている。あらゆるジャンルの曲を多面的に分析したいようだったため、日本歌曲、イタリア歌曲、ミュージカル等多くの曲を履修。器用で音楽もしっかりしていたが、コロナ禍と地方からの一人暮らしのため精神的に辛い様子もあり声がけを積極的に行った。副科声楽　(10代女性)短大1年ポップス専攻で楽譜もあまり読めないとのことでレッスンには楽譜読みも含めながら、得意な英語を生かした歌曲やミュージカル、イタリア民謡などレッスンした。過敏性の胃腸疾患がありレッスンに来れない日もあったが大変真面目で楽譜に書き込むなどの熱心な姿勢だった副科声楽(20代女性)短大2年エレクトーン専攻、基礎がしっかりしており毎回課題を完璧に仕上げてくる。就職先での弾き歌いの試験を見込んで声楽を履修とのことで、イタリア歌曲集を使い基礎力の徹底を行なった。結果音楽教室に無事に内定をもらった。

●　問題点

副科声楽の生徒は問題なく信頼関係を築けた様子が分かり良かったと思う。大変丁寧に応対したつもりであった音楽教養60代の生徒からのアンケートを見て驚愕してしまった。私はレッスン時間に遅れた事もない、進路やプランについても話したが上手く伝わらなかったことが残念であるが改善するべきことは真摯に受け止めたい。また高齢者であることも加味しもっと細かいケアが必要であることを感じた。記録として残すがこの学生を受けもって1ヶ月した頃に、彼女のピアノ指導していた外部の教師が東邦音楽学校の杉山室長と私を相手に面談を申し込んできた。対応したが「この学生を東邦に入れては大変ですよ」との警告だったのだが次から出てくる信じ難い話に室長と共に閉口した。真面目な学生ではあり、この年代で大学を目指すことは素晴らしい目的意識だが、東邦音楽学校の体験レッスンで挨拶もそこそこに「先生は私と同じ独身で子供も産んでないでしょ？」が第一声だった。そうでないと分かると「チェッ！違ったか。。」と。社会人の入学は大変ありがたいことであるが、ある程度の社会常識と品格も必要である。だが様々な生徒に対する対応を穏便にかつ両者気持ち良い関係を築けるのかを講師として謙虚に模索する必要はあり考えなくてはいけないと感じた件であり勉強となった。

●　改善の方策

社会人学生の一部は何かを説明しても理解をするのに時間が必要であり、より丁寧で綿密な説明が必要なことが分かった。真摯に受け止めてレッスン指導の向上に努めたい。若い学生は色々なことを器用にやってゆく能力はあるが、副科声楽とはいえ　しっかり歌い込んだり語学や作品研究についても掘り下げた授業を短い時間の中で行う必要を感じた。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

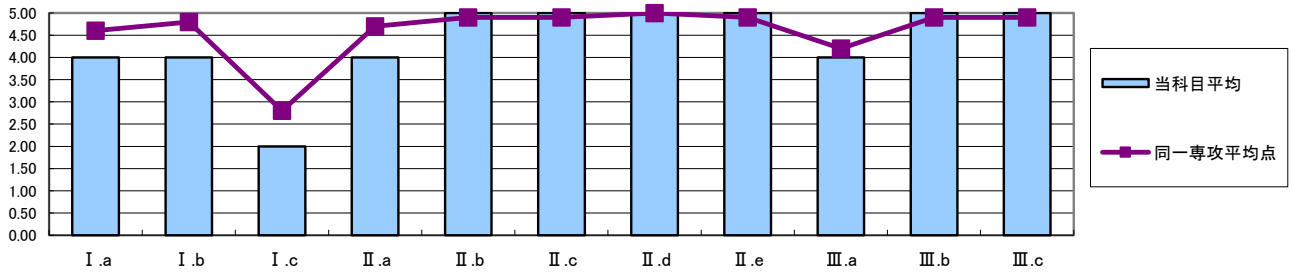
科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.20
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



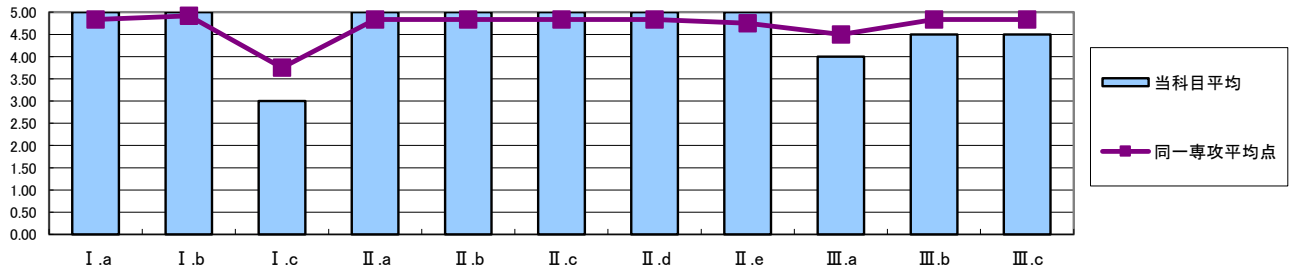
科目名	音楽教養実技
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

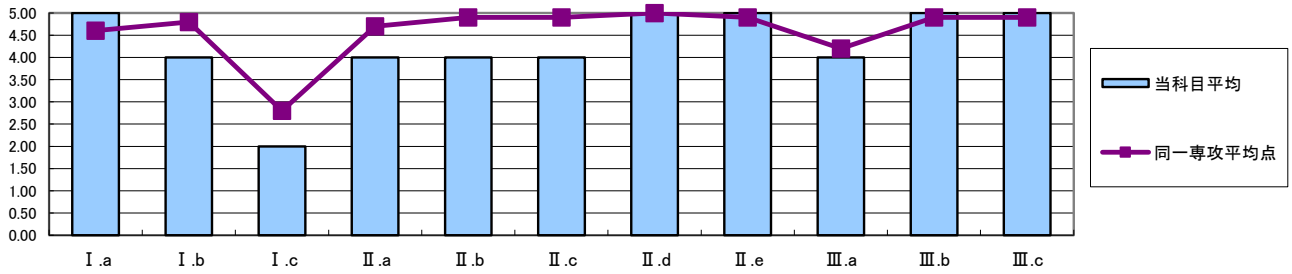
科目名	声楽
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.60
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.80
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.20
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



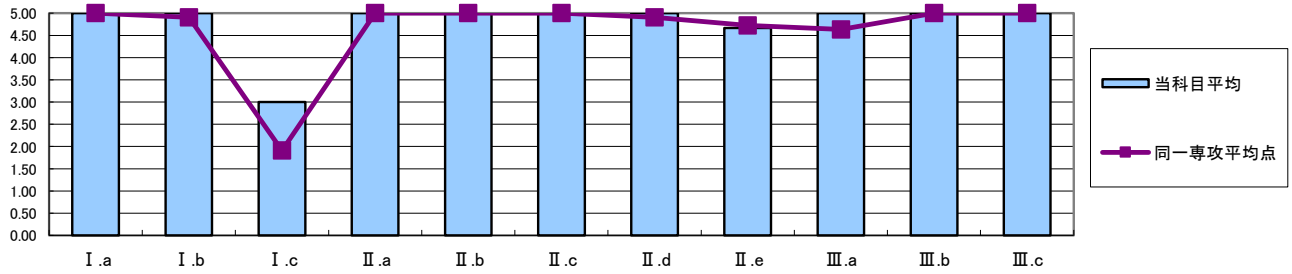
科目名	副科実技(声楽)
教員名	勝部　太

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	1.91
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.73
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

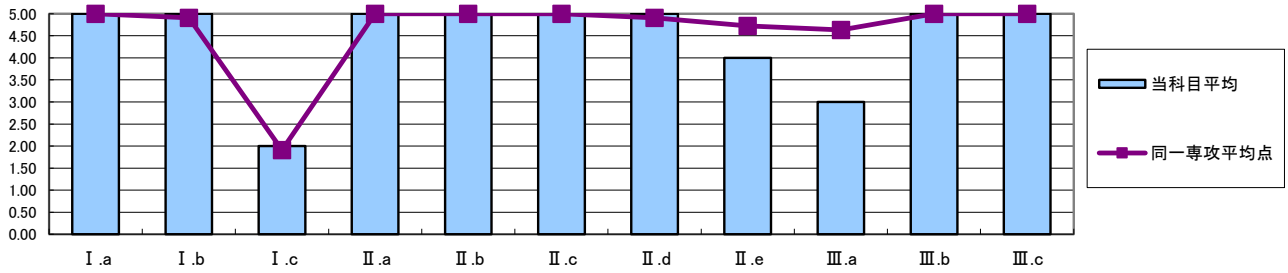
科目名	副科実技(声楽)
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.91
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.91
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.91
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.73
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.64
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



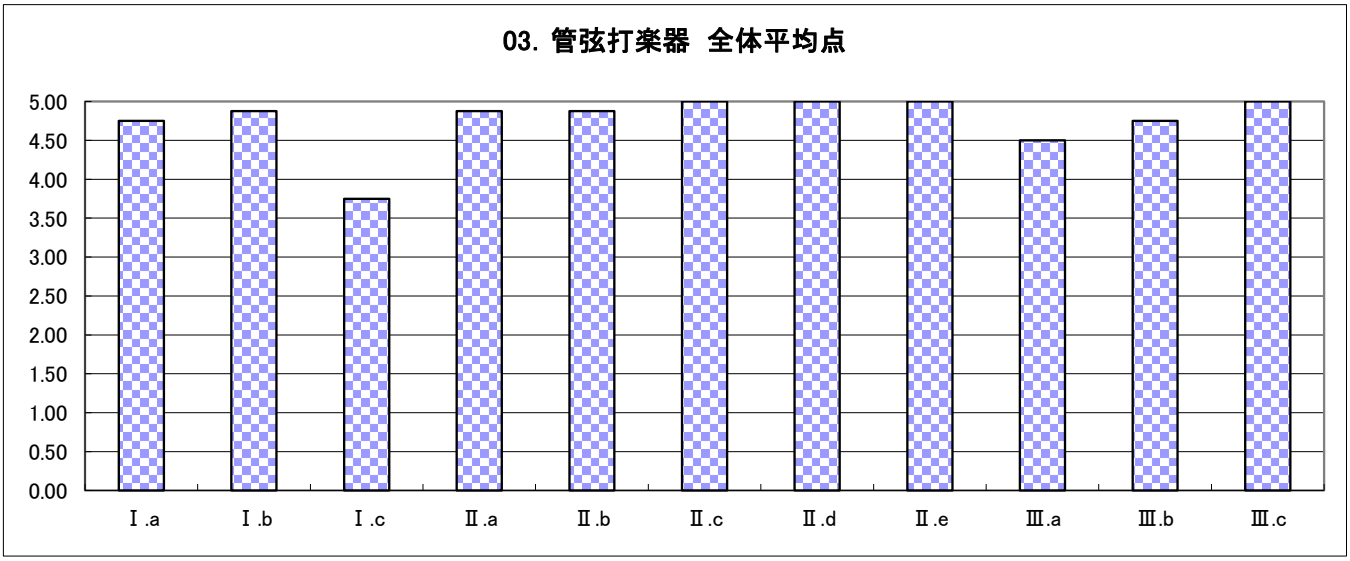
管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	7

履修者数	9
回答者数	8

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	6	2	0	0	0	8	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	7	1	0	0	0	8	0
				87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.75	2	2	4	0	0	8	0
				25.0	25.0	50.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	7	1	0	0	0	8	0
				87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	7	1	0	0	0	8	0
				87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	8	0	0	0	0	8	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	8	0	0	0	0	8	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	8	0	0	0	0	8	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4	4	0	0	0	8	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	6	2	0	0	0	8	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	8	0	0	0	0	8	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

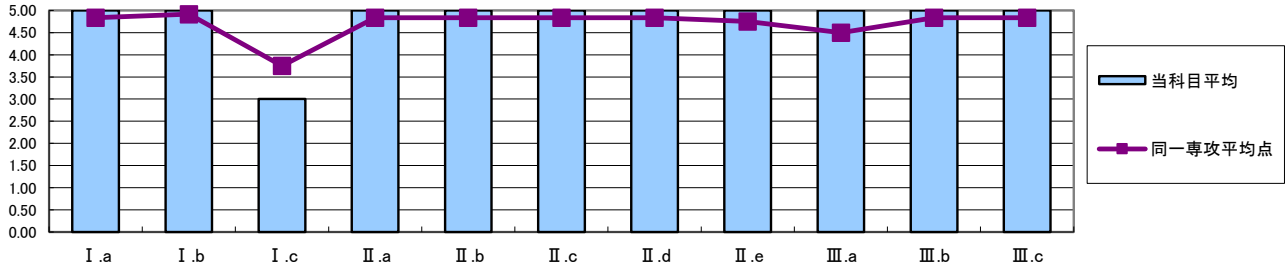
科目名	音楽教養実技
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は社会人が1名。アンケート結果を見る限りでは、回答は4～5に集中していて担当学生との関係、レッスンに対する理解度は概ね良好と思われる。なかなか音が安定せずまた、テクニックやリズム感の習得にも苦労したが、やる気はかなり高い。

●　問題点

フルートの基本をしっかり教えているが、長年吹いてきた癖がなかなか修正できず、進みが遅く、難しい。

●　改善の方策

地道に基本を教え続ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

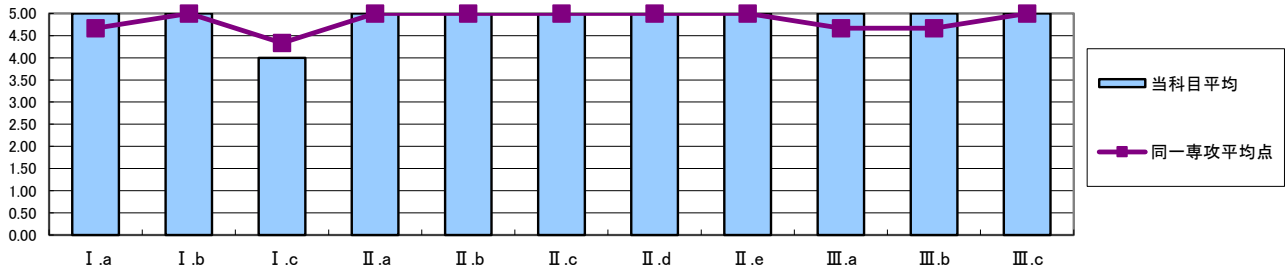
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.67
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の専攻フルートの履修生は1名で、2年次1名であった。入学前から教えている学生で、それ相応の信頼関係が築かれた上でのレッスンとなった。レッスンは週一回約1時間でコンスタントに行えたと思っている。各学生が向上心を持ち、どうしたら上手になれるかと言う問題意識を持ってレッスンに臨んでくれた事もあり、ある程度は良いレッスンが出来たのではないかと思う。アンケートにもそれが表れた様に感じている。時には叱る事もあるけれども、それが学生の上達として次につながるものになってくれたのは、これまでのコミュニケーションの成果と良い学生に恵まれたおかげであると思う。指導が受け入れられ実を結ぶのは、そこに技術的に納得がいく力量と、説明に信頼があって初めて成り立つものであるから、たゆまぬ努力を続けていきたい。

●　問題点

日々のレッスンには問題を感じないが、自ら考え、失敗していく中で、教わるのではなく学ぶ力を各学生が付けていく事が、今後のステップアップには必要不可欠になってくると思われる。

●　改善の方策

自ら考え、失敗しながら学ぶ時間を与える為に、教え急がず見守りながら待ってやる忍耐力が必要になってくると思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

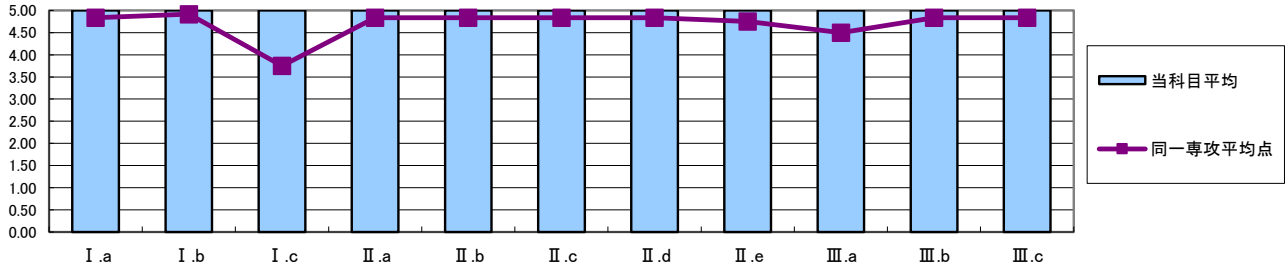
科目名	音楽教養実技
教員名	中村　明子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.92
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.75
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.83
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.83
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.83
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.83
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度は大学にて専攻生１名と副科２名、さらに短大にて音楽教養１名の実技を担当しました。大学の方はタイミングを外してしまいアンケート実施に至らず、今回は短大音楽教養のアンケートに対する回答となります。短大・音楽教養の方は社会人・６３歳の女性。学習能力が非常に高く、前向きな努力家です。

●　問題点

アンケート結果はすべて良好。コミュニケーションも上手く取れていると感じています。

●　改善の方策

短大入学以来、徐々に技術面もアップして来て、この先も前向きに色々チャレンジしたい様子。来年度からはアドバンスコースに在籍して努力するとの事でしたので、今までと同様に寄り添ってお力添えさせて頂こうと思っています

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

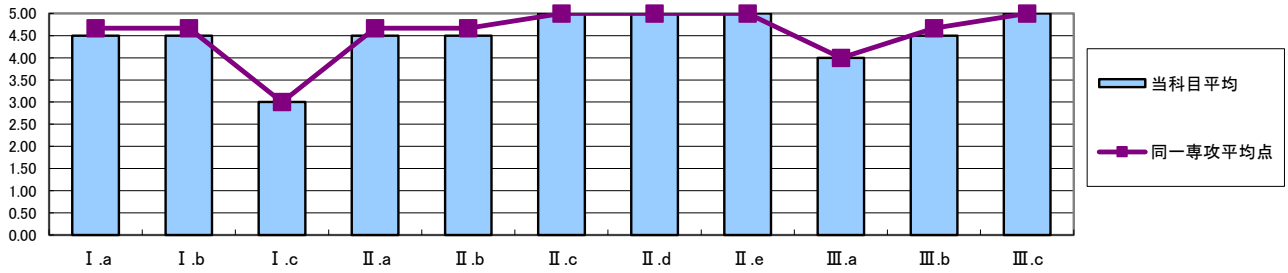
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.67
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.67
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ4～5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。今年度は初心者はいなかく順調に上達した。後期初頭は新型コロナウィルスの影響により、オンラインレッスンを余儀なくされた。学生のWi-Fi環境によって繋がりがつながりが悪くなり、指導に苦労した。

●　問題点

学生の準備不足もなく今年度は概ね良好であった。自由記述欄を見ても学生は満足しているようである。オンラインレッスンの際は、機材の準備やWi-Fi環境の整備が不可欠である。

●　改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

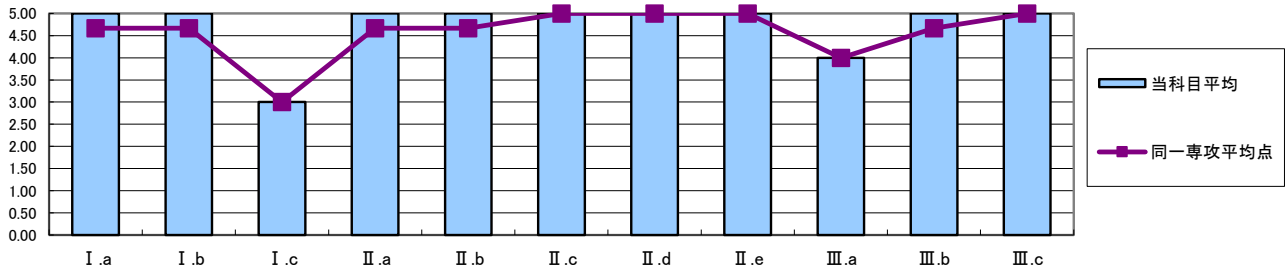
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.67
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.67
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の副科フルートの履修生は2名で、2年次2名であった。各々社会人の方でほぼ初心者であった。レッスンは週一回20分強で行った。初心の為、基礎的な奏法を習得しなくてはならないが、社会人の方は理解してから進める傾向がありその説明に時間を割いた。概ね各々の進度に合わせてレッスンを行えたと思っている。

●　問題点

社会人の方は理解してから進める傾向がある為、各々の理解度を把握する必要が大きい。

●　改善の方策

各々が納得して練習を進められる様に、説明の仕方に工夫をしたり様々な具体例を示したりして一方通行な指導にならない様にする事を考えなくてはならない。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

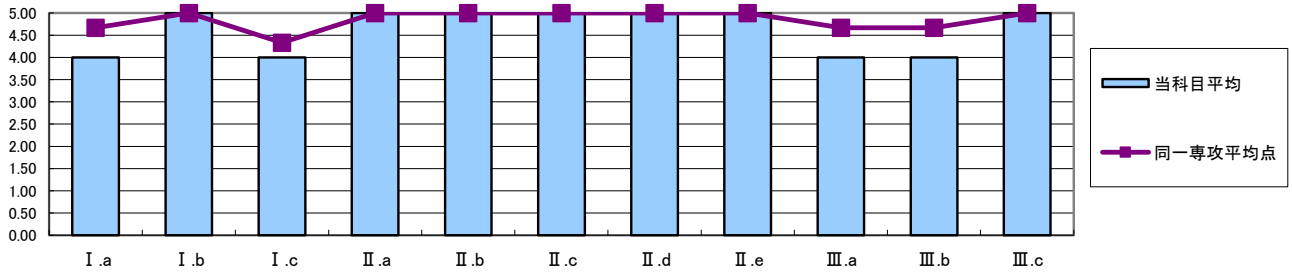
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	庄司　恵子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.67
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



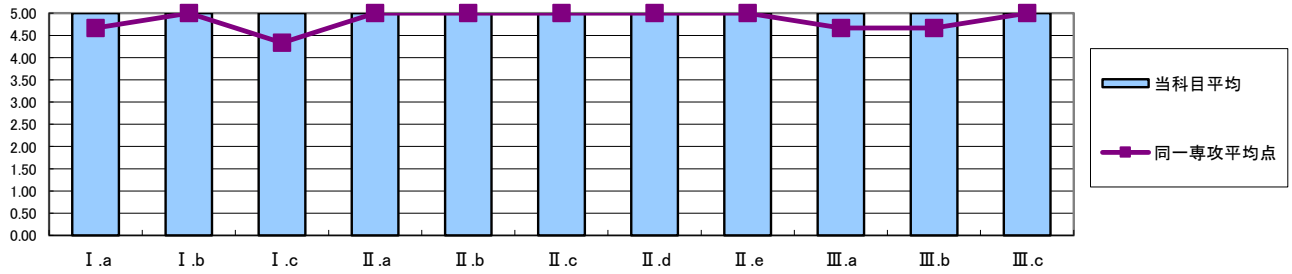
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.67
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



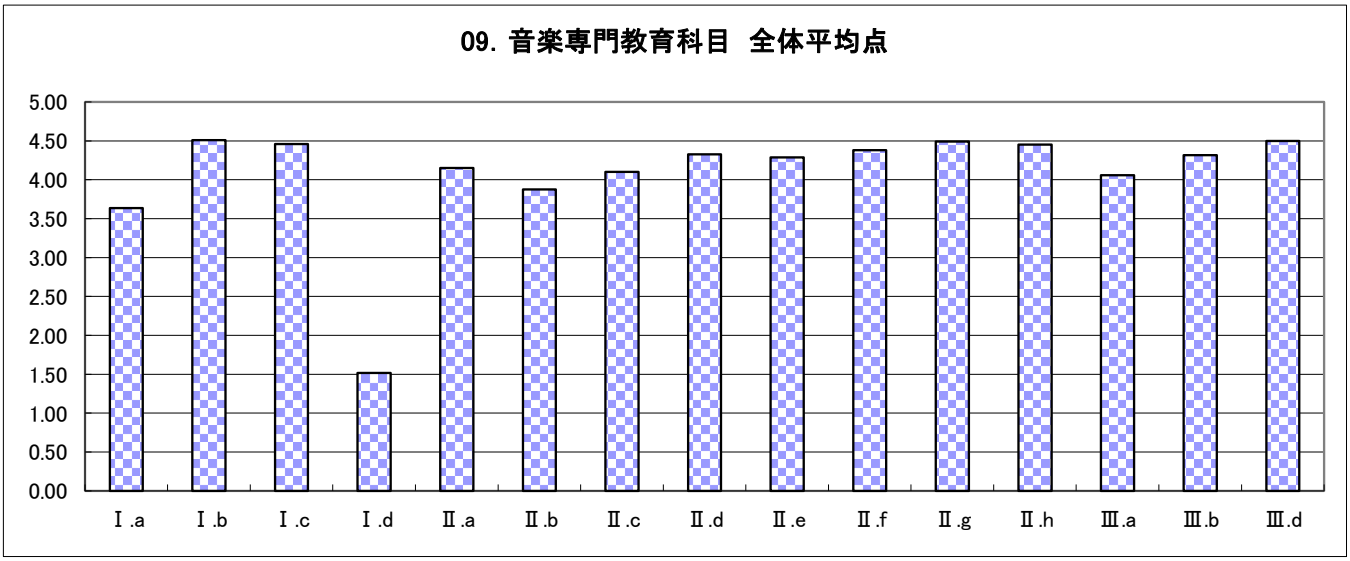
音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 音楽専門教育科目
科目数	30

履修者数	248
回答者数	203

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.64	52	67	55	16	13	203	0
				25.6	33.0	27.1	7.9	6.4		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.51	136	42	18	6	1	203	0
				67.0	20.7	8.9	3.0	0.5		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	111	75	16	1	0	203	0
				54.7	36.9	7.9	0.5	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.52	4	8	14	37	140	203	0
				2.0	3.9	6.9	18.2	69.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.15	88	60	53	2	0	203	0
				43.3	29.6	26.1	1.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.88	23	57	115	5	3	203	0
				11.3	28.1	56.7	2.5	1.5		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	93	44	55	6	2	200	3
				46.5	22.0	27.5	3.0	1.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	109	58	30	5	1	203	0
				53.7	28.6	14.8	2.5	0.5		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	105	60	30	7	1	203	0
				51.7	29.6	14.8	3.4	0.5		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	111	62	26	1	2	202	1
				55.0	30.7	12.9	0.5	1.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.49	134	43	17	6	2	202	1
				66.3	21.3	8.4	3.0	1.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	120	58	20	3	1	202	1
				59.4	28.7	9.9	1.5	0.5		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.06	74	72	53	3	1	203	0
				36.5	35.5	26.1	1.5	0.5		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.32	112	51	33	3	3	202	1
				55.4	25.2	16.3	1.5	1.5		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	148	82	82	52	33	200	3
				74.0	41.0	41.0	26.0	16.5		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	96	45	10	3	1	155	48
				61.9	29.0	6.5	1.9	0.6		

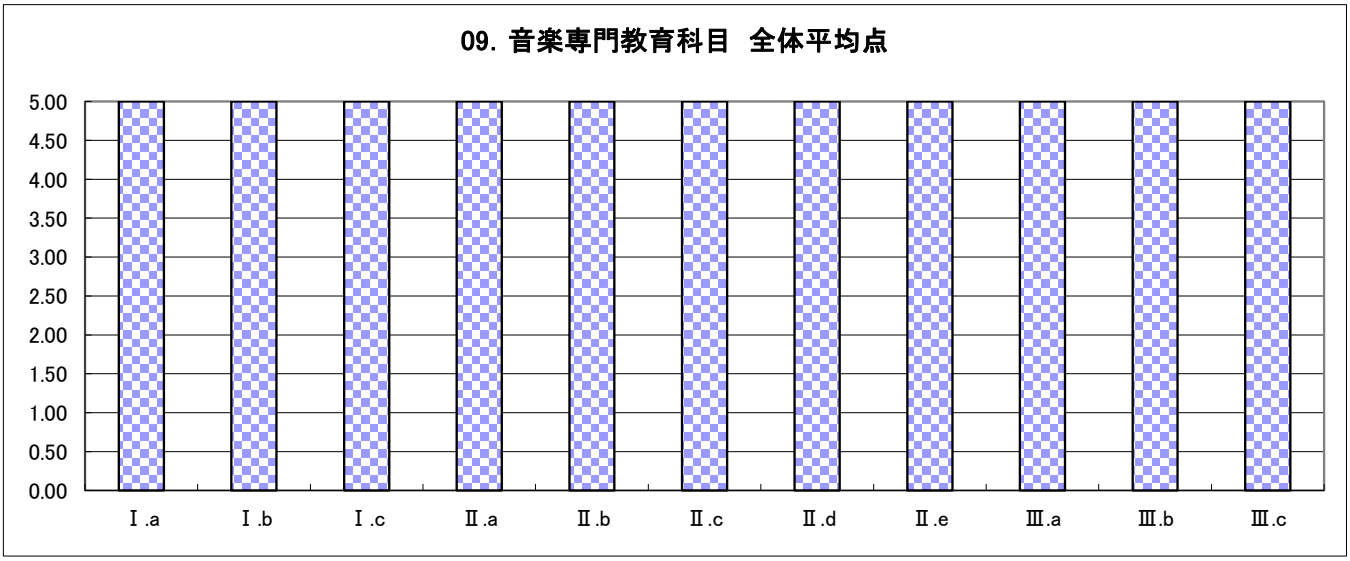


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	09. 音楽専門教育科目
科目数	2

履修者数	2
回答者数	2

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

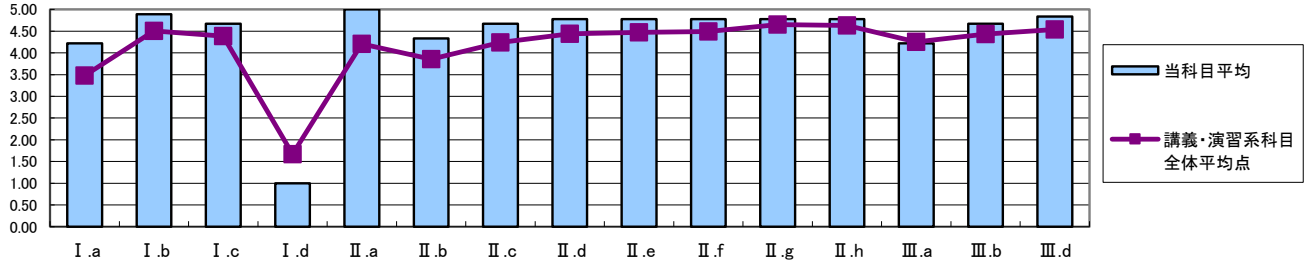
科目名	ピアノ指導者教材研究B
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.22	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.89	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.22	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 66.67 / 3: 55.56 / 2: 11.11 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目となっており、おもにピアノ指導者を目指す学生を対象としているが、専攻にかかわらず音楽を通じた社会貢献に関心のある学生にもシラバスにて履修を呼びかけている。2020年度は2年次配当科目であり9名が履修した。この3年間社会人学生の割合が増え、今年度は6名を占めた。主に卒業後にピアノ指導者を目指すための技能と知識を身に付けるための授業であるが、シラバスに基づく授業内容は守りつつ幅広い年齢と専攻に受け入れやすい授業運営となるよう考えており、全体に高い評価をいただいたことで概ね支持されたと感じている。

●　問題点

予習・復習に割く時間の少なさが目立っている。次回講義までに考えてくることについてシラバスに明示し、講義内で指示する等の工夫をしたが、他項目と比較すると依然として低めの評価である。

●　改善の方策

すべての回にシラバスにて予習・復習の項目を明示しているが、加えて予習や復習の課題を授業内でもより具体的に提示し、ワークシートの配布等も行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

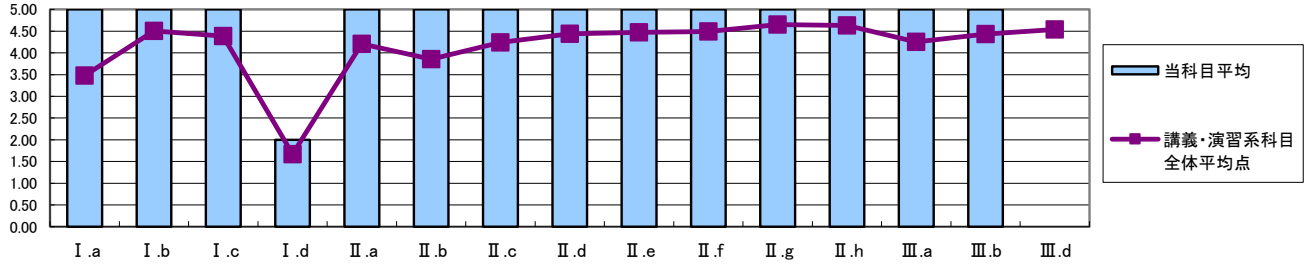
科目名	ピアノ指導法2
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 100.00
			3: 100.00	2: 100.00
			1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2020年度の履修者は２名であった。ピアノ指導者を目指すための科目であることから実践やディスカッションを積極的に取り入れている。回答数が1名であるためアンケートとしての有効性には乏しいが、該当学生は能動的かつ積極的にこの授業に取り組んでいたと感じている。期末レポートは、驚くほど深く掘り下げた力作であった。

●　問題点

2名中1名が長期欠席となってしまった。オフィスアワーに面談も行ったが、学習意欲を回復させることができなかった。グループワークにおける、さまざまな背景を持つ学生への配慮が一層必要であると痛感した。

●　改善の方策

グループワーク等、アクティブラーニングが有効に機能するように、学生一人一人の状況を早期に把握して授業内容にきめ細かく反映させる等、対策を講じたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

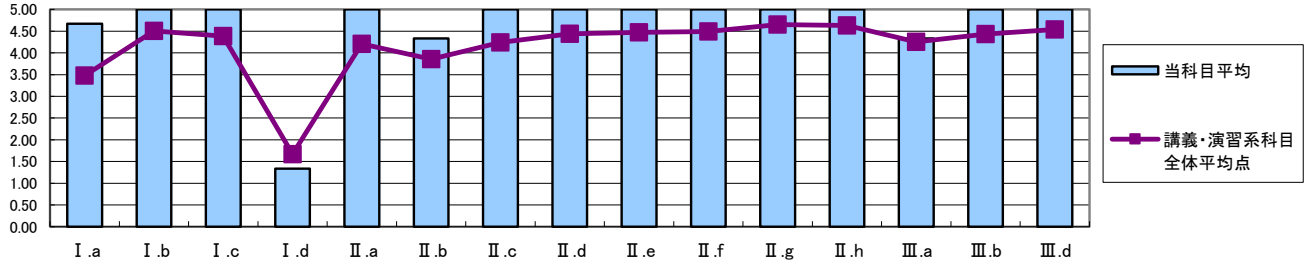
科目名	ピアノ指導法4
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 66.67 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2020年度履修者は3名。ピアノ指導者を目指すための科目であることから実践やディスカッションを多く取り入れており、幼児～小学生のモデル生徒に対してのレッスン実習も行っている。今年度は、コロナ禍において全国の音楽教室で活用が進んでいるオンラインレッスンの体験を取り入れた。アンケートの結果からは、この授業形態を学生が生かしてくれたと感じている。

●　問題点

実技的な内容も多いため予習と復習にしっかり取り組むことを求めたいが、アンケートからは十分な時間を割いているとは言い難い。

●　改善の方策

授業に必要な事前学習課題を口頭および書面で提示し、授業がより円滑に進むようにする。これにより全ての学生が授業の到達目標を達成できるようにして行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

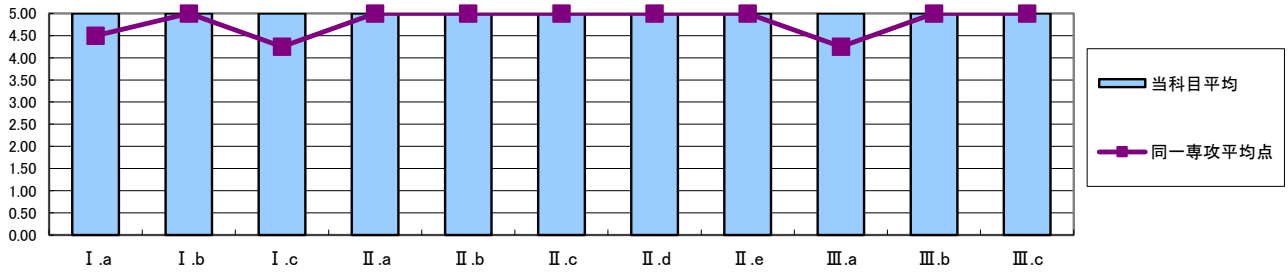
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者は2年生1名で、その学生より回答がありました。たいへん熱心で地道に粘り強く努力を重ねることが出来る学生です。練習時間がとても長く、レッスンの度に確実に成長しているのが手に取るようにわかりました。レッスンについては満足度が高く、私も良好なレッスンをすることが出来たと感じています。自由記述欄には「2年間、大場先生に教えて頂いて本当に良かったです。内容も私の実力に沿っていました。」とありました。

●　問題点

特になし

●　改善の方策

なし

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

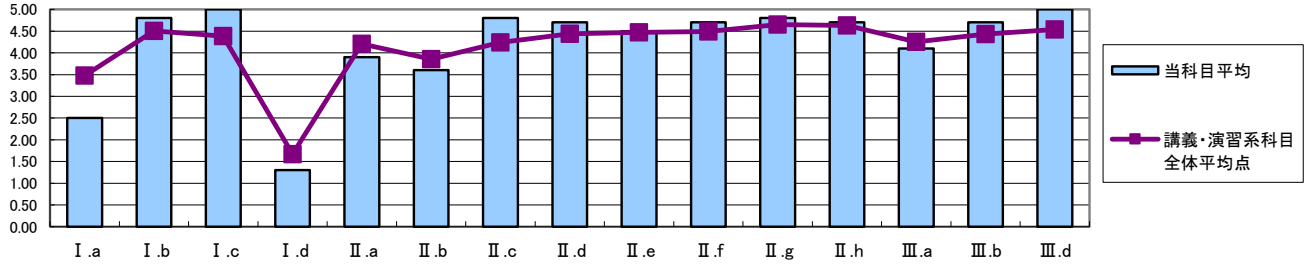
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.90	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00 / 4: 10.00 / 3: 60.00 / 2: 20.00 / 1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２年次の選択授業である。第１回目の授業で履修希望者に聴音を行い、a、bの２クラスに分けた上位のクラスである。授業時間は金曜日３～４限の２コマ分の９０分である。履修者は10名で回答者も同じく10名。聴音、弾き歌い、新曲視唱を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記３項目を行った。今年度はコロナの影響で前期に密度のある授業が不可能であったため、学生の訓練が十分に行えないまま後期が開始となった。訓練が足りていればさらに伸ばせる学生が多かっただけに、残念であった。

●　問題点

上位クラスとはいえ、個々の学生の差は点数的に言えば上と下で倍近く開いていたが、このクラスサイズだと一人ひとりに目を向ける事が出来るので、アドバイスを与えやすいし、授業の進行もやりやすい。クラスを分ける意味を考えれば、たとえ差がある学生でも人数を少なくしてワンツーワンに近くなるように、中途半端ではなく根拠に基づいての学生の利益を前提として行うのが理想である。

●　改善の方策

学生の利益を前提としたクラスサイズを考慮することは、きめの細かい指導をする上でも重要なことであるのは間違いない。なぜそれを実行しないのか常に疑問に思う。現場の必要性を優先していただきたい。時間的制約のある中で、学生には日々の積み重ねが必要であること、また授業以外でも少ない時間で良いので訓練を継続するよう促したい。各人にニーズにあった適切な課題の選択とアドバイスが出来るように、表面的ではなくもっと踏み込んだコミュニケーションも日頃から心がけるようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

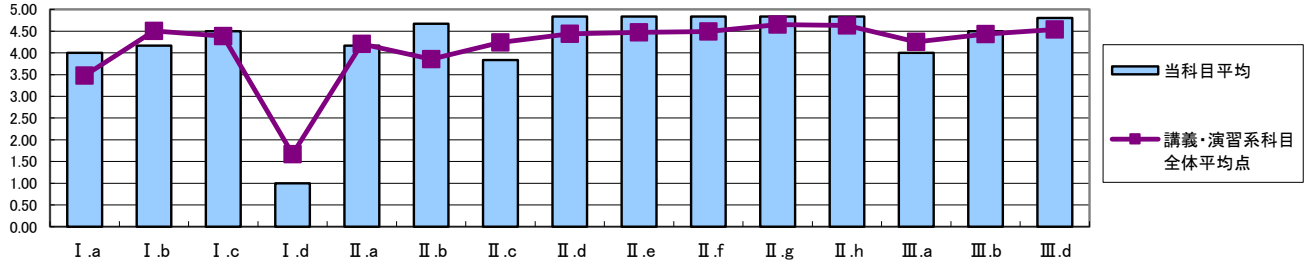
科目名	楽曲の楽しみ方Ⅱ
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	11
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養専攻の選択授業である。履修者は１１名で回答者は６名であった。9月からの半期で一コマ50分の授業である。社会人対応として、社会人の興味が湧くように音楽鑑賞を主とし、時代、社会、文化等を知り、楽曲解説、逸話等を織り交ぜ、楽曲の聴きどころ、聴かせどころを知り、音楽鑑賞能力を高めることを目的としている。今年度は声楽を取り上げた。履修者は例年に比べ１／４である。

●　問題点

履修者の減少が授業の内容によるものか、学生の意欲によるものかは明らかではないが、アンケートの結果からは後者のようである。しかしシラバスの書き方にも原因があるのではないかと思う。また授業内容の難易度は物足りないというより分かりやすかったということであろう。授業への意欲、授業の進め方に関しては評価がなされており、問題はないと考えている。

●　改善の方策

修をするかの目安はシラバスしかないので、シラバスの書き方にもう少し工夫がいるかもしれない。学生にとってさらに良い授業となるよう内容の充実を図ることを心がけたい。万人受けをする内容や進め方をすることは難しい面も多々あるが、真摯に対応していきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

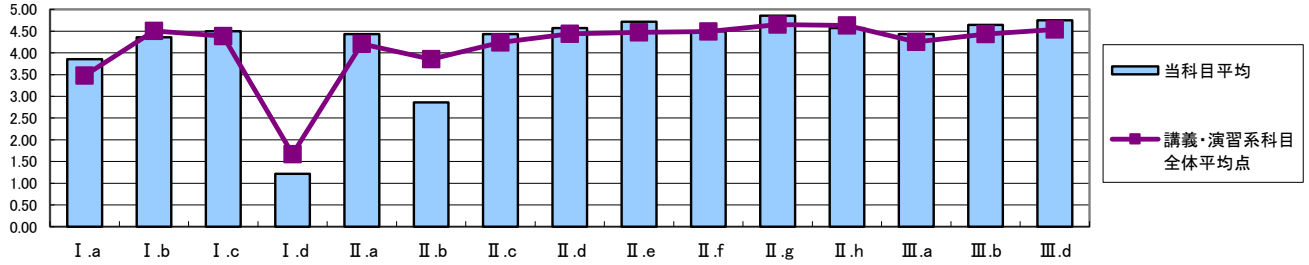
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	14
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.36	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.21	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.86	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71	4: 35.71
			3: 28.57	2: 28.57
			1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１年生を前期試験の成績により２クラスに分けた、上位のクラスである。授業時間は金曜日５限の週１回連続２コマ計９０分である。履修者数は１４名で回答者も１４名であった。授業は聴音、コールユーブンゲン、暗譜唱、新曲視唱を中心に行い成績評価の試験はその内のコールユーブンゲンを除いた３項目で実施した。クラスサイズは上位のクラスではあるが個々の能力に照らし合わせると、かなり差がありこの人数でも無理がみられると感じた。

●　問題点

能力の差が大きいため個々に合わせての適切な課題が使えずそれが機能しないことになり、アンケート結果での難易度の難しいと感じた一因になっている。前年までと比べて上位クラスといえども、楽典の知識に乏しく音符の種類さえ不確か、耳では理解出来るが音符に置き換えられない等、基礎的な部分が不十分な学生の方が多かった。その為能力のある学生にとっては適切と感じられるが、さらに実力を上げるための切磋琢磨がなくなってしまったのではないか。

●　改善の方策

出来る学生をさらに伸ばし、出来ない学生を丁寧に指導するには出来うる限りの少人数で似通った個々の能力に合わせることが本校の理念にもかなっており実現すべき必須事項であると思われる。学生のスキルの向上とより良い音楽作りのためにも、同じような能力の出来るだけ少ない人数である事が集中力を高め向上を早めることになるため、クラスサイズの設定は単純な人数分布によらず能力別に細かく行う事が前提であろう。音楽の習得は日々の努力とその積み重ねであり、効率の良い基礎訓練を学生の意識を集中して行わなければならない。学生には授業以外でも訓練を怠らないよう促し、またその方法や向上のための個人的なアドバイスを細かく出来る環境を作ることを踏まえて指導して行くことを日々心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

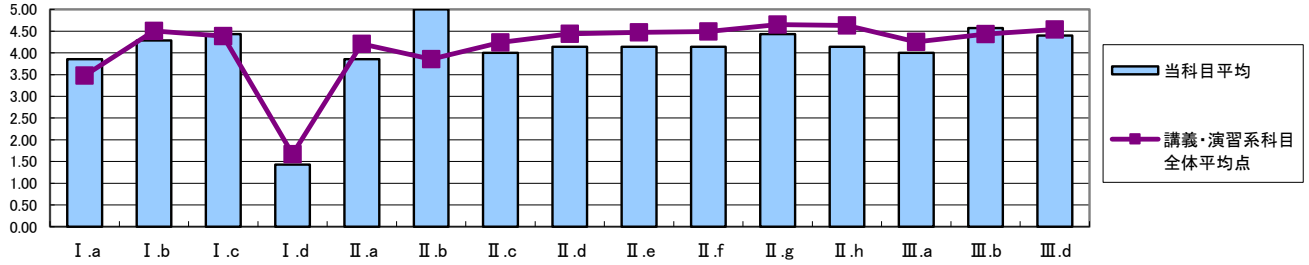
科目名	楽器の特性と機能B
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	10
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.14	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.14	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 28.57 / 3: 57.14 / 2: 28.57 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。

●　問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。　設問Ⅱ－aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。にもかかわらず、４と５を合わせて63.7%となっている。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ－h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないので、評価はレポート100%となる。全ての楽器についてレポートを提出させるためレポートの分量が多く、毎年、提出期限に間に合わない学生や、提出出来ない学生も出てしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。各教員のスケジュール調整が困難である。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。演奏研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師に指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。自由記述欄を見る限りは、学生の満足度は高いと思われる。

●　改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

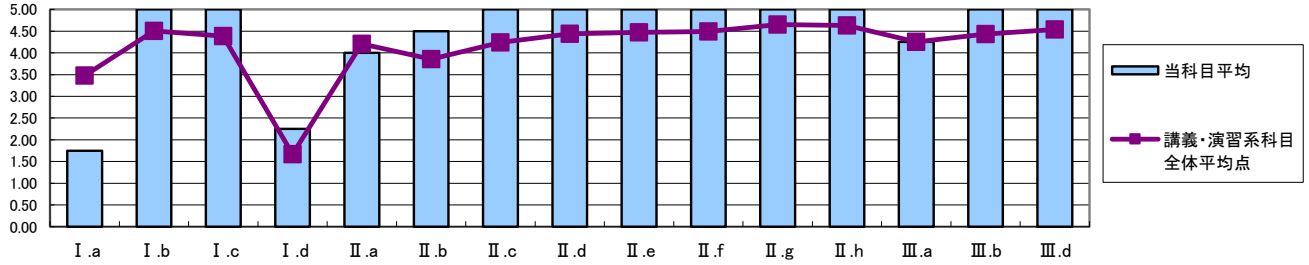
科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅡB
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.75	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、アンサンブル(ピアノ)ⅡBは5名が履修した。内訳はピアノ指導者コース2名、器楽専攻ピアノコース生、器楽専攻管弦打楽器コース、エレクトーン専攻生各1名である。全員が2年次生で、アンサンブルⅠから継続して履修している。クラスの特徴として演奏すること、アンサンブルをすることに対して高い意欲があり、また純粋な興味を合わせ持っていることが挙げられる。大変活気のあるクラスで、楽しそうに、時には励まし合いながら練習をしている姿が印象に残っている。授業の内容は例年通り、課題を学生たち自ら選択し、学期末の録音に向けて仕上げていくというものである。アンサンブルⅡは2台ピアノを中心に行うが、その華やかな演奏形態から授業以外にもオープン・キャンパス等での演奏機会も頂くことができ、学生たちのモチベーションが高まる一端になったと考えられる。アンケートの集計結果であるが、大変興味深く、また嬉しく受け止めた。授業における明るい雰囲気がそのまま表れている様な印象である。設問Ⅰdの予習・復習にかける時間の項目においては、実際のところ少し少ないと感じたが、就活も行いながら、またコロナ禍によるイレギュラー続きのこの1年間の生活を考えれば致し方のないことか、と納得もする。Ⅲcの結果からは学生たちが授業から得たと感じていることを知ることができ、興味深い。

●　問題点

特に認められないが、予習・復習に対して具体的な提案ができるとより良い効果が期待できるのではないか。

●　改善の方策

学生たちの学習意欲に対して更に細かい配慮を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

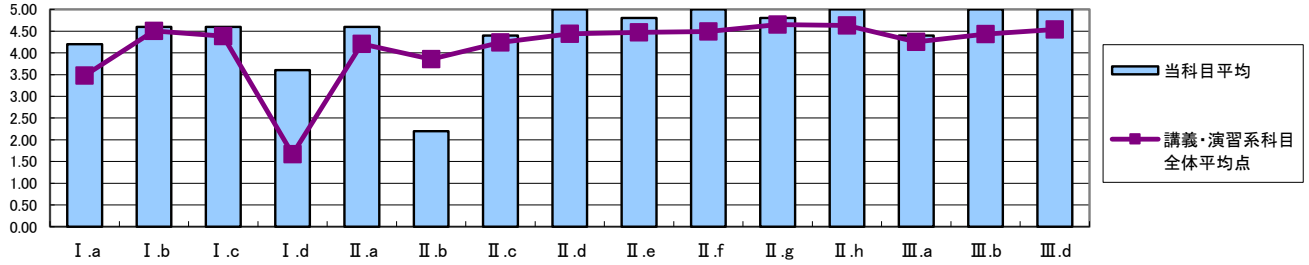
科目名	アンサンブル(ピアノ)ＩＢ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.60	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.00	4: 40.00
			3: 100.00	2: 20.00
			1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度、アンサンブル(ピアノ)ＩＢは5名が履修した。内訳は器楽専攻ピアノコース3名、声楽専攻、器楽専攻管弦打楽器コース各1名である。予期せぬコロナ禍の為イレギュラー続きの前期を経て、後期ではようやく落ち着いた学習環境の下、授業を展開することができた様に思う。授業の内容は、例年通り教員が提示した課題曲から学生たちが2～3曲を選択し、まとめの日に行う録音に向けて仕上げていくというものである。活気のあるクラスであった。自主的な練習も積極的に行われ、アンサンブルへの興味がどんどん広がっていく様な、ある意味理想的なクラスであった。さてアンケートの集計結果であるが、クラスの雰囲気がストレートに表れている様な印象を受けた。設問Ⅰdからは向上心が見て取れる。またⅡbからは課題が難しいと感じながらも、それをしっかりとマスターするべく努力を重ねたことが改めてわかった。またⅢcにおいて履修生全員が「関連分野の学習意欲」を選択していたことを大変嬉しい結果として受け止めた。これは課題曲に取り組む際、その作品に関わりがある様々な事柄に対しての予習をクラス全体で行ったことが関係しているかなと推測できるからである。

●　問題点

特に認められない。

●　改善の方策

音楽を共有できる環境にいる間に音楽の経験値をどんどん高めていってほしいと常に思う。授業を通してその一端を担うことができる様、努力していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

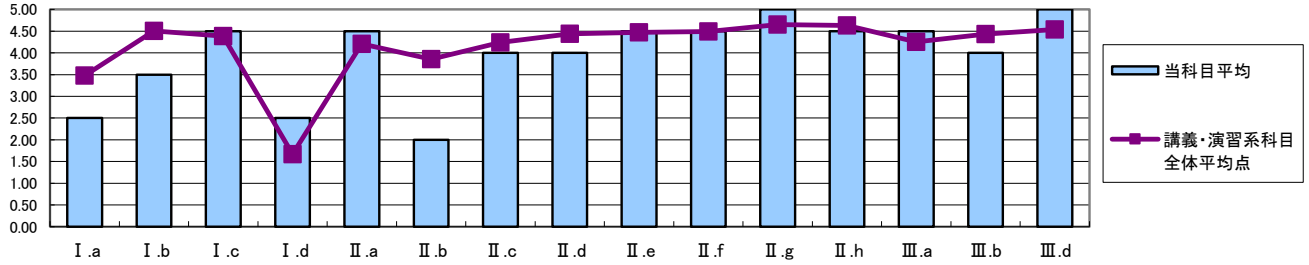
科目名	オーケストラⅡB
教員名	梅田　俊明

職名	05. 特任准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度新たに授業を担当するにあたり、授業形態から課題、演奏会プログラム等々を考察してシラバスを作成しました。まずはオーケストラの基本的なレパートリー曲を通してアンサンブル力を向上させる目的から、古典派の名作を重点的に取り上げることにしました。管打楽器についてはオーディションを通してメンバーを決定し、質の向上と共に学生の意識改革を目指しました。弦楽器については能力や経験の差異を考慮しながら、パート別の分奏を通してオーケストラの母体となるセクションの役割を整えました。また毎回の授業後は学生のみで意見交換の時間を設け、インスペクターを通して報告を受けて次回の授業に反映させました。一方感染予防対策を強いられたことから、時間短縮やディスタンスの確保などアンサンブルにとって不利な状況も多々あり、その都度柔軟な対応に追われました。予定されていた演奏会が次々キャンセルになる中でも、音楽大学フェスティバルと定期発表演奏会では十分な成果を披露することができたと考えます。年度末には練習時間に限りがある中で、中止になったトライアルコンサートのプログラムも消化させました。

●　問題点

古典派の作品に重きを置いた結果、管打楽器専攻生の中にそもそも編成上乗り番がない結果になったこと。

●　改善の方策

学生オーケストラとして演奏経験上必須なレパートリーを積み上げながら、管打楽器専攻生にとって編成上の偏りを最小限にしてバランスをとる必要性は常に認識しています。今年度は一部改善してプログラミングした一方、早速本番のキャンセルに見舞われたのが現状です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

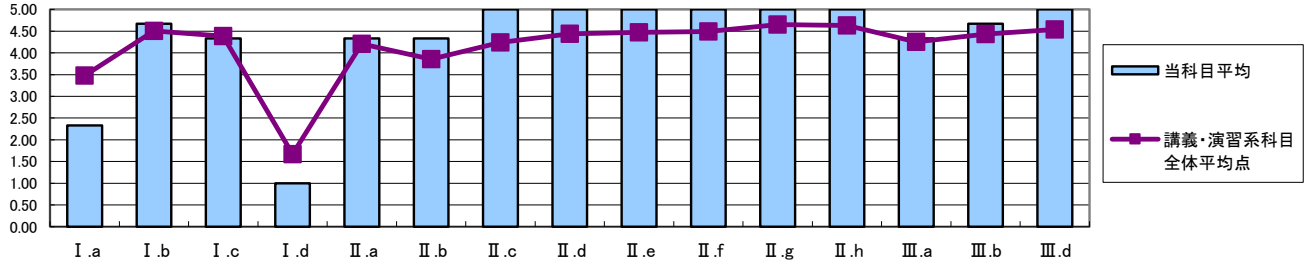
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 66.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

コロナ感染のリスクを減らすため、一年生と同様、前期テストは聴音・新曲リズム、後期テストは聴音・新曲視聴・青本弾き歌いといった今までとは違う変則的な順番でのテストとなった。去年一年間のソルフェージュ1b2bでの積み重ねに加えてレベルを上げ、良くなった点とこれから努力すべき点を毎回アドバイスしている。学生達はよく集中して取り組んでいたと思う。

●　問題点

アンケートⅠdにあるが、もう少し予習復習の時間が増えると良いと思う。

●　改善の方策

課題・教材を一層工夫し、予習復習の重要性をもっと強調していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

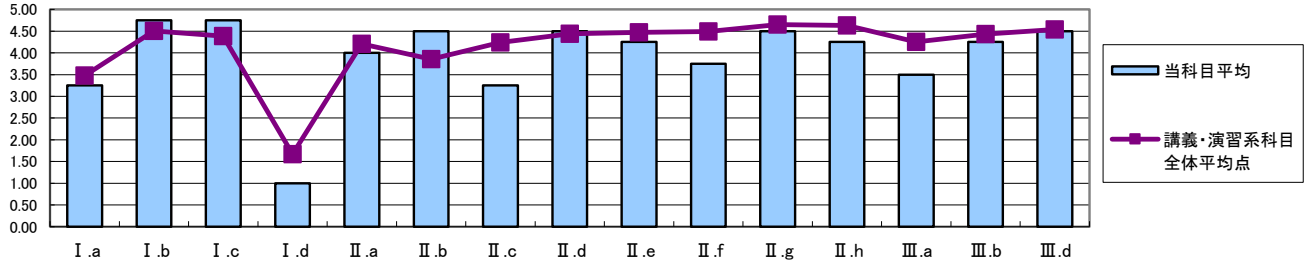
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00	4: 25.00
			3: 50.00	2: 0.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

コロナ感染のリスクを減らすため、二年生と同様、前期テストは聴音・新曲リズム、後期テストは聴音・新曲視唱・青本暗譜唱といった、今までとは違う変則的な順番でのテストとなった。二年生のような去年一年間のソルフェージュ授業の積み重ねがないため、オンラインから始まった本授業に戸惑う事も多かったと思うが、学生達はよく努力していたと思う。授業は、個々の添削を丁寧に、良くなった点とこれから努力すべき点を毎回アドバイスするようにしている。

●　問題点

アンケートIdにもあるがもう少し予習復習の時間が増えると良いと思う。

●　改善の方策

課題・教材を一層工夫し、予習復習の重要性をもっと強調していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

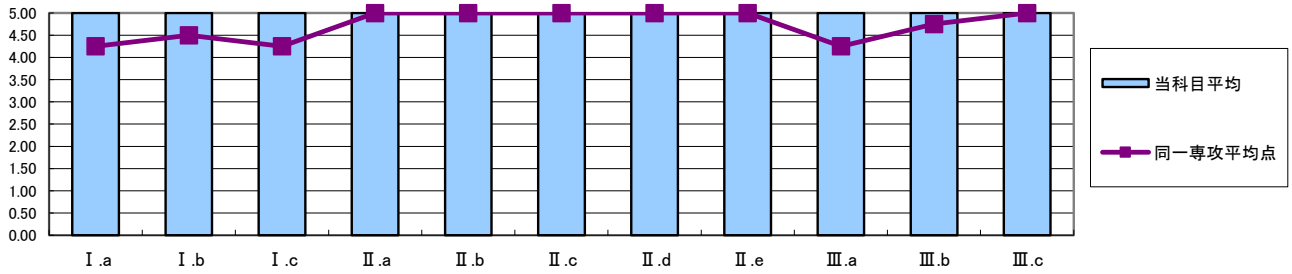
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.25
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.25
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



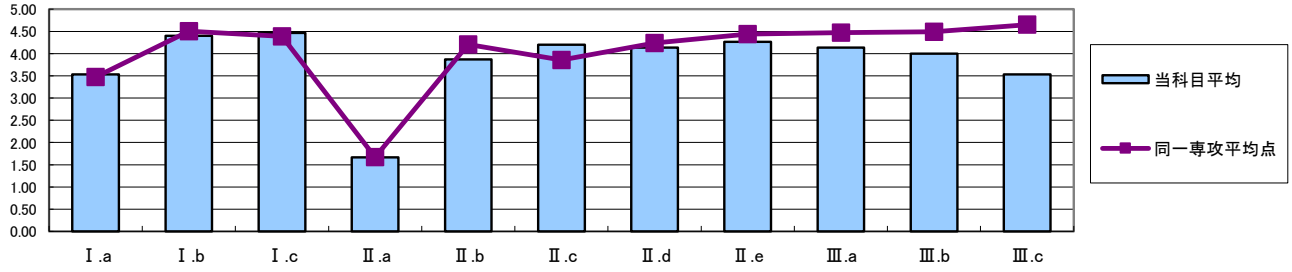
科目名	合唱ＩＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	20
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.53	3.48
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.51
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.47	4.38
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	1.67	1.67
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.87	4.20
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.20	3.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.13	4.24
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.27	4.44
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.47
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.49
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.53	4.65

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

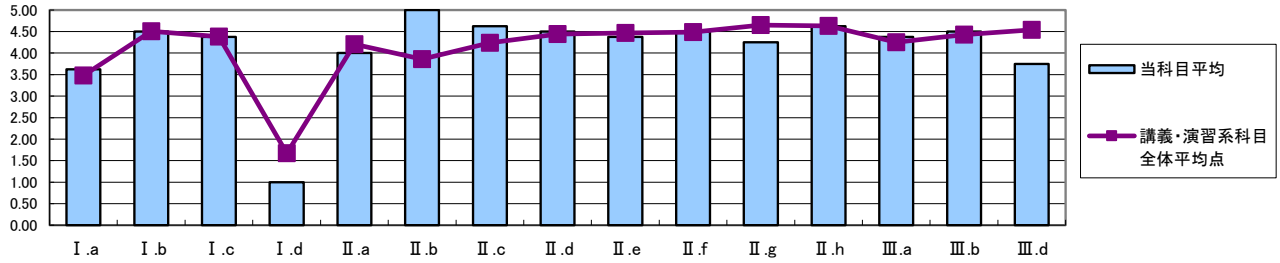
科目名	合唱ⅡB
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.38	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 25.00 / 3: 25.00 / 2: 0.00 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.75	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



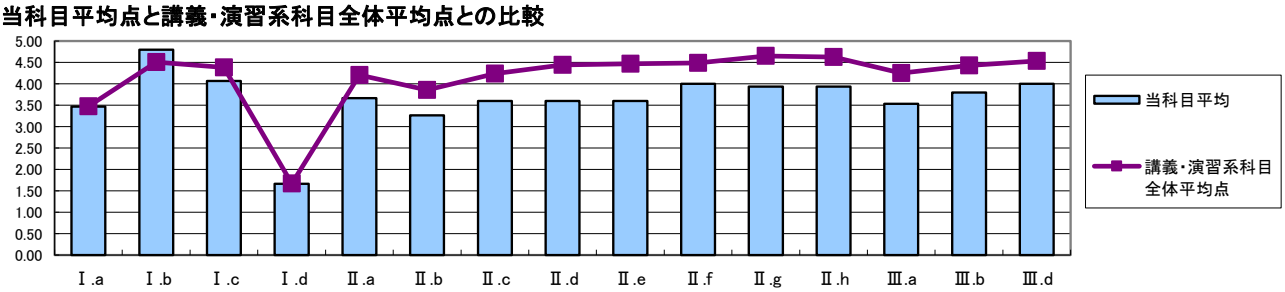
科目名	和声学2
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	20
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.47	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.07	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.27	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.60	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.93	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.93	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.53	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 40.00 / 3: 33.33 / 2: 33.33 / 1: 13.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

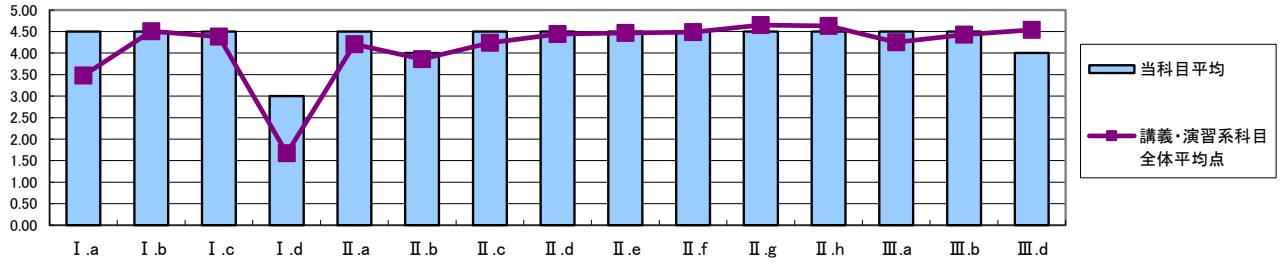
科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



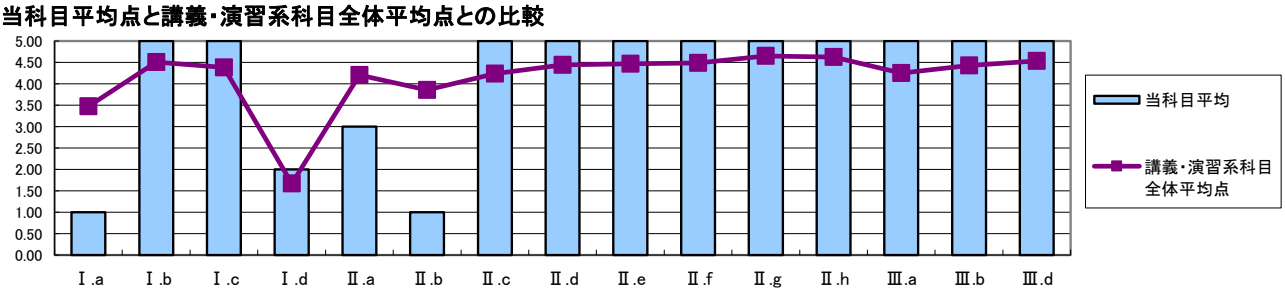
科目名	ウインドオーケストラⅡＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

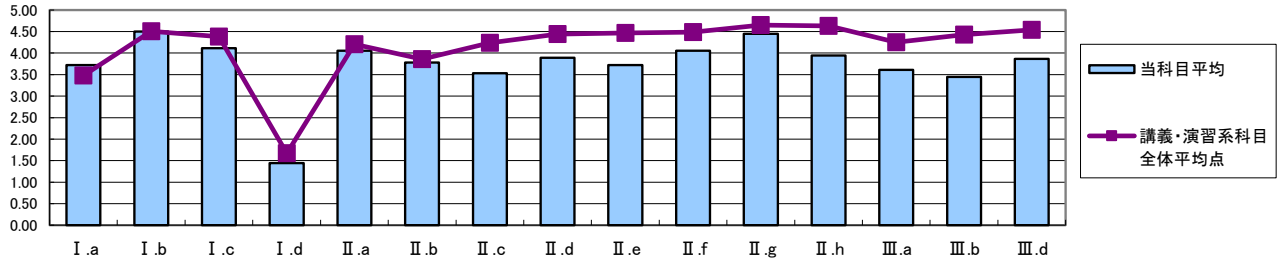
科目名	音楽の基礎理論B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.72	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.11	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.44	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.06	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.78	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.53	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.89	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.72	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.06	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.44	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.94	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.61	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.44	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 61.11 / 4: 44.44 / 3: 27.78 / 2: 27.78 / 1: 16.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.87	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



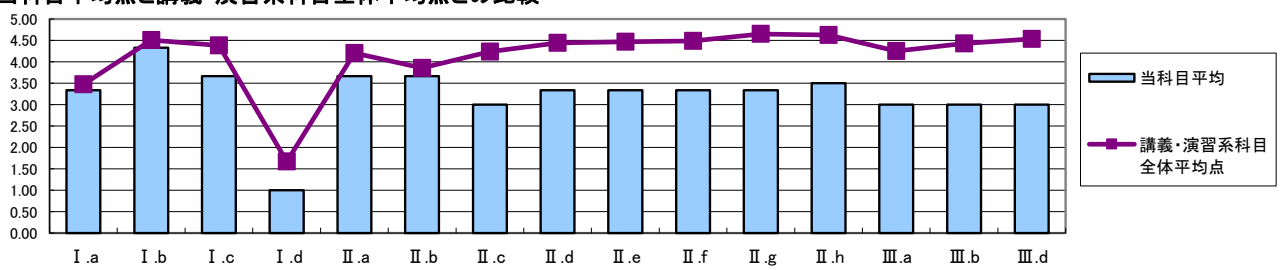
科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.33	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.33	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.33	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 66.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

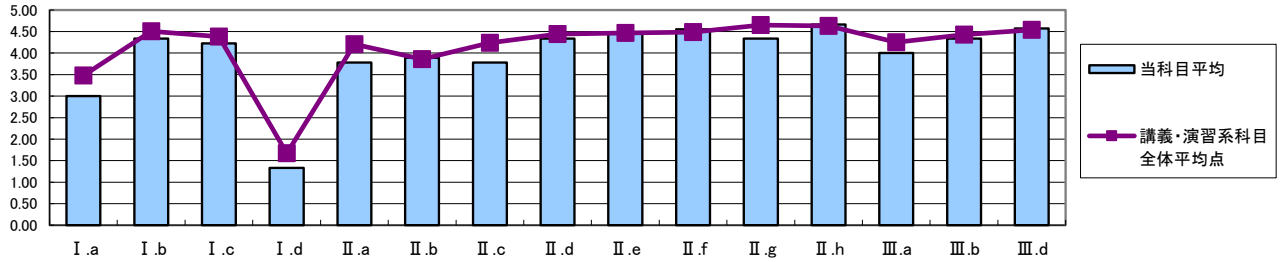
科目名	和声学4
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.78	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.78	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78 / 4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 22.22 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



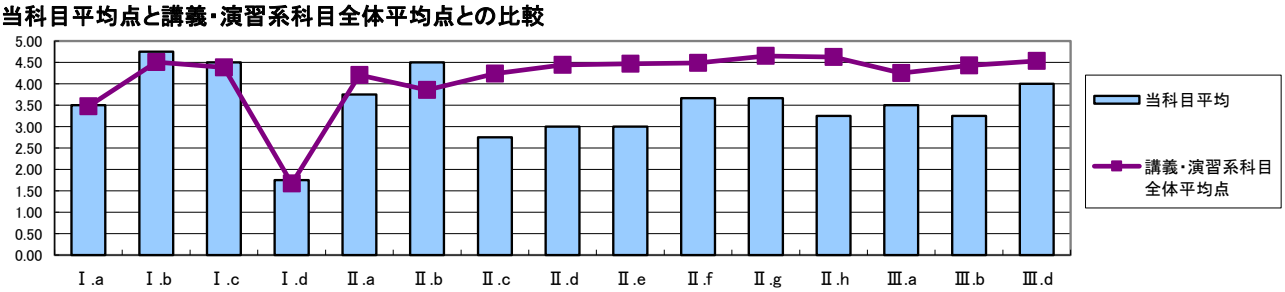
科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.75	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.67	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.67	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.25	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 75.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

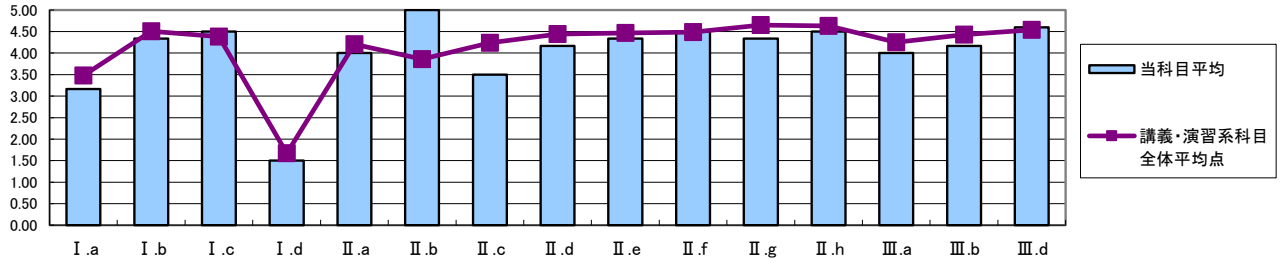
科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ⅡB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 16.67 / 3: 33.33 / 2: 16.67 / 1: 16.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



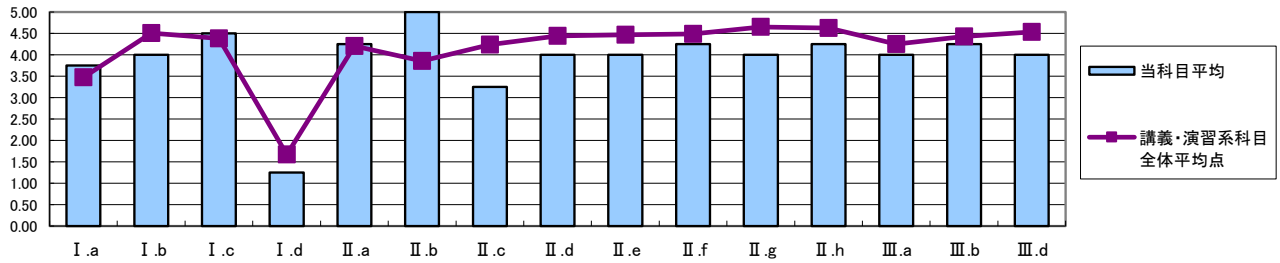
科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ⅡB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 25.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

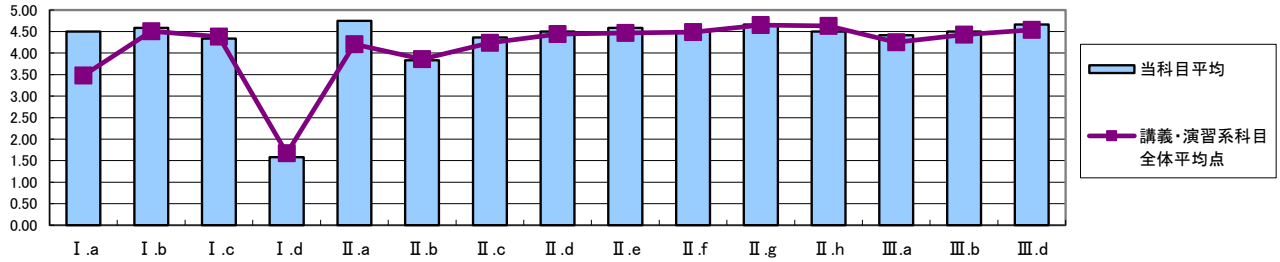
科目名	レッスンマネージメントB
教員名	有門　真希

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.58	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.58	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.58	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.42	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 72.73 / 3: 27.27 / 2: 36.36 / 1: 18.18	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



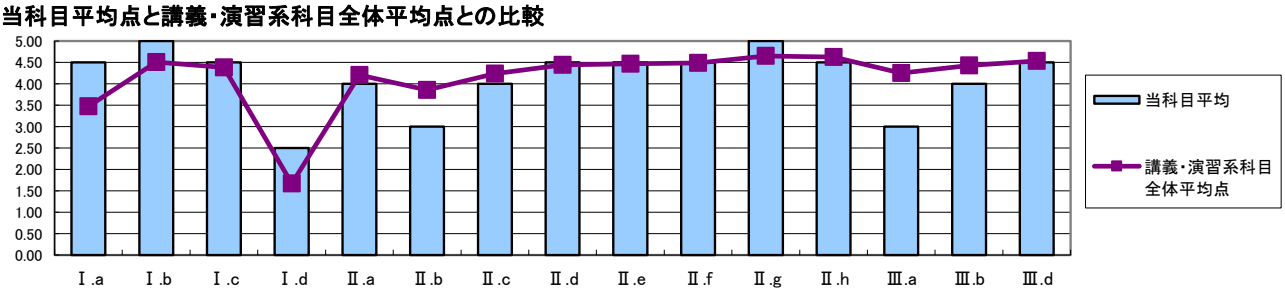
科目名	電子オルガン即興演奏ＩＢ
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

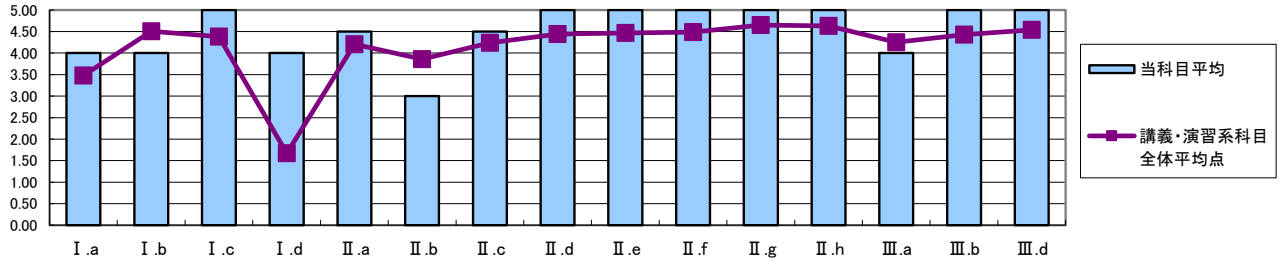
科目名	電子オルガン即興演奏ⅡB
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



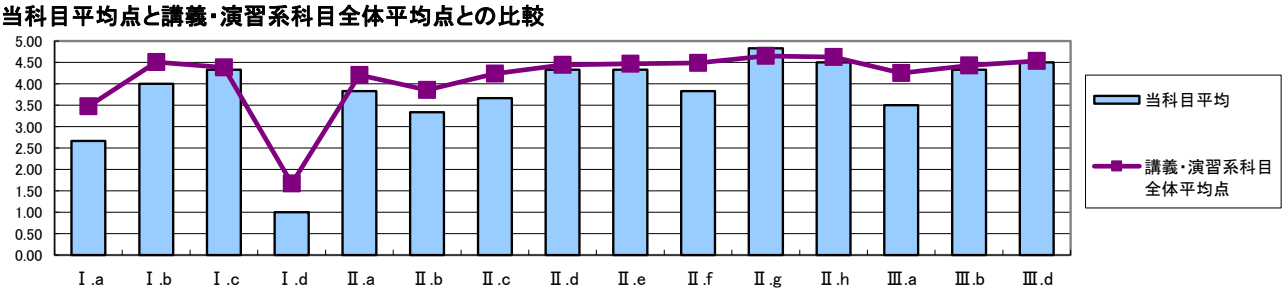
科目名	シンギングポップスB
教員名	仁科　薫理

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.83	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 16.67 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

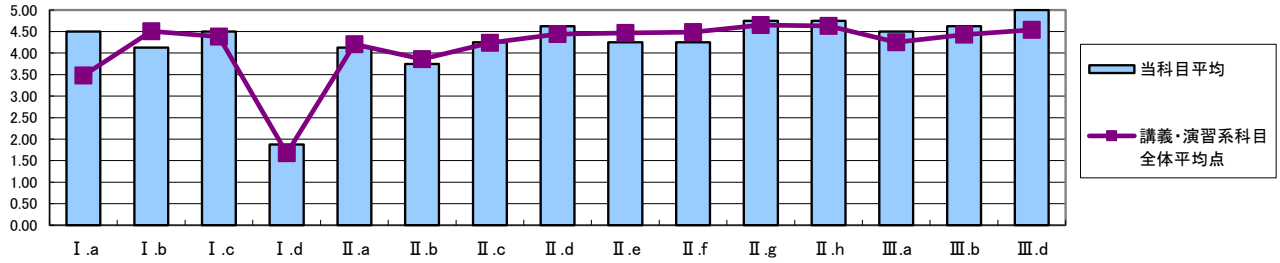
科目名	リトミックＩＢ
教員名	藤原　優里

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.75	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 57.14 / 3: 42.86 / 2: 14.29 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



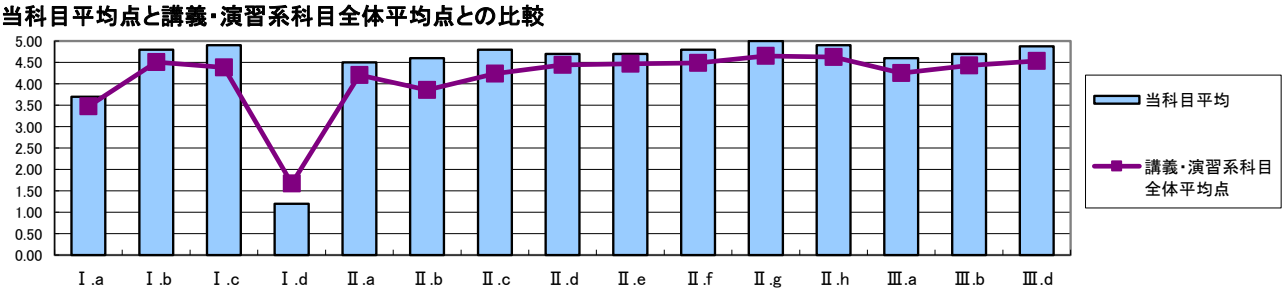
科目名	リトミックⅡＢ
教員名	藤原　優里

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.90	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.70	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.70	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 60.00 / 3: 30.00 / 2: 20.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

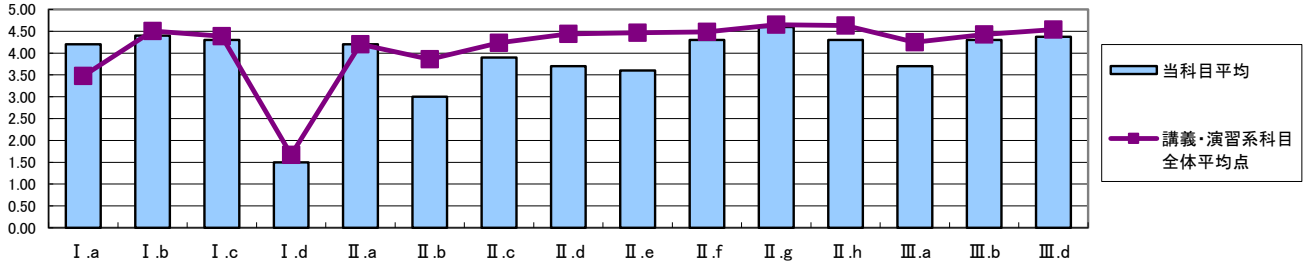
科目名	音楽史B
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.90	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.70	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.60	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.30	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.30	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.70	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.30	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00	4: 30.00
			3: 60.00	2: 20.00
			1: 10.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



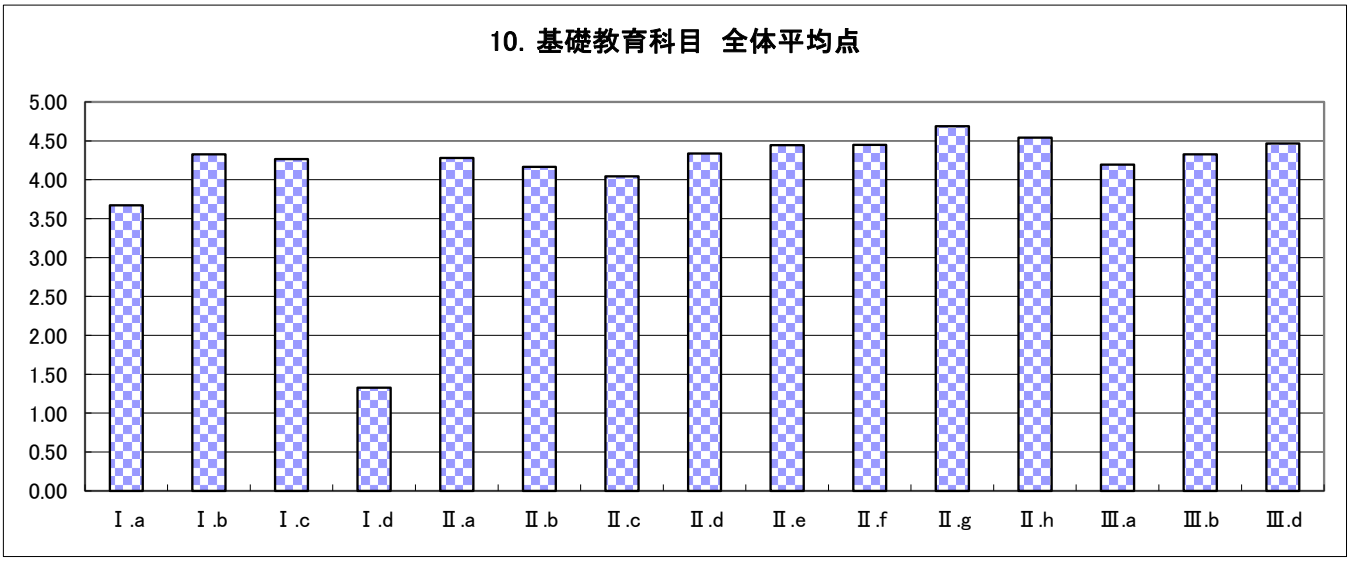
基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	10. 基礎教育科目
科目数	10

履修者数	141
回答者数	116

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	31	39	30	9	7	116	0
				26.7	33.6	25.9	7.8	6.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	60	37	17	1	1	116	0
				51.7	31.9	14.7	0.9	0.9		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.27	50	48	17	1	0	116	0
				43.1	41.4	14.7	0.9	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	3	2	4	12	95	116	0
				2.6	1.7	3.4	10.3	81.9		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.28	55	37	23	0	0	115	1
				47.8	32.2	20.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.17	11	21	79	3	1	115	1
				9.6	18.3	68.7	2.6	0.9		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.04	46	34	29	6	0	115	1
				40.0	29.6	25.2	5.2	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.34	62	36	14	3	1	116	0
				53.4	31.0	12.1	2.6	0.9		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	62	44	8	0	1	115	1
				53.9	38.3	7.0	0.0	0.9		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.45	62	44	10	0	0	116	0
				53.4	37.9	8.6	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	89	21	4	1	1	116	0
				76.7	18.1	3.4	0.9	0.9		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.54	72	37	5	2	0	116	0
				62.1	31.9	4.3	1.7	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.19	44	48	22	0	0	114	2
				38.6	42.1	19.3	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	58	39	13	1	2	113	3
				51.3	34.5	11.5	0.9	1.8		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	75	51	33	19	22	112	4
				67.0	45.5	29.5	17.0	19.6		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.47	52	34	4	1	1	92	24
				56.5	37.0	4.3	1.1	1.1		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

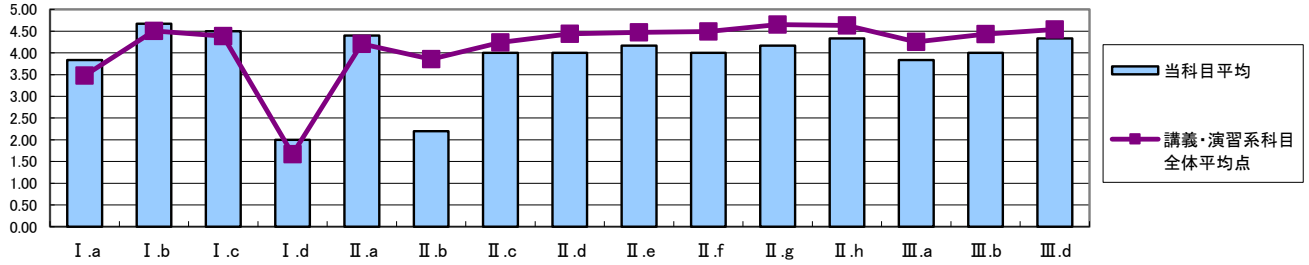
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	9
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.83	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00	4: 33.33 / 3: 33.33 / 2: 16.67 / 1: 0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

ドイツ語圏の多様性に触れる為に、ビデオ映像を用いて最新のドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を紹介した。特に日本の中のドイツ、ドイツの中の日本と言うコンセプトでドイツ語への導入を行った。文法項目を一つ一つ習得しながら、話すことを重点に練習を重ねた。日常生活の話題を取り上げ、習得した文法を用いて簡単な文を作る練習を通して表現力の向上を目指した。

●　問題点

現状の多様なドイツ語圏の姿に実感を持ってもらう為、様々な素材を毎時間用意したが説明が多くなり学生のアクティブな参加が阻害されたきらいがある。素材の厳選と各回の学習項目の明確化が必要である。

●　改善の方策

毎回の学習の要点をまとめ、理解の共有化を図る。その為、各回のレジュメを作成することにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

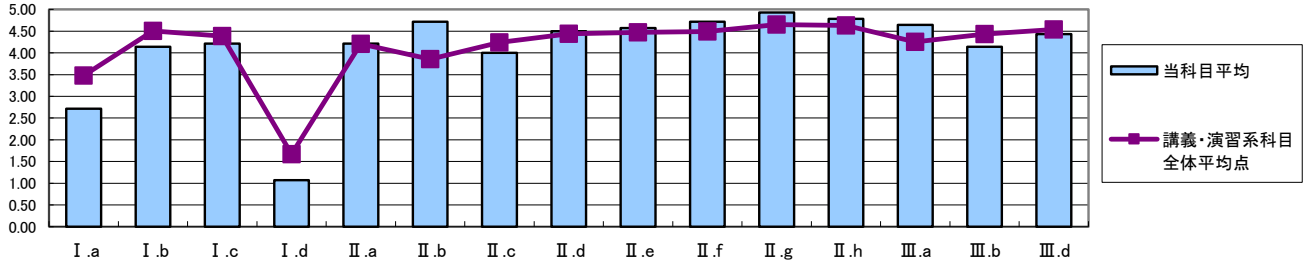
科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	14
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.14	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.21	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.64	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.14	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 53.85	4: 53.85
			3: 0.00	2: 15.38
			1: 46.15	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

東邦スタンダードⅡBは2年次生、14名が履修した。このクラスはチームワークも良く、授業に対する姿勢も真面目なものであった。アンケートの集計結果であるが各設問ごとに検討していこうと思う。まず設問Ⅰ。a シラバスに関しては他の授業においてもあまり活用されていない印象がある。出席、学習態度に関してはほとんど問題を感じることはなかった。設問Ⅱは概ね納得のいく結果である。設問Ⅲでは授業を通して伝えたい内容をだいたいの学生は感受している印象を受けた。c においては〝新しいものの見方〟を選択している学生が多いが、これは卒業生による講和から受けた印象が強く反映されているのではないかと思う。やはり実際に社会で活動している先輩方の話は学生たちにとって説得力に満ちているものであるだろう。授業を通してこの様な経験ができることは大変意義深いことであると思う。

●　問題点

現時点では特に感じないが、一貫して学生が〝受け身〟であることが気になっている。

●　改善の方策

より積極的な学習意欲を引き出せる様、まず教員側が考えを深める必要があるのは明白である。授業に更にリアルな性格を打ち出す為にどうしたら良いのか。大きな宿題である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

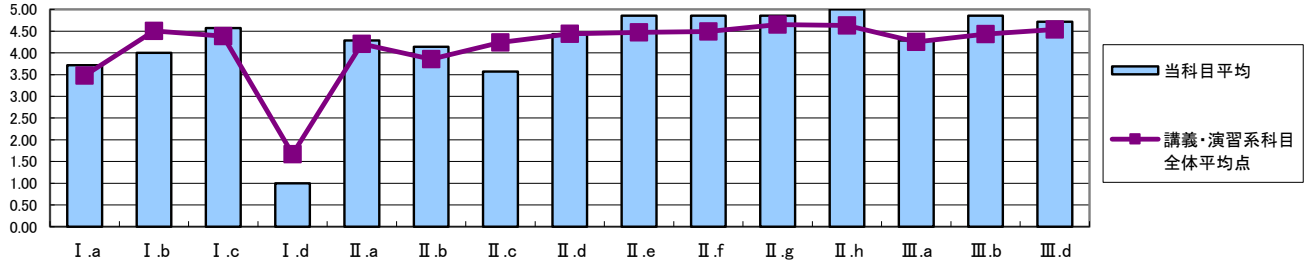
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.57	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 42.86 / 3: 28.57 / 2: 14.29 / 1: 28.57	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望などあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：８名在籍のうち回答は７名（社会人３名含む）である。⑤受講者の状況：出席状況にばらつきが大きく、出席を促すために個別にやりとりをくり返した学生もいた。例年通り社会人学生との溝を埋めるべく授業を展開した。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「0.5p以上低い値」の項目は、「この授業の出席は良好【やや悪い】」「1回の授業のために平均どのくらい予習復習しましたか【1.1h未満】」「開講時に成績評価の基準が明示されていた【やや不明確】」「問題発見・解決能力【やや低】」「関連分野の学習意欲【やや低】」「新しい知識・技能【低】」の６項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「予習復習の時間」「開講時に成績評価の基準が明示されていた」「関連分野の学習意欲」「新しい知識・技能」の４項目である

●　問題点

教員と学生の意識のズレ：非常に熱心な社会人学生と出席状況で問題が出る現役学生の落差が大きく、どちらに寄せてもどちらかに不満を残す可能性があり、ターゲットをそれぞれに当てた授業内容が求められる。学習内容自体は意欲を刺激し興味深いものであったと指摘されていることから、学生のニーズを外しているわけではないと推測される。

●　改善の方策

改善方策：コミュニケーション能力の向上という指標に現れているように、心理学の実践トレーニングという要素を多く盛り込んでいる後期Ｂの授業は、あながち的を外しているとは思われず、提示の仕方によっては出席率に結びつくような授業に変えられると考えられる。時間数が50分と限られているのでPACSのような授業はできないものの、内容の上では大いに参考になると考察している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

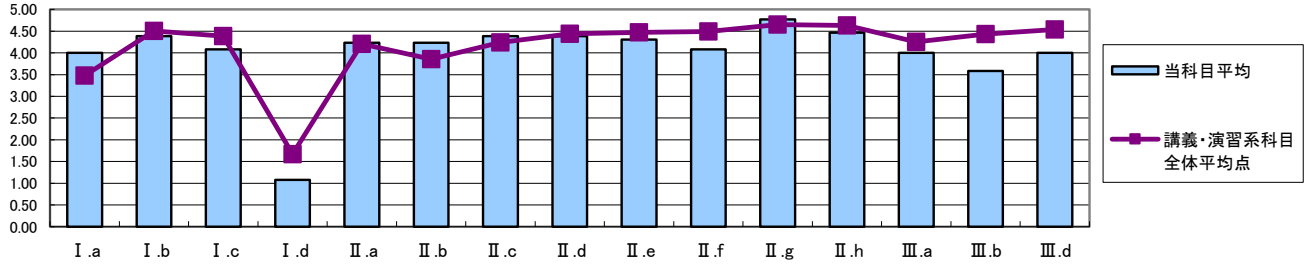
科目名	東邦スタンダードＩＢ
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	18
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.08	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.08	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.23	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.58	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 41.67	4: 41.67
			3: 8.33	2: 16.67
			1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

東邦スタンダード1年18名中13名から回答を得た。思いもよらない状況で新1年生はスタートした。学生の出席は、前期においては失格者はいなかったが、後期になると出欠席者がはっきり分かれるようになった。大概の学生は授業態度もよく真面目であった。しかし、出席不良の数名の学生は「朝が起きられない」と言って授業を逃してしまうのが大変残念であった。私自身、担任に慣れておらず、先生方のきめ細やかなご指導のお陰と積極的な学生の取り組に助けられ、何とか終えることができた。

●　問題点

朝1限の授業開始までに席につけない学生への対応

●　改善の方策

時間の大切さをどう伝えるかが課題

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

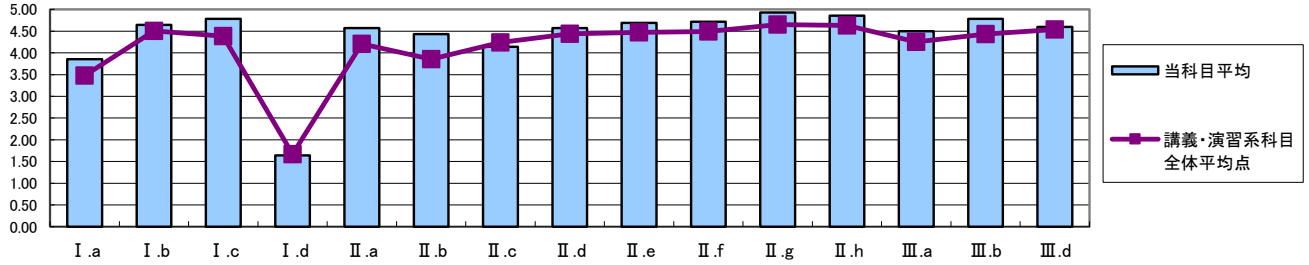
科目名	健康と音楽B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.79	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.64	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.69	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.79	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 64.29 / 3: 71.43 / 2: 7.14 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽で関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数14名。開講は水曜日の2時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。　Ⅰ-a“この授業を履修するにあたってシラバスを活用したか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」78.6%、「どちらとも言えない」7.1%、「あまりそう思わない」7.1%、「全くそう思わない」7.1%だった。Ⅰ-d“予習・復習の時間”について、「5時間以上」7.1%、「4時間」0%、「3時間」14.3%、「2時間」7.1%、「1時間未満」71.4%だった。Ⅱ-b“この授業の難易度”について、「難しい」7.1%、「やや難しい」14.3%、「適切」78.6%だった。Ⅱ-c“開講時に成績評価の基準が明確に示されていたか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」57.1%、「適切」7.1%、「どちらとも言えない」28.6%、「あまりそう思わない」7.1%だった。Ⅱ-g“授業回数や時間”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」が100%だった。Ⅲ-a“開講時に示された到達目標を充分に達成できたか”について、「強くそう思う」57.1%、「ある程度そう思う」35.7%、「どちらとも言えない」7.1%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったこと”について、「新しい知識・技能」57.1%、「新しいものの見方」64.3%、「関連分野の学習意欲」71.4%、「問題発見・解決能力」7.1%、「コミュニケーション能力向上」0%だった。

●　問題点

シラバスの活用について、約2割が活用していなかったことがわかった。授業の難易度について、約2割が「難しい、やや難しい」と回答していた。成績評価の基準について、約3割が明確に示されていると捉えていないことがわかった。

●　改善の方策

毎回の授業内において各回の内容についてシラバスをもとに確認し、またシラバスを活用しながら予習や復習ができるような課題を果たし、発表等を通して予習・復習したことが授業内で活かされるようにする。難易度については、学生の理解度を図りながら分かりやすい伝え方を工夫して行く。成績評価の基準については、すべての学生に分かりやすいように説明を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

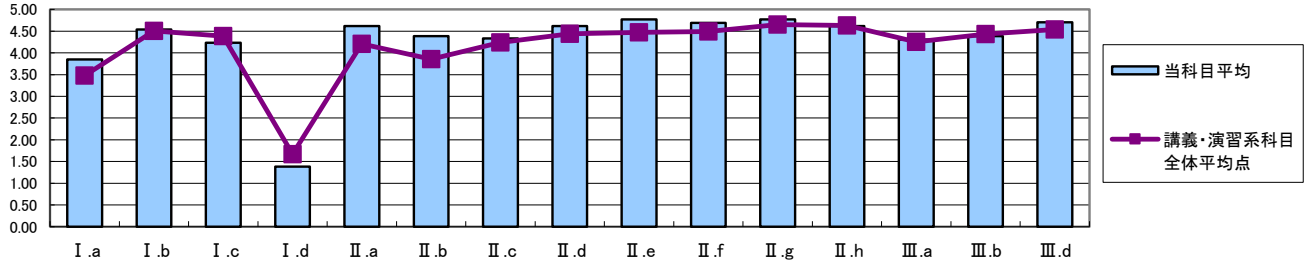
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.85	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.54	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.23	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.62	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.77	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 61.54	4: 53.85
			3: 53.85	2: 7.69
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数13名。開講は水曜日の3時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。Ⅰ-a“この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」77%、「あまりそう思わない」7.7%、「全くそう思わない」15.4%だった。Ⅰ-c“熱意を持って積極的に取り組んだか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」84.7%、「どちらとも言えない」15.4%だった。Ⅱ-a“授業はシラバスに沿って行われたか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」84.6%、「どちらとも言えない」15.4%だった。Ⅱ-b“授業の難易度”について、「難しい」7.7%、「やや難しい」7.7%、「適切」76.9%、「やや易しい」7.7%だった。Ⅱ-d“授業の進め方は分かりやすかったか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」92.3%、「どちらとも言えない」7.7%だった。Ⅲ-a“開講時に示された到達目標を充分に達成できたか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」92.3%、「どちらとも言えない」7.7%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったことは何か”について、「新しい知識・技能」61.5%、「新しいものの見方」53.8%、「関連分野の学習意欲」53.8%、「問題発見・解決能力」7.7%、「コミュニケーション能力向上」0%だった。

●　問題点

シラバスについて約2割が活用しておらず、また授業はシラバスに沿って行われたかの問いに約15%がどちらとも言えないとの回答だった。授業の難易度については、適切との回答が約7割を占めていたが、約3割からは難しい、易しいと回答があった。授業の進め方や到達目標について、それぞれ1割弱よりどちらとも言えないと回答があった。

●　改善の方策

毎回授業の開始時と終了時にシラバスを用いて解説を行っていたが、予習・復習で活用してもらえるような説明を工夫する。授業の難易度、授業の進め方については受講生の理解度を常に把握しながら、到達目標を達成できるよう、臨機応変に対応して行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

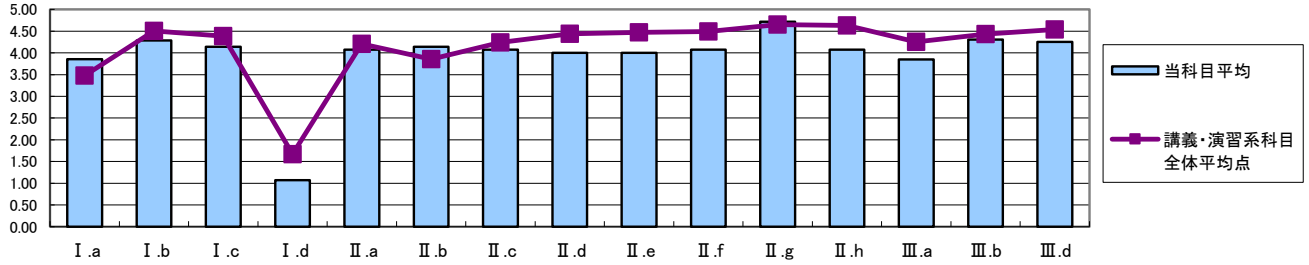
科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	17
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.86	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.07	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.07	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.07	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.07	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.85	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 78.57	4: 42.86
			3: 42.86	2: 14.29
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業では心理学の基礎的な考え方を知ってもらうことが目的である。内容としては臨床心理学と発達心理学をメインとした。授業形態は講義形式で、受講者数は17人、出席率は概ね良好だった。木曜日の1時限目という1週間で疲れが出てくる時間帯であったが、受講者は毎回授業に出席して、自分なりにノート作成に励んでいた。今年度の学生のアンケート結果はあまり良好な評価とは言えないものだった。特に「この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。」という設問項目において、低い得点だったということから、学生にとっての満足度が低いものになってしまったことが伺える。

●　問題点

満足度が得られなかったのは、講義内容を理解することができなかったからだと思われる。実際授業の内容をやや難しいという学生がいたり、説明や板書、資料の提示などがうまくいっていなかったことが推測できる。

●　改善の方策

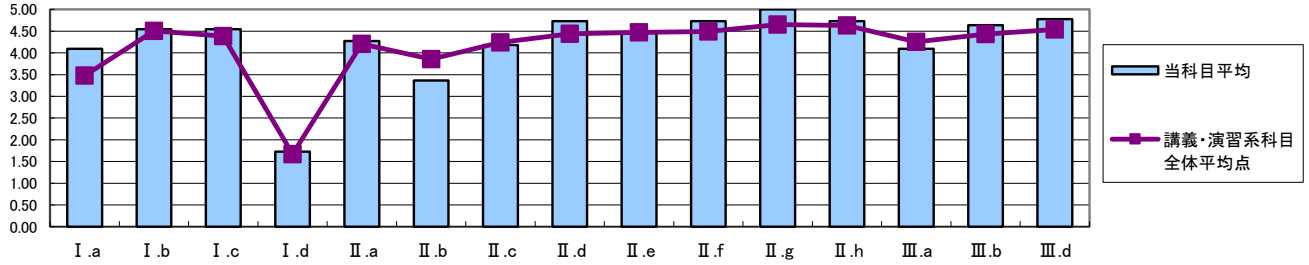
本来ならば数回ごとに、授業終了時に簡単に週レポートを提出してもらうが、昨年度はコロナ禍ということもあって、それを実施することができなかった。そこで学生の理解度のチェックもできるはずだったが、それが抜け落ちたことで適切な説明等ができなかった可能性がある。今年度はまた別の形で理解度をチェックできるシステムを取り入れることを考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	コンピューター演習B	職名	08. 講師	履修者数	17
教員名	湯浅　恭子			回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.09	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.55	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.73	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.36	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.18	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.09	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 27.27 / 3: 27.27 / 2: 18.18 / 1: 9.09	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエア、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学び、コンピュータスキルの向上を図る。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術ついて基本的な知識を習得する。社会人として必要となるコンピュータリテラシーを身につけるとともに、音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、日常利用する情報端末やネットワーク利用への応用につなげる。＜内容＞　Windows PCを使った演習ではWordを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。Excelでは計算式や関数を用いたデータの作成、グラフの作成を行う。音楽ソフトウェアでは、楽譜作成ソフトウエアSibeliusの基本操作の習得と編曲譜面の作成。終期には、学生各自がより理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。また情報セキュリティ・モラルといった、コンピュータやネットワークを利用する際に必要な知識について学ぶ。＜状況説明と分析＞　木曜日２時限、履修者数１７名。短期大学では本年度から開講となった科目である。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて１人１台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは１、２年生の混合クラスであった。履修者には社会人学生も多く、全体の３分の１を占めていた。前期（コンピューター演習A）に扱ったソフトウェアの応用的な演習を行った。２年生は社会人になってからPCをスムーズに使えるように、という意識が高く、また社会人学生の学習意欲も高い。そうしたことも相まって、全体的に意欲的に演習に取り組む姿勢が見られた。学習進度にはかなり差が大きくあり、社会人学生への対応を多く行うこととなった。特に表計算ソフトウェア（Excel）は差が大きく出ることとなった。取り扱った内容（関数）は少し難易度が高く、それまで順調に進められた学生にとっても難しくサポートが必要だったと思うが、基本操作でつまずく学生対応がかなり必要となり、目が行き届かなかった部分も多かったと感じている。

●　問題点

「難易度」本科目開講初年度で、演習内容については設定が難しかったが、基本操作でつまずく学生への対応と、難しい内容でつまずく学生への対応のバランスが取れていなかったことが要因の１つではないだろうか。「予習・復習をしたか」PC環境を鑑み、PCの操作以外に情報技術・セキュリティ・ネットワークに関する題材も扱ったが、コンスタントに行える予習復習へ結びついていないと思われる。

●　改善の方策

「難易度」は本年度の状況をふまえて学生に合った難易度にしていきたい。学生によっても進度がさまざまであるため、進められる学生に対しては演習時間の中でも自主学習ができるように課題を準備しておくなど、対応を考えていきたい。設定する難易度・内容を適切にすることで、設問Ⅲ.aの「到達目標に達成できた」も改善に向かうと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

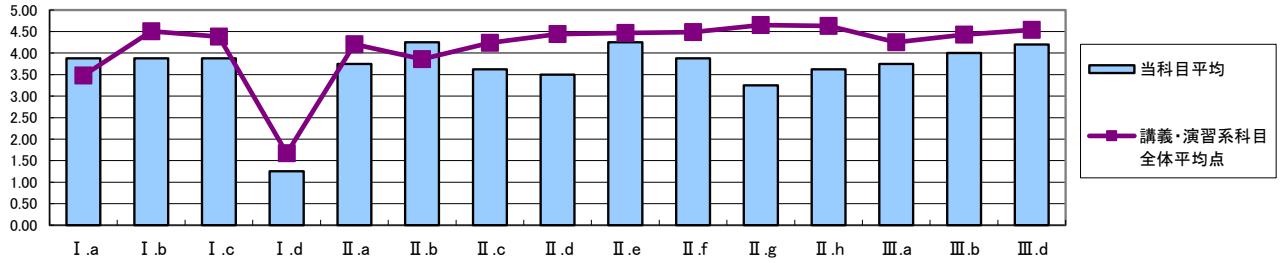
科目名	法と経済(日本国憲法を含む)B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.88	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	3.88	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.88	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.63	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.88	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.25	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.63	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 28.57 / 3: 14.29 / 2: 14.29 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	キャリアデザイン
教員名	ｷｬﾘｱ支援ｾﾝﾀｰ

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	3.48
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.51
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.94	4.38
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.31	1.67
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.20
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.86
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.81	4.24
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.44
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.47
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.49
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.65
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69	4.63
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.25
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.44	4.43
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 46.67 / 3: 6.67 / 2: 40.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	4.54

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

東 邦 音 楽 大 学 大 学 院

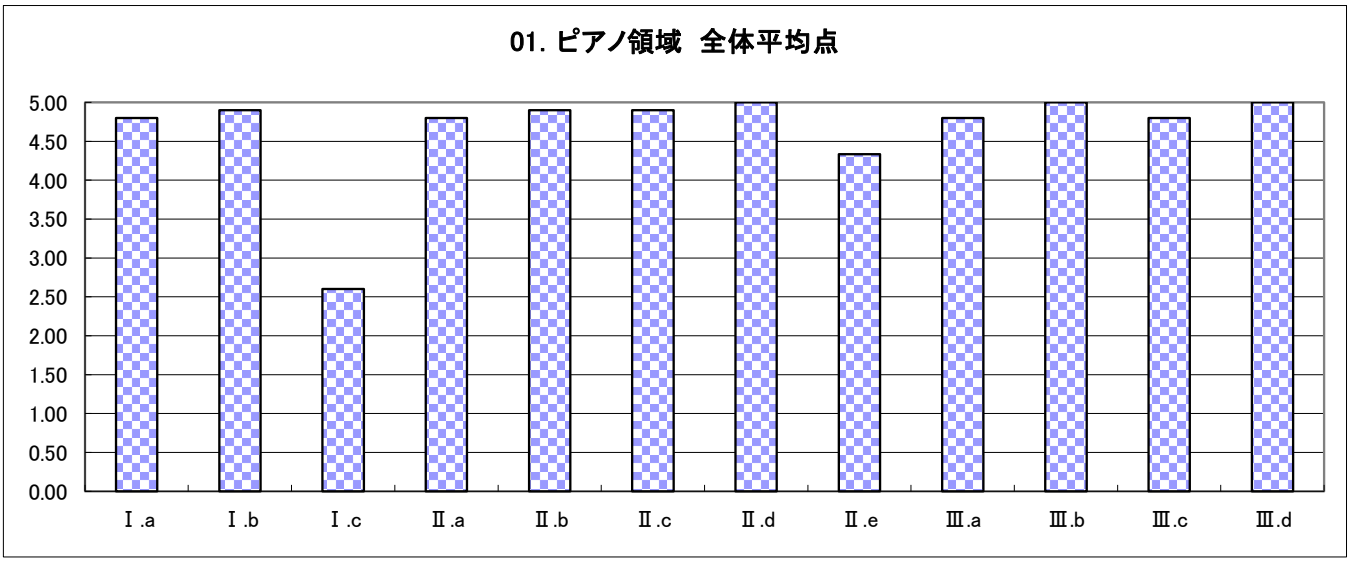
ピアノ領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	01. ピアノ領域
科目数	5

履修者数	10
回答者数	10

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.90	9	1	0	0	0	10	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.60	3	1	0	1	5	10	0
				30.0	10.0	0.0	10.0	50.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.90	9	1	0	0	0	10	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.90	9	1	0	0	0	10	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	10	0	0	0	0	10	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.33	1	2	0	0	0	3	7
				33.3	66.7	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	10	0	0	0	0	10	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	10	0	0	0	0	10	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

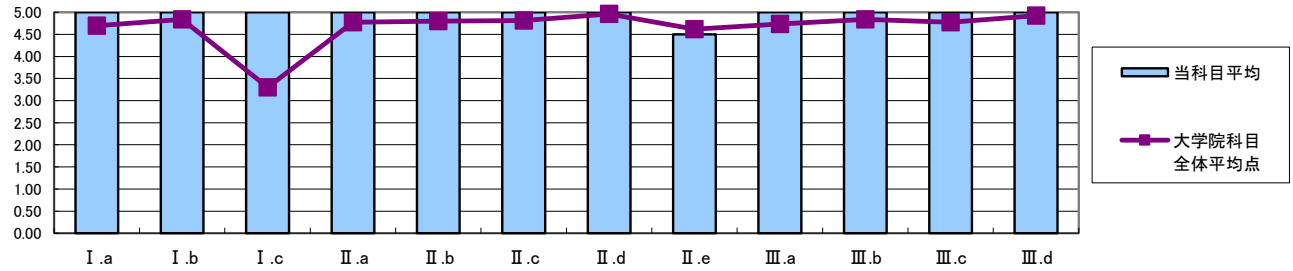
科目名	ピアノ特別演習
教員名	國谷　尊之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2020年度は大学院ピアノ特別演習のレッスンを、1年次1名、2年次1名、計2名担当した。1年次の研究の進め方については詳しく時間をかけて会話し、演奏する楽曲の構成・和声分析などを積極的に取り入れ、来年度の研究へとつなげることを企図した。2年次生については論文指導に時間をかけ、その研究内容が演奏に反映するようレッスン内容を考慮した。

●　問題点

修者が各年次1名ずつであるので、アンケートの数値には表れにくいと考えられるが、実際に授業を進めている中で大きな問題は生じていない。

●　改善の方策

1年次学生については、今年度の成果を修士論文と演奏につなげられるよう努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

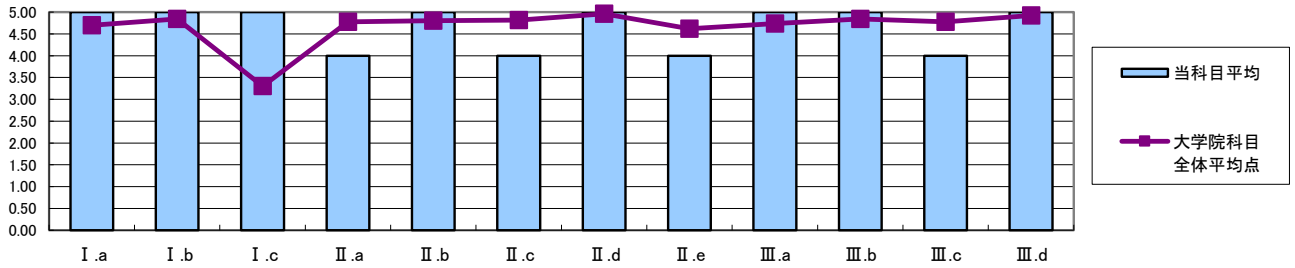
科目名	ピアノ特別演習
教員名	藤井　一興

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



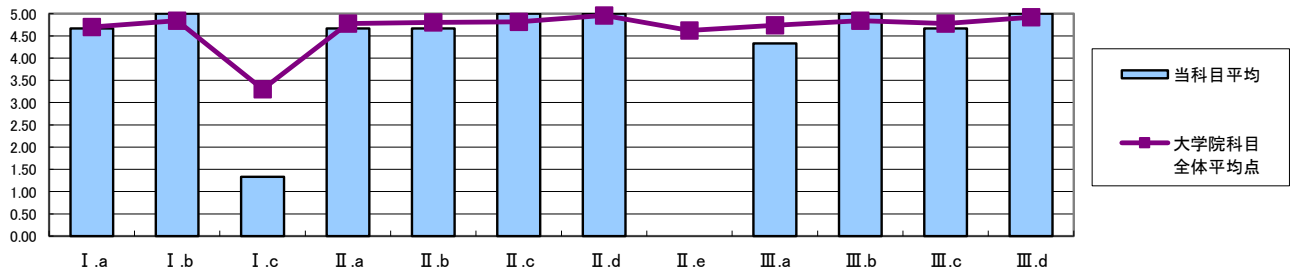
科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.67	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.33	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.33	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

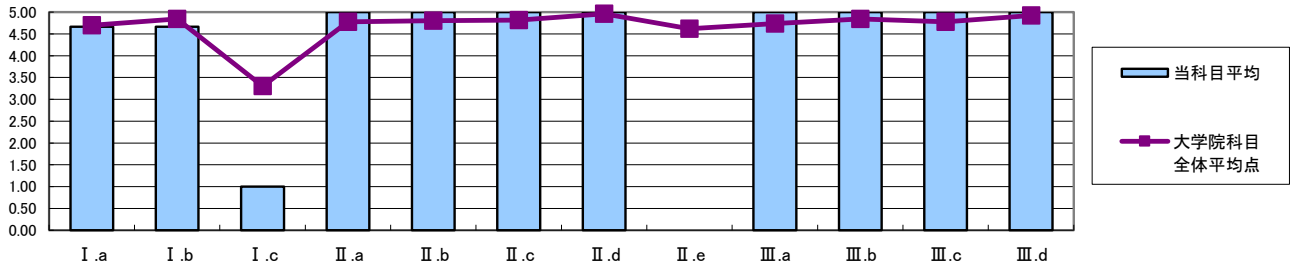
科目名	作品研究A(バロック･古典期)
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.67	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



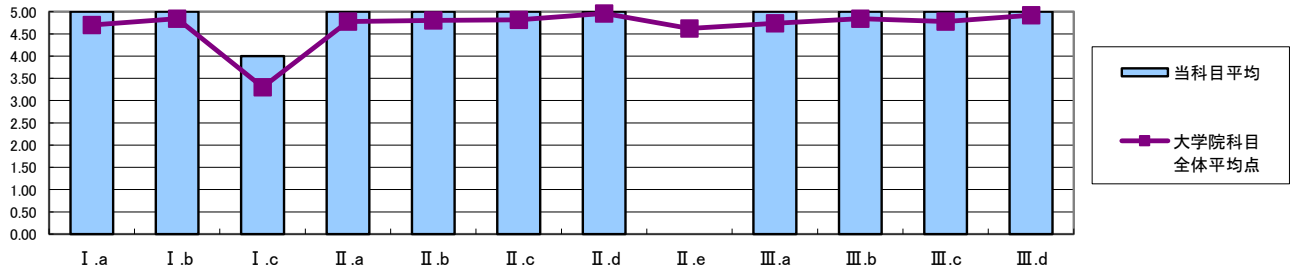
科目名	ピアノ特別演習
教員名	大場　文惠

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



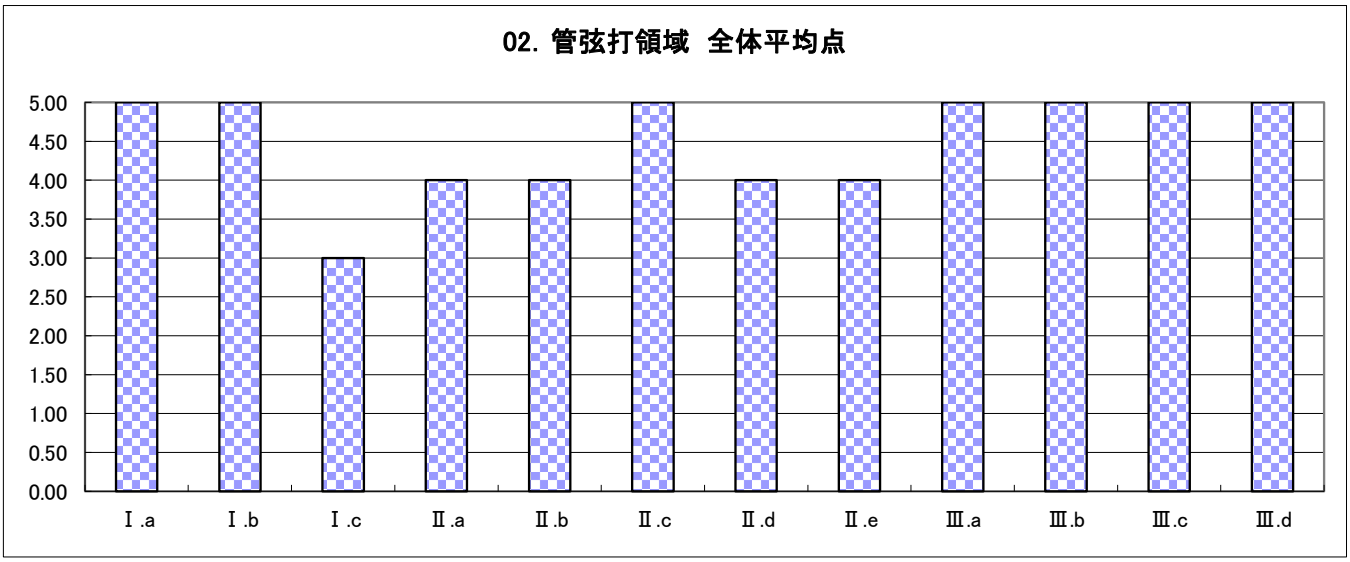
管弦打領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	02. 管弦打領域
科目数	1

履修者数	1
回答者数	1

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	0	0	1	0	0	1	0
				0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.00	0	1	0	0	0	1	0
				0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	1	0	0	0	0	1	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

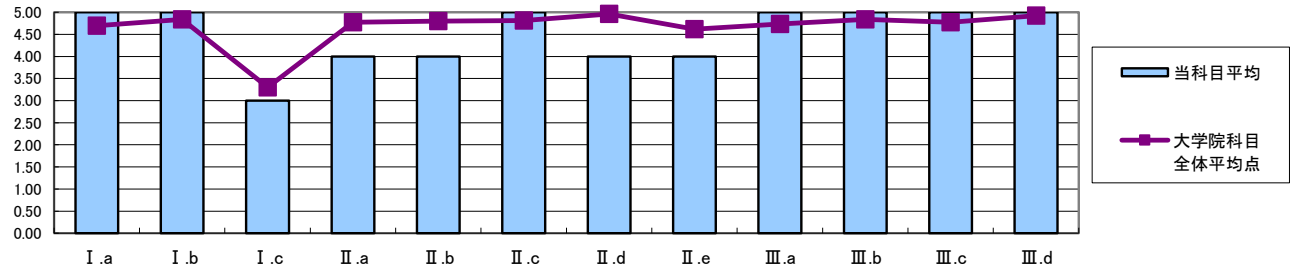
科目名	管弦打特別演習
教員名	佐々木　真史

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

プロのヴィオラ奏者として必要な、技術、音楽性、人間性を習得し、プロとして活動出来ることを目的に開講していた。授業形態はマンツーマンのレッスン方式で、受講者は一名。火曜日の15時より開講していたが、受講生の修了により、今年度は開講していない。受講者は出席状況も良好で、予習復習をはじめ、積極的に授業に取り組んだ。論文のテーマをヒンデミットに設定。修了演奏もヒンデミットの[白鳥を焼く男]を選択し、研究に練習に邁進した。その結果、概ね良好な評価を得る事が出来た。集計結果は若干平均を下回る項目が見受けられるが、概ね教員と受講者の意識は一致していたと思う。

●　問題点

受講者は、基礎力の部分で若干の懸念が見られたが、昨年度は基礎的なエチュードに時間を割いて取り組むことで、改善することが出来た。受講者本人も問題点を自覚し、積極的に改善に取り組み、成果を上げる事が出来た。

●　改善の方策

今年度は開講していないが、今後開講する際には、今回の経験を活かし、より積極的な指導をし、有意義な講座にしたいと考えている。

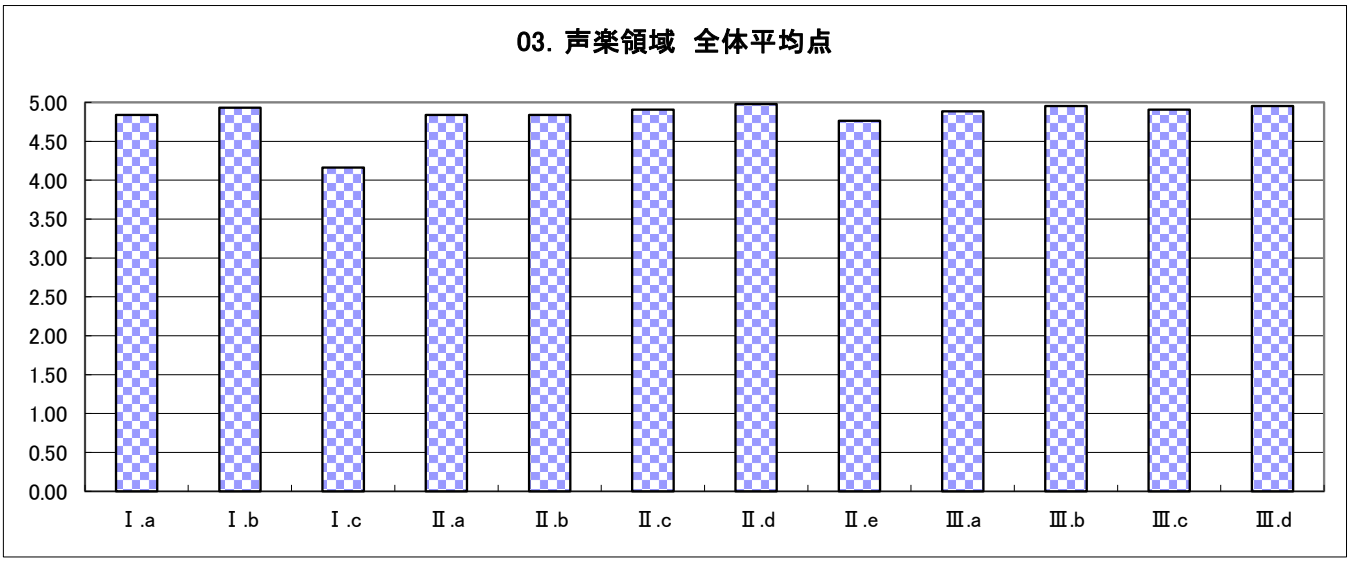
声 楽 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	03. 声楽領域
科目数	13

履修者数	55
回答者数	43

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.84	38	3	2	0	0	43	0
				88.4	7.0	4.7	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.93	40	3	0	0	0	43	0
				93.0	7.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.16	24	7	7	5	0	43	0
				55.8	16.3	16.3	11.6	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.84	36	7	0	0	0	43	0
				83.7	16.3	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.84	36	7	0	0	0	43	0
				83.7	16.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.91	39	4	0	0	0	43	0
				90.7	9.3	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.98	42	1	0	0	0	43	0
				97.7	2.3	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.76	27	6	1	0	0	34	9
				79.4	17.6	2.9	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.88	38	5	0	0	0	43	0
				88.4	11.6	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.95	41	2	0	0	0	43	0
				95.3	4.7	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.91	39	4	0	0	0	43	0
				90.7	9.3	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95	41	2	0	0	0	43	0
				95.3	4.7	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

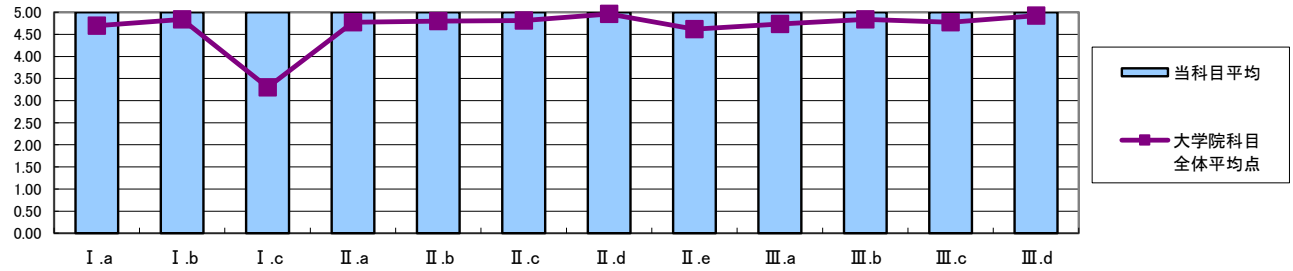
科目名	声楽特別演習
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

私のクラスでの大学院学生達は、非常に真摯に真面目に取り組む姿勢がレッスンを通して感じられ、統計的にも大学院科目全体平均点に比べると、私のクラスの大学院達はしっかりとレッスンの予習をしていることが確認でき、大変好ましく思われる。

●　問題点

積極的かつ意欲的な勉学の姿勢は大いに伝わってきた。ただ、自分の能力に合わない選曲をしてレッスンに持ってくる学生も中には存在して、その場合は、詳しく説明をして、本人に適応するレパートリーの強化を勧める努力も教員に必要であろう。

●　改善の方策

毎回のレッスンの中で、学生本人の声の資質を詳しく説明して、その可能性から選曲するよう、良い意味で興味と好奇心を抱かせることが必要不可欠であることがわかった。誤った選曲にしてしまうと、本人の進歩を著しく妨げてしまう事もあるので、細心の注意を払って学生の適性を観察する必要も教員に求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

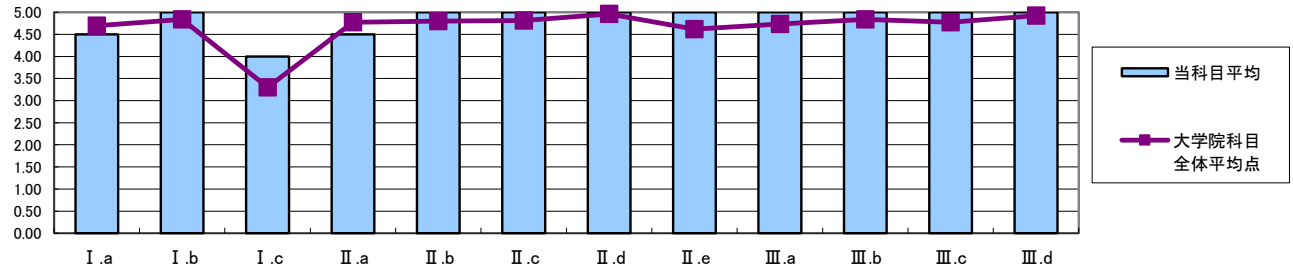
科目名	作品研究A-Ⅰ(日本歌曲)
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、様々な課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者3名のうち当日欠席の1名を除き2名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、設問Ⅰは４点台から5点。設問Ⅱはほぼ5、設問Ⅲは全て5である。回答の分布はいずれも肯定にとどまっている。

●　問題点

問題点として抽出するのであれば、1-d「1回の授業のために平均どれぐらい研究しましたか」が4となった点だろうか。

●　改善の方策

2名のうち1名は5時間以上との回答であったがもう1名は3時間と回答されている。文科省において授業時間に相当する予習及び復習とあるので、時間としては充分と思われる。自由記述においては「様々な日本の曲に触れることができました。」「全部いいです!」とある。学生への知識の伝達は確かに行われていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

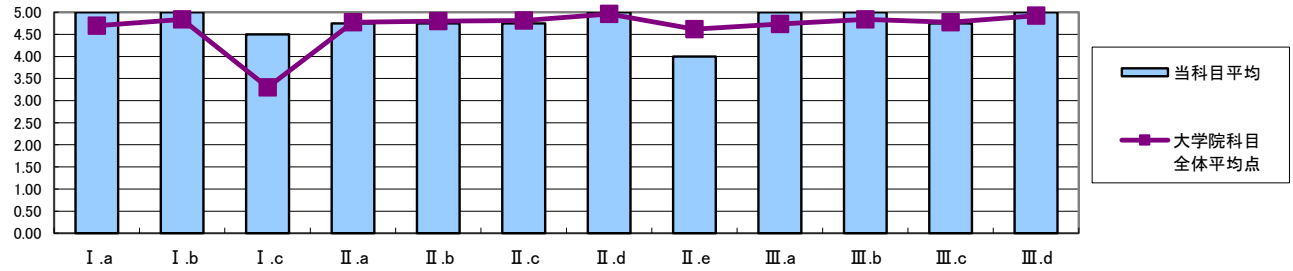
科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.75	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.75	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.75	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.75	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者6名のうち、アンケート期間に体調不良だったものを除く4名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅱ-e「教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。」（論文指導教員の場合のみマークしてください。）を除き4.5から5点であった。

●　問題点

Ⅱ-e「教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。」（論文指導教員の場合のみマークしてください。）が1名強くそう思う、1名がどちらとも言えないと言う記述である。私がこの学年で論文指導を受け持っている学生は1名であるので、本来ならば記述する必要がない学生が記述していると言うことになる。

●　改善の方策

私が論文指導担当の学生がどちらの記述をしたのか確かめようがないが、論文指導を行った学生の論文は大変立派なものであり、大学院において実り豊かな学びをしたことが伺えた。そのほかの設問がほぼ5であったことを考慮すると、授業目的の伝達はスムースにおこなわれていたのではないかと思われる。これに慢心することなく、自身の研究も進め、授業に反映させていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

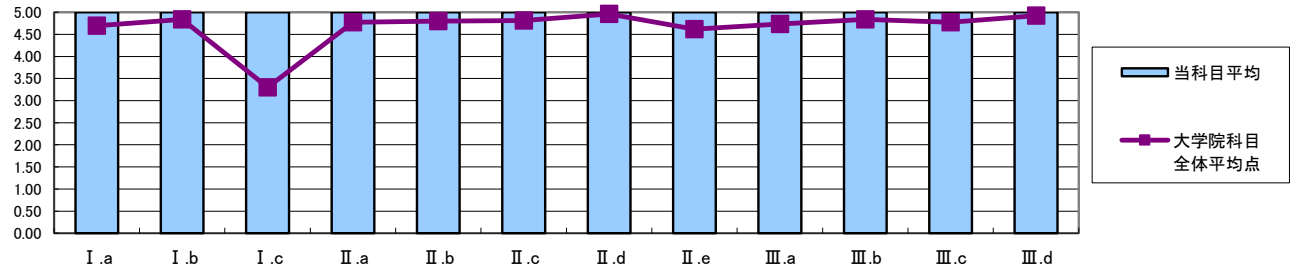
科目名	声楽特別演習
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

声楽特別演習Ⅰの学生を1名、Ⅱの学生1名を受け持っている。大学院声楽領域においては、演奏者としてリサイタルを開ける技術と識見を、教育者としては、多様な対象者に応じて、それぞれの個性を開発させることのできる、幅広い、柔軟な能力の修得を目的としている。声楽特別演習Ⅰにおいては、学部で培われた演奏技術をさらに発展させ、演奏家としての研鑽を行う。12月にコンサートを行い、1月にはウィーン研修を行う。声楽特別演習Ⅱにおいては、さらに高度な音楽表現に応えられる演奏技術の修得を個人レッスンにより追及し研鑽を積む。加えて高度な声楽技術・正確かつ幅広い学術に裏づけされた読譜力・客観性・解釈力を養う。世界的に原語上演が基本となっており、語学力を磨くこと、それぞれの言語において言葉の深い理解、正しいディクション、内容を伴った歌唱法が求められている。それらの修得には根気強い訓練と指導が必要とされるが、レッスンという一対一の環境だからこそできる個々に沿った指導を行っている。声楽特別演習Ⅰで学んだ事をさらに発展させる形で行う。修士論文の作成により個々の研究を深め、2月にはグランツザールにおいて修士演奏を行う。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、本人の達成感を問う4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、設問Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ全てにおいて5であった。

●　問題点

いずれも肯定の結果が得られたことは喜ばしい。すべての設問において5となったことは、レッスンにおける信頼関係であると考える。

●　改善の方策

アンケート結果に慢心することなく、これからも学生が将来に役立てることの出来るよう、知への道筋、またより高い技術、声楽家としての歩みを進めることが出来る指導を心掛けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

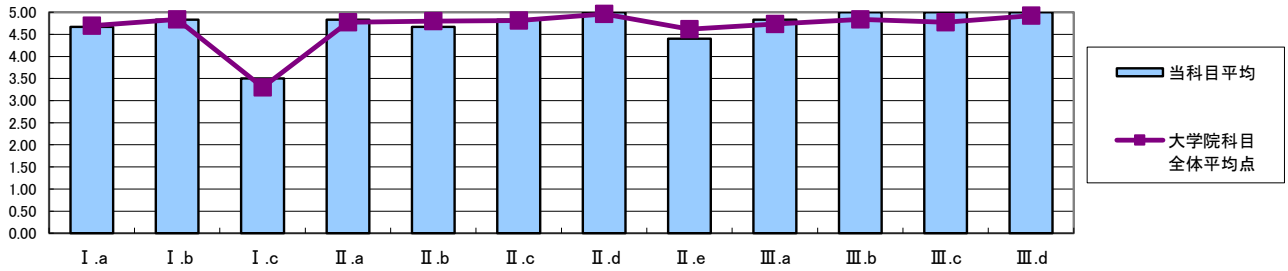
科目名	作品研究B-Ⅰ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.67	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.83	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.83	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.40	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.83	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度履修者は大学院１年生6名、うち中国人留学生が４名日本人２名であった。コロナ禍の影響を大きく受け、11月に予定していた記念館での発表会が直前に中止になったことは大変に残念であった。

●　問題点

はじめは殆ど日本語が分からない状態で始めたので、その事に終始してしまい日本人の学生には立ち上がりは申し訳ない位に留学生ばかりになったがこの留学生達は大変真面目で休まずに出席し、少しずつの努力を積み重ねていたので、、１年が終わる頃には何かしら掴んだ学生も出てきた。

●　改善の方策

問題点は１年を通して考えると…やはり語学力を何とかサポートして行きたいと考える。２年になると修士論文も日本語で書かなくてはならないし……何かしら直ぐに改善出来る良い方法を考えたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

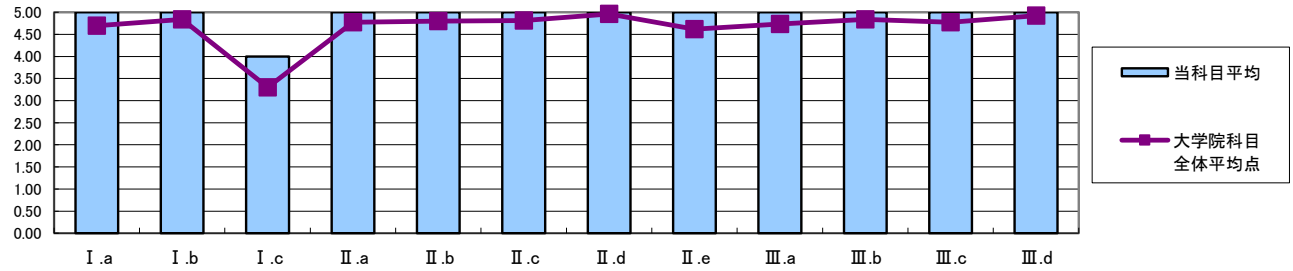
科目名	声楽特別演習
教員名	岩見　真佐子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2年間の研究課題を中心にその完成に向けて、舞台での演奏技術と総合的な声楽力の育成を具体的に目標設定し、共有しながら各自の課題曲で専攻の学修に取り組めるよう年間計画にあわせて開講。感染症対応のよる「遠隔授業」と「対面レッスン」両方の授業形態で、通年30回の授業を開講致しました。自修力の個人差があるため①目標達成のイメージを具体化できるように、響きの創造への発　展性を持たせたレッスンを実施。歌唱表現の意欲と専門的な理解に個人差があるため②表現技術の実践と理論的な裏付けを紐づけたレッスンで発展拡大ができるように実践致しました。設問Ⅰについては、感染症禍で声を出しての練習が困難な環境があったにも関わらず十分な成果が見られます。設問Ⅱについては、本年度自修力育成の指導効果が具体化できた数値が見られます。設問Ⅲについては、授業目標の具体的な展開に結び付いた成果がみられます。本集計結果には、専攻力、舞台表現に求められる声、響きの実際のイメージに繋がるレッスンの成果が反映されており、それぞれの研究テーマに基づく奥行きのある学びの基軸形成を実現する開講内容であったことが分析され、本年度の授業実践が個々の能力と発達段階に無理なく進められたものであったことを再確認しております。感染症禍でも十分な学びの成果があったことをご報告いたします。

●　問題点

本年度は練習環境の個人差が大きな問題で、特に対面レッスン時に精神面の個人差（強弱、長短）として顕著に現れていたと思います。自らの研究を自ら発展させるための間接的な指導については入学時から二年間計画で実践していますが、個人的な能力の範囲にとどまるものであったと思います。大学院での舞台表現意欲を支える研究の必要性とその意識については、特にきめ細かく配慮した対応を長期的に継続する必要が感じられます。

●　改善の方策

演奏表現と研究の両輪の基軸に支えられる大学院教育では、2年間をかけてより具体的な演奏への統合力の育成強化を重視しています。この課題にとりくむために自分の声、作品に求められる響き、演奏する音色に対する細かな問いかけを実践して、より音楽様式、舞台表現と密接に結びつくレッスンを展開いたしました。総合的にみた研究計画の設定と実践には、大幅な時間的な修正を加えることとなりましたが、それは個人差に配慮したものであり負担を欠けずに研究を進めるためには有効なものであったと拝察されます。演奏表現領域での専門家育成、声楽的な声・響きの育成、音楽様式の骨格を踏まえた演奏（声楽表現）を実現する重要性をふまえ、自ら研究を進める力の育成と具体化する指導については、将来の人材育成にむけ今後も拡充してゆきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

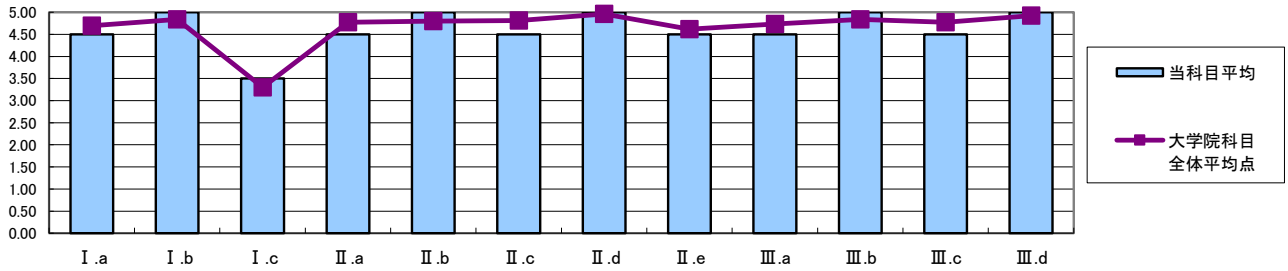
科目名	声楽特別演習
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.50	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学院は2年生1人、1年生1人。文京校舎で水曜日にレッスンをしています。大学院2年生は短大の社会人入学。短大卒業の年から長期履修生として2年間学び、その後大学院に進学しました。本来の積極性と日常に重ねている音楽に向けての努力で、この6年間に多数の曲目を学習しました。修士論文や修士演奏の曲目についても自分の方向をはっきりと示して積極的に取り組み、時間に余裕を持って論文も演奏も仕上げて行きました。声楽を始めたのはかなり遅かったですが、東邦音楽大学在籍の6年間は若い時からの夢の音楽生活で充実していたと思います。1年生は中国人留学生です。この学生は音楽の学習期間が短いと言う事でソルフェージュ力が少し足りず、リズム・音程が曖昧になります。本人はとても明るく前向きで、真面目に勉強をして来ますので、持ち前の前向きな姿勢でこれからの勉強を重ねて行けば伸びて行くと思います。ただ、日本語がほとんど分からず演奏における細かいニュアンスなどを伝えて行く時に伝え切れないもどかしさ有ります。

●　問題点

1年生中国人留学生は殆ど日本語が喋れず、それに伴い聞く事も出来ない状況です。この1年で最初より少し分かる様になって来ましたが、アンケート集計結果II-cに有るように『授業内外の質問や相談に適切に対応していた』について、レッスンでは音楽を介しているので通じて行く事も、普通の会話になるとお互いがもう一歩踏み込めない状況でした。

●　改善の方策

2年生になればこれまで以上に論文に向けての時間が必要になります。日本語学習を必要事項として毎日の勉強で重ねて行く様に促して行きます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

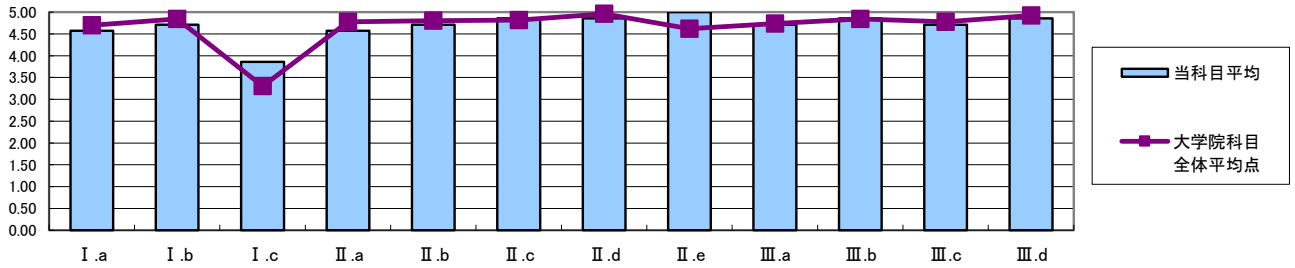
科目名	アンサンブル表現研究(声楽)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.57	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.86	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.57	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.71	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.86	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.71	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.86	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.71	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



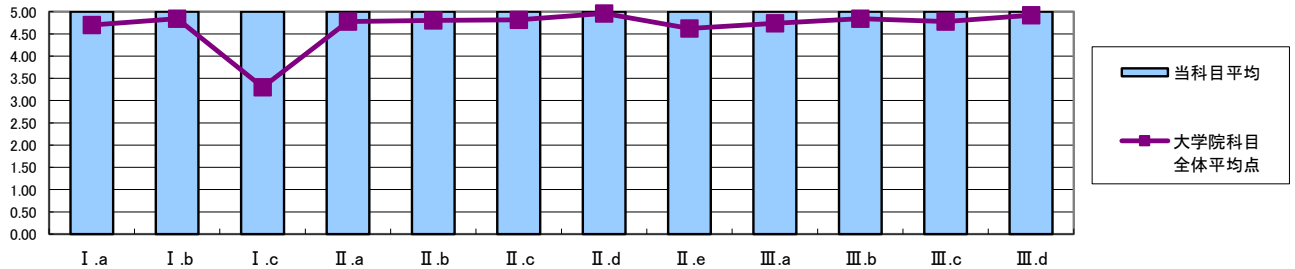
科目名	作品研究B-Ⅱ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

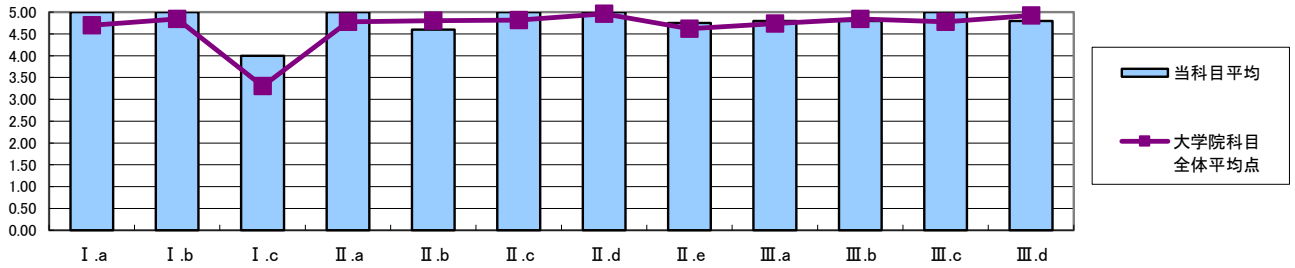
科目名	作品研究C-Ⅰ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.60	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.75	4.62
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.80	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



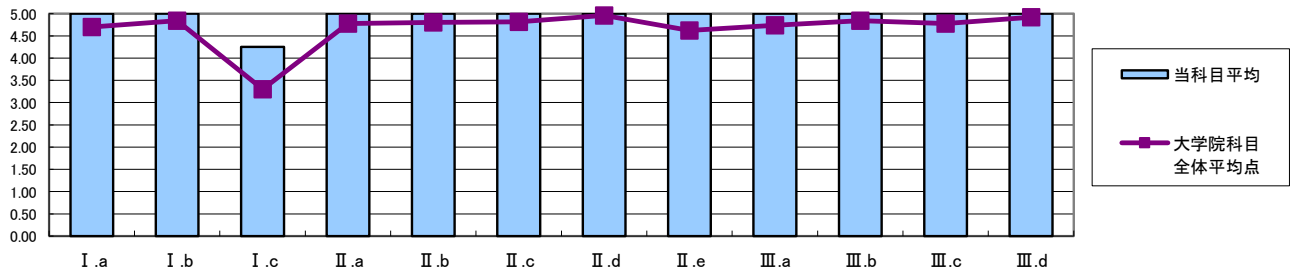
科目名	作品研究C-Ⅱ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.25	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

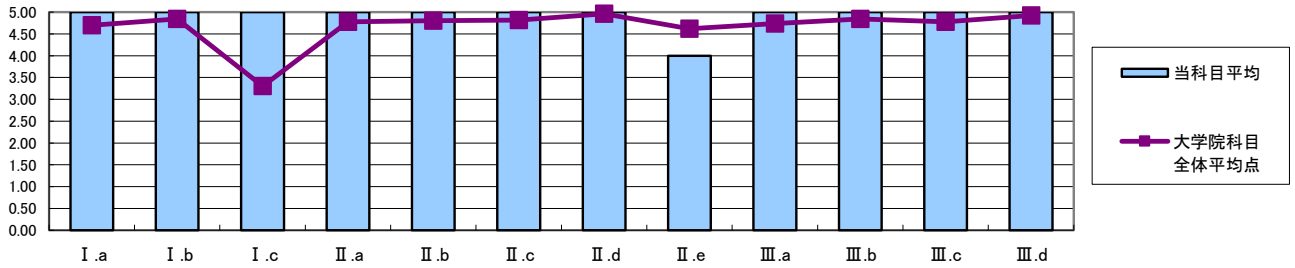
科目名	声楽特別演習
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



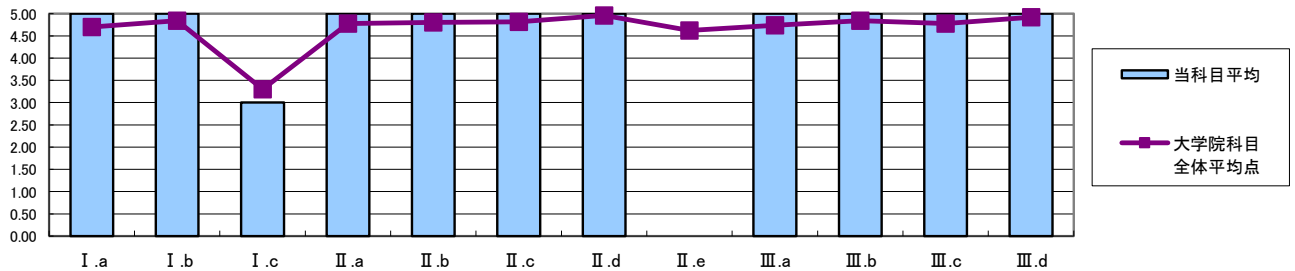
科目名	歌曲･オペラ史研究
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



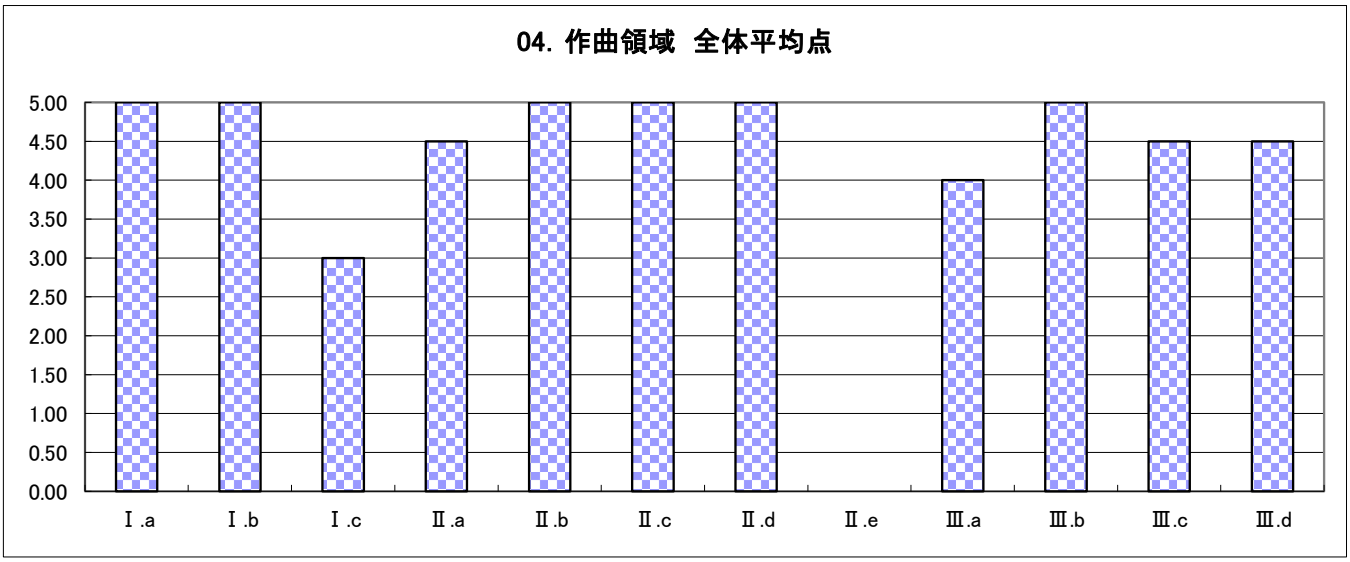
作 曲 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	04. 作曲領域
科目数	2

履修者数	2
回答者数	2

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	0	1	0	1	0	2	0
				0.0	50.0	0.0	50.0	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	1	1	0	0	0	2	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	-	0	0	0	0	0	0	2
				-	-	-	-	-		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	1	0	1	0	0	2	0
				50.0	0.0	50.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	1	1	0	0	0	2	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	1	1	0	0	0	2	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

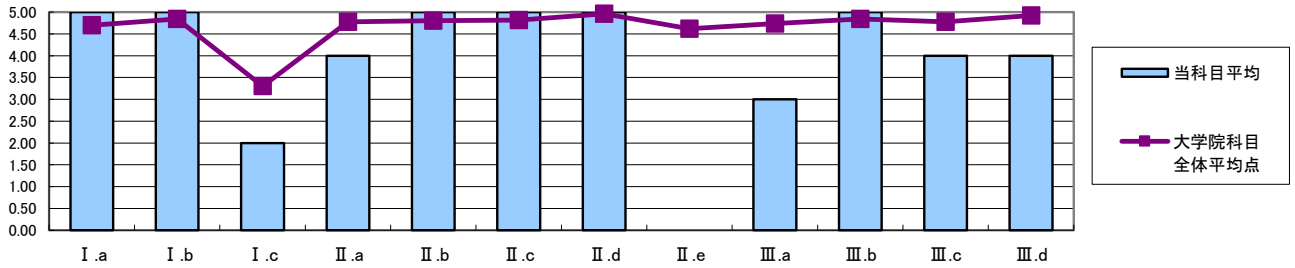
科目名	管弦楽法表現研究Ⅰ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	3.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



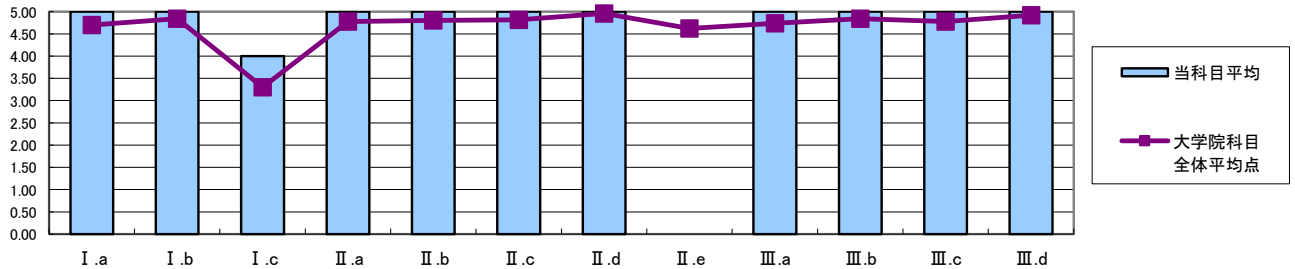
科目名	楽曲表現研究Ⅰ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



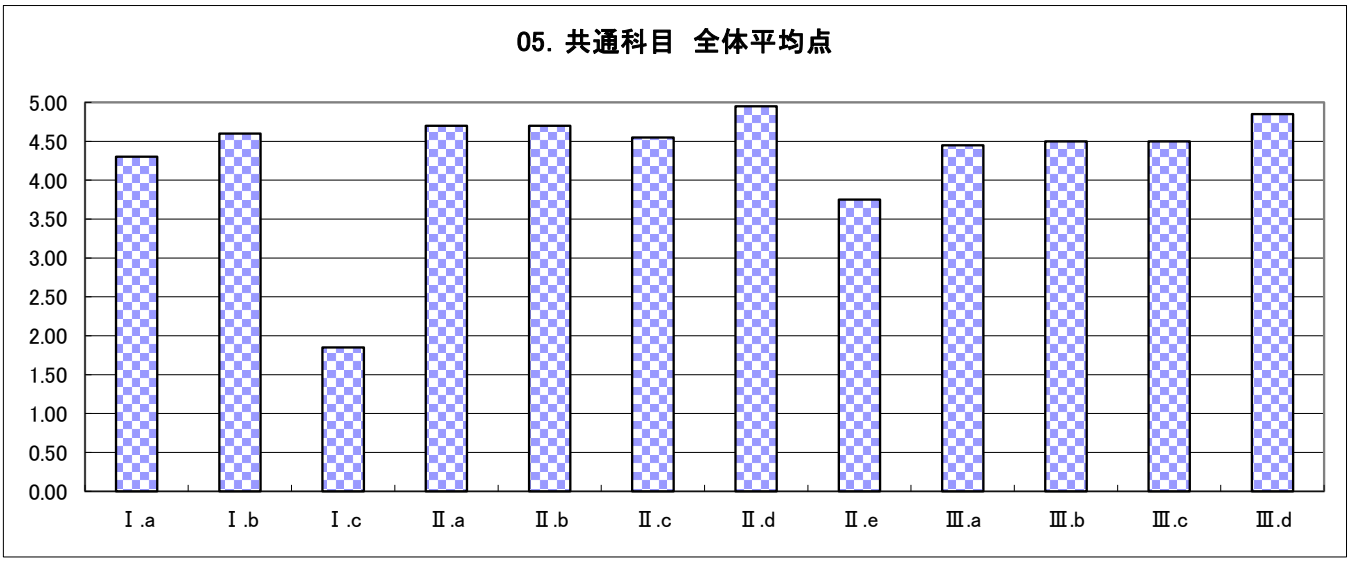
共 通 科 目

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	05. 共通科目
科目数	5

履修者数	34
回答者数	20

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.30	8	10	2	0	0	20	0
				40.0	50.0	10.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	12	8	0	0	0	20	0
				60.0	40.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.85	3	0	2	1	14	20	0
				15.0	0.0	10.0	5.0	70.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.70	15	4	1	0	0	20	0
				75.0	20.0	5.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.70	14	6	0	0	0	20	0
				70.0	30.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.55	11	9	0	0	0	20	0
				55.0	45.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.95	19	1	0	0	0	20	0
				95.0	5.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	3.75	0	3	1	0	0	4	16
				0.0	75.0	25.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.45	12	6	1	1	0	20	0
				60.0	30.0	5.0	5.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	12	6	2	0	0	20	0
				60.0	30.0	10.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	12	6	2	0	0	20	0
				60.0	30.0	10.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.85	17	3	0	0	0	20	0
				85.0	15.0	0.0	0.0	0.0		

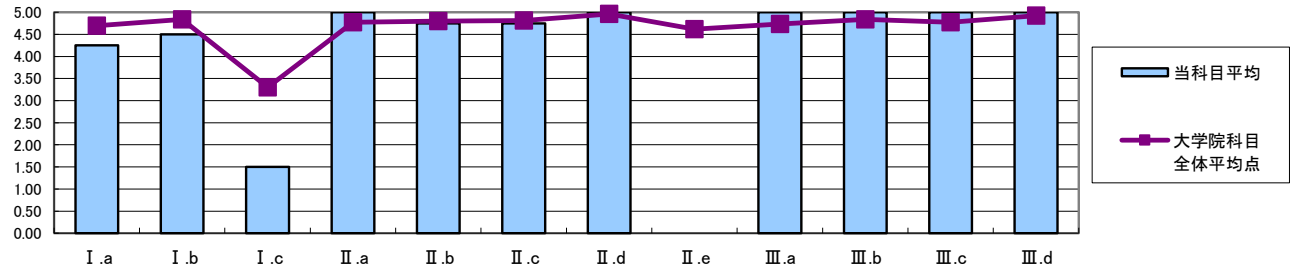


授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	演奏表現研究	職名	08. 講師	履修者数	8
教員名	上山　典子			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.25	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.50	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.75	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.75	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年授業で、分析を通して個々の作品の構造やそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。 前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に取り上げ、「ジャンル」を中心軸に、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを求めた。また、取り上げる作品の鑑賞（DVD映像など）とその補足説明も重視した。
履修者は修士1年生のピアノ専攻2名と管打楽器4名の計6名で、最終的に5名が単位を取得した。コロナ禍による前代未聞のオンライン授業に始まり、その後すぐに通常授業が行われたものの、7月末のいわゆる第2波、12-1月の第3波といった度重なる困難のなかで、1年の授業を何とか終えることとなった。例年、比較的出席状況の良い科目だが、今回はM1の留学生が、欠席が原因で単位を修得できなかった。別のM1生も出席不良であったが、辛うじて単位を修得できた。そのほかの4名は概して出席良好であった。　なお、5月末に前期授業が開始するまでの間の授業分については、各自で学修してもらえるよう、補講資料（レジュメ）を配布すると共に、口頭による補足を行った。本来、対面の補講授業が望ましいと感じてはいるが、補講設定可能日が土曜日に集中している現状、担当者の都合だけでなく、履修者の活動への支障などを考えると、なかなか設定しにくいと感じる。

●　問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが履修者平均1.50と、とくに低い結果となってしまった。（毎年決して高くないのだが、昨年度は2.3だったことから、一層悪化してしまった。）アンケートの回答者が4名と元々の母数が少ないため、結果は極端化しやすいが、しかしそれでも、この4名の内3名が、「1時間未満」と回答した事実は、深刻に受け止めたい。

●　改善の方策

今年度の学生の出席状況はおおむね良好だったが、履修者がこの授業の予習復習に費やした時間は決して十分なものではなかったことを、改めて認識し、反省している。輪読や演習系授業にあるような「宿題」といった性格の課題を出しにくいことから、思えば、学生に対して明確な時間外学習の指示や指導を行わないまま一年が過ぎてしまった。予習復習を明確な課題という形で提示しなくても、学生が自発的に授業内容を振り返ってみようと思うような、魅力ある講義を提供できるようにも努めたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

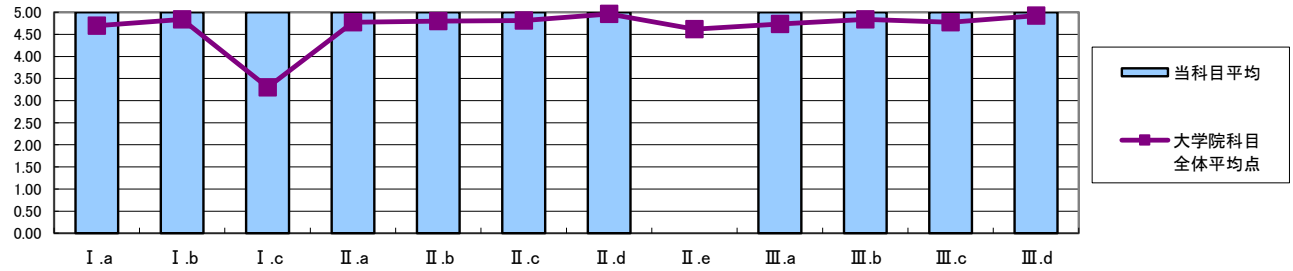
科目名	民族音楽表現法研究
教員名	櫻田　素子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

少人数の学生たちで、毎回、熱心に講義や民族楽器の演習、課題提出にも取り組んでいたため、ディスカッションや疑問点のフィードバック、レポート提出や演習課題への柔軟な指導も、非常に円滑にすることができ、提出された様々な課題も全体的にレベルが高いものであった。そうした点がアンケートの結果に現れていると思う。

●　問題点

民族音楽という科目内容もあると思うが、教員が考えている以上に、学生たちの新しい知識や論考に対する興味や学ぶ意欲は高いと感じている。

●　改善の方策

受講学生が少人数であり、毎年集まる学生の専門性や興味の方向性によって、クラスの雰囲気も変化しやすいので、学生それぞれの意欲を常に強く刺激できるような授業運営を目指していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

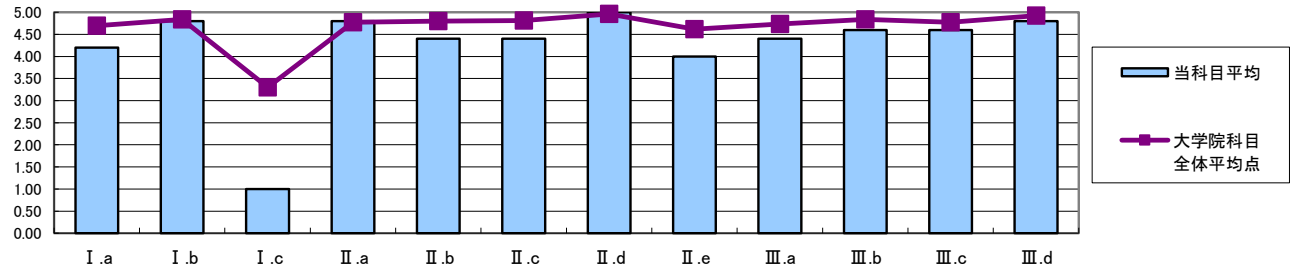
科目名	身体表現演習
教員名	渡辺　恵

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.20	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.80	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.40	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.40	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.40	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.60	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.60	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大部分の生徒が、今までバレエに触れる機会がなかったため、慣れるまで最初は戸惑っているのを感じた。

●　問題点

バレエも他の楽器や歌の習得と同様に、くり返しの練習が必要だということに気づくまでに、時間がかかっているようだ。

●　改善の方策

くり返しの練習が必要なこと、また頭で難しく考えないことを伝えていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

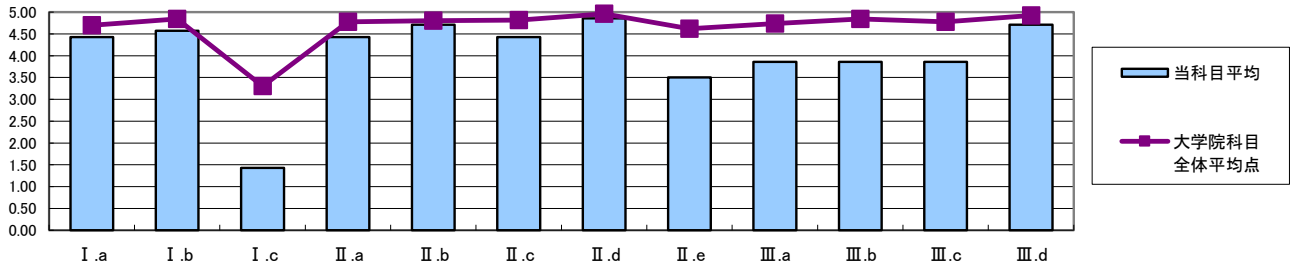
科目名	フランス語
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.43	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.43	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.43	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.71	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.43	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	3.50	4.62
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	3.86	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	3.86	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	3.86	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



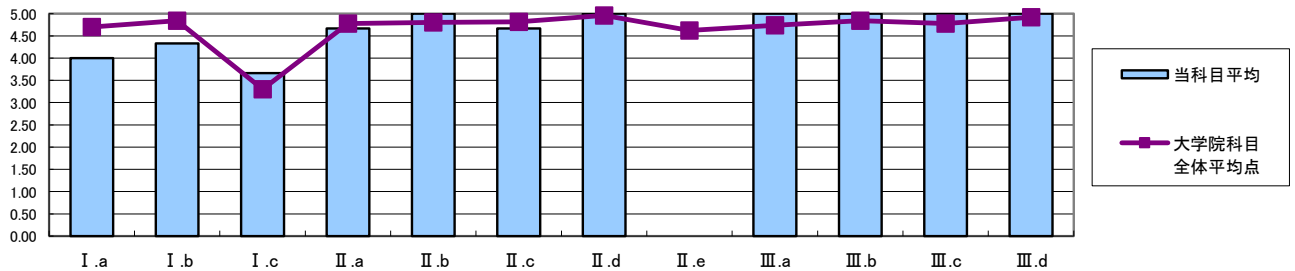
科目名	楽書研究
教員名	上山　典子

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.84
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.67	3.30
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.78
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.80
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.67	4.82
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.62
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.74
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.84
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.78
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2020 年度　授業改善のための学生アンケート実施報告書

令和 3 年 3 月 31 日　発行

編集発行　　：東邦音楽大学・東邦音楽短期大学　FD 委員会

〒112-0012　東京都文京区大塚 4 丁目 46-9

TEL　03（3946）9667

FAX　03（3946）2455

印刷・集計　：株式会社　教育ソフトウェア